仙台市文化財調査報告書第422集

長町駅東遺跡第10・11次調査

―仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅹ―

2014年3月

仙台市教育委員会

独立行政法人　都市再生機構

調査区古代遺構全景（南から）

SD66 溝跡全景（南東から）

巻頭 2

SD66 溝跡上層出土遺物

SD66 溝跡中層出土遺物

SD66 溝跡下層・底面直上出土遺物

Ⅴ層遺物出土状況（南から）

SX1 竪穴遺構遺物出土状況（南西から）

SX1 竪穴遺構出土遺物

汽車土瓶

序　　文

仙台市の文化財保護につきまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、活用を図りながら市民の宝として、次の世代に引き継いでいくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことであると考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国の史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺」の西側で都市整備が進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」地内で実施された長町駅東遺跡第 10・11 次発掘調査の成果をまとめたものです。区画整理事業の施行に伴う報告書としては 10 冊目となり、本報告書が最後のものとなります。

区画整理事業に伴う発掘調査は、平成 10 年から開始して以来今年で 16 年となりましたが、古墳時代後期から奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災から、早くも 3 年の月日が過ぎました。仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ　～ 3・11 からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。そうした中、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成 26 年 3 月

仙台市教育委員会
教育長　上田 昌孝

例　　言

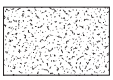
1．本書は、「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴い仙台市教育委員会が実施した長町駅東遺跡における発掘調査のうち、平成 20（2008）年度に実施した第 10・11 次調査の成果を収録したものである。
2．発掘調査及び本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが実施した。
3．本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課、荒井 格、工藤 信一郎、黒田 智章の監理の下、遺物整理から本書の編集に至るまでの作業は、株式会社シン技術コンサルが担当した。
4．本書の執筆・図版作成は、第 1 章第 1 節～第 3 節（1)・(2)、第 4 節（1）を工藤 信一郎、第 1 章第 3 節（3)、第 4 節（2）～（4)、第 2 章～第 7 章を小川 長導（株式会社シン技術コンサル）が担当した。また、遺物写真撮影は小池 雄利亜（株式会社シン技術コンサル)、編集は小川が担当し、坂本 勝一・村井 卓（株式会社シン技術コンサル）の協力を得た。
5．石器・石製品の石材の同定については、柴田 徹（有限会社考古石材研究所）の協力を得た。
6．発掘調査および整理作業に際し、以下の方々から多くの御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（五十音順、敬称略）
(故)今泉 隆雄　岡田 茂弘　(故)工藤 雅樹　桑原 滋郎　進藤 秋輝　須藤 隆　松本 秀明　宮本 長次郎
渡部 育子
7．本書の成果については、これまでに現地説明会資料や古代城柵官衙遺跡検討会、宮城県考古学会などで内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
8．調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．第 1 図・第 5 図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1：10,000、「仙台」1：25,000 を使用した。
2．遺構図中の座標値は、日本測地系「平面直角座標第 X 系」を基準としている。図中および本文記載の方位北は全て座標北を基準としている。
3．本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2000 年版・2005 年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
4．断面図中の数値は、海抜高度（T・P）を示す。
5．調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。
SA：材木列跡　SB：掘立柱建物跡　SD：溝跡　SI：竪穴住居跡・竪穴遺構　SK：土坑
SM：小溝状遺構　SX：竪穴遺構・焼土遺構　Pit：ピット
6．竪穴住居跡における主軸方位の算出および壁面呼称の基準については、『西台畑遺跡第 1・2 次調査』（仙台市教育委員会 2010）に準じた。
7．遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外ついては、個別に凡例を図中に示した。

柱痕跡

焼土範囲


炭化物範囲

8．出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたり K のあとに小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。

A：縄文土器　B：弥生土器　C：土師器（非ロクロ調整）　D：土師器（ロクロ調整）　E：須恵器

G：平瓦　I：陶器　Ka：打製石器　Kb：磨製石器　Kc：礫石器　Kd：石製品　N：金属製品　P：土製品

9．出土遺物の登録は調査年度ごとに行った。

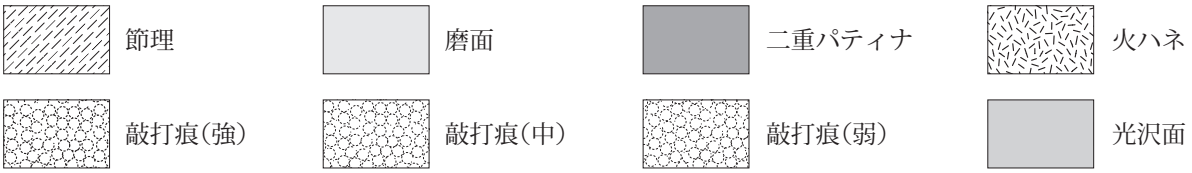
10. 遺物実測図の縮尺は 1/3 を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。

11. 土器類の器種・部位呼称、計測位置については、『西台畑遺跡第 1・2 次調査』（前掲）に準じた。

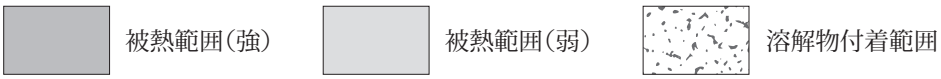
12. 石器・石製品の実測図における計測位置は、『西台畑遺跡第 1・2 次調査』（前掲）に準じた。

13. 石器・石製品・土製品には、展開した面に小文字アルファベットを付したものがある。文章中と遺物観察表における「a 面、b 面、c 面…」の記載は、該当する遺物実測図の付された各面に該当する。

14. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のトーンについては、個別に凡例を図中に付した。



15. 土製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



16. 土器の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のトーンについては、個別に凡例を図中に付した。

17. 陶磁器類の施釉範囲は、一点鎖線で範囲を示した。

18. 遺構・遺物の観察表内における（ ）付きの計測値は、土器類の各径については推定、その他については残存値を示す。

19. 掲載した遺物写真の縮尺は、遺物実測図に準じた。

20. 本文中の「白色火山灰」(山田・庄子 1980) は、これまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田 a 火山灰（To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦 915 年と推定されており、本書もこれに従う。

山田一郎・庄子貞雄 1980「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979』

仙台市教育委員会 2000『沼向遺跡第 1 ～ 3 次調査』仙台市文化財調査報告書第 241 集

小口雅史 2003「古代東北の広域テフラをめぐる問題－十和田 a と白頭山（長白山）を中心に－」『日本律令の展開』吉川弘文館

21. 本書で用いた時期区分は、『長町駅東遺跡第 5・6・7・9 次調査』（仙台市教育委員会 2014）に準じ、遺構の時期を 6 期に区分した。その詳細については下記の通りである。なお、10・11 次調査では 1 ～ 3 期の遺構・遺物は検出されていない。

1 期：5 世紀中葉～末葉（引田式期）

2a 期：6 世紀初頭～前葉

2b 期：6 世紀中葉～末葉（住社式期）

3 期：7 世紀初頭～前葉（栗囲式期）

4 期：7 世紀中葉～後葉（郡山Ⅰ期官衙期）

5 期：7 世紀末葉～ 8 世紀初頭（郡山Ⅱ期官衙期）

6a 期：8 世紀前葉

6b 期：8 世紀中葉～末葉

目　次

巻頭カラー写真
序文
例言
凡例

第１章　調査に至る経過 …… 1
　第１節　調査事由 …… 1
　第２節　調査要項 …… 2
　第３節　平成 13 年度（2001 年）遺構確認調査 …… 4
　第４節　平成 19 年度（2007 年）遺構確認調査 …… 4
第２章　遺跡の位置と環境 …… 10
　第１節　長町駅東遺跡の立地と地形 …… 10
　第２節　周辺の遺跡と歴史的環境 …… 10
第３章　調査の方法と概要 …… 12
　第１節　調査区の設定 …… 12
　第２節　調査概要 …… 12
第４章　第 10 次調査 …… 14
　第１節　基本層序 …… 14
　第２節　古代～中世の遺構と遺物 …… 17
　　（1）小溝状遺構群 …… 18
　　（2）溝跡 …… 18
　　（3）土坑 …… 22
　　（4）ピット …… 27
　第３節　古代の遺構と遺物 …… 35
　　（1）竪穴住居跡・竪穴遺構 …… 36
　　（2）掘立柱建物跡 …… 75
　　（3）区画施設 …… 86
　第４節　弥生時代の遺構と遺物 …… 115
　　（1）竪穴遺構 …… 117
　　（2）焼土遺構 …… 130
　　（3）土坑 …… 130
　　（4）ピット …… 134
　　（5）Ⅴ層出土遺物 …… 140
　　（6）接合資料 …… 176
　　（7）その他の出土遺物 …… 210
　第５節　下層調査 …… 221
　　（1）Ⅸ層出土遺物 …… 221

第５章　第 11 次調査 …… 223
第１節　トレンチ調査 …… 223
第２節　基本層序 …… 224
第３節　検出された遺構と遺物 …… 224
（1）竪穴住居跡 …… 226
（2）土坑 …… 230
（3）溝跡 …… 231
（4）ピット …… 233
（5）下層調査 …… 234
第６章　鉄道関連遺物 …… 235
第１節　長町操車場跡地について …… 235
第２節　汽車土瓶 …… 235
（1）瀬戸焼の汽車土瓶 …… 236
（2）会津本郷焼の汽車土瓶 …… 236
（3）ガラス製汽車土瓶 …… 237
（4）汽車土瓶の湯呑 …… 237
（5）まとめ …… 237
第７章　総括 …… 244
第１節　弥生時代中期の土器について …… 244
第２節　弥生時代中期の遺構について …… 249
（1）竪穴住居跡・性格不明遺構・竪穴遺構 …… 249
（2）土器埋設遺構・土壙墓 …… 252
第３節　古代の遺物について …… 257
第４節　古代の遺構について …… 267
（1）竪穴住居跡・竪穴遺構 …… 267
（2）掘立柱建物跡 …… 268
（3）長町駅東遺跡における古墳時代～古代の集落 …… 271
第５節　まとめ …… 279

引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　遺跡位置図及び調査区配置図 …… 3
第 2 図　確認調査トレンチ配置図 …… 5
第 3 図　20・30・31・35トレンチ…… 8
第 4 図　37街区Bトレンチ …… 9
第 5 図　長町駅東遺跡と周辺の遺跡 …… 11
第 6 図　グリッド配置図・基本層序 ……15・16
第 7 図　古代～中世遺構配置図 …… 17
第 8 図　小溝状遺構群 …… 18
第 9 図　溝跡 …… 19
第 10 図　溝跡断面図 …… 21
第 11 図　SD65溝跡出土遺物…… 22
第 12 図　土坑・ピット配置図 …… 23
第 13 図　土坑(1) …… 25
第 14 図　土坑(2) …… 26
第 15 図　ピット(1) …… 27
第 16 図　ピット(2) …… 28
第 17 図　ピット(3) …… 29
第 18 図　ピット(4) …… 30
第 19 図　古代遺構配置図 …… 35
第 20 図　SI291竪穴住居跡・出土遺物 …… 37
第 21 図　SI292竪穴住居跡(1) …… 38
第 22 図　SI292竪穴住居跡(2) …… 39
第 23 図　SI292竪穴住居跡出土遺物 …… 40
第 24 図　SI293A竪穴住居跡…… 42
第 25 図　SI293A竪穴住居跡出土遺物…… 43
第 26 図　SI293B竪穴住居跡…… 44
第 27 図　SI294竪穴住居跡 …… 46
第 28 図　SI294竪穴住居跡出土遺物 …… 47
第 29 図　SI295竪穴住居跡 …… 48
第 30 図　SI296竪穴住居跡 …… 50
第 31 図　SI296竪穴住居跡出土遺物 …… 51
第 32 図　SI297竪穴住居跡 …… 52
第 33 図　SI297竪穴住居跡出土遺物 …… 53
第 34 図　SI298竪穴住居跡 …… 54
第 35 図　SI298竪穴住居跡出土遺物 …… 55
第 36 図　SI299竪穴住居跡 …… 56
第 37 図　SI299竪穴住居跡出土遺物 …… 58
第 38 図　SI300竪穴住居跡 …… 58
第 39 図　SI300竪穴住居跡出土遺物 …… 59
第 40 図　SI301竪穴遺構・出土遺物 …… 60
第 41 図　SI302竪穴住居跡 …… 61
第 42 図　SI302竪穴住居跡出土遺物 …… 63
第 43 図　SI303竪穴遺構 …… 63
第 44 図　SI303竪穴遺構出土遺物 …… 64
第 45 図　SI304竪穴住居跡 …… 65
第 46 図　SI304竪穴住居跡出土遺物 …… 67
第 47 図　SI305竪穴住居跡 …… 68
第 48 図　SI306竪穴住居跡 …… 69
第 49 図　SI306竪穴住居跡出土遺物 …… 70
第 50 図　SI307竪穴住居跡・出土遺物 …… 71
第 51 図　SI308竪穴住居跡(1) …… 72
第 52 図　SI308竪穴住居跡(2) …… 73
第 53 図　SI308竪穴住居跡出土遺物(1) …… 74
第 54 図　SI308竪穴住居跡出土遺物(2) …… 75
第 55 図　SB30掘立柱建物跡(1) …… 76
第 56 図　SB30掘立柱建物跡(2) …… 77
第 57 図　SB31掘立柱建物跡(1) …… 78
第 58 図　SB31掘立柱建物跡(2) …… 79
第 59 図　SB32掘立柱建物跡…… 80
第 60 図　SB33掘立柱建物跡…… 81
第 61 図　SB34掘立柱建物跡…… 82
第 62 図　SB35掘立柱建物跡…… 83
第 63 図　SB36掘立柱建物跡…… 84
第 64 図　SB40掘立柱建物跡…… 85
第 65 図　SB41掘立柱建物跡…… 86
第 66 図　区画施設配置図 …… 87
第 67 図　SD66溝跡…… 88
第 68 図　SD66溝跡堆積土上層遺物出土状況図… 90
第 69 図　SD66溝跡堆積土上層出土遺物(1) …… 91
第 70 図　SD66溝跡堆積土上層出土遺物(2) …… 92
第 71 図　SD66溝跡堆積土上層出土遺物(3) …… 93
第 72 図　SD66溝跡堆積土上層出土遺物(4) …… 94
第 73 図　SD66溝跡堆積土上層出土遺物(5) …… 95
第 74 図　SD66溝跡堆積土上層出土遺物(6) …… 96
第 75 図　SD66溝跡堆積土上層出土遺物(7) …… 97
第 76 図　SD66溝跡堆積土中層遺物出土状況図… 99

第 77 図　SD66溝跡堆積土中層出土遺物(1) …… 100
第 78 図　SD66溝跡堆積土中層出土遺物(2) …… 101
第 79 図　SD66溝跡堆積土中層出土遺物(3) …… 102
第 80 図　SD66溝跡堆積土中層出土遺物(4) …… 103
第 81 図　SD66溝跡堆積土中層出土遺物(5) …… 104
第 82 図　SD66溝跡堆積土下層遺物出土状況図… 106
第 83 図　SD66溝跡堆積土下層出土遺物(1) …… 107
第 84 図　SD66溝跡堆積土下層出土遺物(2) …… 108
第 85 図　SD66溝跡堆積土下層出土遺物(3) …… 109
第 86 図　SD66溝跡堆積土下層出土遺物(4) …… 110
第 87 図　SD66溝跡底面直上遺物出土状況図…… 111
第 88 図　SD66溝跡底面直上出土遺物(1) …… 112
第 89 図　SD66溝跡底面直上出土遺物(2) …… 113
第 90 図　SA1材木列跡・SA4・5一本柱列跡 …… 114
第 91 図　長町駅東遺跡弥生時代遺構配置図 …… 115
第 92 図　弥生時代遺構配置図 …… 116
第 93 図　SX1竪穴遺構(1)…… 118
第 94 図　SX1竪穴遺構(2)…… 119
第 95 図　SX1竪穴遺構(3)…… 120
第 96 図　SX1竪穴遺構出土遺物(1)…… 121
第 97 図　SX1竪穴遺構出土遺物(2)…… 122
第 98 図　SX1竪穴遺構出土遺物(3)…… 123
第 99 図　SX1竪穴遺構出土遺物(4)…… 124
第100図　SX1竪穴遺構出土遺物(5)…… 125
第101図　SX1竪穴遺構出土遺物(6)…… 126
第102図　SX1竪穴遺構出土遺物(7)…… 127
第103図　SX2竪穴遺構 …… 128
第104図　SX2竪穴遺構出土遺物 …… 129
第105図　SX3・4焼土遺構 …… 130
第106図　SK1～4土坑…… 132
第107図　SK1・2土坑出土遺物 …… 133
第108図　SK6～8土坑・SK6・7土坑出土遺物 …… 134
第109図　ピット配置図 …… 135
第110図　ピット断面図(1) …… 136
第111図　ピット断面図(2) …… 137
第112図　ピット出土遺物 …… 139
第113図　Ⅴ層弥生土器出土状況図 …… 141・142
第114図　Ⅴ層出土遺物(1) …… 143
第115図　Ⅴ層出土遺物(2) …… 144
第116図　Ⅴ層出土遺物(3) …… 145
第117図　Ⅴ層出土遺物(4) …… 146
第118図　Ⅴ層出土遺物(5) …… 147
第119図　Ⅴ層出土遺物(6) …… 148
第120図　Ⅴ層出土遺物(7) …… 149
第121図　Ⅴ層出土遺物(8) …… 150
第122図　Ⅴ層出土遺物(9) …… 151
第123図　Ⅴ層出土遺物(10) …… 152
第124図　Ⅴ層出土遺物(11) …… 152
第125図　Ⅴ層石器出土状況図 …… 155・156
第126図　Ⅴ層出土遺物(12) …… 157
第127図　Ⅴ層出土遺物(13) …… 158
第128図　Ⅴ層出土遺物(14) …… 159
第129図　Ⅴ層出土遺物(15) …… 160
第130図　Ⅴ層出土遺物(16) …… 161
第131図　Ⅴ層出土遺物(17) …… 162
第132図　Ⅴ層出土遺物(18) …… 163
第133図　Ⅴ層出土遺物(19) …… 164
第134図　Ⅴ層出土遺物(20) …… 165
第135図　Ⅴ層出土遺物(21) …… 166
第136図　Ⅴ層出土遺物(22) …… 167
第137図　Ⅴ層出土遺物(23) …… 168
第138図　Ⅴ層出土遺物(24) …… 169
第139図　Ⅴ層出土遺物(25) …… 170
第140図　Ⅴ層出土遺物(26) …… 171
第141図　Ⅴ層出土遺物(27) …… 172
第142図　Ⅴ層出土遺物(28) …… 173
第143図　Ⅴ層出土遺物(29) …… 174
第144図　Ⅴ層出土遺物(30) …… 175
第145図　接合資料出土状況図 …… 177・178
第146図　接合資料(1) …… 179
第147図　接合資料(2) …… 180
第148図　接合資料(3) …… 181・182
第149図　接合資料(4) …… 183・184
第150図　接合資料(5) …… 185・186
第151図　接合資料(6) …… 189・190
第152図　接合資料(7) …… 191・192
第153図　接合資料(8) …… 193
第154図　接合資料(9) …… 194

第155図　接合資料(10) …… 195
第156図　接合資料(11) …… 196
第157図　接合資料(12) …… 197
第158図　接合資料(13) …… 198
第159図　接合資料(14) …… 201・202
第160図　接合資料(15) …… 203
第161図　接合資料(16) …… 204
第162図　接合資料(17) …… 205
第163図　接合資料(18) …… 206
第164図　接合資料(19) …… 207
第165図　接合資料(20) …… 208
第166図　接合資料(21) …… 209
第167図　その他の出土遺物(1) …… 210
第168図　その他の出土遺物(2) …… 211
第169図　その他の出土遺物(3) …… 212
第170図　その他の出土遺物(4) …… 213
第171図　その他の出土遺物(5) …… 214
第172図　その他の出土遺物(6) …… 215
第173図　その他の出土遺物(7) …… 216
第174図　その他の出土遺物(8) …… 217
第175図　その他の出土遺物(9) …… 218
第176図　その他の出土遺物(10) …… 219
第177図　その他の出土遺物(11) …… 220
第178図　その他の出土遺物(12) …… 221
第179図　下層調査基本層序 …… 221
第180図　下層調査区・Ⅸ層出土遺物 …… 222
第181図　1号トレンチ平・断面図 …… 223
第182図　グリッド配置図・基本層序 …… 224
第183図　遺構配置図 …… 225
第184図　SI309竪穴住居跡(1) …… 227
第185図　SI309竪穴住居跡(2) …… 228
第186図　SI309竪穴住居跡出土遺物 …… 229
第187図　土坑 …… 230
第188図　SD267～269溝跡 …… 231
第189図　SD268溝跡出土遺物 …… 232
第190図　SD271・272溝跡 …… 233
第191図　ピット …… 233
第192図　3・4号トレンチ平・断面図 …… 234
第193図　汽車土瓶(1) …… 238
第194図　汽車土瓶(2) …… 239
第195図　汽車土瓶湯呑 …… 240
第196図　第10次調査弥生土器集成(1) …… 247
第197図　第10次調査弥生土器集成(2) …… 248
第198図　長町駅東遺跡弥生時代竪穴住居跡
・性格不明遺構・竪穴遺構配置図 …… 250
第199図　長町駅東遺跡弥生時代竪穴住居跡
・性格不明遺構・竪穴遺構集成 …… 251
第200図　長町駅東遺跡弥生時代土器埋設遺構
・土壙墓配置図 …… 253
第201図　長町駅東遺跡弥生時代
土器埋設遺構集成(1) …… 254
第202図　長町駅東遺跡弥生時代
土器埋設遺構集成(2) …… 255
第203図　長町駅東遺跡弥生時代土壙墓集成 …… 256
第204図　第10次調査主要遺構重複関係模式図 …… 259
第205図　第10次調査竪穴住居跡出土土器(1) …… 260
第206図　第10次調査竪穴住居跡出土土器(2) …… 261
第207図　第10次調査竪穴住居跡出土土器(3) …… 262
第208図　第10次調査SD66出土土器集成
(堆積土上層①) …… 263
第209図　第10次調査SD66出土土器集成
(堆積土上層②) …… 264
第210図　第10次調査SD66出土土器集成
(堆積土中層) …… 265
第211図　第10次調査SD66出土土器集成
(堆積土下層) …… 266
第212図　第10次調査SD66出土土器集成
(底面直上) …… 267
第213図　第10次調査竪穴住居跡集成 …… 270
第214図　第10次調査掘立柱建物跡集成 …… 271
第215図　長町駅東遺跡全体図(引田式期) …… 273
第216図　長町駅東遺跡全体図(住社式期) …… 274
第217図　長町駅東遺跡全体図(栗囲式期) …… 275
第218図　長町駅東遺跡全体図(郡山Ⅰ期官衙期) …… 276
第219図　長町駅東遺跡全体図(郡山Ⅱ期官衙期) …… 277
第220図　長町駅東遺跡全体図
(郡山Ⅱ期官衙終末期以降) …… 278

写真図版目次

確認調査

写真図版1　1～8号トレンチ …… 285
写真図版2　9～16号トレンチ…… 286
写真図版3　17～28号トレンチ …… 287
写真図版4　29～34号トレンチ …… 288
写真図版5　35～41号トレンチ …… 289
写真図版6　37街区A～Cトレンチ
・トレンチ出土遺物 …… 290

第 10 次調査

写真図版1　調査区全景（古代） …… 293
写真図版2　掘立柱建物跡・区画施設 …… 294
写真図版3　竪穴住居跡（1） …… 295
写真図版4　竪穴住居跡（2） …… 296
写真図版5　竪穴住居跡（3） …… 297
写真図版6　竪穴住居跡（4） …… 298
写真図版7　掘立柱建物跡（1） …… 299
写真図版8　区画施設（1） …… 300
写真図版9　区画施設（2）・溝跡（1） …… 301
写真図版10　溝跡（2） …… 302
写真図版11　溝跡（3） …… 303
写真図版12　溝跡（4）・ 土坑（1） …… 304
写真図版13　土坑（2）・小溝状遺構群 …… 305
写真図版14　下層調査（弥生）遺物出土状況（1） … 306
写真図版15　下層調査（弥生）遺物出土状況（2） … 307
写真図版16　下層調査（弥生）SX（1）…… 308
写真図版17　下層調査（弥生）SX（2）…… 309
写真図版18　下層調査（弥生）SK（1）…… 310
写真図版19　下層調査（弥生）SK（2）…… 311
写真図版20　下層調査基本層序
・下層調査（縄文） …… 312
写真図版21　溝跡・竪穴住居跡出土遺物（1） …… 313
写真図版22　竪穴住居跡出土遺物（2） …… 314
写真図版23　竪穴住居跡出土遺物（3） …… 315
写真図版24　竪穴住居跡出土遺物（4）
・SD66出土遺物（1） …… 316
写真図版25　SD66出土遺物（2） …… 317
写真図版26　SD66出土遺物（3） …… 318
写真図版27　SD66出土遺物（4） …… 319
写真図版28　SD66出土遺物（5） …… 320
写真図版29　SD66出土遺物（6） …… 321
写真図版30　SD66出土遺物（7） …… 322
写真図版31　SD66出土遺物（8） …… 323
写真図版32　SD66出土遺物（9） …… 324
写真図版33　SD66出土遺物（10）…… 325
写真図版34　SD66出土遺物（11）…… 326
写真図版35　SD66出土遺物（12）
・竪穴遺構出土遺物（1） …… 327
写真図版36　竪穴遺構出土遺物（2）…… 328
写真図版37　竪穴遺構出土遺物（3）…… 329
写真図版38　竪穴遺構出土遺物（4）
・土坑出土遺物（1） …… 330
写真図版39　土坑出土遺物（2）・基本層Ⅴ層
（遺物包含層）出土遺物（1）…… 331
写真図版40　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（2）…… 332
写真図版41　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（3）…… 333
写真図版42　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（4）…… 334
写真図版43　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（5）…… 335
写真図版44　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（6）…… 336
写真図版45　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（7）…… 337

写真図版46　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（8）……338
写真図版47　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（9）……339
写真図版48　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（10）……340
写真図版49　基本層Ⅴ層（遺物包含層）
出土遺物（11）……341
写真図版50　接合資料（1）……342
写真図版51　接合資料（2）……343
写真図版52　接合資料（3）……344
写真図版53　接合資料（4）……345
写真図版54　接合資料（5）……346
写真図版55　接合資料（6）……347
写真図版56　接合資料（7）……348
写真図版57　接合資料（8）……349
写真図版58　接合資料（9）……350
写真図版59　接合資料（10）……351
写真図版60　接合資料（11）……352
写真図版61　その他の出土遺物（1）……353
写真図版62　その他の出土遺物（2）……354
写真図版63　その他の出土遺物（3）……355
写真図版64　その他の出土遺物（4）……356
写真図版65　その他の出土遺物（5）
・基本層Ⅸ層出土遺物……357

第 11 次調査

写真図版1　調査区全景・竪穴住居跡……361
写真図版2　トレンチ・竪穴住居跡・土坑・溝跡…362
写真図版3　溝跡……363
写真図版4　3・4号トレンチ、
竪穴住居跡・溝跡出土遺物……364

鉄道関連遺物

写真図版1　汽車土瓶（1）……367
写真図版2　汽車土瓶（2）・その他……368

第 1 章　調査に至る経過

第 1 節　調査事由（第 1 図）

長町駅東遺跡は、仙台市南部の太白区長町地区に計画された「仙台市あすと長町土地区画整理事業」の施行に伴い実施された確認調査により所在が明らかになった遺跡である。

区画整理事業の施行に伴う発掘調査は、長町駅東遺跡・西台畑遺跡及び郡山遺跡の一部を対象として、平成 10 年から継続して発掘調査が行われ、7 世紀中頃から 8 世紀始めの時期を中心とする竪穴住居跡が総数 500 軒近く発見されている。また、郡山遺跡では、昭和 54 年以来継続して発掘調査が行われ、陸奥国府である多賀城に先行する 2 時期の官衙（Ⅰ期官衙→Ⅱ期官衙）があったことが明らかになっている。

長町駅東遺跡の調査は、平成 13 年から事業計画地内の道路計画地を対象に調査が開始された。そのうち第 8 次・12 次・13 次調査は、区画整理事業に伴う調査ではなく、事業地内に計画された建築計画に伴い調査を実施している。長町駅東遺跡の調査では、これまでに 300 軒近い竪穴住居が発見されているが、特に第 3・4 次調査（平成 15・16 年）では、集落の北部を区画している施設と考えられる材木列 1 列、一本柱列 4 列、通路状遺構を伴う大溝跡が確認され、区画施設の変遷が明らかになっている。第 10 次調査区は、両調査区の東側に隣接しており、区画施設の延長部の検出も想定される位置である。

第 10 次調査は、あすと長町事業地内 37 街区の保留地販売にあたり、株式会社ホンダ技研により計画された店舗建設に伴う発掘調査について、都市再生機構との委託契約により発掘調査を実施することになった。
区画整理事業に伴う基本協定は、事業地内の公共用地（道路）を対象としたものであったことから、新たに 37 街区保留地を対象とした協定を締結し、野外調査及び発掘調査報告書の作成を行うこととなった。

第 11 次調査は、事業地内の環状線計画のうち副都心大通り線の西側部分を対象とした調査であり、施工に伴う既存道路の切り替え工事部分も対象として行った。

長町駅東遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調査区	調査成果	発掘調査報告書
平成13年	1次調査	1区・2A区・2B区	住居跡24軒・掘立柱建物跡2棟・溝跡・土坑	仙台市文化財調査報告書第324集 2008年3月
平成14年	2次調査	2B区下層調査・3A区	住居跡53軒・掘立柱建物跡3棟・溝跡・土坑 / 土器埋設遺構・包含層（弥生）	仙台市文化財調査報告書第324集 2008年3月
平成15年	3次調査	3A区下層調査・3B区	住居跡68軒・掘立柱建物跡5棟・区画施設 / 住居跡・性格不明遺構・土器埋設遺構・包含層（弥生）	仙台市文化財調査報告書第340集 2009年3月
平成16年	4次調査	4区	住居跡78軒・掘立柱建物跡18棟・区画施設 / 土壙墓・土器棺墓・土器埋設遺構・包含層・水田跡（弥生）	仙台市文化財調査報告書第315集 2007年3月
平成17年	5次調査	5A区（40街区・道路）	住居跡11軒・溝跡・土坑・河川跡 / 包含層（弥生）	仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月
平成18年	6次調査	5B区（40街区・道路）	住居跡21軒・溝跡・土坑・河川跡 / 包含層（弥生）	仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月
平成19年	7次調査	5C区（40街区・道路）	掘立柱建物跡1棟・溝跡・土坑・井戸跡・河川跡	仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月
	8次調査	41街区・マンション建設	溝跡・河川跡	仙台市文化財調査報告書第331集 2008年3月
平成20年	9次調査	40街区民有換地（宅地造成）	住居跡48軒・掘立柱建物跡3棟・材木列跡1条・溝跡 / 包含層（弥生）	仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月
	10次調査	37街区（保留地）	住居跡17軒・掘立柱建物跡7棟・区画施設・溝跡 / 竪穴遺構・土坑・包含層（弥生）	本書所収
	11次調査	環状線	住居跡1軒・溝跡・土坑	本書所収
平成23年	12次調査	28街区（店舗建築）	溝跡	仙台市文化財調査報告書第399 集 2012 年3月
平成25年	13次調査	28街区（店舗付駐車場建築）	住居跡29軒・掘立柱建物跡3棟・区画施設・溝跡・土坑・井戸跡	仙台市文化財調査報告書第423集 2014年3月

第 2 節　調査要項

遺跡名：長町駅東遺跡（宮城県遺跡地名番号 01449　仙台市遺跡登録番号 C-317）

所在地：仙台市太白区長町六丁目

調査原因：仙台市あすと長町土地区画整理事業の施行に伴う埋蔵文化財の事前調査

(1) 第 10 次調査（平成 20 年度）調査体制

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係

工藤 信一郎　文化財教諭 早川 潤一　文化財教諭 藤田 雄介

調査組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 長谷川 徹　調査員 小川 長導

調査期間：2008 年（平成 20 年）4 月 16 日～ 12 月 25 日

調査面積：古代面約 1,725㎡　弥生面約 665㎡　縄文面約 345㎡

(2) 第 11 次調査（平成 20 年度）調査体制

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係

工藤 信一郎　文化財教諭 早川 潤一　文化財教諭 藤田 雄介

調査組織：株式会社シン技術コンサル

調査員 松本 欣士　調査補助員 福井 流星　片山 祐介

調査期間：2008 年（平成 20 年）8 月 1 日～ 10 月 23 日

調査面積：約 663㎡

(3) 調査報告書作成体制（平成 24 年度）

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

工藤 信一郎　黒田 智章

整理組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 小川 長導　調査員 長谷川 徹

整理期間：2012 年（平成 24 年）5 月 11 日～ 2013 年（平成 25 年）年 3 月 15 日

(4) 調査報告書作成体制（平成 25 年度）

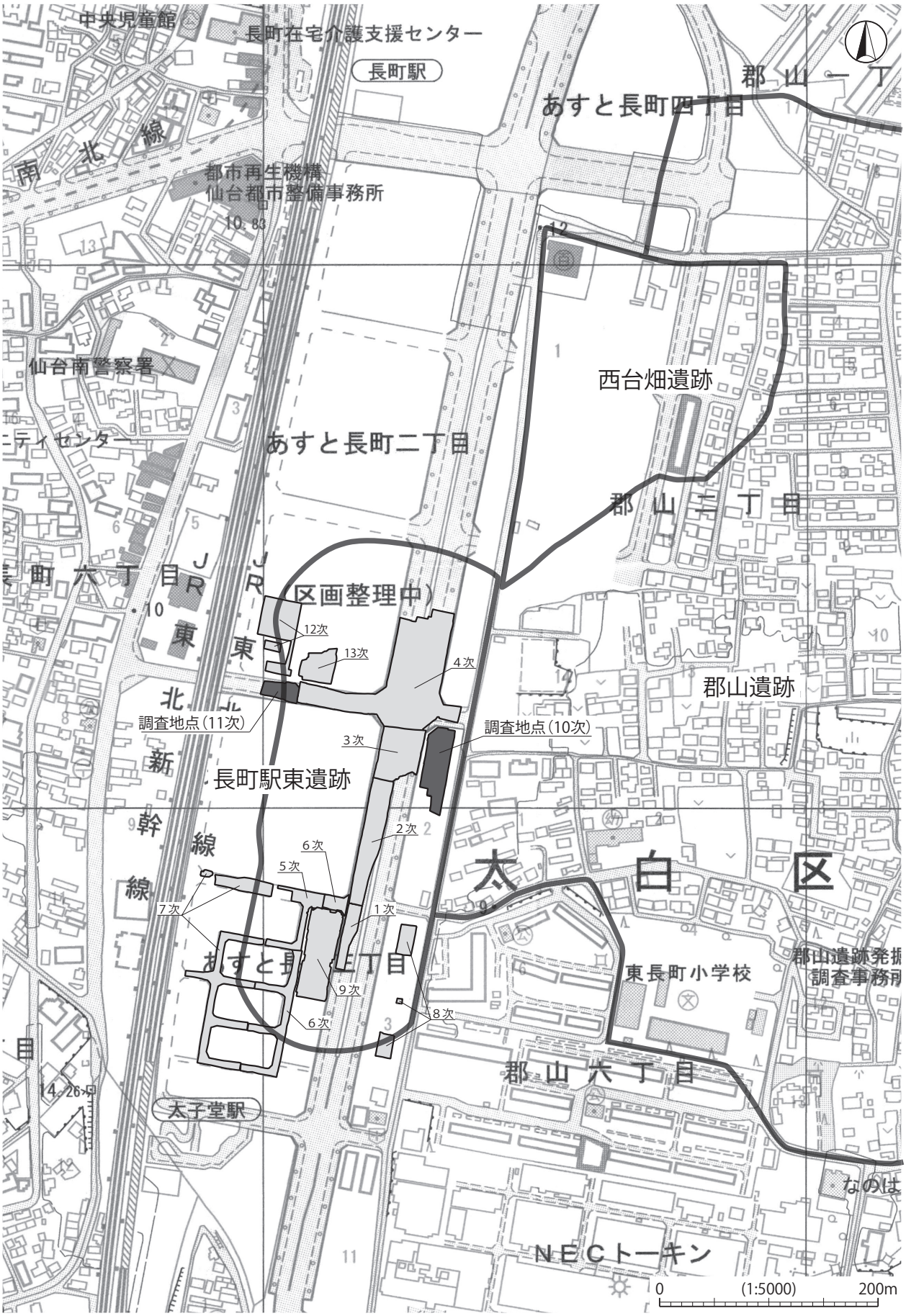
整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

荒井 格　工藤 信一郎　水野 一夫　庄子 裕美　結城 慎一

整理組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 小川 長導　調査員 中井 勝治

整理期間：2013 年（平成 25 年）5 月 7 日～ 2014 年（平成 26 年）3 月 14 日



国土地理院発行 1万分の1「長町」を一部改変

第１図　遺跡位置図及び調査区配置図

第 3 節　平成 13 年度（2001 年）遺構確認調査（第 2 図）

（1）遺構確認調査に至る経過

区画整理事業開始前は貨物ヤード跡地が広がり、さらに南北に走る JR 東北本線により市街地が東西に分断され、長町駅南側に歩行者用地下通路はあったものの、車両については南北に大きく迂回して通行している状況であった。その道路も、大雨時には線路下を通る部分が冠水し、通行に支障をきたすような状況もあった。そのため区画整理事業の施行に伴い、東北新幹線と並行する形で JR 長町駅と東北本線の高架化事業も同時に計画された。高架橋施工予定区域は、JR 東日本が業務に使用している区域であり、レールセンターをはじめとする各種施設や地下ケーブル等の埋設もあることから、平成 10 年に発掘調査を開始して以来、試掘確認調査の実施について JR 東日本との協議を重ねていた。平成 13 年度にはいり、調査期間や調査可能範囲は限定的なものではあるものの調査可能となり試掘確認調査を実施することとなった。

（2）トレンチの設定と調査の方法

JR 業務地内で既存施設も多く、バックヤードの確保を含めて調査可能な空き地はほとんどない状況であったが、2 ヶ所の試掘トレンチを設定した。JR との協議により、まず人力により調査区外周を表層－ 1m まで掘り下げ、埋設物の無いことを確認した後に小型バックホーにより表土掘削を行った。その後人力による精査を行い、さらにバックホーにより部分的な掘り下げを行い、堆積状況を確認した。

（3）JR 高架施行区の調査（平成 13 年度）

①調査要項

調査地点：1 ～ 2 トレンチ

調査期間：平成 13 年 9 月 10 日～平成 13 年 9 月 20 日

②調査成果

○国鉄時代の削平や建築廃材・石炭ガラ等の廃棄により整地が行われている状況が確認され、古代の遺構確認面は遺存していないと判断された。また、今回調査を行えなかった範囲についても、既存施設の基礎等の影響が想定されたことから、高架施行区については調査対象から除外した。

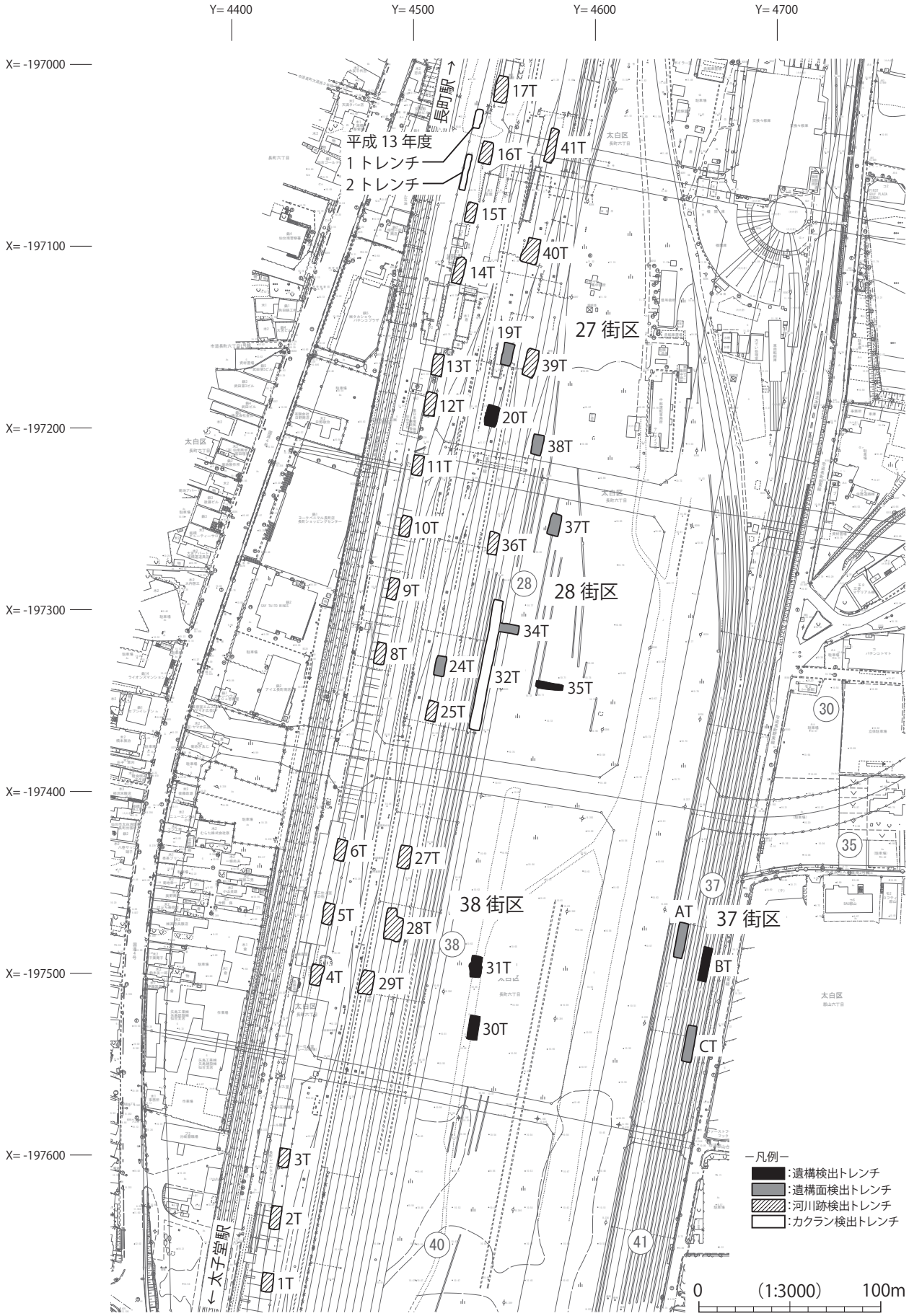
JR 高架施行区確認調査成果一覧

調査地点	トレンチ名称	規模	調査面積	調査成果			備考
				遺構確認面	検出遺構	出土遺物	
JR高架施工区	1トレンチ	9.5m×2.6m	28㎡	なし	なし	なし	
	2トレンチ	15.1m×1.6m	21㎡	なし	なし	なし	

第 4 節　平成 19 年度（2007 年）遺構確認調査（第 2・3 図）

（1）遺構確認調査に至る経過

平成 18 年までに JR 東北本線の高架化が完成し、旧東北本線のレールや関連施設の撤去も完了したことから、これまで行えなかった鉄道軌道部分に計画されていた道路を対象とした遺構確認調査を、平成 19 年度に実施することで都市再生機構との協議を行った。協議の中で、調査対象区域が事業計画地内の西側に位置していることから、今後の事業計画策定のため、道路予定地内だけでなく事業用地（街区）内にも調査区を設定し、事業計画地内西半部の遺構面の状況を確認することとした。



第 2 図　確認調査トレンチ配置図

(2) トレンチの設定と調査の方法

平成 19 年度の調査は、JR 東北本線の太子堂駅－長町駅間の線路跡地と 37 街区を調査対象とした。調査対象となる JR 東北本線線路跡地は南北に長いことから、便宜的に国道 4 号仮設道路の南側を南地区、北側を北地区とした。計画路線内のセンターラインを基準として、10m × 5m の南北トレンチを 20m 間隔で設定し調査を実施することにした。当初設定したトレンチのうち、器材置き場や工事用道路にあたる地点は調査対象から除外した。

南地区では、遺構検出面が確認されないことから、一部街区部分（事業用地）についても可能な範囲で調査を行った。

37 街区を対象とした調査は、20m × 5m の南北トレンチを設定し調査を行った。

調査は重機により遺構検出面まで掘り下げを行い、その後人力により遺構検出作業を行った。古代の遺構検出面が遺存していないと判断された地点は、砂礫層まで掘り下げを行った。調査対象地の全域で旧国鉄時代の削平を受けており、場所によっては地表下 2m 以上の深さまで炭ガラ等がみられた。

調査の記録としては、遺構検出状況写真の撮影、調査区平面図・断面図の作成・レベルの記入を行った。

(3) JR 東北本線線路跡地の調査

①調査要項

調査地点：南地区　1 ～ 6・27 ～ 31 トレンチ

　　北地区　8 ～ 17・19・20・24・25・32・34 ～ 41 トレンチ

調査機関：平成 19 年 6 月 19 日～平成 19 年 9 月 27 日

②南地区の調査成果

○線路跡地内すべてのトレンチから河川跡に伴う堆積土が確認され、古代の遺構検出面が遺存していないと判断した。このため、線路跡地内については調査対象から除外した。

○遺跡西側の状況を把握することを目的として、38 街区内に 30･31 トレンチを設定し調査を行った。その結果、竪穴住居跡や土坑が検出され、38 街区の中央付近までは古代の遺構検出面が遺存していることが確認された。このことから、38 街区の東半部については今後本調査が必要と判断した。

南地区確認調査成果一覧

調査地点	トレンチ名称	規模	調査面積	調査成果			備考
				遺構検出面	検出遺構	出土遺物	
南地区	1トレンチ	8.5m×1.2m	10㎡	なし	なし	なし	河川跡
	2トレンチ	10.6m×1.1m	12㎡	なし	なし	なし	河川跡
	3トレンチ	8.2m×1.2m	9㎡	なし	なし	なし	河川跡
	4トレンチ	8.4m×1.2m	10㎡	なし	なし	なし	河川跡
	5トレンチ	9.0m×1.1m	10㎡	なし	なし	なし	河川跡
	6トレンチ	9.3m×1.5m	14㎡	なし	なし	なし	河川跡
	26トレンチ	－	－	－	－	－	未調査
	27トレンチ	9.2m×1.1m	11㎡	なし	なし	なし	河川跡
	28トレンチ	8.0m×1.5m	17㎡	なし	なし	なし	河川跡
	29トレンチ	10.2m×1.4m	14㎡	なし	なし	なし	河川跡
	30トレンチ	12.0m×4.2m	51㎡	あり	竪穴住居跡･土坑･小溝遺構群	土師器･須恵器	
	31トレンチ	10.6m×5.6m	55㎡	あり	竪穴住居跡･土坑･ピット	土師器	

③北地区の調査成果

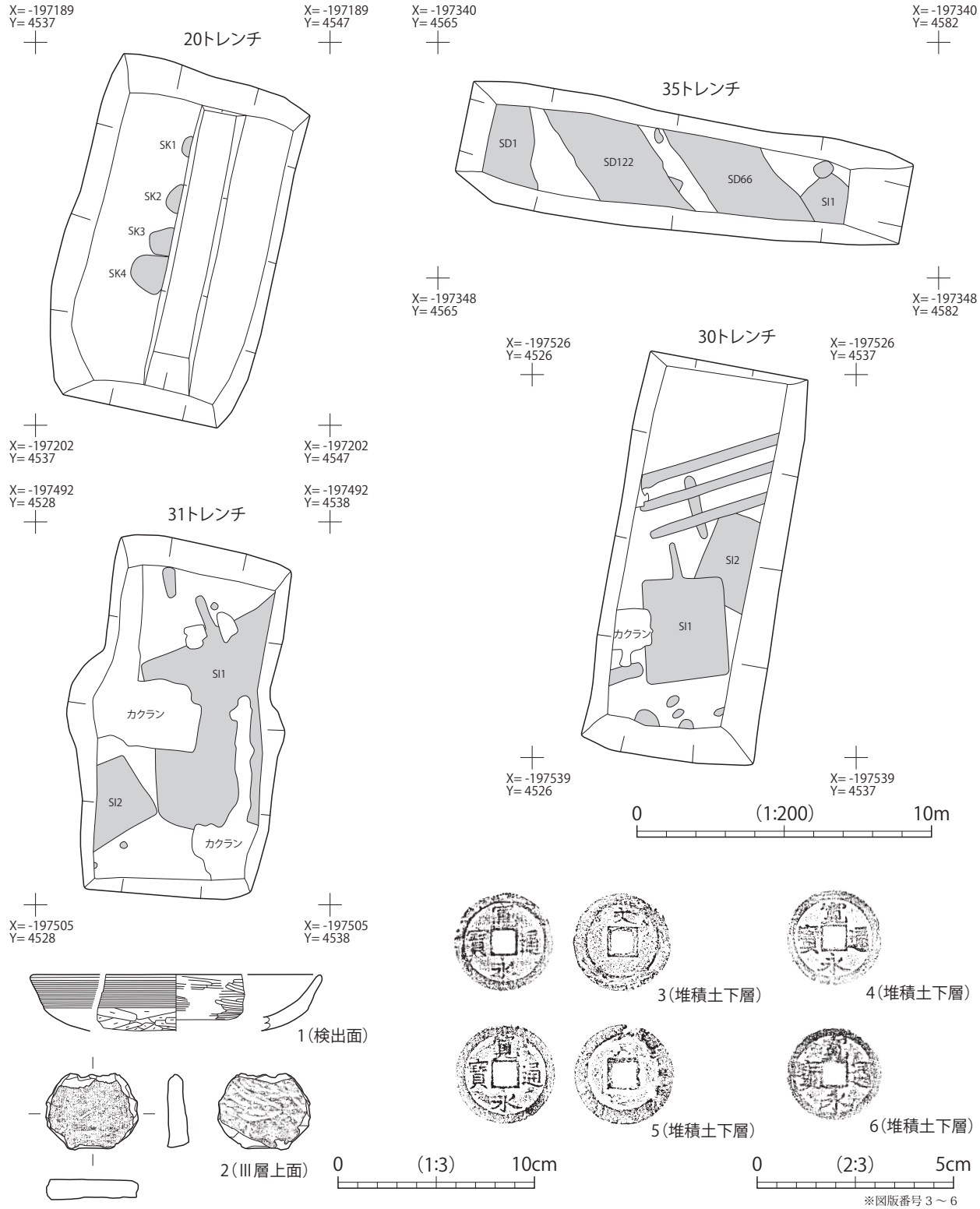
○線路跡地内西端の 8 ～ 17 トレンチから河川跡に伴う堆積土が確認され、古代の遺構検出面が遺存していないと判断した。このため、線路跡地内西端については調査対象から除外した。

○北地区中央付近の 20 トレンチからは近世墓が検出され、19･20･38 トレンチでは、遺構検出面が認められた。しかし、周辺の 36・39 トレンチからは河川跡に伴う堆積土が確認され、河川跡の蛇行や枝分かれにより、遺構検出面が大きく壊されている可能性がある。

○第 3・4 次調査で検出された SD66（区画施設）北側延長部の状況を把握することを目的として、28 街区内に 35 トレンチを設定し調査を行った。その結果、SD66 と推察される溝跡などが検出された。このことから、28 街区の東半部については今後本調査が必要と判断した。

北地区確認調査成果一覧

調査地点	トレンチ名称	規模	調査面積	調査成果			備考
				遺構検出面	検出遺構	出土遺物	
北地区	7トレンチ	―	―	―	―	―	未調査
	8トレンチ	8.6m×2.9m	25㎡	なし	なし	なし	河川跡
	9トレンチ	7.6m×1.2m	9㎡	なし	なし	なし	河川跡
	10トレンチ	9.9m×1.2m	12㎡	なし	なし	なし	河川跡
	11トレンチ	8.2m×1.2m	10㎡	なし	なし	なし	河川跡
	12トレンチ	6.2m×1.2m	8㎡	なし	なし	なし	河川跡
	13トレンチ	9.5m×1.6m	16㎡	なし	なし	なし	河川跡
	14トレンチ	8.7m×1.1m	10㎡	なし	なし	なし	河川跡
	15トレンチ	8.2m×1.1m	9㎡	なし	なし	なし	河川跡
	16トレンチ	9.0m×1.1m	10㎡	なし	なし	なし	河川跡
	17トレンチ	8.2m×1.1m	10㎡	なし	なし	なし	河川跡
	18トレンチ	―	―	―	―	―	未調査
	19トレンチ	10.3m×1.2m	12㎡	あり	なし	なし	
	20トレンチ	8.4m×1.2m	10㎡	あり	近世墓	人骨･古銭	
	21トレンチ	―	―	―	―	―	未調査
	22トレンチ	―	―	―	―	―	未調査
	23トレンチ	―	―	―	―	―	未調査
	24トレンチ	9.7m×4.7m	47㎡	あり	なし	なし	
	25トレンチ	9.3m×1.9m	18㎡	なし	なし	土師器	河川跡
	32トレンチ	59.4m×4.5m	270㎡		なし	土師器	拡張のため33トレンチと統合
	33トレンチ	―	―	―	―	―	拡張のため32トレンチと統合
	34トレンチ	9.8m×3.2m	31㎡	なし	なし	なし	32トレンチと接続
	35トレンチ	12.5m×2.4m	31㎡	あり	竪穴住居跡･土坑･溝跡	土師器･須恵器	
	36トレンチ	7.6m×1.2m	9㎡	なし	なし	なし	河川跡
	37トレンチ	8.2m×2.5m	20㎡	あり	なし	なし	
	38トレンチ	7.4m×1.2m	9㎡	あり	なし	なし	
	39トレンチ	9.4m×1.2m	11㎡	なし	なし	なし	河川跡
	40トレンチ	10.0m×1.2m	12㎡	なし	なし	なし	河川跡
	41トレンチ	14.6m×1.2m	18㎡	なし	なし	なし	河川跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-001	31トレンチ	検出面	土師器	坏	(14.8)	-	(2.8)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		6

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm・g) 外径	厚さ	重さ	備考	写真図版
2	P-001	38T	Ⅲ層上面	土製品	円盤状土製品	4.2	1	21.2		6
3	N-001	20TSK3	堆積土下層	金属製品	銭貨	2.5	0.1	2.9	古寛永通宝	6
4	N-002	20TSK3	堆積土下層	金属製品	銭貨	2.4	0.1	3.5	古寛永通宝	6
5	N-004	20TSK3	堆積土下層	金属製品	銭貨	2.5	0.1	3.4	新寛永通宝	6
6	N-003	20TSK3	堆積土下層	金属製品	銭貨	2.4	0.1	2.4	古寛永通宝	6

第 3 図　20・30・31・35 トレンチ

（4）37 街区の調査

①調査要項

調査地点：A ～ C トレンチ

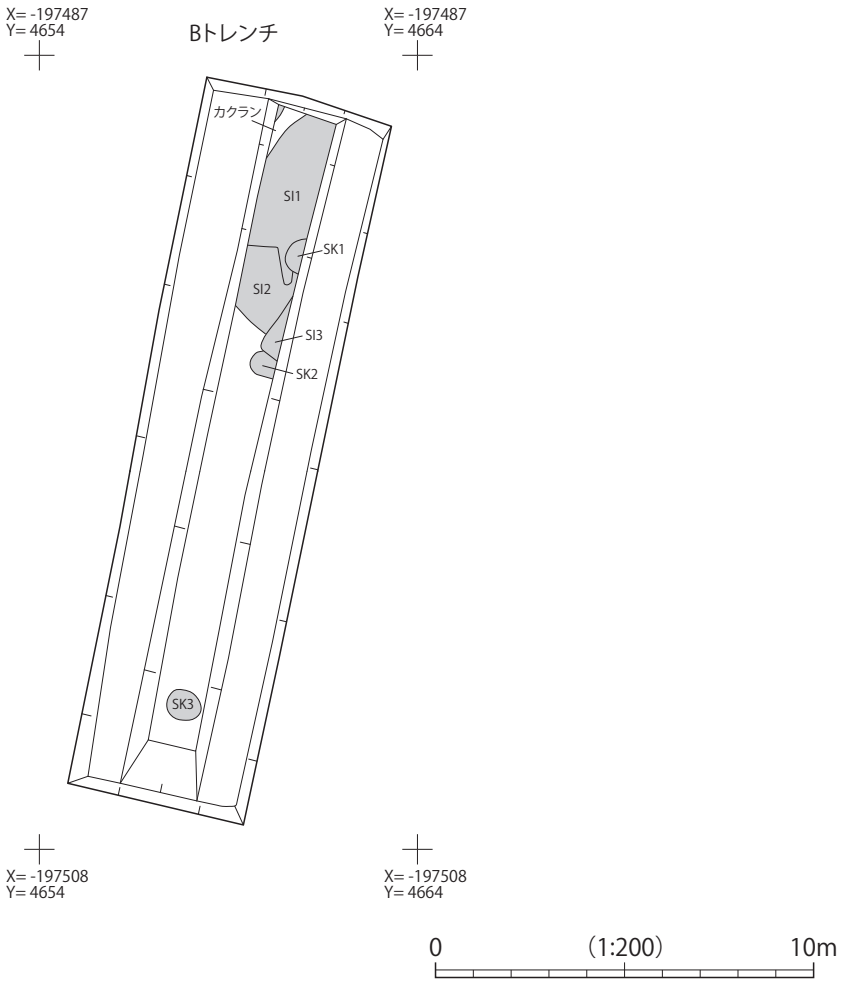
調査機関：平成 19 年 7 月 9 日～平成 19 年 7 月 13 日

②調査成果

○ 37 街区では、全てのトレンチで遺構検出面が確認された。また、A・B トレンチからは遺物が出土し、B トレンチでは竪穴住居跡や土坑などの遺構が検出された。以上のことから、37 街区は今後本調査が必要と判断された。

37 街区確認調査成果一覧

調査地点	トレンチ名称	規模	調査面積	調査成果			備考
				遺構確認面	検出遺構	出土遺物	
37街区	Aトレンチ	18.2m×1.4m	26㎡	あり	なし	土師器	
	Bトレンチ	16.6m×1.4m	24㎡	あり	竪穴住居跡・土坑	土師器・須恵器	
	Cトレンチ	18.6m×1.4m	26㎡	あり	なし	なし	



第 4 図　37 街区 B トレンチ

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　長町駅東遺跡の立地と地形（第５図）

長町駅東遺跡（1）は仙台市南東部の太白区長町六丁目付近に拡がる遺跡で、その範囲は東西 200 m、南北 480 m、総面積は 90,000㎡に及んでいる。広瀬川と名取川の間に拡がる郡山低地に位置し、標高 10 m前後の自然堤防と後背湿地上に立地している。長町駅東遺跡の東側には平成 18 年７月に「仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺跡」として国史跡の指定を受けた郡山遺跡（2）、北東側には西台畑遺跡（3）が隣接している。今回の調査は、第 10 次調査地点が遺跡の北東端部、第 11 次調査地点が遺跡の北西端部に位置する。

第２節　周辺の遺跡と歴史的環境（第５図）

長町駅東遺跡の位置する広瀬川及び名取川下流域には、旧石器時代から近代にかけての遺跡が数多く分布している。ここでは郡山低地を中心に概観する。なお、周辺の遺跡と歴史的環境の詳細については、『長町駅東遺跡第３次調査』（仙台市教委 2009 年）を参照していただきたい。

旧石器時代　富沢遺跡（5）で約２万年前の後期旧石器時代の湿地林とともに焚火跡や石器が発見されている。氷河時代の自然環境と人類の生活跡が同時に発見された遺跡は世界的にも例が殆どなく、現在は仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）として保存公開されている。

縄文時代　笊川流域の自然堤防上に多くの遺跡が確認されている。早期には低地への進出が始まり、下ノ内浦遺跡（8）では早期前半の竪穴住居跡が検出されている。前期から中期にかけては、富沢一帯が沼湿地化したため、低地での活動痕跡が希薄だが、中期末から後期なると遺跡数が増加する。下ノ内遺跡（13）では中期末葉の敷石住居跡、下ノ内浦遺跡・大野田遺跡（10）では後期前半の配石遺構が検出されている。後期後葉から晩期にかけては、低地への進出が一段と進み、郡山遺跡では土坑状の遺構と後期後葉の土器が出土している。

弥生時代　前期は調査事例が少なく詳細は不明だが、郡山遺跡から前期前半の土器が出土しており注目される。中期以降になると郡山低地で水田が営まれるようになり、富沢遺跡、郡山遺跡、西台畑遺跡など多くの遺跡から水田跡が検出されている。富沢遺跡では中期前半から後期にかけての水田跡と共に、木製農耕具が出土しており、農耕技術や生活の様子を窺い知ることができる。長町駅東遺跡は、中期中葉の水田跡や水路、竪穴住居跡、土器埋設遺構、土壙墓などが検出され、当時の集落景観を考えるうえで重要な遺跡である。このほか、西台畑遺跡で中期の土壙墓と土器埋設遺構、南小泉遺跡（29）で中期の土器埋設遺構、下ノ内浦遺跡で後期の土壙墓と土器埋設遺構が検出されている。

古墳時代　前期末頃になると広瀬川の北側に市内最大の前方後円墳である遠見塚古墳（28）が造られ、その周囲に広がる南小泉遺跡では、前期から終末期にかけての大規模な集落跡が確認されている。郡山低地では中期後半から数多くの古墳が造られるようになる。大野田古墳群は名取川の北側に位置し、中型の帆立貝形古墳である鳥居塚古墳（15）や春日社古墳を中心とした古墳群である。近年調査された春日社古墳からは、2 基の埋葬施設が検出され、革盾や鉄矛、鉄鏃などが出土している。

古代　郡山遺跡は７世紀中頃から８世紀初頭にかけての官衙であり、「Ⅰ期官衙」と「Ⅱ期官衙」の２時期の変遷が確認されている。Ⅰ期官衙は７世紀中頃から後葉にかけて造られた古代陸奥国の建国に関った重要な柵跡で、Ⅱ期官衙は多賀城創建以前の陸奥国府跡と考えられ、付属寺院（郡山廃寺）が併設されている。Ⅱ期官衙は二重の外溝が巡り、その一辺の長さが藤原京の条坊区画線の１単位分と同等になることから、藤原京造営時の設計思想が関わっていたと考えられている。郡山遺跡に隣接する長町駅東遺跡と西台畑遺跡は、出土土器の年代幅などから、郡山遺跡における官衙の造営・運営に関連する集落跡と考えられている。長町駅東遺跡では、これまでに 350 軒

国土地理院発行 数値地図 1/25,000「仙台」を一部改変

№	遺跡名	種　別	立　地	時　代	№	遺跡名	種　別	立　地	時　代
1	長町駅東遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	22	矢来遺跡	散布地	自然堤防	古墳・古代
2	郡山遺跡	官衙跡・寺院跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	23	河原越遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
3	西台畑遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防	縄文～中世	24	砂押Ⅱ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
4	北目城跡	城館・集落跡	自然堤防	縄文～近世	25	中柵西遺跡	包含地	自然堤防	弥生～平安
5	富沢遺跡	集落跡・水田跡	後背湿地	旧石器～近世	26	神柵遺跡	包含地	自然堤防	縄文～平安
6	泉崎浦遺跡	包含地	自然堤防	縄文・奈良・平安	27	砂押Ⅰ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
7	山口遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	28	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
8	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	29	南小泉遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	弥生～中世
9	元袋遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	30	若林城跡	城館	自然堤防	中世・近世
10	大野田遺跡	墓域	自然堤防	縄文・弥生	31	茂ヶ崎城跡	城館	丘陵	中世
11	袋前遺跡	集落跡・官衙	自然堤防	縄文～平安	32	兜塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
12	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	33	一塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
13	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	34	二塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
14	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	35	砂押古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
15	鳥居塚古墳	古墳	自然堤防	古墳	36	土手内横穴墓群	横穴古墳・窯跡	丘陵斜面	古墳
16	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	37	愛宕山横穴墓群B・C地点	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
17	的場遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	38	大年寺山横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
18	篭ノ瀬遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	39	宗禅寺横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
19	欠ノ上Ⅰ遺跡	水田跡	自然堤防	平安・中世	40	茂ヶ崎横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
20	欠ノ上Ⅱ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	41	二ツ沢横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
21	欠ノ上Ⅲ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安	42	大野田官衙遺跡	官衙関連	自然堤防	古墳～奈良

第５図　長町駅東遺跡と周辺の遺跡

以上の竪穴住居跡が検出されており、集落の北側では官衙成立以前に一本柱列による区画施設が造られ、官衙期に通路状遺構を伴う大溝跡と材木列による区画施設に造り替えが行われている。郡山遺跡の南西約 1.5㎞にある大野田官衙遺跡（40）では、真北方向を軸とする掘立柱建物跡 6 棟と建物群を区画する大溝が検出され、出土土器の年代幅や建物配置などから、郡山遺跡Ⅱ期官衙に関連する官衙跡と考えられている。大年寺山周辺には、愛宕山横穴墓群（37）、大年寺山横穴墓群（38）、宗禅寺横穴墓群（39）、茂ヶ崎横穴墓群（40）などが造られ、その多くは副葬品などの出土遺物から郡山Ⅰ・Ⅱ官衙との関連が指摘されている。このほか、富沢遺跡や山口遺跡（7）からは真北方向を基準とした水田跡が確認されており、条里制地割との関わりが推定されている。

中世　交通の要衝に大規模な屋敷や城館が造られるようになる。王ノ壇遺跡（16）では、堀に囲まれた武士層の屋敷跡や阿弥陀堂と推定される仏堂跡が検出されている。この他、波板状遺構と側溝を伴う路幅 2.8 ～ 4.2 mの道路跡が検出され、中世の基幹道路である奥大道と推定されている。南小泉遺跡では、大規模な堀と土塁を伴う城館跡を中心として、周辺に方形の屋敷を構えた中世村落の景観が復元されている。北目城跡（4）は、戦国時代に仙台市南東部から名取市北部にかけて勢力を奮った粟野大膳の居城で、関ヶ原の合戦の際に伊達政宗が入城し、仙台城の完成まで居住したとされている。

近世　奥州街道沿いに位置する長町は、宿駅として機能していたことが知られている。『名取郡北方根岸村・平岡村入会絵図』にみられる長町宿の景観は、街道の両側に屋敷を計画的に配置し、宿駅全体を囲うかたちで居久根が見受けられる。若林城跡（30）は、土塁と幅約 20 mの堀で囲まれた平城で、伊達政宗が晩年を過ごしたとされる。南小泉遺跡では、若林城下町の武家屋敷跡と考えられる遺構が検出されている。

近代　明治 20 年の東北本線開通後、明治 29 年に長町駅が営業を開始する。その後、大正 11 年に駅舎の改築と同時に操車場の建設が開始され、大正 13 年に長町操車場として開業した。

第 3 章　調査の方法と概要

第 1 節　調査区の設定

第 10 次調査は、「あすと長町 37 街区」の約 2,100㎡を対象とした。調査対象地の周辺には、「あすと長町大通線」と「環状線」の歩道が完成しており、これらに影響しないように 1 m程の緩衝地帯を設け調査区を設定した。調査区は南北約 80m、東西約 25m で、調査面積は 1,725㎡である。

第 11 次調査は環状線の計画道路部分の約 1,000㎡を対象とした。周辺の調査及び確認調査の成果から、調査対象地の西側は旧国鉄時代の削平により遺構検出面が失われていることが想定された。このことから、調査は遺構検出面が遺存する箇所を検出し調査を行うこととした。調査区は南北約 18m、東西約 38m で、調査面積は 663㎡である。

第 2 節　調査概要

（1）調査経過

第 10 次調査の対象地は、平成 19 年度に実施した確認調査により、遺構検出面が遺存していることが確認され、北半部については竪穴住居跡など古代の遺構が検出されている。この成果を受けて、調査区北端から重機による表土掘削を開始したが、調査区の南半部が撹乱による削平を受け、古代の遺構検出面及び弥生時代の包含層が失われていることが判明した。このため、調査区の南東部では掘り込みの深い SD66（区画施設）が検出されたところまでを調査区とし、南西側については調査対象から除外した。古代の遺構検出作業は基本層Ⅳ層上面で行い、重複関

係から古代の遺構より新しいものを先行して調査を行った。古代面の調査終了後、調査区北半部を対象として弥生面の調査を行い、弥生時代中期の遺物包含層及び遺構を検出した。その後、下層調査区を設定し、縄文時代の遺物包含層の調査を実施した。

第 11 次調査は、調査に先立ち、環状線の切り回し部分の遺構・遺物の有無を確認するため、試掘トレンチを設定し調査を行ったが、遺構は検出されなかった。その後、調査区の表土掘削を開始したところ、調査区南東隅に竪穴住居跡が検出されたため、南側に 5m 程拡張して調査を行った。古代面の調査終了後、弥生時代の遺構・遺物の有無を確認するため、調査区東半部に下層調査区を設定し調査を行った。

(2) 測量基準・図面の作成

測量は、「平面直角座標系第Ｘ系」を基準としている。5 × 10 mを単位とする平面区配図を作成した。第 10 次調査では、調査区北西端を 1 とし、南東端の 58 までの番号を付して遺構図面の作成を行った。第 11 次調査では調査区北西端を 1 とし、南東端の 23 までの番号を付して遺構図面の作成を行った。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。特に必要と認められた遺物については、出土状態図を作成し、位置とレベルを記録している。

整理作業の段階で、各遺構について遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

(4) 遺構登録番号

遺構登録番号については、長町駅東遺跡調査開始時からの通し番号とし、小ピットのみ調査区毎に 1 番から番号を付した。隣接する第 3 次調査区で検出された遺構と同一遺構と判断した場合は、第 3 次調査の遺構番号とした。

(5) 調査報告書作成作業

調査報告書作成に伴う整理作業については、委託業務により実施することとした。出土遺物の基礎整理（水洗・注記・接合・修復）と遺物実測の一部（弥生土器の拓本・断面実測・礫石器・石製品・鉄製品）を仙台市が行い、その後、株式会社シン技術コンサルに作業を引き継いだ。

報告書作成に向けた整理作業は、仙台市太白区中田に所在する株式会社シン技術コンサル東北支店で行った。出土遺物の登録・実測図作成、遺物図版・遺構図版・写真図版の作成及び編集・原稿執筆等を行い、その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行っている。特に、剥片石器・弥生土器・土師器・須恵器の実測図及びデジタルトレースについては、仙台市あすと長町関係遺跡発掘調査事務所において点検を行った。

第４章　第 10 次調査

第１節　基本層序（第６図）

長町駅東遺跡は旧国鉄貨物ヤード跡地内に所在し、旧国鉄による大規模な削平及び盛土・整地が行われていたことが確認されている。本調査区においても全域で盛土・整地層が認められ、調査区南半部では現地表面から約 200cm の深さまで削平を受けている。このため調査区南半部では、古代の遺構検出面及び弥生時代の遺構検出面・遺物包含層は残存していない。また、遺構検出面が残存している北半部においても、東側では遺構検出面まで撹乱が及んでいる。このため、全体的に遺構の残存状況が悪く、新旧関係が不明な遺構も存在する。

基本層序の観察は調査区の西壁で行った。大別で 18 層に分層し、土質や混入物等の差異により 32 層に細別した。本調査区における基本層序を概観すると、本調査区及び隣接する第３次調査区と第４次調査区の調査所見から、Ⅰ層は近世～近・現代にかけての整地・盛土層及び耕作土で、Ⅱ層は古代末～中・近世の堆積層と考えられる。Ⅲ層は古代の遺構掘り込み面、Ⅳ層は古代の遺構検出面である。Ⅴ層は弥生時代の遺物包含層、Ⅵ層は弥生時代の遺構検出面である。Ⅵ～Ⅷ層は自然堆積層、Ⅸ層は縄文時代晩期の遺物包含層である。Ⅹ層以下は、縄文時代以前の自然堆積層である。

以下、基本層序の詳細を記述する。

Ⅰ層：近世～近・現代にかけての堆積層で、３層に細別される。Ⅰａ層は旧国鉄時代の整地・盛土層で、層厚は調査区北半部で 54 ～ 87cm である。Ⅰｂ層は近代の耕作痕跡で、レンガ片が出土している。Ⅰｃ層はにぶい黄褐色砂質シルト層で、層厚は 14 ～ 36cm である。

Ⅱ層：黒褐色シルト層で、黄褐色のシルトブロックを少量含む。調査区北半部の西側で確認され、層厚は８～ 27cm である。古代末～中・近世の耕作土と考えられる。

Ⅲ層：暗褐色シルト層で、黄褐色砂質シルトを多量に含む。調査区北半部の西側で確認され、層厚は６～ 20cm である。竪穴住居跡を中心とした古代の遺構掘り込み面である。

Ⅳ層：２層に細分される。黄褐色砂質シルトないしにぶい黄褐色シルト層である。調査区北半部のほぼ全域で確認され、層厚は 31 ～ 45cm である。長町駅東遺跡における古代の遺構検出面で、桝形囲式期の遺物が少量出土している。第３次調査区のⅣ層上部に対応する。

Ⅴ層：３層に細分される。にぶい黄褐色砂質シルトないし灰黄褐色シルトで、炭化物を微量含む。調査区北半部のほぼ全域で確認され、層厚は 12 ～ 20cm である。弥生時代の遺物包含層で、桝形囲式期の遺物が多く出土している。第３次調査区のⅣ層下部に対応する。

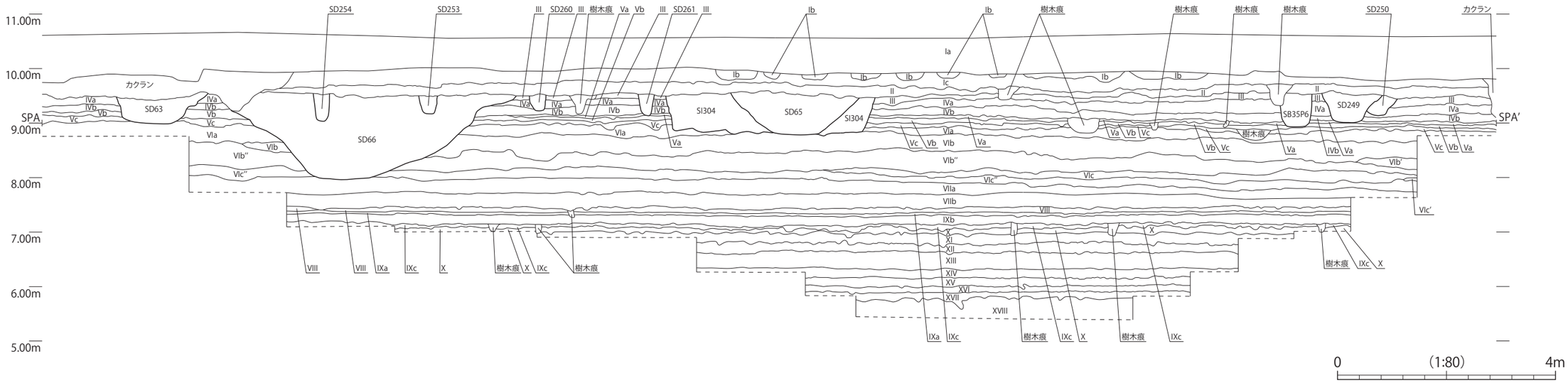
Ⅵ層：７層に細分される。上層はにぶい黄褐色ないし灰黄褐色の細砂を主体とし、下層は黄褐色シルトを主体とする。弥生時代の遺構検出面で、竪穴住居跡や土坑が検出されている。層厚は 87 ～ 106cm である。第３次調査区のⅤ層に対応する。

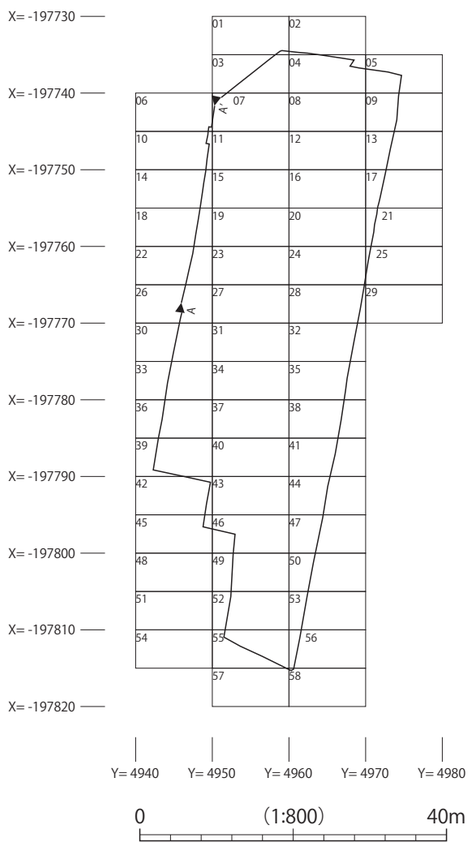
Ⅶ層：２層に細分される。黄褐色シルトと暗灰黄色粘土質シルトないしオリーブ褐色シルトと黒色粘土の互層である。下面がグライ化している。層厚は 44 ～ 56cm である。

Ⅷ層：灰色シルトを主体とし、全体がグライ化している。層厚は６～ 12cm である。

Ⅸ層：３層に細分される。黒色ないし緑黒色粘土を主体とする。縄文時代の遺物包含層である。層厚は 24 ～ 32cm である。全体がグライ化している。

Ⅹ～XⅧ層：黒色ないしオリーブ黒色粘土を主体とする。縄文時代以前の自然堆積層である。



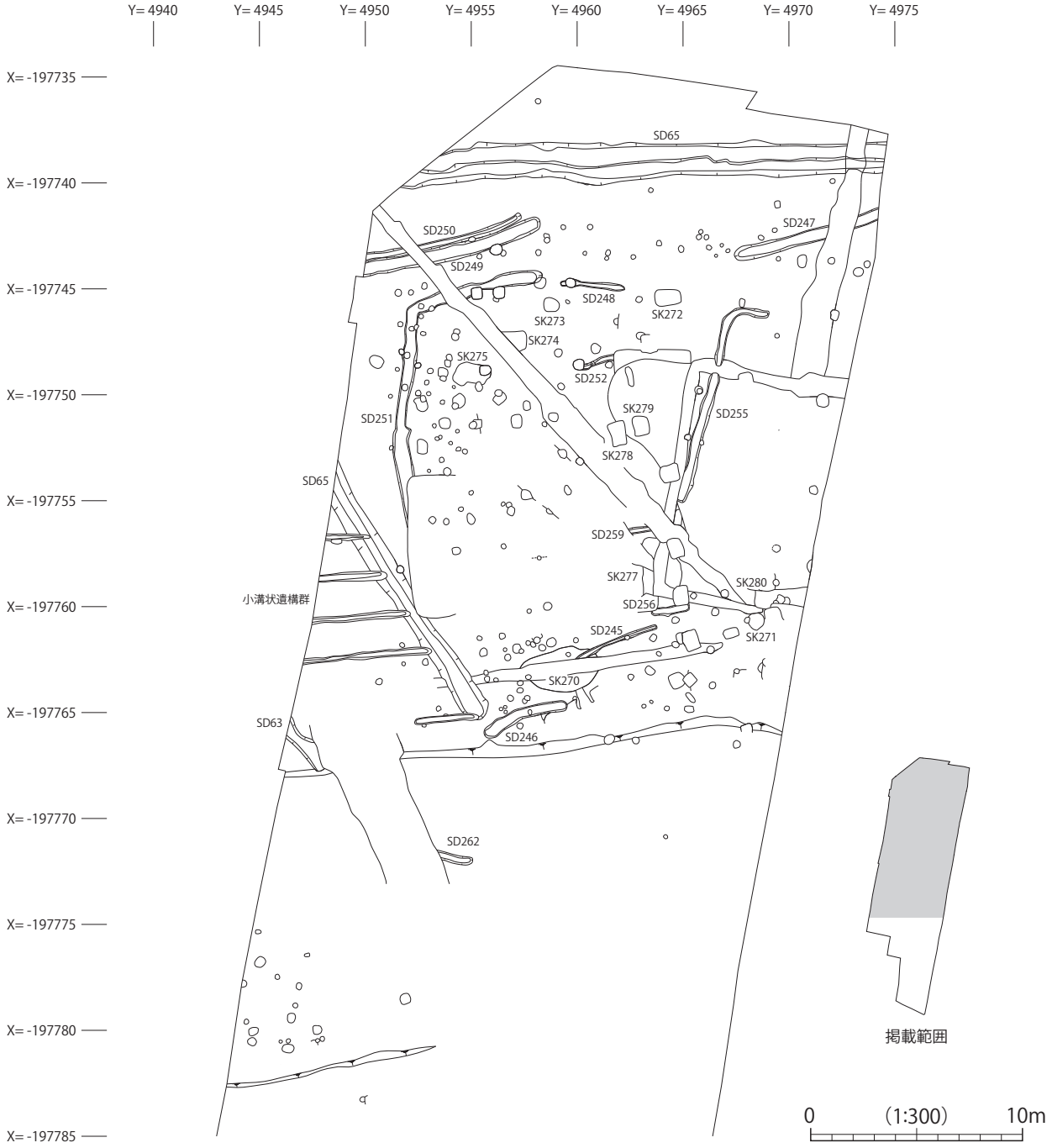


層位		土色	土質	備考	
Ⅰ	a	2.5Y6/8 明黄褐色		旧国鉄の貨物ヤードに関する近・現代の盛土。	
	b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	近代の耕作土と考えられる。	
	c	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト		
Ⅱ		10YR3/2 黒褐色	シルト	黄褐色(10YR5/6)砂質シルトブロック(5～10㎜程度)少量、黒褐色(10YR3/1)シルトブロック(10㎜程度)微量含む。	
Ⅲ		10YR3/4 暗褐色	シルト	下部に黄褐色(10YR5/6)砂質シルトブロック(10㎜程度)含む。	
Ⅳ	a	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	暗褐色(10YR3/4)シルトを斑状に含む。	古代遺構検出面
	b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色(10YR4/6)砂質シルトブロック含む。	
Ⅴ	a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)含む。	弥生遺物包含層
	b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック(10～20㎜程度)・酸化鉄斑少量、炭化物粒微量含む。 部分的に黒味(黒褐色10YR2/2)が強く粘性がある。	
	c	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトを斑状に含み、炭化物粒微量含む。	
Ⅵ	a	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑多量、黒褐色(2.5Y3/2)粘土ブロック(20㎜程度)微量含む。	弥生遺構検出面
	b	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂	酸化鉄斑・マンガン斑多量、黒褐色(2.5Y3/2)粘土ブロック(20㎜程度)微量含む。	
	b′	10YR5/2 灰黄褐色	細砂	酸化鉄斑・マンガン斑多量、黒褐色(2.5Y3/2)粘土ブロック(20㎜程度)微量含む。	
	b″	2.5Y4/4 オリーブ褐色	粗砂	下面が帯状に酸化している。	
	c	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	酸化鉄斑含み、黒褐色(2.5Y3/2)粘土の薄層を含む。	
	c′	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	酸化鉄斑含む。	
	c″	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	酸化鉄斑含み、黒褐色(2.5Y3/2)粘土の薄層を含む。	
Ⅶ	a	黄褐色(2.5Y6/3)シルトと 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土質シルトの互層		下部に粗砂を含み、部分的に黒色(2.5Y5/2)粘土の薄層を含む。	
	b	オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルトと 黒色(10YR2/1)粘土の互層		下面がグライ化している。	
Ⅷ		10Y4/1 灰色	シルト	全体にグライ化している。	
Ⅸ	a	N1.5/0 黒色	粘土	オリーブ灰色(2.5GY5/1)粘土を斑に含む。	縄文遺物包含層
	b	N1.5/0 黒色	粘土		
	c	5GY2/1 緑黒色	粘土	部分的に黒味が強い。	
Ⅹ		2.5GY4/1 暗オリーブ色	粘土	オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土粒多量含む。	
ⅩⅠ		7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂質シルト多量、炭化物粒少量含む。	
ⅩⅡ		5GY4/1 暗オリーブ灰色	砂質シルト	黒色(N1.5/0)粘土をラミナ状に含む。	
ⅩⅢ		N1.5/0 黒色	粘土	灰オリーブ色(5Y5/2)粘土を帯状に含む。	
ⅩⅣ		7.5Y2/1 黒色	粘土	下部に暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粘土粒含む。	
ⅩⅤ		N2/0 黒色	粘土		
ⅩⅥ		5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	下部に暗オリーブ灰色(5GY4/1)粘土粒含む。	
ⅩⅦ		5GY4/1 暗オリーブ灰色	粘土		
ⅩⅧ		7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	暗オリーブ灰色(5GY4/1)粒含む。	

第６図　グリッド配置図・基本層序

第 2 節　古代〜中世の遺構と遺物（第 7 〜 18 図）

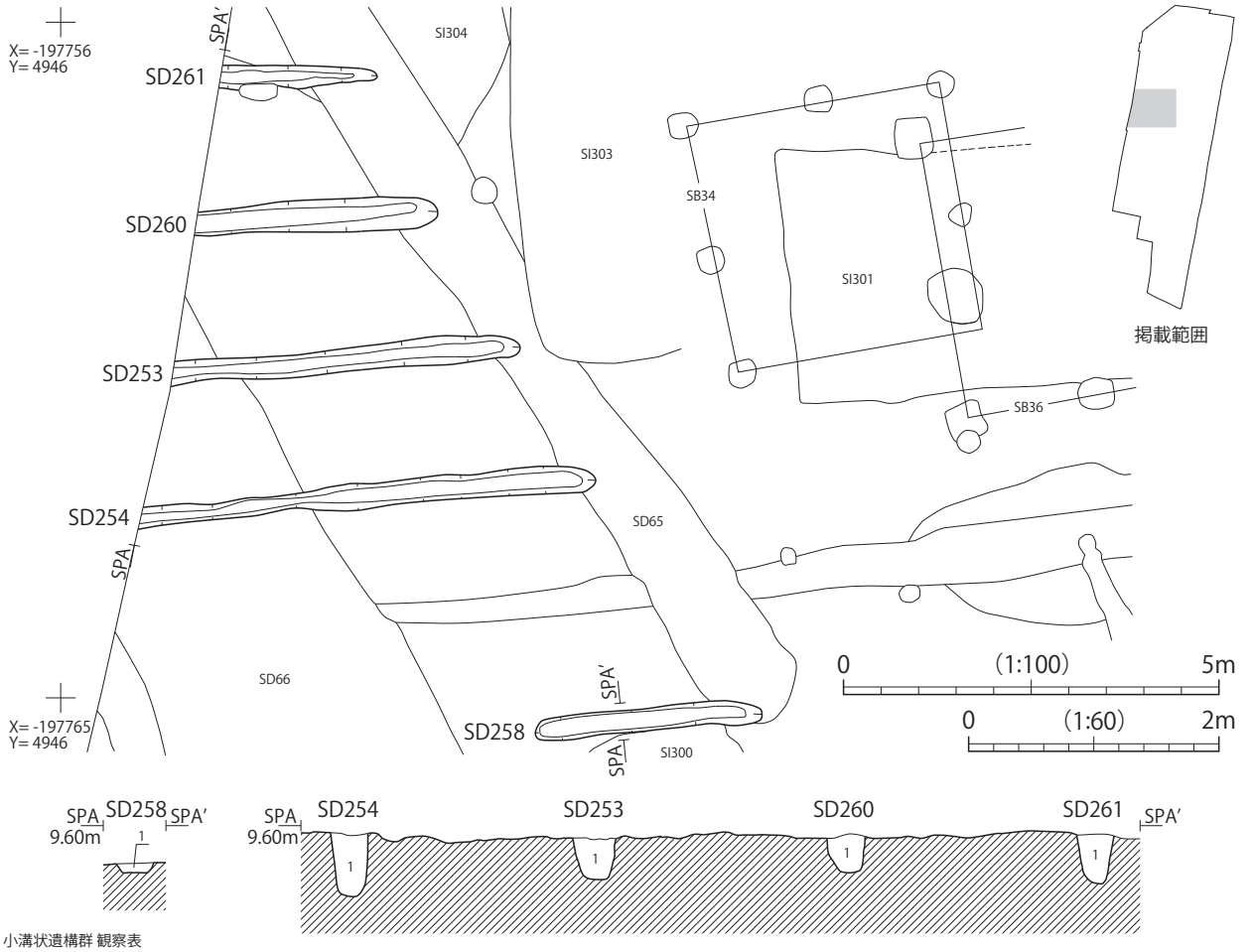
第 10 次調査は基本層Ⅳ層上面を遺構検出面として実施した。検出された遺構の多くは重複関係がみられ時期差が考えられた。本節で扱う小溝状遺構群・溝跡・土坑・ピットは、古代の竪穴住居跡・区画施設などより新しい時期の遺構として検出されたものが多く、調査段階で古代の遺構とは時期的に区別して調査を進めたが、出土遺物が少なく帰属時期を明確にすることができなかった。このため、本節では当該遺構を古代〜中世に帰属する遺構として報告する。また、調査段階の所見で、古代の遺構より古いとされたものも含まれるが、これらについても一括記載する。検出された遺構は、小溝状遺構群 1 群、溝跡 14 条、土坑 10 基、ピット 212 基である。遺物は、土師器・須恵器・瓦・金属製品などコンテナで 3 箱程度が出土している。



第 7 図　古代〜中世遺構配置図

(1) 小溝状遺構群（第 8 図）

調査段階で単独の溝跡として遺構番号を付したため、遺構番号はそのまま記載する。小溝状遺構群は、SD253・254・258・260・261 の 5 条で構成される。18・19・22・23・27 グリッドに位置し、SI300・304、SD65・66 より新しい。規模は、検出長 208 ～ 612cm、幅 31 ～ 48cm、深さ 9 ～ 48cm を測る。方向は N － 83°～ 89°－ E である。堆積土は、にぶい黄褐色ないし暗褐色シルトを主体とする。重複する SD66 の堆積土上層から十和田 a 火山灰（To-a）が確認されていることから、構築時期の上限が 10 世紀中頃と考えられる。主軸方向や重複関係から第 3 次調査区の D 群を構成する一群と考えられる。遺物は SD258・260 から土師器・須恵器が出土したが、図化できる遺物はなかった。



小溝状遺構群 観察表

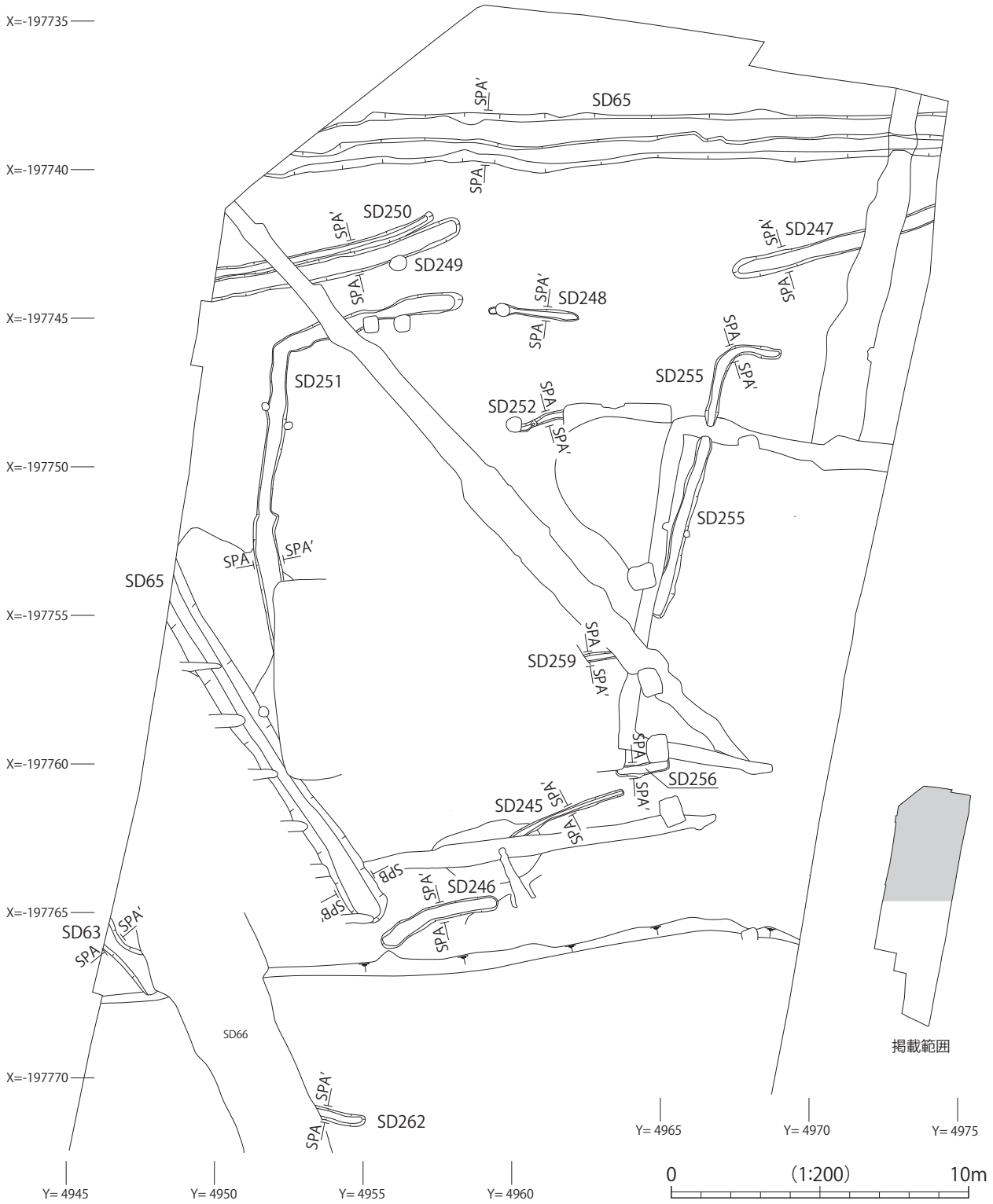
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SD253	22・23	N-85°-E	467×42	28	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。	SD65・66より新しい。
SD254	22・23	N-84°-E	612×43	48	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒色シルトブロック(5㎜程度)微量含む。	SD65・66より新しい。
SD258	27	N-83°-E	308×31	9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	SI300、SD65、Pit218・220より新しい。
SD260	18・19	N-86°-E	319×48	29	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)多量含む。	SD65より新しい。
SD261	18・19	N-89°-E	208×31	39	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	SI304、SD65より新しい。

第 8 図　小溝状遺構群

(2) 溝跡（第 9 ～ 11 図）

基本層Ⅳ層上面から 14 条の溝跡を検出した。このうち SD63・65 は第 3 次調査区で検出された溝跡の延長部と考えられ、同一の遺構として調査を行った。SD63 は重複関係から SD66 より古いことが確認されており、本調査区においても同様の新旧関係を確認した。SD65 は「L」字状に屈曲する溝跡で、本調査区では東側及び南側の延長部が検出された。このほか、「L」字状に屈曲する SD251・255、東西方向に延びる SD247・249・250 などがある。

以下、主要な溝跡 7 条について個別に記載する。その他の溝跡については、観察表を参照していただきたい。



第 9 図　溝跡

SD63 溝跡（第 10 図）

調査区中央部西端の 26 グリッドに位置する。第 3 次調査区で検出された SD63 の南側延長部である。SD66 と重複し、これより古い。南側は SD66 及び撹乱により失われている。規模は、検出長 2.40m、上端幅 59 ～ 81cm、下端幅 34 ～ 62cm、深さ 13cm を測る。方向は N － 44°－ W である。断面形状は皿状を呈する。堆積土は、にぶい黄褐色シルトの単層で、Ⅳ層土ブロックを多量に含む。遺物は出土していない。

SD65 溝跡（第 10・11 図）

調査区北端部の 3・4・5・7・8 グリッド及び調査区中央部西側の 14・18・19・23・27 グリッドの 2 ヶ所で検出した。第 3 次調査で検出された「L」字状に屈曲する SD65 の東側延長部及び南側延長部である。SI292・303・304、Pit175・200、小溝状遺構群と重複し、SI292・303・304、Pit200 より新しく、Pit175、小溝状遺構群より古い。

東側延長部の規模は、検出長 21.40m で、方向は N － 89°－ E である。断面の観察から、幅が狭く深い溝から、幅が広く浅い溝に掘り直されていることを確認した。旧段階の溝跡は、上端幅 62 ～ 95cm、下端幅 24 ～ 62cm、深さ 26 ～ 44cm を測る。断面形状は「U」字状で、底面には工具痕跡が認められた。堆積土は、にぶい黄褐色ないし暗褐色シルトを主体とする。新段階の溝跡は、上端幅約 140cm、下端幅約 95cm、深さ 14 ～ 22cm を測る。断面形状は「U」字状を呈する。堆積土は、にぶい黄褐色ないし暗褐色シルトを主体とする。

南側延長部の規模は、検出長 13.90m、上端幅 86 ～ 121cm、下端幅 35 ～ 76cm、深さ 46 ～ 56cm を測る。方向は N － 32°－ W である。断面形状は逆台形状を呈する。

堆積土中から土師器・須恵器・金属製品・瓦が少量出土している。新段階の溝跡から出土したミニチュア土器 1 点、須恵器甕 1 点、棒状鉄製品 1 点、平瓦 2 点を掲載した（第 11 図）。

SD247 溝跡（第 10 図）

調査区北端部東側の 8・9 グリッドに位置する。他遺構との重複はないが、一部撹乱により失われている。東側は調査区外へ延びる。規模は、検出長 7.10m、上端幅 68cm、下端幅 45cm、深さ 33cm を測る。方向は N － 74°－ E である。堆積土は 3 層に分層した。黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とする。断面形状は「U」字状を呈する。堆積土中から土師器が出土したが、図化できる遺物はなかった。

SD249 溝跡（第 10 図）

調査区北端部西側の 6・7 グリッドに位置する。SD250、Pit24・58 と重複し、SD250、Pit58 より新しく、Pit24 より古い。一部撹乱により失われている。規模は、検出長 8.61m、上端幅 76cm、下端幅 45cm、深さ 35cm を測る。方向は N － 75°－ E で、SD250 と並走して東西方向に延びる。堆積土は 3 層に分層した。黒褐色シルトを主体とする。断面形状は「U」字状を呈する。堆積土中から土師器・須恵器が出土したが、図化できる遺物はなかった。

SD250 溝跡（第 10 図）

調査区北端部西側の 7 グリッドに位置する。SI292、SD249、Pit58 と重複し、SI292、Pit58 より新しく、SD249 より古い。一部撹乱により失われている。規模は、検出長 7.60m、上端幅 38cm、下端幅 10cm、深さ 14cm を測る。方向は N － 75°－ E で、SD249 と並走して東西方向に延びる。堆積土は、黒褐色シルトの単層である。断面形状は「U」字状を呈する。遺物は出土していない。

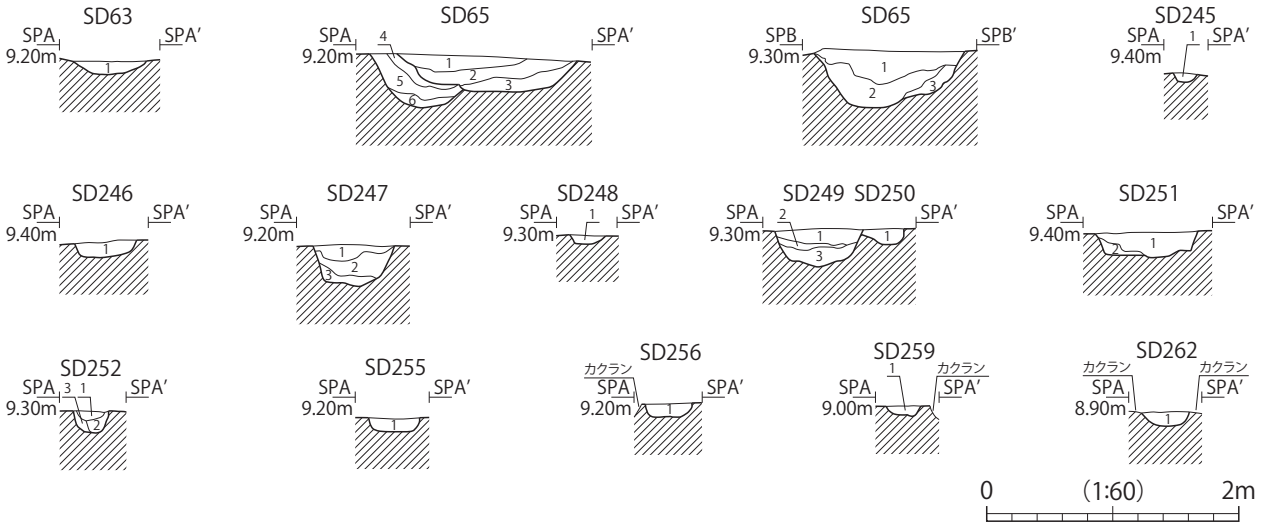
SD251 溝跡（第 10 図）

調査区北部西側の 7・11・15・19 グリッドに位置する。SI293A・303・304、Pit28・38・39・51・52・60・69・70・73・74・195・221 と重複し、SI293A・304、Pit51・52・69・70・73・74・195・221 より新しく、SI303、Pit28・38・39・60 より古い。平面形状は「L」字状に屈曲する。規模は、北辺が検出長 6.26m、西辺が検出長 10.14m、上端幅 80cm、下端幅 70cm、深さ 28cm を測る。方向は北辺が N － 73°－ E、西辺が N － 6°－

E ～ N － 10°－ W である。堆積土は 2 層に分層した。暗褐色シルトを主体とする。断面形状は逆台形状を呈する。堆積土中から土師器が出土したが、図化できる遺物はなかった。

SD255 溝跡（第 10 図）

調査区北部東側の 12・16・20 グリッドに位置する。SI299、SB30 と重複し、SI299 より新しく、SB30 とは直接的な重複関係がないため新旧関係は不明である。平面形状は「L」字状に屈曲する。規模は、北辺が検出長 1.83m、西辺が検出長 9.24m、上端幅 42cm、下端幅 30cm、深さ 13cm を測る。方向は北辺が N － 80°－ W、西辺が N

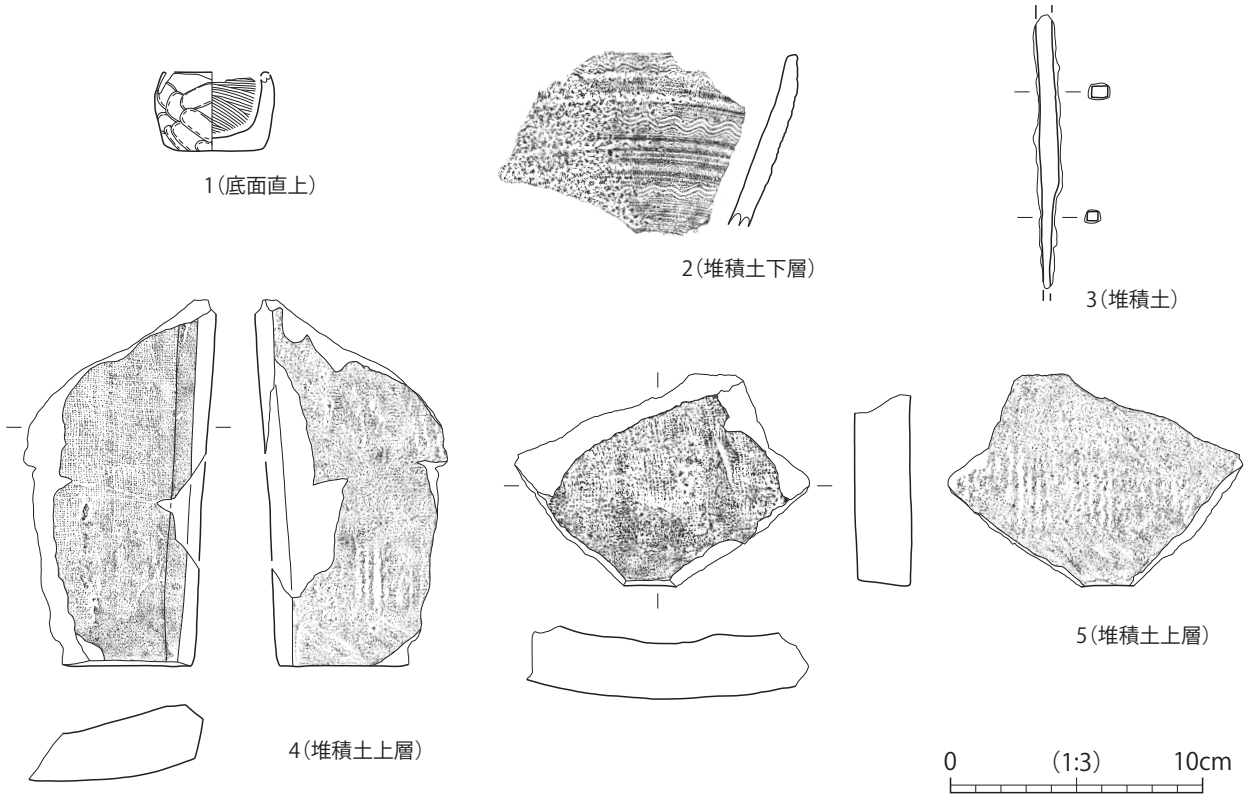


溝跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SD63	26	N-44°-W	240×81	13	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)多量含む。	SD66より古い。
SD65	3・4・5 7・8	N-89°-E	2140×140	22	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック少量、Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)微量含む。	SI292・303・304、Pit200より新しく、Pit175、小溝状遺構群より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(10㎜程度)含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含む。	
			2140×95	44	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルト含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含む。※部分的にグライ化する。	
					6	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
	14・18 19・23 27	N-32°-W	1390×121	56	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を部分的に含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
SD245	23・24	N-70°-E	413×29	11	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック(10～30㎜程度)多量含む。	SK270、Pit131より新しい。
SD246	23・27	N-56～79°-E	415×64	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。	SI308、Pit106・206より新しい。
SD247	8・9	N-74°-E	710×68	33	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					3	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土少量含む。	
SD248	7・8・12	N-84°-W	307×35	6	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。	SI293Aより新しく、Pit170より古い。
SD249	6・7	N-75°-E	861×76	35	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	SD250、Pit58より新しく、Pit24より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
SD250	7	N-75°-E	760×38	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)多量含む。	SI292、Pit58より新しく、SD249より古い。
SD251	7・11 15・19	北辺N-73°-E 西辺N-6°-E～N-10°-W	1665×80	28	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。	SI293A・304、Pit51・52・69・70・73・74・195・221より新しく、SI303、Pit28・38・39・60より古い。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルト多量含む。	
SD252	12	N-70°-E	150×29	14	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	SI295、Pit64より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト含む。	
SD255	12・16 20	北辺N-80°-W 西辺N-14°-E	1009×42	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	下部にⅣ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。	SI299より新しく、SB30とは新旧不明。
SD256	20・24	N-81°-E	180×37	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)を斑に含む。	SI302、SB31より古い。
SD259	20	N-80°-E	94×30	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～40㎜程度)多量含む。	SI302より新しい。
SD262	31	N-76°-W	180×39	8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)多量含む。	SD66より古い。

第 10 図　溝跡断面図

－ 14°－ E である。堆積土は、暗褐色シルトの単層である。断面形状は逆台形状を呈する。堆積土中から土師器が出土したが、図化できる遺物はなかった。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-402	SD65	底面直上	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	(3.7)	3.7	3.1	ﾕﾋﾞﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ		21
2	E-014	SD65	堆積土下層	須恵器	甕	-	-	-	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 櫛描波状文	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		21

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
3	N-011	SD65	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(10.5)	0.7	0.4	13.4		21

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			凹面調整	凸面調整	備考	写真図版
						長	幅	厚さ				
4	G-002	SD65	堆積土上層	瓦	平瓦	(14.5)	(7.6)	2.4	模骨痕、布目痕	縄叩き→ﾍﾗﾅﾃﾞ	側面面取り	21
5	G-001	SD65	堆積土上層	瓦	平瓦	(8.5)	(11.7)	2.7	模骨痕、布目痕	縄叩き→ﾍﾗﾅﾃﾞ		21

第 11 図　SD65 溝跡出土遺物

(3) 土坑（第 12 ～ 14 図）

基本層Ⅳ層上面から 10 基の土坑を検出した。土坑の分布や規模、形状に規格性などの特徴はみられず、周辺遺構との関連性も不明である。また、出土遺物が少ないため、帰属時期を明確にすることができなかった。

以下、土坑について記載する。

SK270 土坑（第 13 図）

調査区中央部の 23・24 グリッドに位置する。SI308、SD245、Pit95・217 と重複し、SI308、Pit217 より新しく、SD245 より古い。Pit95 と重複するが撹乱により新旧関係は確認できなかった。規模は、長軸 338cm、短軸 213cm、深さ 7cm を測る。平面形状は不整楕円形を呈し、長軸方向は N － 84°－ E である。堆積土は 3 層に分層した。黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とする。壁は直線的に外傾する。底面は南に向かいやや傾斜するが概ね平坦である。堆積土中から土師器が出土したが、図化できる遺物はなかった。

第 12 図　土坑・ピット配置図

SK271 土坑（第 13 図）

調査区中央部東側の 24 グリッドに位置する。Pit140 と重複し、これより古い。規模は、長軸 82cm、短軸 78cm、深さ 8cm を測る。平面形状は不整円形を呈し、長軸方向は N － 29°－ W である。堆積土は、褐灰色粘土質シルトの単層である。壁は緩やかに外傾し、底面は概ね平坦である。堆積土中から土師器が出土したが、図化できる遺物はなかった。

SK272 土坑（第 13 図）

調査区北部中央の 12 グリッドに位置する。他の遺構との重複はない。規模は、長軸 124cm、短軸 76cm、深さ 16cm を測る。平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸方向は N － 86°－ E である。堆積土は 4 層に分層した。黒褐色シルトを主体とし、1 層にはⅣ層土ブロックを多量に含む。壁は緩やかに外傾する。底面は起伏を持ち、ピット状の掘り込みが 2 ヶ所確認された。西側のものは深さ 22cm、東側のものは深さ 8cm である。堆積土中から土師器・須恵器が出土したが、図化できる遺物はなかった。

SK273 土坑（第 13 図）

調査区北部中央の 11 グリッドに位置する。他の遺構との重複はない。規模は、長軸 78cm、短軸 69cm、深さ 47cm を測る。平面形状は不整円形を呈し、長軸方向は N － 44°－ W である。堆積土は 4 層に分層した。暗褐色シルトを主体とする。壁は直立気味に外傾し、底面は概ね平坦である。堆積土中から土師器・須恵器が出土したが、図化できる遺物はなかった。

SK274 土坑（第 13 図）

調査区北部西側の 11 グリッドに位置する。撹乱により西側が失われている。他の遺構との重複はない。検出した規模は、長軸 120cm、短軸 95cm、深さ 10cm を測る。平面形状は南辺がやや広がる隅丸長方形を呈すると推察され、長軸方向は N － 89°－ W である。堆積土は、褐色シルトの単層である。壁は緩やかに外傾し、底面は概ね平坦である。遺物は出土していない。

SK275 土坑（第 14 図）

調査区北部西側の 11 グリッドに位置する。Pit75 と重複し、これより古い。一部撹乱により失われている。規模は、長軸 188cm、短軸 99cm、深さ 18cm を測る。平面形状は南西隅が張り出す不整長方形を呈し、長軸方向は N － 76°－ W である。堆積土は、暗褐色シルトの単層である。壁は直立気味に外傾し、底面は緩やかに起伏する。遺物は出土していない。

SK277 土坑（第 14 図）

調査区中央部東側の 20 グリッドに位置する。SI302、SB31 と重複し、SI302 より新しく、SB31 より古い。大半が撹乱により失われている。検出した規模は、長軸 270cm、短軸 180cm、深さ 11cm を測る。平面形状は不整長方形を呈し、長軸方向は N － 1°－ W である。堆積土は暗褐色シルトの単層である。壁は直線的に外傾し、底面は緩やかに起伏する。堆積土中から土師器・須恵器が出土したが、図化できる遺物はなかった。

SK278 土坑（第 14 図）

調査区北部中央の 16 グリッドに位置する。SI305 と重複し、これより古い。SK279 と隣接し、規模・形状が

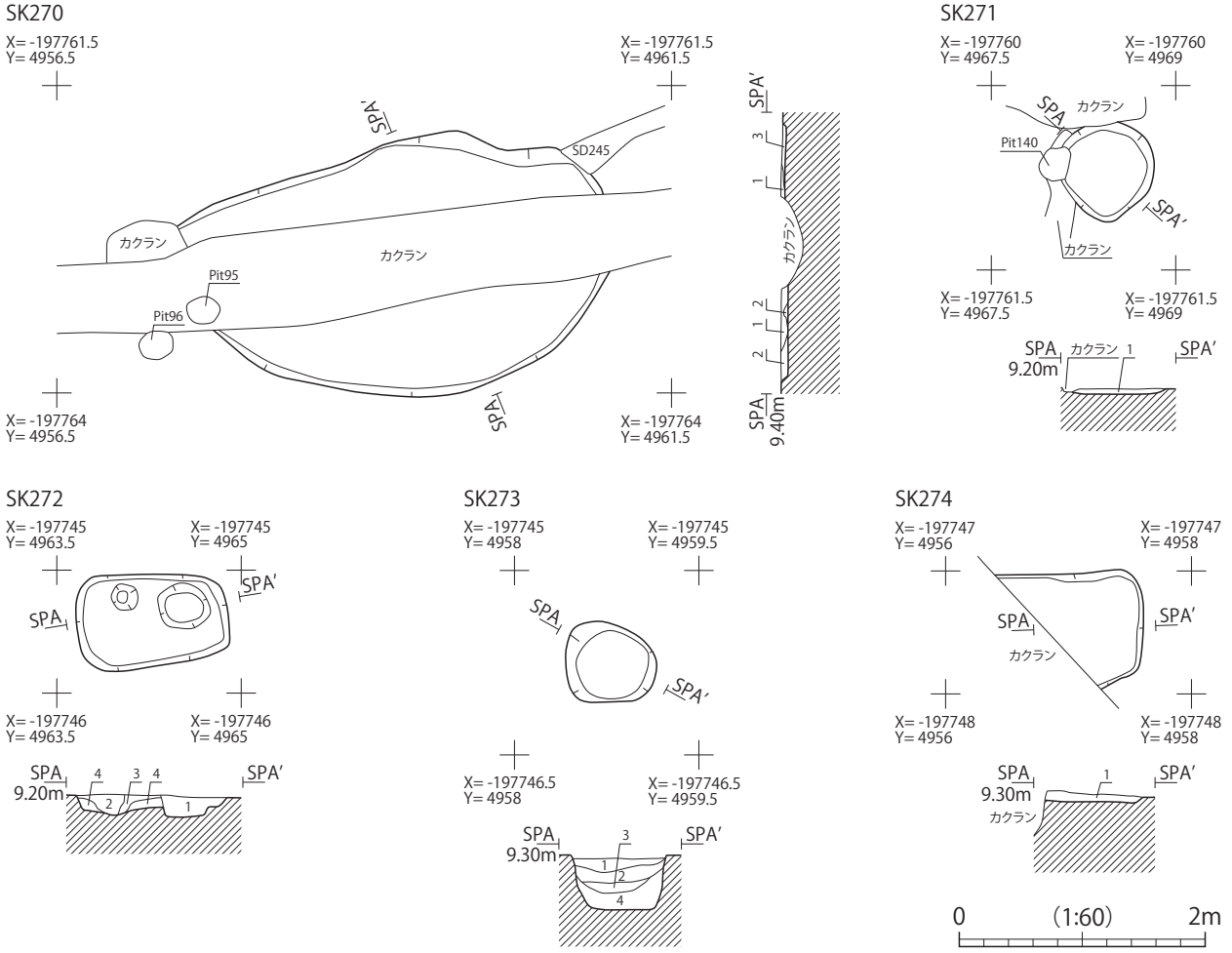
類似することから、関連する土坑と考えられるが、詳細は不明である。規模は、長軸 113cm、短軸 79cm、深さ 8cmを測る。平面形状は長方形を呈し、長軸方向はN－8°－Wである。堆積土はⅣ層土ブロックと褐色シルトブロックの混合土である。壁は直立気味に外傾し、底面は概ね平坦である。遺物は出土していない。

SK279 土坑（第 14 図）

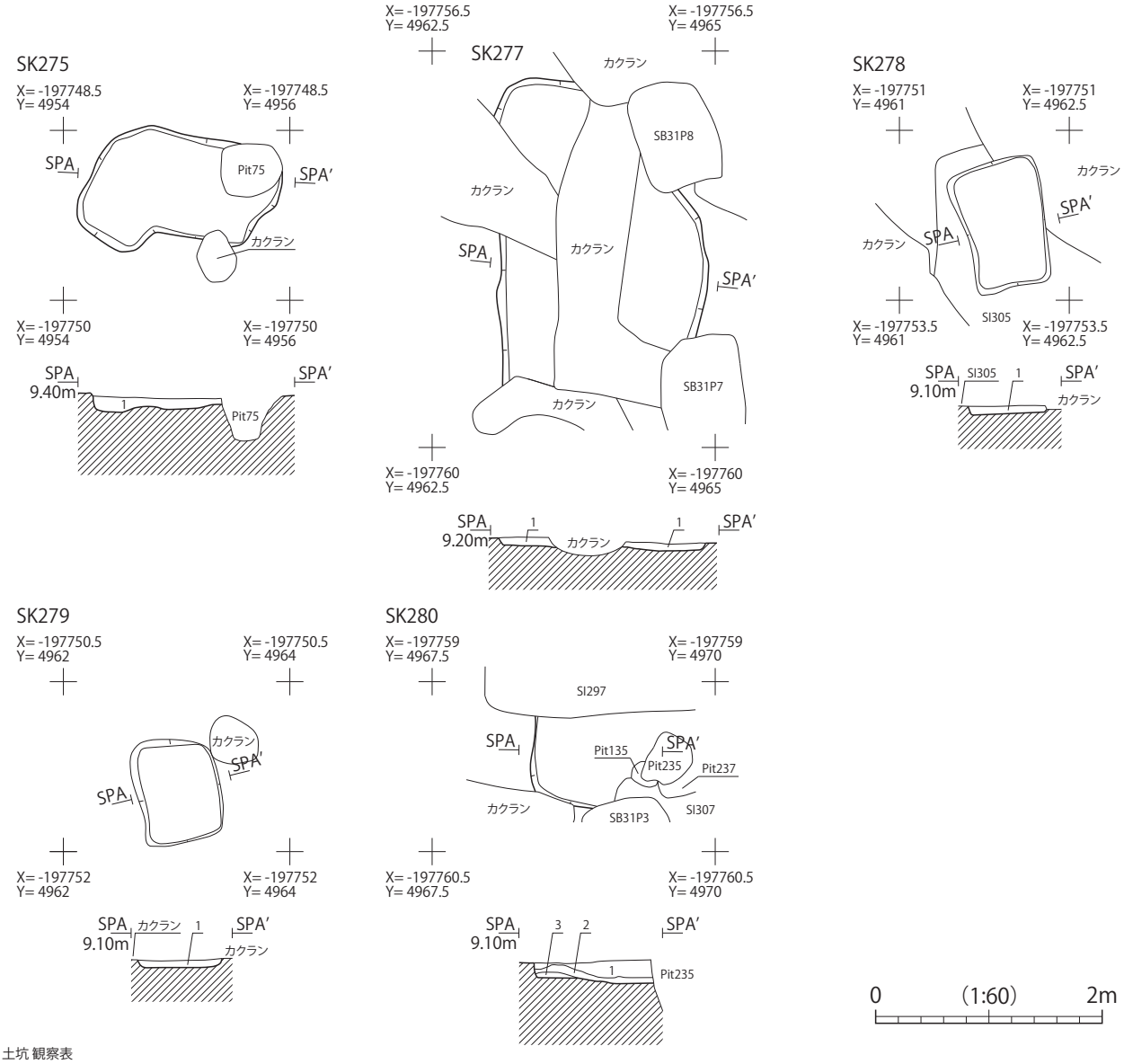
調査区北部中央の 16 グリッドに位置する。撹乱のため上面は失われている。SK278 と隣接し、規模・形状が類似することから、関連する土坑と考えられるが、詳細は不明である。規模は、長軸 90cm、短軸 77cm、深さ 8cm を測る。平面形状は長方形を呈し、長軸方向は N － 9°－ W である。堆積土はⅣ層土ブロックと褐色シルトブロックの混合土である。壁は直立気味に外傾し、底面は概ね平坦である。遺物は出土していない。

SK280 土坑（第 14 図）

調査区中央部東側の 20・24 グリッドに位置する。SI297・307、SB31、Pit135・235・237 と重複し、これらより古い。他の遺構との重複により大半が失われ、南西隅の一部のみ検出した。検出した規模は、長軸 80cm、短軸 60cm、深さ 19cm を測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈すると推察される。西壁を基準とした主軸方向は、概ね真北方向を示す。堆積土は 3 層に分層した。灰黄褐色シルトを主体とし、1 層にはⅣ層土ブロックを多量に含む。壁は直立気味に外傾し、底面は東側がやや低くなる。堆積土中から土師器が出土したが、図化できる遺物はなかった。



第 13 図　土坑（1）



土坑 観察表

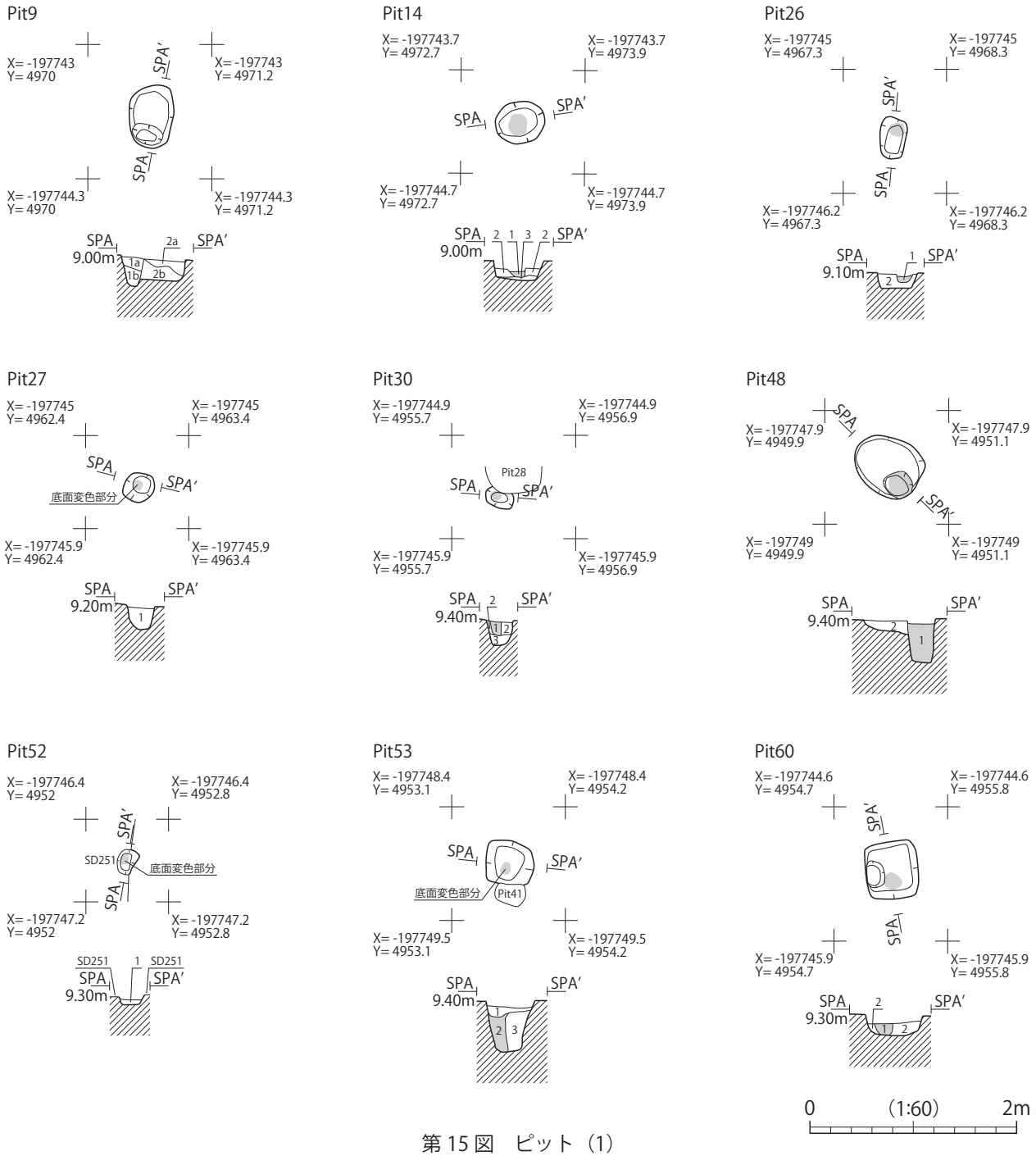
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK270	23・24	不整楕円形	338×213	7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	SI308、Pit217より新しく、SD245より古い。Pit95との新旧不明。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/6 褐色	シルト	暗褐色シルト多量含む。	
SK271	24	不整円形	82×78	8	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、焼土粒微量含む。	Pit140より古い。
SK272	12	隅丸長方形	124×76	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～40㎜程度)少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
SK273	11	不整円形	78×69	47	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト		
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
SK274	11	隅丸長方形	(120)×95	10	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒含む。	
SK275	11	不整長方形	188×99	18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・炭化物粒少量含む。	Pit75より古い。
SK276	—	—	—	—	—	—	—	SB30-P10に変更	
SK277	20	不整長方形	(270)×180	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含む。	SI302より新しく、SB31より古い。
SK278	16	長方形	113×79	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)と褐色シルトブロック(30㎜程度)の混合土。	SI305より古い。
SK279	16	長方形	90×77	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)と褐色シルトブロック(20㎜程度)の混合土。	
SK280	20・24	隅丸方形	(80)―(60)	19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、炭化物粒微量、酸化鉄含む。	SI297・307、SB31、Pit135・235・237より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(30㎜程度)少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	

第 14 図　土坑（2）

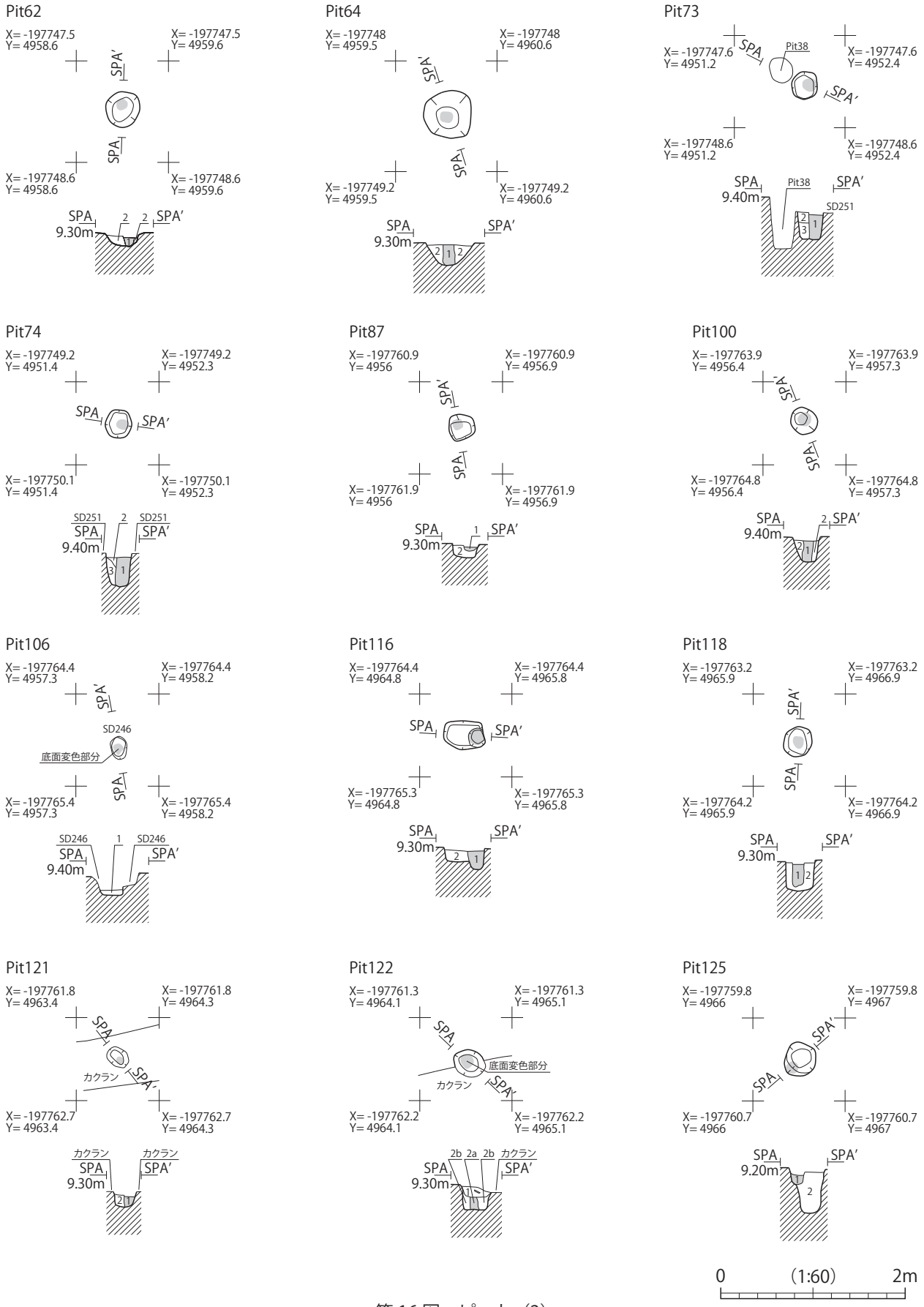
(4) ピット（第 15 ～ 18 図）

調査区北半部の基本層Ⅳ層上面及び撹乱を受けた南半部の基本層Ⅵ層中から 212 基のピットを検出した。ピットの分布状況は SD65 の南側及び東側に集中する。柱痕跡が検出されたピットは 27 基、柱の圧痕と考えられる変色部が検出されたピットは 12 基ある。このほか底面がピット状に落ち込むものがみられる。大半のピットは柱痕跡が検出されず、出土遺物もないため、遺構の性格及び帰属時期は不明である。各ピットの詳細は、観察表を参照していただきたい。

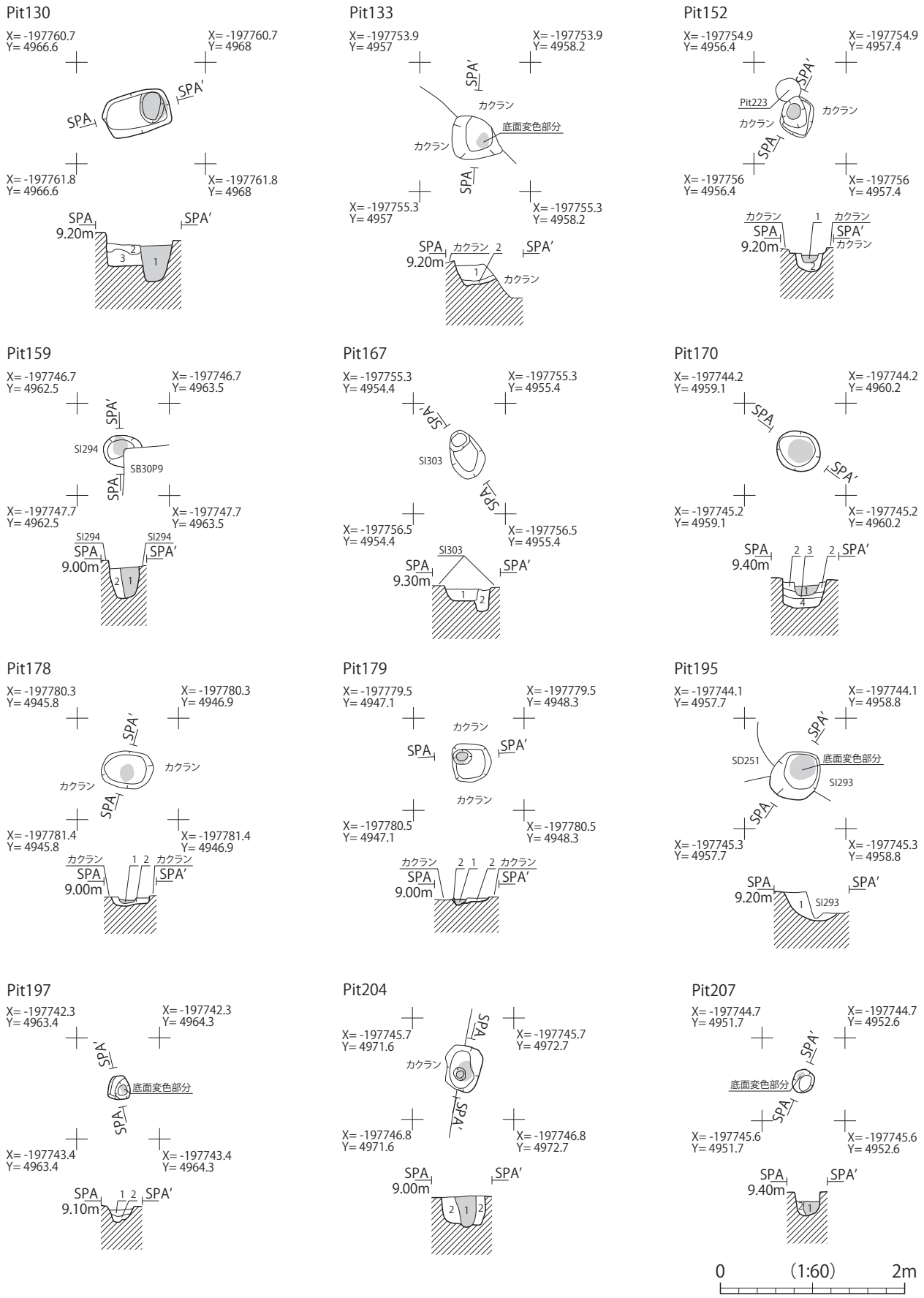
なお、整理作業の段階で Pit54・56・57・68 及び Pit81・144・151・153 は、それぞれ柱列を構成することが確認され、古代に帰属するものと考えられることから、古代の遺構として後述する。



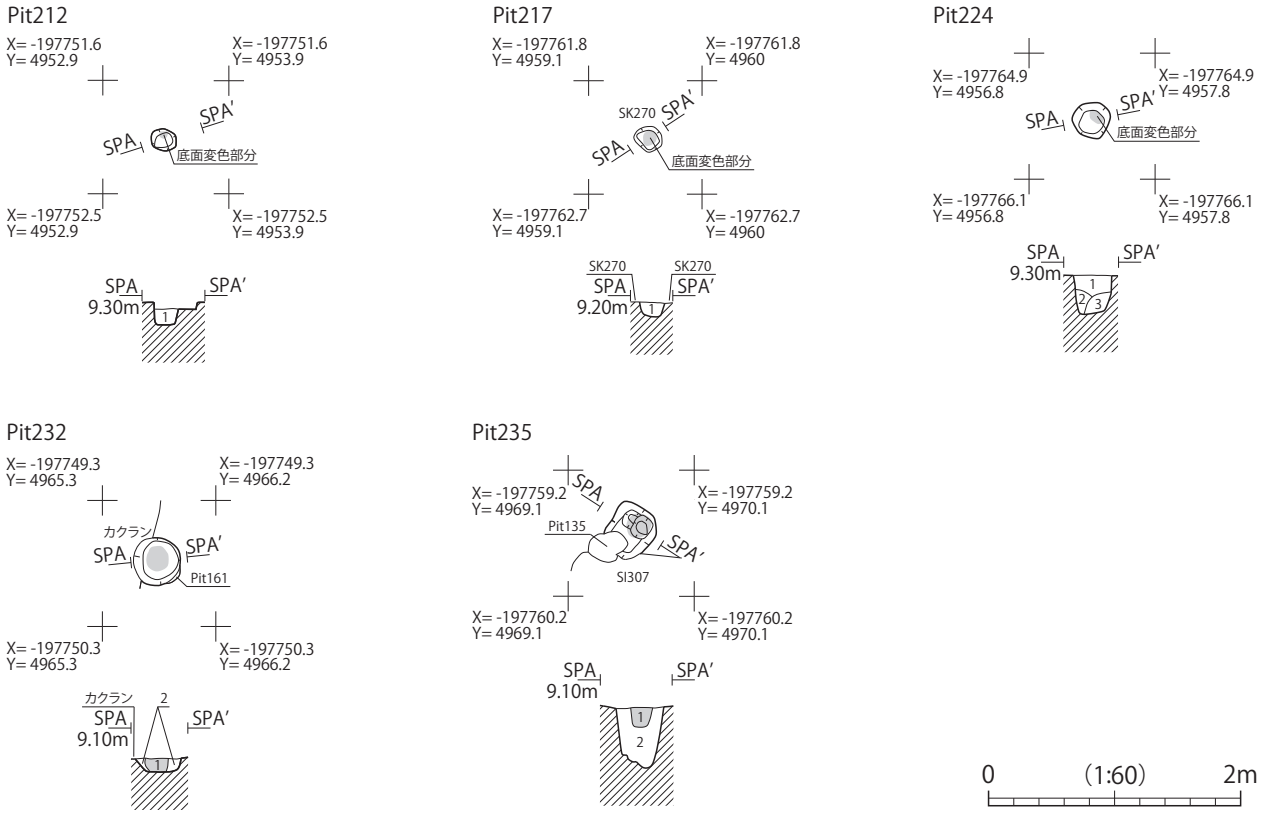
第 15 図　ピット（1）


Pit62
X= -197747.5
Y= 4958.6
X= -197747.5
Y= 4959.6
X= -197748.6
Y= 4958.6
X= -197748.6
Y= 4959.6
SPA
SPA′
9.30m
Pit64
X= -197748
Y= 4959.5
X= -197748
Y= 4960.6
X= -197749.2
Y= 4959.5
X= -197749.2
Y= 4960.6
9.30m
Pit73
X= -197747.6
Y= 4951.2
X= -197747.6
Y= 4952.4
X= -197748.6
Y= 4951.2
X= -197748.6
Y= 4952.4
Pit38
SD251
9.40m
Pit74
X= -197749.2
Y= 4951.4
X= -197749.2
Y= 4952.3
X= -197750.1
Y= 4951.4
X= -197750.1
Y= 4952.3
SD251
9.40m
Pit87
X= -197760.9
Y= 4956
X= -197760.9
Y= 4956.9
X= -197761.9
Y= 4956
X= -197761.9
Y= 4956.9
9.30m
Pit100
X= -197763.9
Y= 4956.4
X= -197763.9
Y= 4957.3
X= -197764.8
Y= 4956.4
X= -197764.8
Y= 4957.3
9.40m
Pit106
X= -197764.4
Y= 4957.3
X= -197764.4
Y= 4958.2
SD246
底面変色部分
X= -197765.4
Y= 4957.3
X= -197765.4
Y= 4958.2
9.40m
Pit116
X= -197764.4
Y= 4964.8
X= -197764.4
Y= 4965.8
X= -197765.3
Y= 4964.8
X= -197765.3
Y= 4965.8
9.30m
Pit118
X= -197763.2
Y= 4965.9
X= -197763.2
Y= 4966.9
X= -197764.2
Y= 4965.9
X= -197764.2
Y= 4966.9
9.30m
Pit121
X= -197761.8
Y= 4963.4
X= -197761.8
Y= 4964.3
カクラン
X= -197762.7
Y= 4963.4
X= -197762.7
Y= 4964.3
9.30m
Pit122
X= -197761.3
Y= 4964.1
X= -197761.3
Y= 4965.1
底面変色部分
カクラン
X= -197762.2
Y= 4964.1
X= -197762.2
Y= 4965.1
2b 2a 2b
9.30m
Pit125
X= -197759.8
Y= 4966
X= -197759.8
Y= 4967
X= -197760.7
Y= 4966
X= -197760.7
Y= 4967
9.20m
0 (1:60) 2m

第 16 図　ピット（2）


Pit130
X= -197760.7
Y= 4966.6
X= -197760.7
Y= 4968
SPA
SPA′
X= -197761.8
Y= 4966.6
X= -197761.8
Y= 4968
SPA
9.20m
SPA′
Pit133
X= -197753.9
Y= 4957
X= -197753.9
Y= 4958.2
SPA′
カクラン
底面変色部分
カクラン
SPA
X= -197755.3
Y= 4957
X= -197755.3
Y= 4958.2
SPA
9.20m
カクラン
SPA′
カクラン
Pit152
X= -197754.9
Y= 4956.4
X= -197754.9
Y= 4957.4
SPA′
Pit223
カクラン
カクラン
SPA
X= -197756
Y= 4956.4
X= -197756
Y= 4957.4
カクラン
カクラン
SPA
9.20m
SPA′
カクラン
Pit159
X= -197746.7
Y= 4962.5
X= -197746.7
Y= 4963.5
SPA′
SI294
SB30P9
SPA
X= -197747.7
Y= 4962.5
X= -197747.7
Y= 4963.5
SI294
SI294
SPA
9.00m
SPA′
Pit167
X= -197755.3
Y= 4954.4
X= -197755.3
Y= 4955.4
SPA′
SI303
SPA
X= -197756.5
Y= 4954.4
X= -197756.5
Y= 4955.4
SI303
SPA
9.30m
SPA′
Pit170
X= -197744.2
Y= 4959.1
X= -197744.2
Y= 4960.2
SPA
SPA′
X= -197745.2
Y= 4959.1
X= -197745.2
Y= 4960.2
SPA
9.40m
SPA′
Pit178
X= -197780.3
Y= 4945.8
X= -197780.3
Y= 4946.9
SPA′
カクラン
カクラン
SPA
X= -197781.4
Y= 4945.8
X= -197781.4
Y= 4946.9
カクラン
カクラン
SPA
9.00m
SPA′
Pit179
X= -197779.5
Y= 4947.1
X= -197779.5
Y= 4948.3
カクラン
SPA
SPA′
カクラン
X= -197780.5
Y= 4947.1
X= -197780.5
Y= 4948.3
カクラン
カクラン
SPA
9.00m
SPA′
Pit195
X= -197744.1
Y= 4957.7
X= -197744.1
Y= 4958.8
SPA′
SD251
底面変色部分
SI293
SPA
X= -197745.3
Y= 4957.7
X= -197745.3
Y= 4958.8
SPA
9.20m
SI293
SPA′
Pit197
X= -197742.3
Y= 4963.4
X= -197742.3
Y= 4964.3
SPA′
底面変色部分
SPA
X= -197743.4
Y= 4963.4
X= -197743.4
Y= 4964.3
SPA
9.10m
SPA′
Pit204
X= -197745.7
Y= 4971.6
X= -197745.7
Y= 4972.7
SPA
カクラン
SPA′
X= -197746.8
Y= 4971.6
X= -197746.8
Y= 4972.7
SPA
9.00m
SPA′
Pit207
X= -197744.7
Y= 4951.7
X= -197744.7
Y= 4952.6
SPA′
底面変色部分
SPA
X= -197745.6
Y= 4951.7
X= -197745.6
Y= 4952.6
SPA
9.40m
SPA′
0
(1:60)
2m

第 17 図　ピット（3）



ピット 観察表（1）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit1	33	楕円形	54×44	6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit2	8	長方形	33×26	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト		
Pit3	5・9	円形	24×24	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・酸化鉄含む。	
Pit4	8	円形	22×21	13	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト		
Pit5	8	円形	24×22	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト		
Pit6	8	円形	25×23	41	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土少量含む。	
Pit7	8	円形	25×22	17	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒微量含む。	
Pit8	8	円形	15×14	14	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit9	9	楕円形	62×41	33	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト		
					1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					2a	10YR3/3 暗褐色	シルト		
					2b	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
Pit10	8	円形	21×17	21	1	10YR4/6 褐色	シルト		
Pit11	8	楕円形	32×26	32	1a	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒微量含む。	
					1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit12	7	楕円形	25×(21)	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	Pit23より古い。
					2	10YR2/2 黒褐色	シルト		
Pit13	9	円形	33×29	11	1	5Y3/2 オリーブ黒色	シルト	灰色シルトブロック(10㎜程度)含む。	
Pit14	9	円形	48×40	20	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒含む。※柱痕跡	
					2	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒色シルト少量含む。	
					3	2.5Y2/1 黒色	粘土	Ⅳ層土含む。	
Pit15	33・36	楕円形	50×36	53	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黄褐色粗砂含む。	
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色シルト含む。	
Pit16	8	円形	23×23	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。	SI293より新しい。
Pit17	8	円形	18×18	7	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI293より新しい。
Pit18	8	楕円形	28×22	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量含む。	SI293より新しい。
Pit19	8	円形	23×22	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。	SI293より新しい。
Pit20	7	円形	23×22	11	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI293より新しい。
Pit21	8	円形	19×17	19	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒少量含む。	SI293より新しい。
Pit22	7	円形	28×26	25	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit23	7	円形	27×27	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト		Pit12より新しい。
Pit24	7	円形	59×49	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含む。	SD249、Pit25より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト		
Pit25	7	円形	28×(22)	33	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含む。	Pit24より古い。
Pit26	12	長方形	41×24	17	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	下面に酸化鉄付着。※柱痕跡	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト		
Pit27	12	円形	31×28	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	※底面に柱痕跡

第 18 図　ピット（4）

ピット 観察表（2）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit28	7・11	隅丸方形	56×55	26	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SD251、Pit30より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト		
Pit29	8	円形	25×21	28	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit30	11	円形	28×（15）	25	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐灰色シルト含む。※柱痕跡	Pit28より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト		
Pit31	8	楕円形	29×21	15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト		
Pit32	7・11	楕円形	32×25	32	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit33	11	円形	33×33	22	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト		Pit34より新しい。
Pit34	11	円形	30×（22）	17	1	10YR3/4 暗褐色	シルト		Pit33より古い。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルト含む。	
Pit35	11	隅丸長方形	32×27	22	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	Pit50より新しい。
Pit36	11	楕円形	25×21	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	
Pit37	11	円形	23×21	44	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit38	11	円形	29×24	54	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	SD251より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト		
Pit39	11	楕円形	30×25	47	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SD251より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit40	11	楕円形	26×19	25	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit41	11	隅丸方形	46×43	21	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（20～30㎜程度）多量含む。	Pit53より新しい。
Pit42	15	隅丸長方形	30×25	16	1	10YR3/3　暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒中量含む	Pit54より新しい。
Pit43	15	不整円形	24×22	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	下部にⅣ層土含む。	
Pit44	11	円形	20×18	8	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit45	―	―	―	―	―	―	―	SB30-P1に変更	
Pit46	―	―	―	―	―	―	―	SB30-P2に変更	
Pit47	―	―	―	―	―	―	―	SB30-P3に変更	
Pit48	11	楕円形	69×56	44	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit49	11・15	円形	19×18	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit50	11	楕円形	33×26	14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（10～20㎜程度）含む。	Pit35より古い。
Pit51	11	方形	23×22	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SD251より古い。
Pit52	11	楕円形	25×17	17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SD251より古い。 ※底面に柱痕跡
Pit53	11	隅丸方形	47×41	51	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・Ⅳ層土粒含む。	Pit41より古い。 ※底面に柱痕跡
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。※柱痕跡	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	
Pit55	15	円形	31×29	25	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～40㎜程度）少量、焼土粒微量含む。	Pit56より新しい。
Pit58	7	楕円形	36×22	48	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SD249・250より古い。
					2	10YR2/3 黒褐色	シルト		
Pit59	7	円形	25×24	15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit60	7・11	方形	55×50	28	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	SD251より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit61	15	楕円形	46×33	18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit62	11	円形	39×36	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色シルト多量、Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量、焼土粒微量含む。	
Pit63	11	隅丸方形	33×29	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト		
Pit64	11・12	円形	56×53	25	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。※柱痕跡	SD252より新しい。
					2	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）・Ⅳ層土粒含む。	
Pit65	12	円形	49×43	34	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト		
Pit66	12	円形	35×31	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト		
Pit67	11・15	円形	34×33	35	1	10YR3/3　暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒少量含む。	Pit68より新しい。
					2	10YR3/4　暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit69	11	円形	28×24	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	SD251より古い。
Pit70	11	方形	24×24	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・Ⅳ層土粒含む。	SD251より古い。
Pit71	11・15	円形	27×26	18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit72	―	―	―	―	―	―	―	SB36-P8に変更	
Pit73	11	円形	29×27	45	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒含む。※柱痕跡	SD251より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト		
Pit74	11	円形	30×29	36	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。※柱痕跡	SD251より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit75	11	円形	54×46	48	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（20㎜程度）・焼土粒・炭化物粒含む。	SK275より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト		
Pit76	15	円形	24×23	14	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒少量含む。	
Pit77	23	円形	34×28	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit78	23	円形	18×17	8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色シルト含む。	
Pit79	23	円形	24×21	18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト含む。	
Pit80	23	不整楕円形	31×26	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	
Pit82	11・15	円形	20×19	48	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit83	11	円形	15×13	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit84	―	―	―	―	―	―	―	SB34-P3に変更	
Pit85	23	円形	24×23	8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit86	23	円形	37×37	36	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	

ピット 観察表（3）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit87	23	円形	29×28	18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit88	23	円形	18×17	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit89	23	円形	22×22	15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	Pit92より新しい。
Pit90	23	円形	23×22	18	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	Pit91より新しい。
Pit91	23	円形	45×41	29	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	Pit90より古い。
					2	10YR4/4 褐色	シルト		
Pit92	23	楕円形	28×22	16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	Pit89より古い。
Pit93	23	円形	34×30	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit94	23	円形	47×40	49	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit95	23	円形	24×24	26	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SK270との新旧不明。
Pit96	23	円形	28×23	15	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit97	23	円形	29×24	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit98	23	円形	26×23	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit99より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit99	23	円形	23×(17)	17	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	Pit98より古い。
					2	10YR4/6 褐色	砂質シルト		
Pit100	23	円形	30×27	29	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit101	23	円形	23×20	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		
Pit102	23	円形	27×25	29	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit103	23	円形	22×17	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		
Pit104	23	円形	18×16	28	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit105	23	円形	16×15	29	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit106	23・27	楕円形	25×16	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)・焼土粒微量含む。	SD246より古い。 ※底面に柱痕跡
Pit107	—	—	—	—	—	—	—	SB36-P4に変更	
Pit108	23・24	円形	25×23	26	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit109	23	円形	31×30	22	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土少量、炭化物粒微量含む。	SB36より新しい。
Pit110	—	—	—	—	—	—	—	SB30-P1に変更	
Pit111	24	不整円形	27×26	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit112	24	円形	20×19	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit113	24	方形	17×16	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit114	24	方形	34×28	29	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルト少量含む。	
Pit115	24	円形	24×23	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。	
Pit116	24・28	方形	43×31	25	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit117	24	長楕円形	58×23	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルト含む。	
Pit118	24	円形	34×30	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
Pit119	24	円形	35×35	28	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・焼土粒微量含む。	
Pit120	23	円形	31×29	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土微量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト微量含む。	
Pit121	24	楕円形	25×19	17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit122	24	円形	35×28	27	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	※底面に柱痕跡
					2a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2b	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	
Pit123	24	円形	35×32	52	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)含む。	
Pit124	20	方形	27×25	35	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物(10㎜程度)少量含む。	
Pit125	24	円形	36×33	50	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
Pit126	24	隅丸方形	74×71	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)微量含む。	Pit129より古い。
					2	10YR4/6 褐色	シルト		
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト含む。	
Pit127	24	方形	65×(22)	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。	SI307より古い。
Pit128	23・27	円形	17×15	10	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit129	24	方形	55×54	42	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。	SB31、Pit126より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルト含む。	
Pit130	24	長方形	73×46	52	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、焼土ブロック(10㎜程度)微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	
Pit131	24	円形	22×21	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含む。	SD245より古い。
Pit132	24	円形	27×24	27	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルト粒少量、焼土粒微量含む。	SB31より新しい。
Pit133	15	円形	58×48	28	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・Ⅳ層土粒含む。	※底面に柱痕跡
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit134	19	円形	35×18	7	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルト含む。	

ピット 観察表（4）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit135	20	円形	26×23	20	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック（10～30㎜程度）多量含む。	SK280、Pit235より新しく、SI307より古い。
Pit136	20	円形	30×28	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（20～30㎜程度）多量含む。	SI297、SB31より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック（5～20㎜程度）とⅣ層土ブロック（20～40㎜程度）の混合土。	
Pit137	20	円形	39×37	47	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit138	32	円形	19×18	7	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量含む。	
Pit139	28	円形	37×33	15	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト粒少量含む。	
Pit140	24	円形	30×24	23	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒色シルト粒少量、焼土粒微量含む。	SK271より新しい。
Pit141	24	方形	47×35	11	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロック（20～30㎜程度）少量、焼土粒微量含む。	
Pit142	21	円形	37×（33）	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒色シルトブロック（30～50㎜程度）、Ⅳ層土ブロック（50㎜程度）の混合土 。	SI297より古い。
Pit143	13・17	円形	64×59	60	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量含む。酸化鉄沈着。	
					2	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	底面に酸化鉄沈着。	
Pit145	15	円形	25×23	36	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）含む。	
					2	10YR4/6 褐色	シルト		
Pit146	15	円形	38×34	30	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	Pit153より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	
Pit147	19	円形	24×22	14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit148	19	円形	19×18	8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土微量含む。	SI301より新しい。
Pit149	15	円形	46×（36）	28	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit150	15	楕円形	46×28	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	Pit232より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト		
					3	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit152	19	楕円形	47×39	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土微量含む。※柱痕跡	Pit223より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土含む。	
Pit154	15	円形	48×41	33	1	10YR3/4 暗褐色	シルト		
Pit155	15・16	方形	36×32	20	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit156	19・23	円形	40×37	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）・炭化物粒微量含む。	SI301より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	
Pit157	23	円形	21×20	9	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	SI301より古い。
Pit158	―	―	―	―	―	―	―	SB36-P6に変更	
Pit159	12	円形	35×34	44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	SI294、SB30より古い。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック（30～50㎜程度）多量、焼土粒微量含む。	
Pit160	16	円形	31×27	34	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルトブロック（10㎜程度）少量、焼土粒微量含む。	
Pit161	12	円形	38×38	17	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト粒多量含む。	Pit232より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄微量含む。	
Pit162	―	―	―	―	―	―	―	SB36-P3に変更	
Pit163	19	円形	30×27	28	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐灰色シルト含む。	SI303より古い。
Pit164	15	円形	24×19	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	下面ににぶい黄褐色砂質シルト含む。	SI303より古い。
Pit165	19	円形	34×32	16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI303より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit166	19	円形	23×22	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	下面ににぶい黄褐色砂質シルト含む。	SI303より古い。
Pit167	19	楕円形	53×37	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト含む。	SI303より古い。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト含む。	
Pit168	―	―	―	―	―	―	―	SB36-P5に変更	
Pit169	―	―	―	―	―	―	―	SB36-P7に変更	
Pit170	7	円形	50×43	33	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	SI293、SD248より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	
					3	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（30㎜程度）多量含む。	
Pit171	17	円形	42×38	20	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（30㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。	SI297より古い。
Pit172	―	―	―	―	―	―	―	SB36-P1に変更	
Pit173	―	―	―	―	―	―	―	SB36-P2に変更	
Pit174	20	円形	38×（33）	15	1	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	黒色シルトブロック（10～30㎜程度）との混合土。	SI297より古い。
Pit175	19	円形	37×35	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	SD65より新しい。
Pit176	28	円形	34×32	9	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルト含む。	
Pit177	36・37	円形	30×25	14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色粗砂多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI306より新しい。
Pit178	36	楕円形	57×40	10	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒含む。	
Pit179	33・36	円形	46×43	8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	黄褐色粗砂多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	黒褐色シルト粒多量含む。	
Pit180	33	隅丸方形	46×37	40	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色シルト・Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルト含む。	
Pit181	36	円形	42×39	20	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit182	33	円形	25×22	33	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	黒褐色シルトを斑状に含む。	
Pit183	36	円形	23×21	7	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	下面が酸化。	
Pit184	36	円形	118×19	10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・褐色シルト含む。	SI306より新しい。
Pit185	36	円形	22×19	6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	黒褐色シルトを班状に含む。	
Pit186	36	円形	16×15	5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	
Pit187	33	円形	24×22	7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）含む。	
Pit188	33	円形	24×23	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量、焼土粒微量含む。	
Pit189	33	楕円形	26×16	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・Ⅳ層土粒微量含む。	

ピット 観察表（5）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit190	33	円形	27×19	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
Pit191	33	楕円形	34×26	10	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。	
Pit192	33	円形	(24)×34	23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit193	34	隅丸方形	50×49	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit194	12	円形	(23)×32	7	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI294より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
Pit195	7	円形	60×53	32	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI293より新しく、SD251より古い。 ※底面に柱痕跡
Pit196	8	円形	23×23	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit197	8	円形	26×24	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。	SI293より新しい。 ※底面に柱痕跡
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit198	11	円形	28×25	21	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック(20㎜程度)との混合土。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
Pit199	15	円形	25×22	22	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20～50㎜程度)多量含む。	
Pit200	4・8	円形	(46)×(12)	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(50～100㎜程度)多量含む。	SD65より古い。
Pit201	28	円形	53×43	8	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	SI308より古い。
Pit202	20	楕円形	(73)×38	11	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(30～70㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。	SI299より古い。
Pit203	9	円形	36×31	16	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit204	13	隅丸長方形	48×41	31	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)多量、酸化鉄含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土と褐色シルトの混合土。	
Pit205	24	隅丸長方形	(53)×(33)	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。	SB31より古い。
Pit206	23・27	楕円形	(76)×(43)	19	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・焼土ブロック(5㎜程度)含む。	SI308、SD246より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、焼土粒微量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(20㎜程度)少量含む。	
Pit207	11	円形	26×24	25	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡	※底面に柱痕跡
					2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。	
Pit208	15	円形	17×15	17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit209	15	隅丸方形	26×19	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
Pit210	15	円形	19×16	29	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit211	15	円形	17×17	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit212	15	円形	21×17	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	Pit213より新しい。 ※底面に柱痕跡
Pit213	15	円形	19×16	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	Pit212より古い。
Pit214	15	円形	20×19	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit215	11	円形	24×24	28	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。	
					1b	10YR4/1 褐灰色	シルト		
					1c	10YR4/6 褐色	砂質シルト	褐色シルト粒微量含む。	
Pit216	23	円形	19×(14)	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI308より古い。
Pit217	23	円形	23×21	10	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SK270より古い。 ※底面に柱痕跡
Pit218	27	円形	20×16	16	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SD258より古い。
Pit219	23	隅丸方形	26×23	22	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit220	27	円形	22×18	22	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土と黒色シルトの混合土。	SD258より古い。
Pit221	15	円形	22×17	22	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。	SD251より古い。
Pit222	19	円形	22×17	16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルト粒微量含む。	
Pit223	19	円形	27×(22)	25	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	Pit152より古い。
Pit224	27	円形	30×30	33	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	※底面に柱痕跡
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
					3	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit225	11	円形	23×15	23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。	SI293より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。	
Pit226	8	円形	22×21	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。	
Pit227	12	円形	21×21	9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。底面に酸化鉄付着。	
Pit228	8	円形	17×16	8	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。	
Pit229	—	—	—	—	—	—	—	SK278に変更	
Pit230	—	—	—	—	—	—	—	SK279に変更	
Pit231	12	長楕円形	94×30	12	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土と黒色シルトの混合土。	SI295より古い。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(20㎜程度)少量含む。	
Pit232	12	円形	38×38	11	1	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。※柱痕跡	Pit161より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土多量含む。	
Pit233	—	—	—	—	—	—	—	欠番	
Pit234	—	—	—	—	—	—	—	SK280に変更	
Pit235	20	隅丸方形	50×40	50	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	SK280、Pit237より新しく、SI307、Pit135より古い。
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量含む。	
Pit236	11	円形	34×31	11	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit237	20	楕円形	(52)×(40)	35	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。	SK280より新しく、SI307、Pit235より古い。
					2	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土と黒色シルトの混合土。	
Pit238	3	円形	26×25	7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI292より新しい。

第 3 節　古代の遺構と遺物（第 19 ～ 90 図）

本節では基本層Ⅳ層上面で検出された遺構のうち、重複状況及び出土遺物などから古代と考えられる遺構について扱う。当該期の遺構は削平や撹乱の影響を受けており、残存状況は良好とはいえない。特に調査区南半部では、竪穴住居跡の柱穴のみ検出されたものなど、具体的な構造が明らかにできなかったものも存在する。

検出された遺構は、竪穴住居跡 17 軒、竪穴遺構 2 基、掘立柱建物跡 9 棟、区画施設関連の溝跡 1 条、材木列跡 1 条、一本柱列跡 2 条である。遺物は、土師器・須恵器を主体にコンテナで 30 箱程度が出土している。

以下、竪穴住居跡・竪穴遺構、掘立柱建物跡、区画施設の順で記載する。

第 19 図　古代遺構配置図

(1) 竪穴住居跡・竪穴遺構（第 20 ～ 54 図）

竪穴住居跡 17 軒（建て替えしたものを含む）、竪穴遺構 2 基を検出した。調査範囲の制約や削平、撹乱、重複遺構などの影響により、全体を検出した竪穴住居跡は少ないが、平面形状が把握できたものは大部分が方形ないし隅丸方形である。カマドは 7 軒から検出されており、このうち SI294 ではカマドの造り替えが行われている。カマドの付設位置は、SI293A・293B・296・304・308 が北壁、SI299 が西壁、SI294・302 が東壁である。燃焼部は壁内に位置するものが多いが、SI293A・293B・294・308 では壁外に 10 ～ 20cm 程度張り出す。袖は基本層Ⅳ層土を主体として構築される。SI308 では先端部から芯材と考えられる礫が出土し、SI296 からは芯材を据えたと考えられる痕跡が検出された。煙道部の全体を把握できるものは、いずれも煙出し部がピット状に掘り窪められ、規模は長さ 100cm 前後である。主柱構造が確認できる竪穴住居跡の柱穴位置は、4 本の主柱穴が殆どで、2 本の主柱穴や 1 本の主柱穴＋壁柱穴などが数軒確認されている。その他の床面施設としては、周溝や間仕切り溝、貯蔵穴もしくはカマドに関連する施設と考えられる土坑などがある。出土遺物は全体的に少なく、大半の竪穴住居跡・竪穴遺構は時期決定ができていない。

SI291 竪穴住居跡（第 20 図）

【位置・確認】 調査区北端部中央の 2・4 グリッドに位置する。南壁周辺のみ検出した。北側の大半が調査区外に延びる。Ⅳ層上面で検出したが、調査区断面の観察から、Ⅲ層上面から掘り込まれていることを確認した。

【重複】 検出した範囲では、重複はない。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 510cm、短軸 185cm を測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形と推察される。

【方向】 東壁を基準として N － 27°－ E である。

【堆積土】 8 層に分層した。1 ～ 5 層は黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、6 層は周溝堆積土である。7・8 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がる。壁高は、12 ～ 25cm を測る。

【床面】 P1 の東側は 7 層上面、その他は 8 層上面を床面とする。P1 付近でやや起伏がみられるが、概ね平坦である。

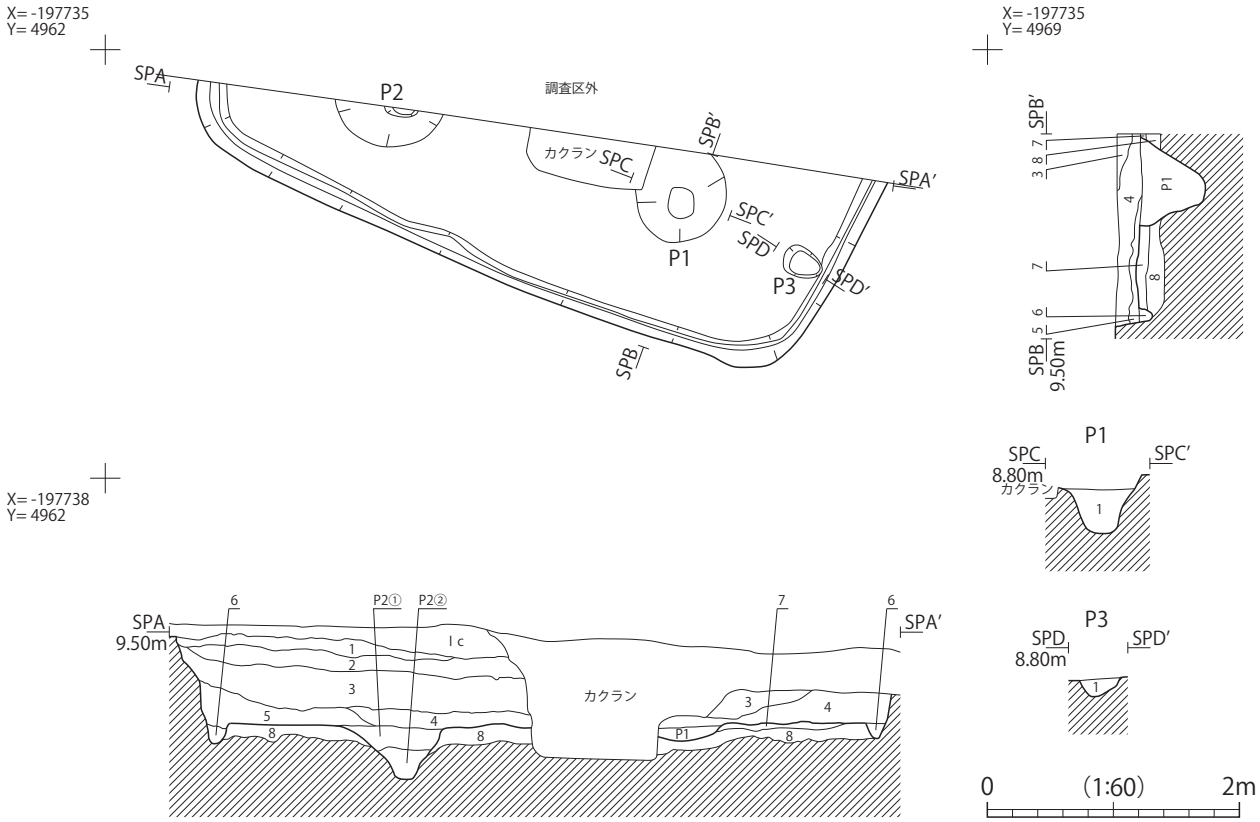
【柱穴】 床面から 3 基（P1 ～ 3）検出した。P1・2 は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸 80 ～ 87cm、深さ 40 ～ 51cm を測り、いずれも柱痕跡は確認されなかった。P3 は東壁際に位置し、壁柱穴や出入り口の可能性が考えられる。

【周溝】 検出した部分では壁面に沿って全周する。断面は「V」字状を呈する。規模は幅 14 ～ 29cm、深さ 3 ～ 19cm を測る。

【掘り方】 深さ 7 ～ 23cm を測る。底面には起伏がみられ、P1 付近が低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器が少量出土している。土師器坏 3 点、鉢 1 点を掲載した（第 20 図）。いずれも検出面からの出土である。1 ～ 3 は土師器坏である。1・2 は体部が大きく開き、口縁部が外反する。3 は体部から口縁部が直線的に外傾する。1・3 は口縁部と体部の境に段ないし稜を持ち、3 は体部下端の内外面にも稜を持つ。3 は全体的に器厚が薄く、内面の器面が橙色を呈するように粘土が薄く上塗りされている可能性がある。調整は、いずれも外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキである。4 は土師器鉢で、体部が内湾気味に外傾し、口縁部が外反する。口縁部と体部の境は器厚が厚く、外面に稜を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。

【時期】 時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

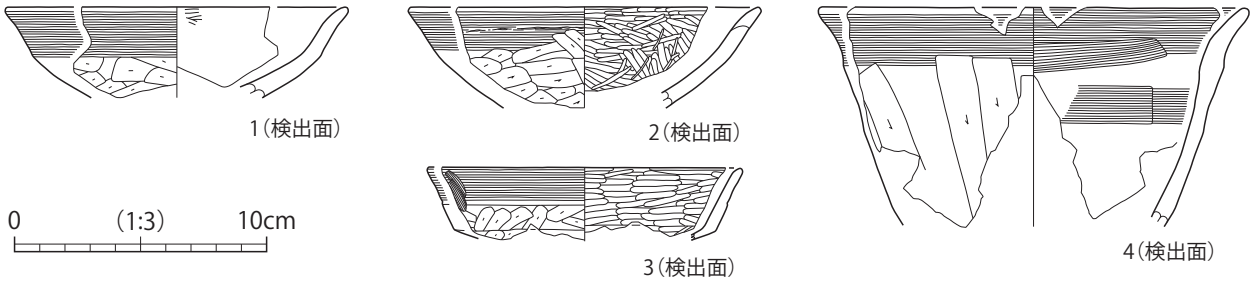


SI291 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(40㎜程度)・Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色砂質シルト含む。
周溝	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。
住居掘り方	7	10YR4/6 褐色	シルト	暗褐色シルトとの混合土。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトとの混合土。

SI291 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	円形	(80)×76	51	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。
P2	円形	(87)×(31)	40	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
				②	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を帯状に含み、焼土ブロック(10㎜程度)少量含む。
P3	楕円形	32×23	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土多量、炭化物少量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-004	SI291	検出面	土師器	坏	(13.6)	-	(3.6)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面摩滅	21
2	C-002	SI291	検出面	土師器	坏	(13.8)	-	(4.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		21
3	C-003	SI291	検出面	土師器	坏	(12.4)	-	(2.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		21
4	C-001	SI291	検出面	土師器	鉢	(17.0)	-	(8.7)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		21

第 20 図　SI291 竪穴住居跡・出土遺物

SI292 竪穴住居跡（第 21 ～ 23 図）

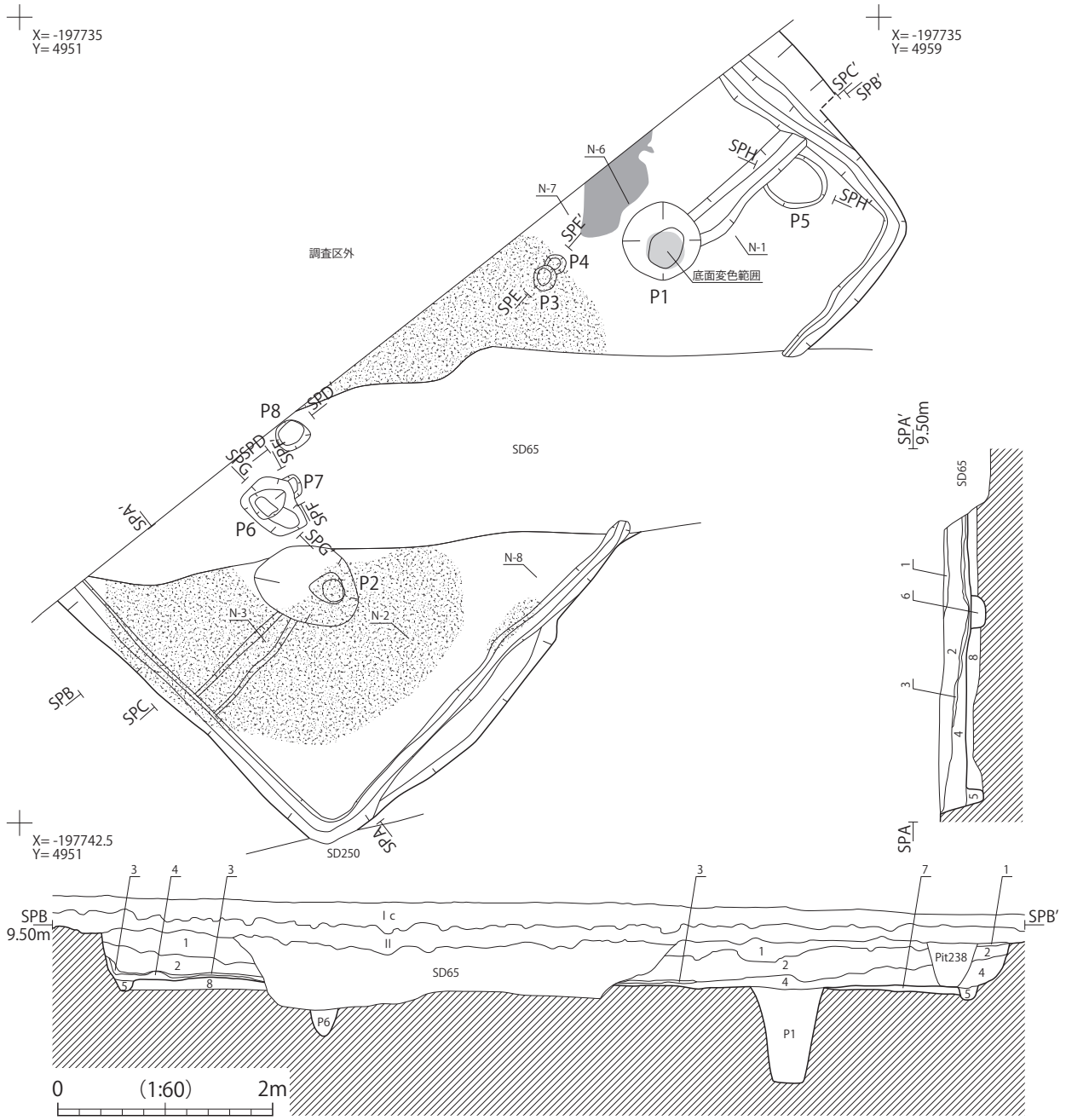
【位置・確認】 調査区北端部西端の 3・7 グリッドに位置する。東側約 1/3 を検出した。西側の大半が調査区外に延びる。基本層Ⅳ層上面で検出したが、調査区断面の観察から、基本層Ⅲ層上面から掘り込まれていることを確認した。

【重複】 SD65・250、Pit238 と重複し、これらより古い。

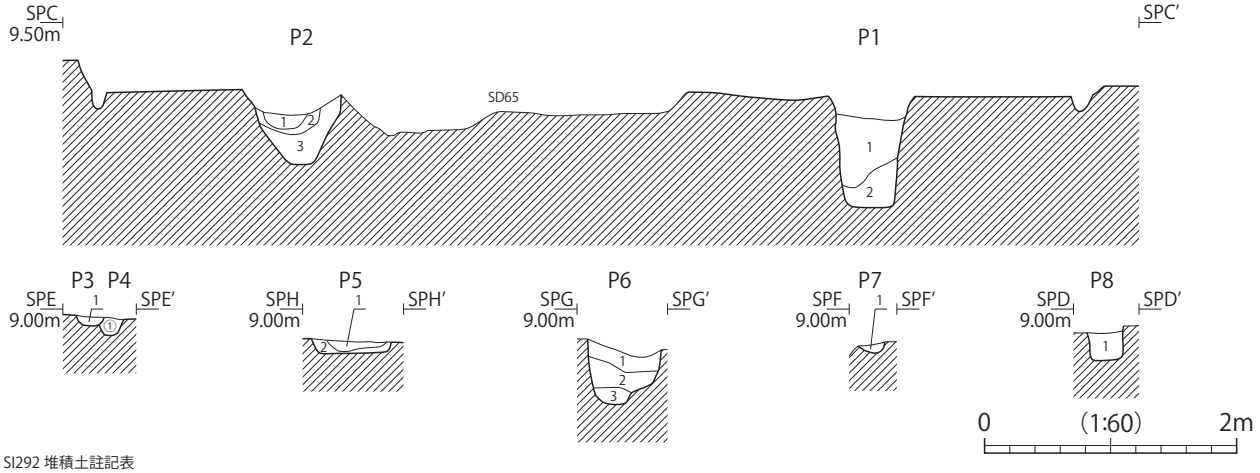
【規模・形態】 検出した規模は長軸 800cm、短軸 346cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推察される。

【方向】 東壁を基準として N － 44°－ E である。

【堆積土】 8 層に分層した。1 ～ 4 層は黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土である。南半部に堆積する 3 層は多量に炭化物を含み、P1 北西側の床面には焼土が検出された。これらのことから、本竪穴住居跡は焼失住居の可能性が考えられる。5 層は周溝堆積土、6・7 層は間仕切り溝埋土、8 層は掘り方埋土である。



第 21 図　SI292 竪穴住居跡（1）



SI292 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	暗褐色シルトを斑に含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	N2/0 黒色	シルト	炭化物多量、焼土粒少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
周溝	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒含む。
間仕切溝	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒少量含む。
住居掘り方	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～40㎜程度)多量含む。

SI292 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	円形	70×70	88	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
				2	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。
P2	楕円形	95×78	85	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
				2	N2/0 黒色	粘土質シルト	炭化物を帯状に含み、焼土ブロック(10㎜程度)少量含む。
				3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P3	円形	24×20	9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～40㎜程度)多量含む。
P4	円形	18×(14)	15	①	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～40㎜程度)多量含む。
P5	楕円形	63×50	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)多量、Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)微量含む。
				2	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	灰黄褐色シルト微量含む。
P6	不整長方形	58×47	54	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
				2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
				3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
P7	円形	21×(10)	9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P8	不整円形	32×28	28	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～40㎜程度)多量含む。

第 22 図　SI292 竪穴住居跡（2）

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、11 ～ 28cm を測る。

【床面】 南側は 8 層上面を床面とし、北側は掘り方を持たず基本層Ⅳ層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から 2 基（P1・2）、SD65 底面より 2 基（P6・8）、総数 4 基検出した。規模や位置関係から、P1・2 は主柱穴と考えられる。規模は長軸 70 ～ 95cm、深さ 85 ～ 88cm を測る。いずれも柱痕跡は確認されなかったが、P1 底面には変色範囲がみられた。SD65 底面で検出された P6 は、規模や形態から本竪穴住居跡に伴う柱穴と考えられる。P2 と P6 は隣接しており、建て替えが行われた可能性が考えられる。

【周溝】 検出した部分では壁面に沿って全周する。東壁の南側では周溝が壁面より 20 ～ 25cm 内側で検出された。断面は「U」字状を呈する。規模は幅 12 ～ 30cm、深さ 9 ～ 15cm を測る。

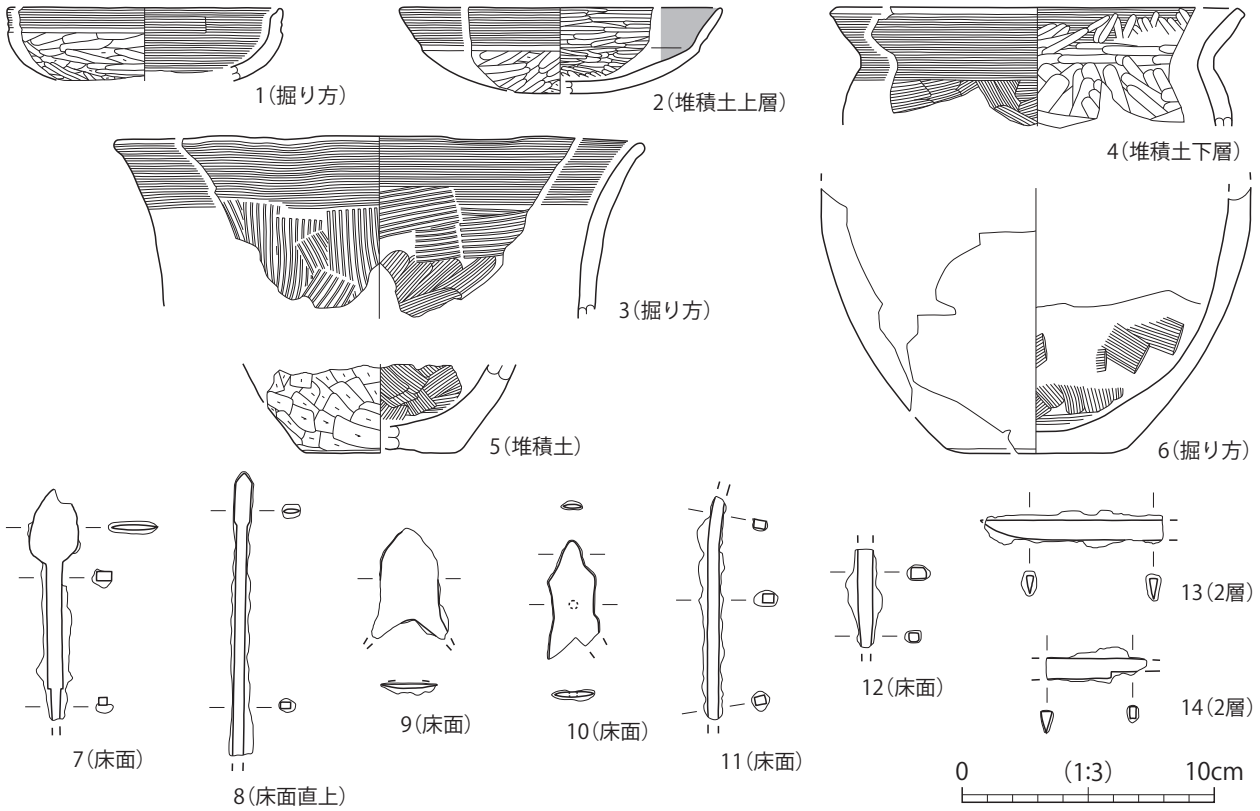
【その他の施設】 P1 と北壁の間に間仕切り溝 1、P2 と南壁の間に間仕切り溝 2 を検出した。間仕切り溝 1 は、長さ 120cm、最大幅 36cm、深さ 11cm、間仕切り溝 2 は、長さ 110cm、最大幅 29cm、深さ 8cm を測る。このほか、床面からピット 2 基（P3・4）、掘り方からピット 2 基（P5・7）を検出した。

【掘り方】 深さ 10cm 前後で、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 床面及び床面施設、堆積土、掘り方から土師器・須恵器・金属製品が出土している。土師器坏 2 点、甑 1 点、甕 3 点、鉄鏃 4 点、棒状鉄製品 2 点、刀子 2 点を掲載した（第 23 図）。7 ～ 12 は床面及び床面直上、2・4・5・13・14 は堆積土、1・3・6 は掘り方からの出土である。1・2 は土師器坏である。1 は底部から体部が扁平な

半球状で、口縁部が短く直立する。口縁部と体部の境は、外面に段を持つ。口縁端部内面には凹状沈線が巡る。色調は橙色を呈し、器厚が全体的に厚い。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。2 は底部から体部が扁平に内湾し、口縁部が直線的に外傾する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。3 は土師器甑、4 ～ 6 は土師器甕である。7 は有頸の長三角形鏃で、腸抉を持たず関は角関である。8 は長頸の鑿箭鏃である。9・10 は無頸の長三角形鏃で、10 は径約 3mm の貫通穴を持つ。11・12 は棒状鉄製品、13・14 は刀子である。

【時期】 時期を決定できる遺物はないが、掘り方から 4 期（7 世紀中葉～後葉）以降の土師器坏（第 23 図－ 1）が出土していることから、本竪穴住居跡の時期は 4 期以降と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-012	SI292	掘り方	土師器	坏	(10.8)	-	(2.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		21
2	C-010	SI292	堆積土上層	土師器	坏	(12.8)	-	(3.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	21
3	C-009	SI292	掘り方	土師器	甑	(20.8)	-	(7.2)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ →ﾊｹﾒ		21
4	C-011	SI292	堆積土下層	土師器	甕	(15.8)	-	(4.7)	口縁～胴上端:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		21
5	C-007	SI292	堆積土	土師器	甕	-	(6.0)	(3.5)	胴下半:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	底面木葉痕 底部周縁粘土貼付	21
6	C-008	SI292	掘り方	土師器	甕	-	(5.6)	(10.5)	磨滅	ﾍﾗﾅﾃﾞ	底面木葉痕 外面摩滅	21

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
7	N-008	SI292	床面	金属製品	鉄鏃	(9.2)	1.9	0.4	10.8	有頸	21
8	N-006	SI292	床面直上	金属製品	鉄鏃	(11.2)	0.6	0.2	11.5	長頸、両刃	21
9	N-001	SI292	床面	金属製品	鉄鏃	(4.4)	(3.0)	0.2	6.1	無頸	21
10	N-002	SI292	床面	金属製品	鉄鏃	(4.7)	(2.0)	0.2	4.8	無頸、円孔	21
11	N-003	SI292	床面	金属製品	棒状鉄製品	(8.8)	0.4	0.3	9.3		21
12	N-007	SI292	床面	金属製品	棒状鉄製品	(3.9)	0.6	0.4	4.7		21
13	N-005	SI292	2層	金属製品	刀子	(7.0)	0.8	0.3	11.2		21
14	N-004	SI292	2層	金属製品	刀子	(3.9)	0.8	0.3	4.6		21

第 23 図　SI292 竪穴住居跡出土遺物

SI293A 竪穴住居跡（第 24・25 図）

【位置・確認】 調査区北部中央の 7・8・11・12 グリッドに位置する。本竪穴住居跡の掘り方調査時に、掘り方底面からピット 9 基と北壁西側及び東壁際のやや内側から周溝を検出した。このことから、本竪穴住居跡は SI293B の北壁と東壁を拡張した、建て替え後の住居跡と考えられる。

【重複】 SI294、SD248・251、Pit16 ～ 21・170・195・197・225 より古く、SI293B より新しい。

【規模・形態】 規模は長軸 490cm、短軸 462cm を測る。平面形状は東壁がやや膨らむ方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として N － 36°－ E である。

【堆積土】 15 層に分層した。1・2 層は住居堆積土で、1 層は基本層Ⅳ層土ブロックを多量に含む。3 ～ 13 層はカマド関連の堆積層で、5 層は粘土や焼土ブロックを多量に含み、天井崩落土と考えられる。6 層は焼土、7・8 層は煙道部の堆積土である。9 ～ 11 層はカマド袖構築土で、9 層は被熱痕跡である。12・13 層はカマド掘り方埋土である。14 層は周溝堆積土、15 層は掘り方埋土である。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、10 ～ 20cm を測る。

【床面】 15 層上面を床面とする。概ね平坦であるが、カマド周辺ではわずかに起伏がみられる。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。規模は長軸 49 ～ 60cm、深さ 32 ～ 48cm を測り、柱痕跡は径 26cm 程である。

【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面は「V」字状を呈する。規模は幅 16 ～ 26cm、深さ 3 ～ 10cm を測る。周溝底面には 10cm 前後の間隔で小ピットが 79 基確認された。規模は径 4 ～ 19cm、深さ 3 ～ 19cm を測る。カマドと反対側の南壁では、小ピットが一部途切れる部分があり、出入り口などの施設が存在していた可能性が考えられる。

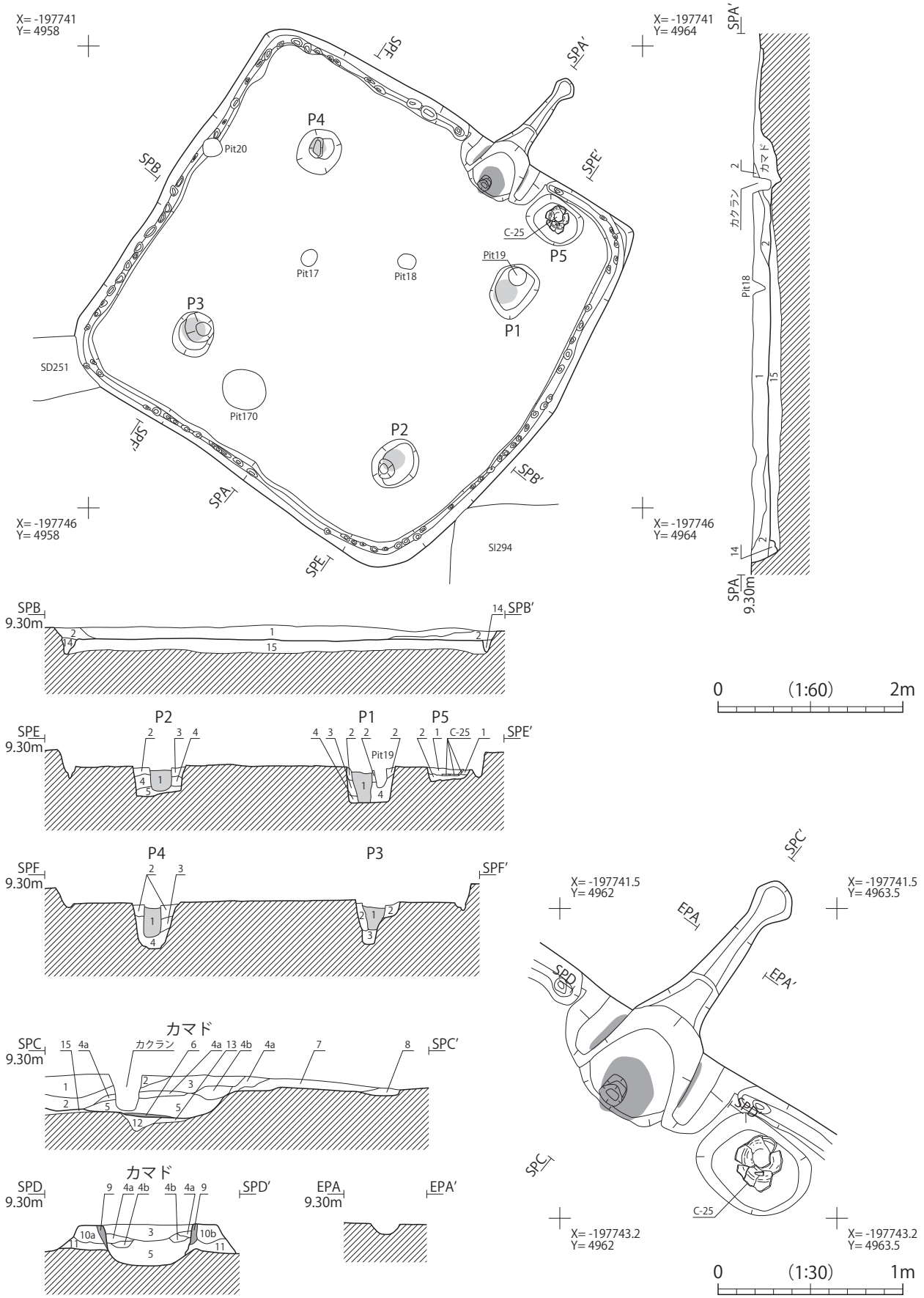
【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 44cm、幅 28cm、西袖が長さ 40cm、幅 28cm を測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設される。燃焼部の規模は奥行き 64cm、幅 46 ～ 56cm、奥壁高 15cm 程である。底面は皿状に 5cm 程窪み、径 30cm 程の焼面がみられる。奥壁は 10cm 程壁外に張り出し、緩やかに外傾して立ち上がる。煙道部は基部が広く先端に行くに従い細くなる。底面の中ほどに段を持ち煙出し部に向かってわずかに低くなる。規模は長さ 91cm、幅 10 ～ 31cm、深さ 6cm を測る。煙出し部分はピット状に掘り込まれる。カマド掘り方の焚き口付近に径 15cm、深さ 5cm の小ピットが検出され、支柱を据えた痕跡の可能性が考えられる。

【その他の施設】 カマド右側の床面から土坑 1 基（P5）を検出した。平面形状は隅丸長方形を呈し、規模は長軸 60cm、短軸 46cm、深さ 14cm を測る。堆積土中から土師器甕（第 25 図－ 1）が出土した。堆積土はこの遺物の上下で分層され、下層は多量の焼土ブロックを含む。規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 深さ 10cm 前後で、底面には起伏がみられる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器が少量出土している。土師器甕 1 点、ミニチュア土器 1 点、須恵器坏蓋 1 点を掲載した（第 25 図）。1 は P5、2・3 は堆積土からの出土である。1 は大型の土師器甕で、球胴形と考えられる。調整は、外面がヘラナデ、ヘラミガキ、内面は胴部ヘラナデ、底部ヘラミガキである。2 はミニチュア土器で、調整は、内外面ともにナデである。3 は須恵器蓋で、口縁部と天井部の境に段を持つ。天井部外面には自然釉が付着している。

【時期】 P5 から出土した土師器甕（第 25 図－ 1）は本竪穴住居跡に伴うと考えられる。胴部資料のため明確な時期は不明であるが、大型の球胴形を呈することから、4 期（7 世紀中葉～後葉）以前に帰属する。このことから、本竪穴住居跡の時期は 4 期以前と考えられる。



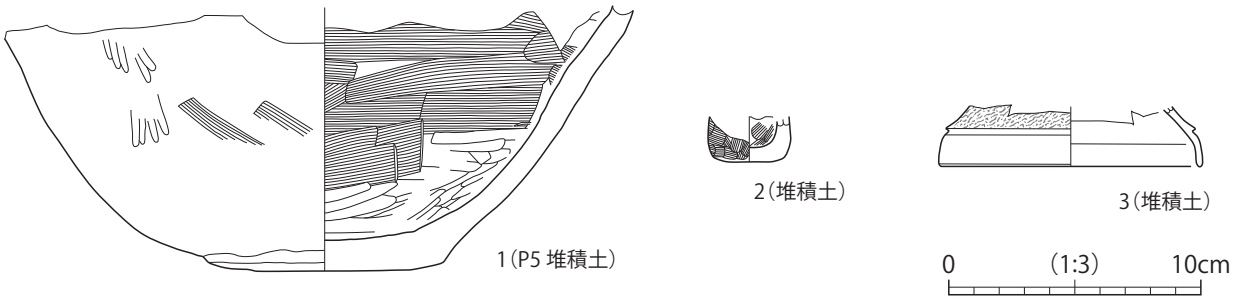
第 24 図　SI293A 竪穴住居跡

SI293A 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒少量含む。
	4a	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	粘土ブロック(10㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)多量、粘土ブロック(30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土・粘土・炭化物微量含む。※焼土
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	8	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖	9	5YR3/4 暗赤褐色	シルト	※被熱痕跡
	10a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	粘土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	10b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	粘土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	11	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
カマド掘り方	12	7.5YR3/1 褐色	粘土質シルト	焼土粒少量含む。
	13	10YR3/4 暗褐色	シルト	粘土ブロック(5㎜程度)少量含む。
周溝	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
住居掘り方	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルトと黒色シルトの混合土。

SI293A 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	不整楕円形	60×47	42	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡
				2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
				3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
				4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	楕円形	57×48	32	1	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡
				2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。
				3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。
				4	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)少量含む。
				5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P3	隅丸方形	49×43	48	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡
				2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、焼土粒微量含む。
				3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P4	円形	50×47	48	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
				2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
				3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。
				4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P5	隅丸長方形	60×46	14	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
				2	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-025	SI293AP5	堆積土	土師器	甕	-	6.6	(10.4)	胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		21
2	C-026	SI293A	堆積土	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	-	(1.6)	(1.8)	体部:ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ		21
3	E-006	SI293A	堆積土	須恵器	蓋	(10.4)	-	(2.4)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	自然釉付着	21

第 25 図　SI293A 竪穴住居跡出土遺物

SI293B 竪穴住居跡（第 26 図）

【位置・確認】 調査区北部中央の 7・8・11・12 グリッドに位置する。本竪穴住居跡は SI293A 建て替え前の住居跡と考えられる。床面は残存していない。

【重複】 SI293A と重複し、これより古い。

【規模・形態】 規模は長軸 460cm、短軸 441cm を測る。平面形状は北壁東側がやや膨らむ方形を呈する。南壁と西壁には周溝が確認できず SI293A の壁と一致するものと考えられる。

【方向】 東壁を基準として N － 36°－ E である。

【堆積土】 1 層は周溝堆積土である。

【柱穴】 掘り方から 5 基（P1 ～ 4・6）検出した。P1・2 は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は径 43 ～ 45cm、深さ 35 ～ 43cm を測り、柱痕跡は径 19 ～ 24cm である。P3・4 は壁柱穴の可能性が考えられる。

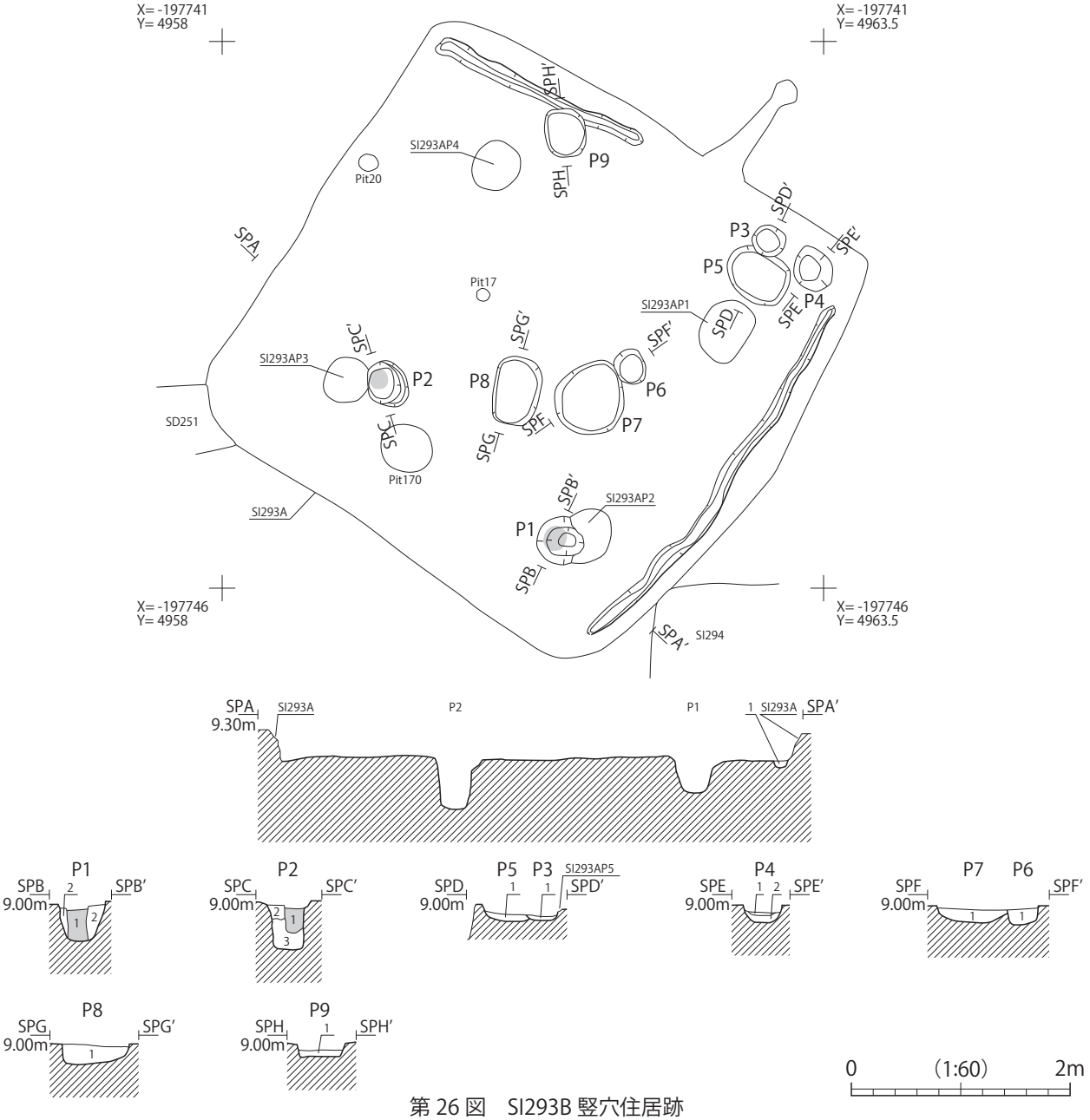
【周溝】 北壁西側と東壁から周溝が検出された。北壁西側はほぼ直線で、東壁は蛇行する。規模は幅 10 ～ 16cm、深さ 6cm 程である。断面は「U」字状を呈する。

【その他の施設】 掘り方から土坑 4 基（P5・7 ～ 9）を検出した。P5 は平面形状が楕円形を呈し、規模は長軸 61cm、短軸 48cm、深さ 13cm を測る。規模や位置関係から貯蔵穴の可能性が考えられる。

【掘り方】 深さ 2 ～ 10cm で、底面には起伏がみられる。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期を決定できる遺物はないが、4 期（7 世紀中葉～後葉）以前と考えられる SI293A より古いことから、本竪穴住居跡の時期は 4 期以前と考えられる。



第 26 図　SI293B 竪穴住居跡

SI293B 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。

SI293B 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	楕円形	45×(43)	35	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)少量含む。※柱痕跡
				2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック(30～50㎜程度)多量含む。
P2	楕円形	43×37	43	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)少量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/6 褐色	シルト	褐色シルトブロック(30㎜程度)少量含む。
				3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量含む。
P3	円形	30×29	7	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
P4	楕円形	43×35	15	1	5YR3/4 暗赤褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土・炭化物粒微量含む。
				2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。
P5	楕円形	61×48	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P6	円形	33×28	15	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。
P7	楕円形	70×64	15	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量含む。
P8	隅丸長方形	62×43	18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量含む。
P9	隅丸方形	44×37	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。

SI294 竪穴住居跡（第 27・28 図）

【位置・確認】 調査区北部中央の 12 グリッドに位置する。重複遺構と撹乱により南壁際が失われている。全体の約 3/4 を検出した。

【重複】 SI293・295、SB30、Pit159・194 と重複し、SI293、Pit159・194 より新しく、SI295、SB30 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 280cm、短軸 198cm を測る。柱穴の位置から平面形状は隅丸方形と推察される。

【方向】 カマド 1 を基準として N － 84°－ E である。

【堆積土】 12 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土である。4 ～ 9 層はカマド 1 関連の堆積土である。5 層は焼土ブロックを多量に含み、天井崩落土と考えられる。6 層は焼土である。7・8 層はカマド 1 袖構築土で、9 層はカマド 1 の掘り方埋土である。10・11 層はカマド 2 の煙道部堆積土である。12 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、4 ～ 11cm を測る。

【床面】 西側は 12 層上面を床面とし、東側は掘り方を持たず基本層Ⅳ層上面を床面としている。概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P3 ～ 6）、撹乱底面から 2 基（P1・2）、総数 6 基検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は径 21 ～ 34cm、深さ 21 ～ 33cm を測る。P1 からは径 16cm 程の柱痕跡を確認した。

【カマド】 東壁中央部のやや北寄りに位置し、壁面に直交して 2 ヶ所付設されている。北側のものをカマド 1、南側のものをカマド 2 とした。カマド 2 の袖が残存していないことから、カマド 2 からカマド 1 に造り替えが行われたものと考えられる。カマド 1 の袖の規模は、南袖が長さ 48cm、幅 26cm、北袖が長さ 38cm、幅 17cm を測る。袖は壁面に対し直交するように付設される。燃焼部の規模は奥行き 41cm、幅 34cm、奥壁高 4cm 程である。奥壁は緩やかに外傾して立ち上がり、底面には径 30cm 程の焼面がみられる。煙道部は失われている。カマド 2 は煙道部のみ検出した。煙道部は SB30 によって大半が失われている。規模は長さ 103cm、幅 20cm、深さ 3cm を測り、煙出し部分は 4cm 程低くなっている。煙道の長軸方向は N － 85°－ E である。

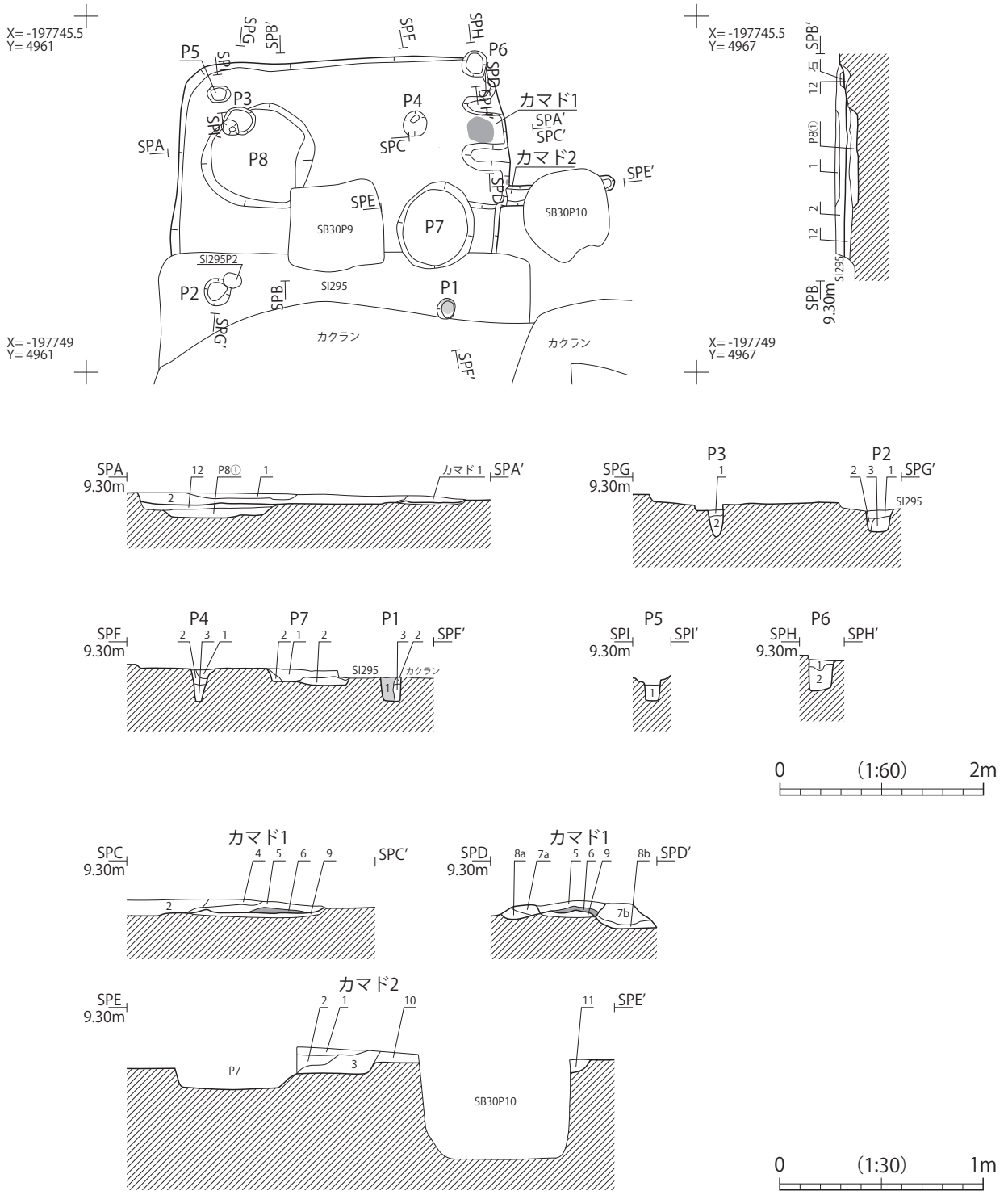
【その他の施設】 床面から 1 基（P7）、掘り方から 1 基（P8）、総数 2 基の土坑を検出した。カマド 2 の西側床面に位置する P7 は、長軸 89cm、短軸 76cm、深さ 13cm で、堆積土上層に焼土粒を多量に含む。P8 は長軸 113cm、短軸 102cm、深さ 9cm で、堆積土中に基本層Ⅳ層土ブロックと焼土ブロックを多量に含む。

【掘り方】 深さ 5cm 前後で、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 カマド及び床面施設、床面直上、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が少量出土している。土師器坏 1 点、須恵器盤あるいは脚付盤 1 点を掲載した（第 28 図）。1 はカマド 1 堆積土、2 は床面直上からの出土である。1 は土師器坏である。底部は中央がわずかに膨らむ平底で、口縁部が直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部か

ら体部ヨコナデ、底部ヘラケズリで、内面はヘラミガキである。2 は須恵器盤あるいは脚付盤である。口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部は外反気味に外傾する。口縁部内面に稜を持つ。

【時期】 カマドから出土した土師器坏（第 28 図－ 1）は本竪穴住居跡に伴うと考えられ、本竪穴住居跡の時期は 6a 期（8 世紀前葉）と考えられる。



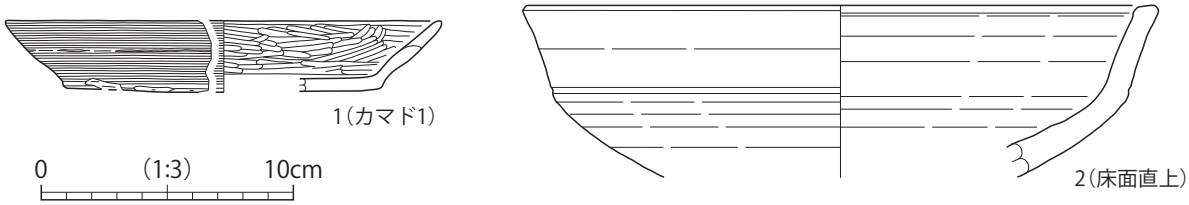
第 27 図　SI294 竪穴住居跡

SI294 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～50㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト粒・焼土粒微量含む。
カマド1	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	6	5YR3/6 暗赤褐色	シルト	炭化物粒微量含む。※焼土
カマド1袖	7a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	7b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
	8a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト粒少量含む。
	8b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト粒少量、焼土粒微量含む。
カマド1掘り方	9	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒微量含む。
カマド2	10	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト粒微量含む。
住居掘り方	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI294 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	円形	21×18	24	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黒色シルト粒多量、炭化物粒微量含む。
				3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P2	円形	27×26	21	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト粒多量含む。
				2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
				3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P3	円形	34×29	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土と黒色シルトの混合土、焼土粒・炭化物粒微量含む。
				2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P4	円形	25×24	33	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
				2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。
				3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
P5	楕円形	24×16	18	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
P6	隅丸方形	26×24	32	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(5㎜程度)少量、焼土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
				2	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒微量含む。
P7	円形	89×76	13	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
				2	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロック(20～30㎜程度)多量、焼土粒微量含む。
P8	円形	113×102	9	①	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・焼土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-031	SI294	ｶﾏﾄﾞ1	土師器	坏	(17.2)	-	2.8	口縁～体部:ﾖｺﾅﾃﾞ 底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		22
2	E-004	SI294	床面直上	須恵器	脚付盤 or盤	(25.2)	-	(6.8)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		22

第 28 図　SI294 竪穴住居跡出土遺物

SI295 竪穴住居跡（第 29 図）

【位置・確認】 調査区北部中央の 12・16 グリッドに位置する。重複遺構と撹乱により大半が失われており、残存状況が悪い。北壁際の一部と撹乱底面から柱穴と考えられるピットを検出した。

【重複】 SI294、SB30、SD252、Pit231 と重複し、SI294、SD252、Pit231 より新しく、SB30 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 365cm、短軸が 110cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推察される。

【方向】 北壁を基準として N － 90°－ E である。

【堆積土】 2 層に分層した。2 層は床面に薄く堆積し、上面に起伏がみられる。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、5 ～ 18cm を測る。

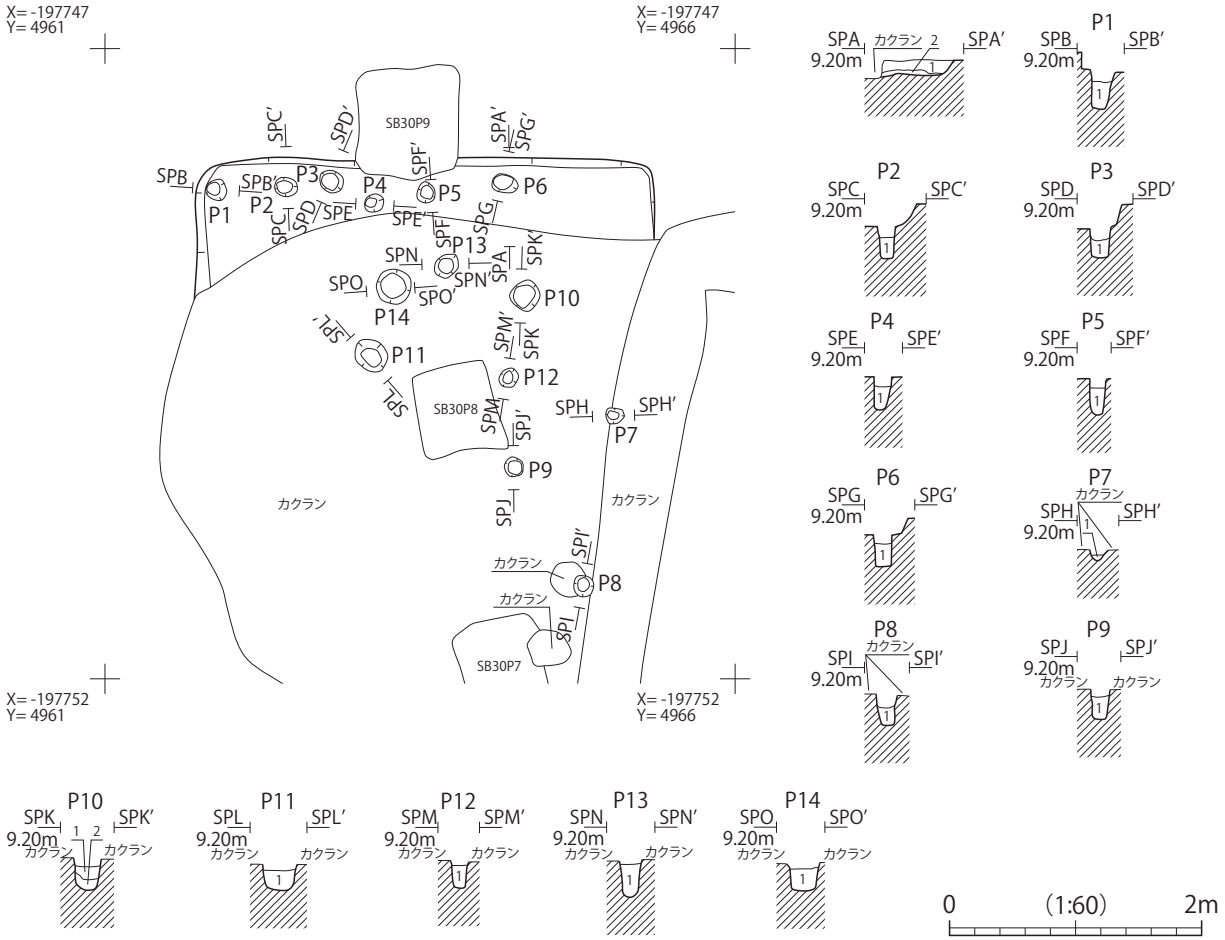
【床面】 基本層Ⅳ層上面を床面とする。概ね平坦であるが、わずかに起伏がみられる。

【柱穴】 床面から 6 基（P1 ～ 6）、撹乱底面から 8 基（P7 ～ 14）、総数 14 基検出した。P1 ～ 6 は北壁際に位置し、

壁柱穴と考えられる。規模は長軸 16 ～ 20cm、深さ 23 ～ 31cm を測る。P7 ～ 14 は住居跡内と推察される位置にある柱穴で、本竪穴住居跡に伴う柱穴かは判然としない。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、6a 期（8 世紀前葉）と考えられる SI294 より新しいことから、本竪穴住居跡の時期は 6a 期以降と考えられる。



SI295 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。

SI295 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	円形	17×17	31	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。
P2	円形	18×15	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒含む。
P3	円形	20×16	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。
P4	円形	16×14	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P5	円形	17×15	31	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P6	楕円形	20×15	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P7	円形	15×12	9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒含む。
P8	円形	17×16	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒含む。
P9	円形	16×15	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒含む。
P10	隅丸方形	23×22	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒含む。
				2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P11	円形	28×23	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。
P12	円形	17×14	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。
P13	円形	21×17	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒含む。
P14	円形	27×27	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。

第 29 図　SI295 竪穴住居跡

SI296 竪穴住居跡（第 30・31 図）

【位置・確認】 調査区北部東側の 12・13・16・17 グリッドに位置する。撹乱により東壁際が失われている。全体の約 3/4 と撹乱底面から柱穴と考えられるピット、掘り方の南東隅を検出した。

【重複】 SB30 と重複し、これより古い。

【規模・形態】 規模は長軸 420cm、短軸が 419cm を測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として N － 2°－ E である。

【堆積土】 19 層に分層した。1・2 層は住居堆積土で、1 層は基本層Ⅳ層土ブロックを多量に含み、2 層には薄い炭化物層がみられる。3 ～ 16 層はカマド関連の堆積層である。5 ～ 7 層は焼土ブロックを多量に含み、天井崩落土と考えられ、10 層は焼土である。13 ～ 15 層はカマド袖構築土で、13 層は被熱痕跡である。16 層はカマド掘り方埋土である。17 層は周溝堆積土、18・19 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、6 ～ 14cm を測る。

【床面】 18 層上面を床面とし、わずかに起伏がみられる。P3・4 付近はピットに向かって緩やかに傾斜している。

【柱穴】 床面から 3 基（P3 ～ 5）、撹乱底面から 2 基（P1・2）、総数 5 基検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は径 27 ～ 40cm、深さ 40cm 程で、P4 からは径 24cm 程の柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出した部分では、カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈する。規模は幅 16 ～ 25cm、深さ 7 ～ 19cm を測る。

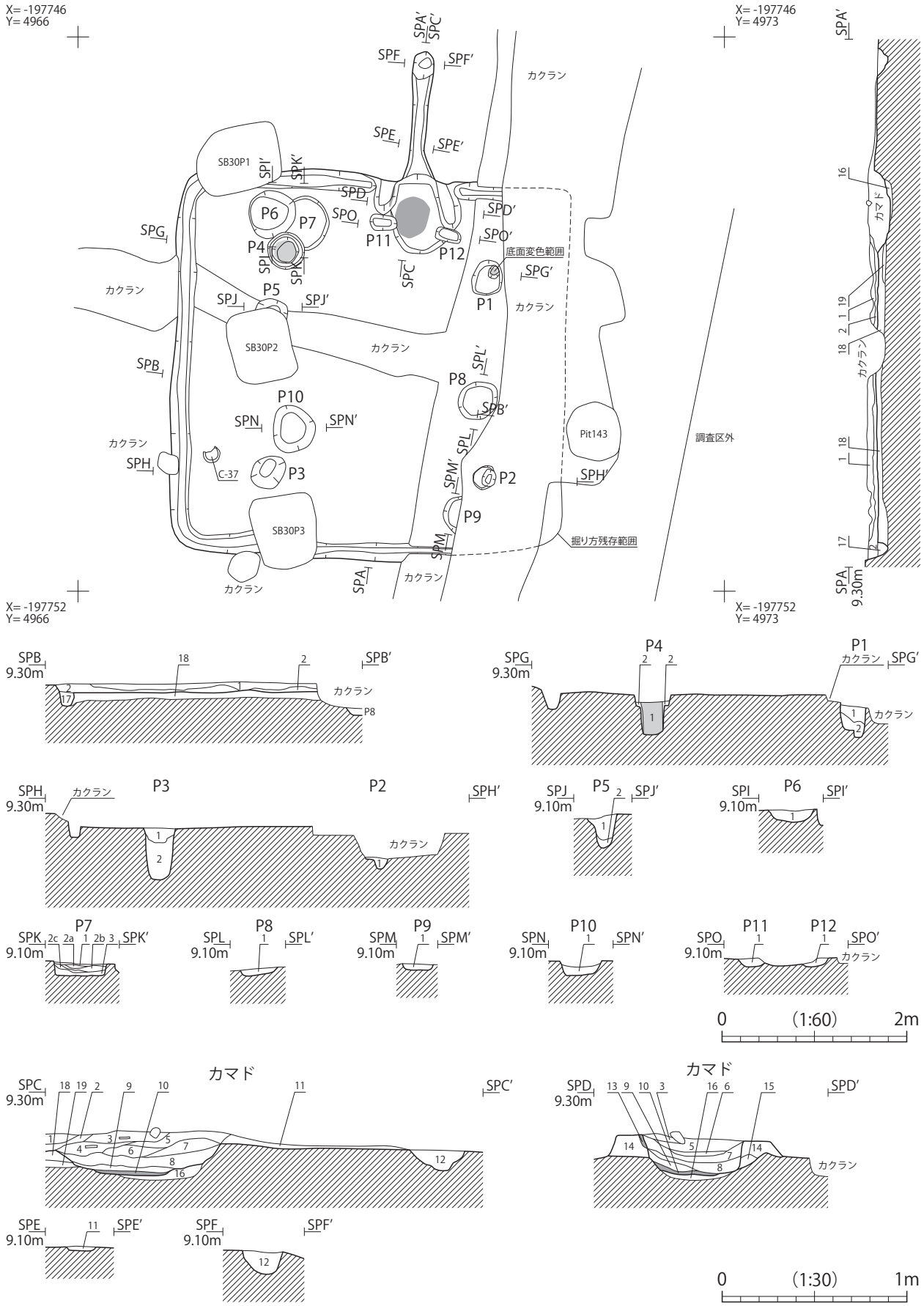
【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置し、北壁に直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 50cm、幅 23cm、西袖が長さ 35cm、幅 23cm を測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設される。P11・12 は両袖の先端に位置し、カマド袖の芯材を据える掘り方と考えられる。規模は長軸 27 ～ 29cm、深さ 8 ～ 11cm を測る。燃焼部の規模は奥行き 86cm、幅 44 ～ 58cm、奥壁高 15cm 程である。底面は皿状に 10cm 程窪み、奥壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面には径 45cm 程の焼面がみられる。煙道部は基部が広く先端に行くに従い細くなる。規模は長さ 132cm、幅 16 ～ 30cm、深さ 12cm を測る。煙出し部分はピット状に掘り込まれる。

【その他の施設】 床面から 1 基（P6）、掘り方から 1 基（P7）、総数 2 基の土坑を検出した。P6 は径 51cm、深さ 12cm で、堆積土中に焼土ブロックを多量に含む。規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。P7 は径 60cm、深さ 16cm で、堆積状況から人為的に埋め戻されているものと考えられる。このほか撹乱底面から土坑 2 基（P8・9）、掘り方から土坑 1 基（P10）を検出した。

【掘り方】 深さ 3 ～ 9cm で、壁際が低くなる。

【出土遺物】 カマド及び床面直上、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が少量出土している。土師器坏 3 点、盤 1 点、甕 1 点を掲載した（第 31 図）。いずれも堆積土からの出土である。1 ～ 3 は土師器坏である。1 は底部から体部が内湾し、口縁部が直線的に外傾する。口縁部と体部の境は、外面に段を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部がヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施されている。2 は底部から体部が扁平に内湾する。口縁部と体部の境は、外面に稜を持つ。底面に「×」字状の線刻が施されている。3 は平底状の丸底で、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、内面はヘラミガキである。4 は土師器盤である。底部から口縁部にかけて内湾気味に大きく外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施されている。5 は土師器甕の胴部で、粘土紐の接合部に刻み目が施されている。調整は、外面がハケメ、内面がヘラナデである。

【時期】 時期を決定できる遺物はないが、6a 期（8 世紀前葉）以降と考えられる SB30 より古いことから、本竪穴住居跡の時期は 6a 期以前と考えられる。



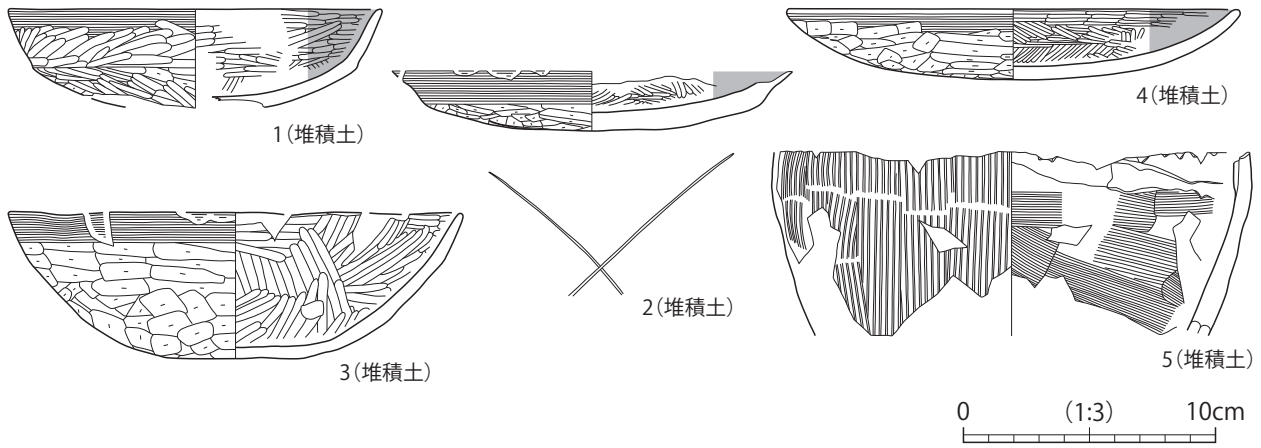
第 30 図　SI296 竪穴住居跡

SI296 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量、焼土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量、上位に炭化物を帯状に含む。
カマド	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	焼土粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～30㎜程度)多量、黒色シルト粒・灰白色粘土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10㎜程度)多量、Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	7	7.5YR4/6 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	9	7.5YR1.7/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	10	5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	炭化物粒微量含む。※焼土
	11	10YR4/4 褐色	シルト	褐色シルト粒少量含む。
	12	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土粒・灰・炭化物粒少量含む。
カマド袖	13	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	※被熱痕跡
	14	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	15	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド掘り方	16	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土・炭化物粒微量含む。
周溝	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方	18	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	19	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI296 施設観察表

遺構名	平面形	規模(㎝)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	隅丸方形	37×32	40	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量、Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
				2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
P2	円形	27×24	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄斑状含む。
P3	楕円形	40×33	56	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量、Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
				2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P4	円形	39×39	43	1	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡
				2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)微量含む。
P5	円形	32×(16)	38	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
				2	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P6	円形	51×50	12	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5～20㎜程度)多量、黒色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。
P7	円形	60×54	16	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土粒少量含む。
				2a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルト粒多量含む。
				2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	下位に炭化物が帯状に含み、焼土粒少量含む。
				2c	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルト粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
				3	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
P8	円形	42×40	10	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(10㎜程度)多量、Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・焼土粒少量含む。
P9	円形	41×(17)	7	1	7.5YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5㎜程度)多量含む。
P10	円形	51×47	16	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量含む。
P11	隅丸長方形	29×17	11	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
P12	隅丸長方形	27×14	8	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(㎝)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-035	SI296	堆積土	土師器	坏	14.8	-	(4.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	22
2	C-034	SI296	堆積土	土師器	坏	-	-	(2.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面底部線刻 内面黒色処理	22
3	C-038	SI296	堆積土	土師器	坏	18.0	5.2	5.8	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		22
4	C-037	SI296	堆積土	土師器	盤	18.0	-	2.8	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	22
5	C-036	SI296	堆積土	土師器	甕	-	-	(7.3)	胴部:ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	接合面刻目	22

第 31 図　SI296 竪穴住居跡出土遺物

SI297 竪穴住居跡（第 32・33 図）

【位置・確認】 調査区中央部東端の 16・17・20・21 グリッドに位置する。撹乱により大半が失われており、残存状況が悪い。南西隅から床面中央付近にかけての一部と北西隅を検出した。東側は調査区外に延びる。

【重複】 SI298、SB31・33、SK280、Pit136・142・171・174 と重複し、SI298、SK280、Pit142・171・174 より新しく、SB31・33、Pit136 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 494cm、短軸が 250cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推察される。

【方向】 西壁を基準として N － 6°－ E である。

【堆積土】 3 層に分層した。1 層は住居堆積土で、2・3 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、5 ～ 10cm を測る。

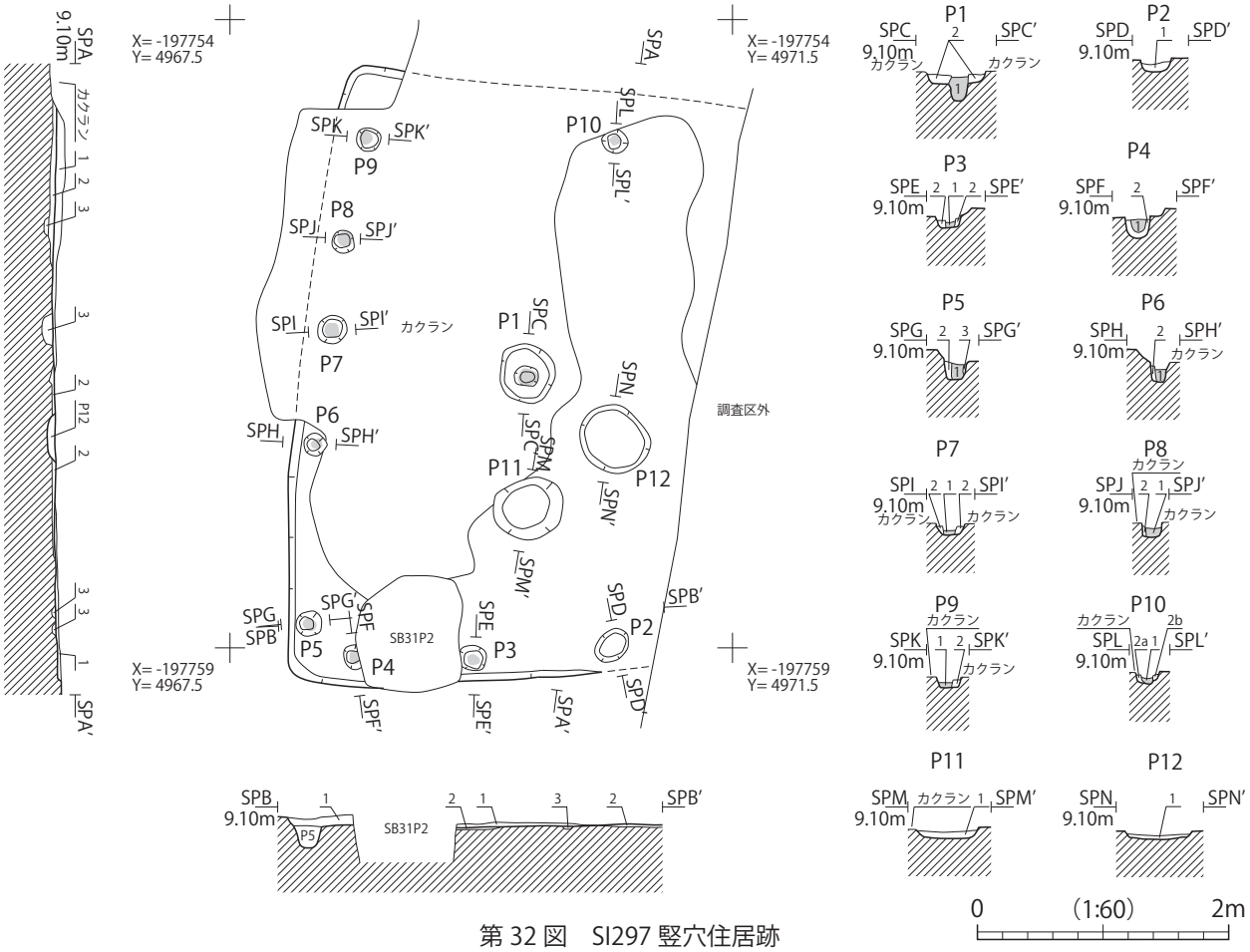
【床面】 2 層上面を床面とするが、部分的に基本層Ⅳ層上面を床面とする。概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 6 基（P2 ～ 6・10）、撹乱底面から 4 基（P1・7 ～ 9）、総数 10 基検出した。P1 は長軸 49cm、深さ 25cm で、径 16cm 程の柱痕跡を確認した。規模や位置関係から主柱穴と考えられる。P2 ～ 10 は壁際に位置し、規模は長軸 17 ～ 30cm、深さ 9 ～ 16cm を測る。P3 ～ 10 では径 8 ～ 13cm の柱痕跡を確認した。規模や位置関係から壁柱穴と考えられる。

【その他の施設】 床面から土坑 2 基（P11・12）を検出した。P11・12 は、にぶい黄褐色シルトの単層で、焼土ブロックを多量に含む。

【掘り方】 概ね平坦で、掘り方の底面から工具痕跡を検出した。

【出土遺物】 床面直上及び床面施設、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が少量出土している。土師器坏 1 点、



第 32 図　SI297 竪穴住居跡

甕 1 点を掲載した（第 33 図）。1 は床面直上、2 は住居堆積土からの出土である。1 は土師器坏である。底部から体部にかけて内湾し、口縁部が直線的に外傾する。口縁部と体部の境は、外面に稜を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキである。2 は土師器甕の底部である。調整は、外面がヘラケズリ、内面はヘラナデである。

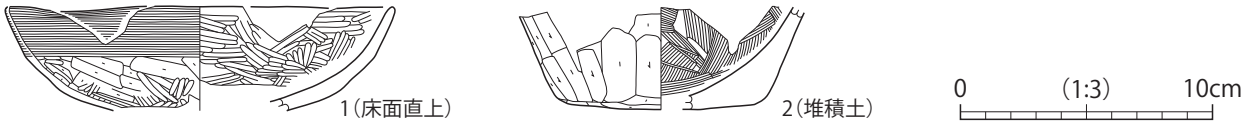
【時期】 床面直上から出土した土師器坏（第 33 図－ 1）は本竪穴住居跡に伴うと考えられ、本竪穴住居跡の時期は 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。

SI297 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方	2	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック（10～30㎜程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量含む。※工具痕跡

SI297 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	円形	49×45	25	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土質シルト	黒色シルト粒多量含む。※柱痕跡
				2	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	黒色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。
P2	楕円形	30×22	11	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	黒色シルト粒少量含む。
P3	円形	24×22	11	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	酸化鉄少量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P4	円形	20×18	16	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト粒少量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/6 褐色	シルト	黒色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。
P5	円形	21×21	14	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒色シルト粒少量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/6 褐色	シルト	黒色シルト粒多量含む。
				3	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	黒色シルト粒少量含む。
P6	隅丸方形	17×17	14	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルト粒少量含む。
P7	円形	24×21	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
				2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（50㎜程度）中量含む。
P8	円形	18×17	13	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/6 褐色	シルト	黒色シルト粒少量含む。
P9	円形	20×19	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック（10㎜程度）多量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルト粒少量含む。
P10	隅丸方形	21×18	11	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。※柱痕跡
				2a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
				2b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒色シルト粒少量含む。
P11	円形	58×47	8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック（5～10㎜程度）多量、黒色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。
P12	円形	57×50	7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック（5～10㎜程度）多量、黒色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-040	SI297	床面直上	土師器	坏	（15.4）	-	（4.1）	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		22
2	C-039	SI297	堆積土	土師器	甕	-	7.4	（4.1）	胴下半：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底面：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ		22

第 33 図　SI297 竪穴住居跡出土遺物

SI298 竪穴住居跡（第 34・35 図）

【位置・確認面】 調査区中央部東側の 16・20 グリッドに位置する。撹乱により東側が失われており、残存状況が悪い。全体の約 1/2 と撹乱底面から土坑、東壁際の掘り方を検出した。

【重複】 SI297・299、SB30 と重複し、SI299 より新しく、SI297、SB30 より古い。SB31 と重複するが撹乱により新旧関係は確認できなかった。

【規模・形態】 規模は長軸 380cm、短軸 325cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 東壁を基準として N － 9°－ E である。

【堆積土】 8 層に分層した。1 ～ 3 は住居堆積土、4 層は周溝堆積土、5 ～ 8 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、9 ～ 18cm を測る。

【床面】 5・6 層上面を床面とする。概ね平坦であるが、緩やかな起伏がみられる。

【柱穴】 床面から 2 基（P1・2）検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸 26 ～ 29cm、深さ 21 ～ 33cm を測る。

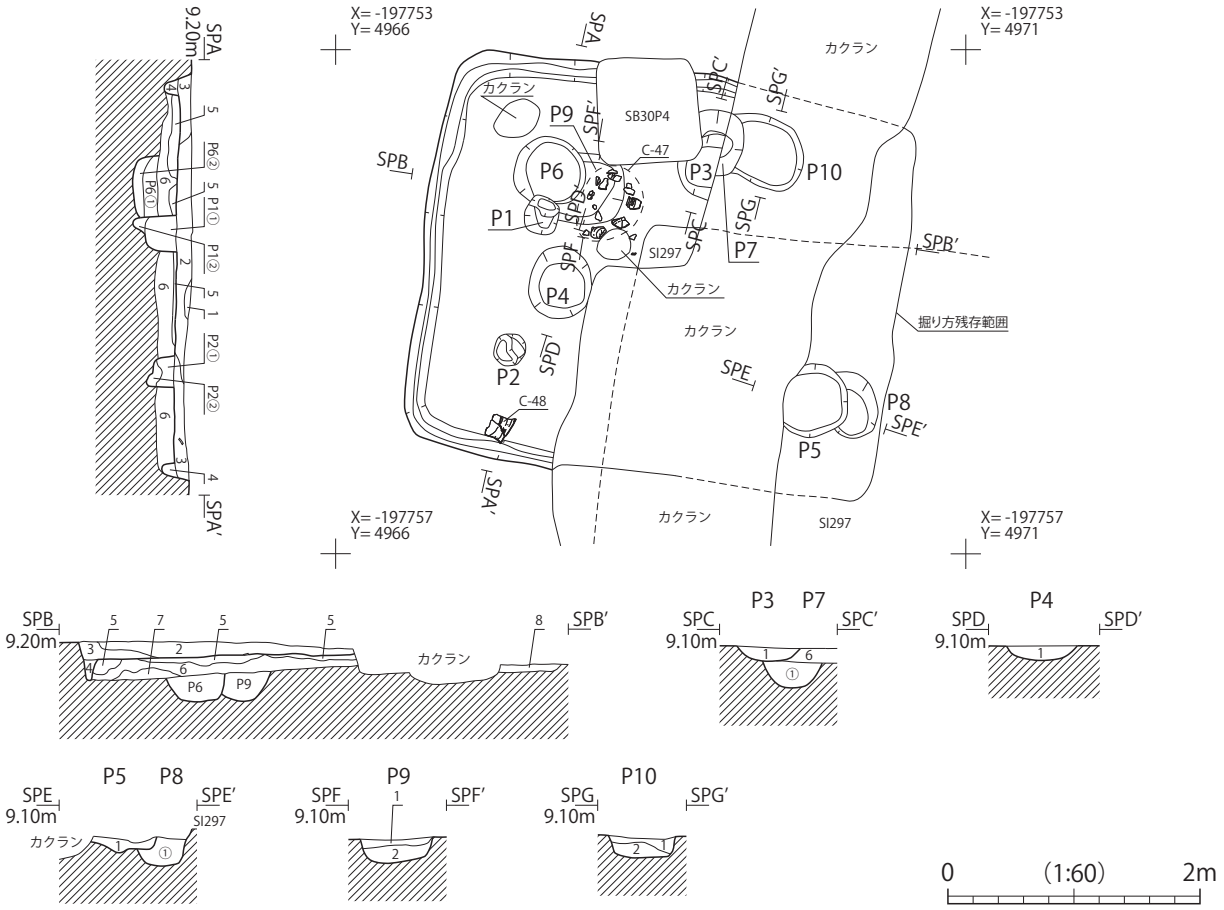
【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状である。規模は幅 14 ～ 22cm、深さ 7 ～ 15cm を測る。

【その他の施設】 床面から土坑 2 基（P3・4）、掘り方から土坑 6 基（P5 ～ 10）を検出した。

【掘り方】 深さ 9 ～ 16cm で、南西側が低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び床面直上、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。土師器甕 2 点を掲載した（第 35 図）。いずれも床面直上からの出土である。1 は最大径が胴部中位にあり、口縁部は短く外反する。2 は口径と胴部径がほぼ同じで、口縁部は緩やかに外反する。

【時期】 床面直上から出土した土師器甕（第 35 図－ 1）は本竪穴住居跡に伴うと考えられるが、詳細な時期は不明である。5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる SI297 より古いことから、本竪穴住居跡の時期は 5 期以前と考えられる。



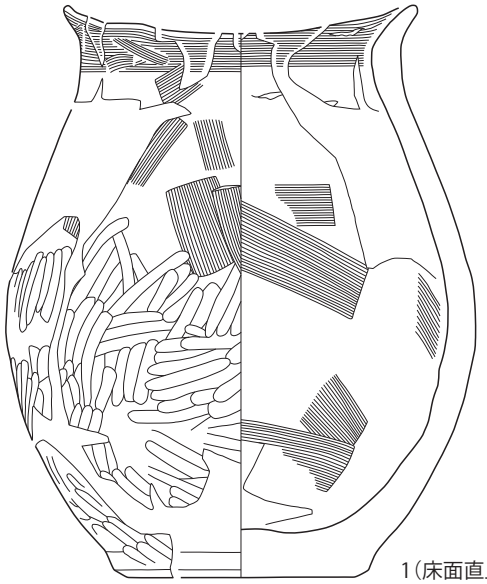
SI298 堆積土註記表

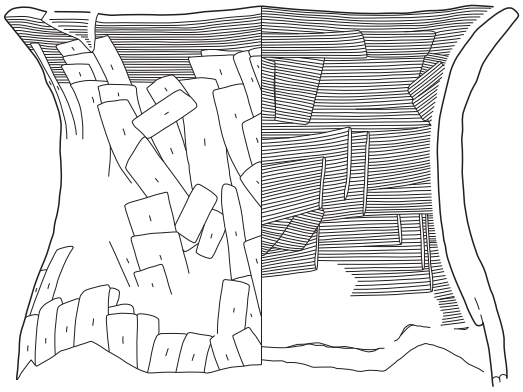
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、焼土ブロック（10㎜程度）・炭化物粒微量含む。
周溝	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。
住居掘り方	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（20～50㎜程度）と褐色シルトブロック（10～20㎜程度）の混合土、炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。

第 34 図　SI298 竪穴住居跡

SI298 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考
P1	方形	29×27	33	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
				②	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
P2	円形	26×25	21	①	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
				②	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P3	円形	53×(31)	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)多量、焼土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P4	円形	58×50	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P5	円形	59×(50)	13	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。
P6	円形	57×55	22	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック(5～30㎜程度)多量、焼土ブロック(20㎜程度)・炭化物粒少量含む。
				②	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P7	円形	52×48	24	①	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)を斑状に、焼土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒少量含む。
P8	楕円形	54×38	21	①	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)多量、焼土ブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P9	隅丸方形	56×(48)	19	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
				2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～50㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P10	楕円形	(67)×53	18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～50㎜程度)多量、焼土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
				2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。





0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-047	SI298	床面直上	土師器	甕	(13.8)	(9.0)	22.6	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		22
2	C-048	SI298	床面直上	土師器	甕	(20.4)	-	(15.1)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		22

第 35 図　SI298 竪穴住居跡出土遺物

SI299 竪穴住居跡（第 36・37 図）

【位置・確認】 調査区中央部東側の 16・20 グリッドに位置する。重複遺構により東壁中央付近と西壁・南壁の一部、煙道部の西側が失われ、北西隅は撹乱により上面が失われている。

【重複】 SI297・298・305、SB30・31、SD255、Pit202 と重複し、Pit202 より新しく、SI297・298、SB30・31、SD255 より古い。SI305 とは重複しているが、撹乱により新旧関係は確認できなかった。

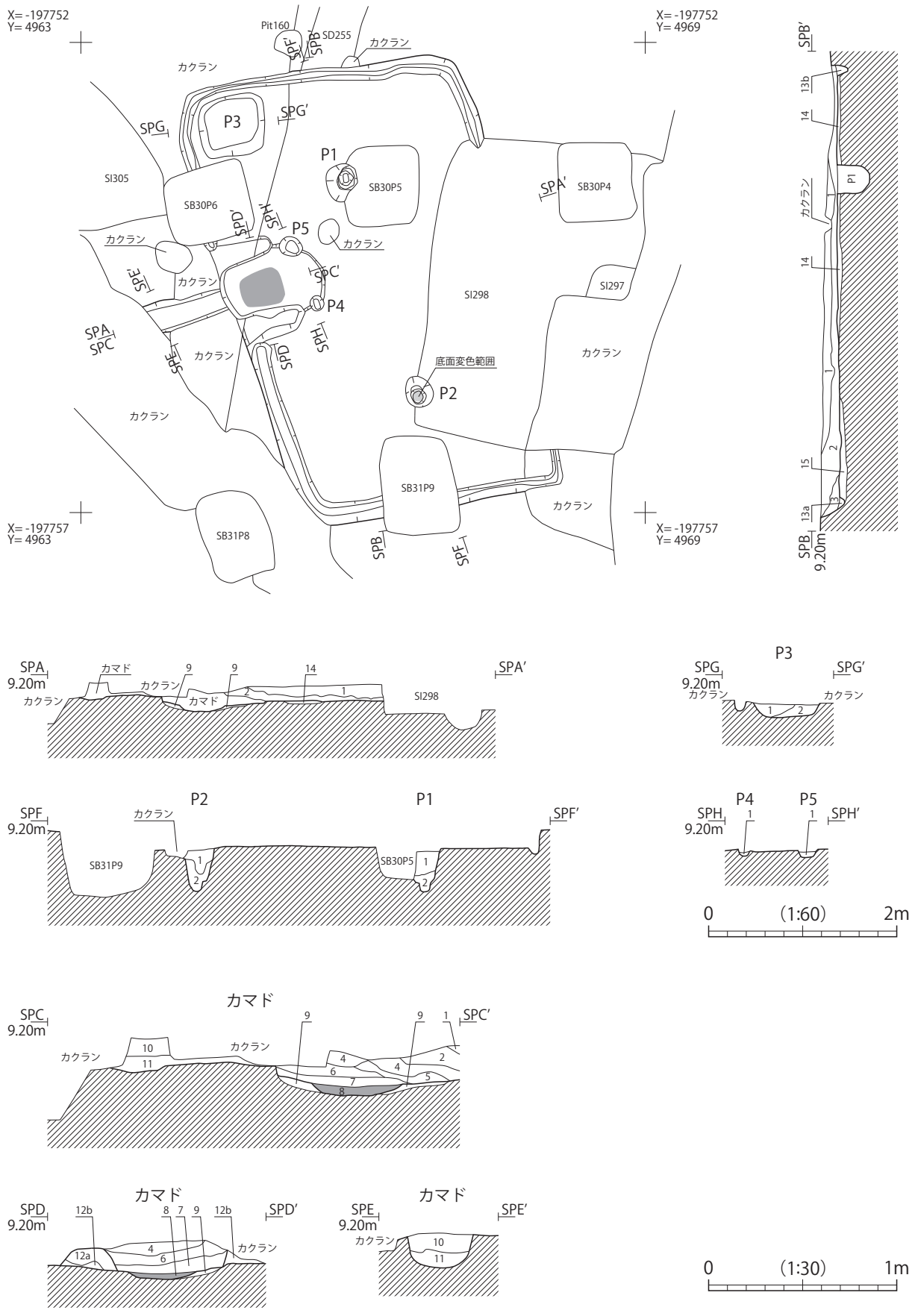
【規模・形態】 規模は長軸 489cm、短軸 316cm を測る。平面形状は長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として N － 108°－ W である。

【堆積土】 15 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土である。4 ～ 12 層はカマド関連の堆積層で、7 層は焼土ブロックを多量に含み、焼骨片をわずかに含む。8 層は焼土である。10・11 層は煙道部の堆積土である。12 層はカマド袖構築土で、にぶい黄褐色シルトを主体とする。13 層は周溝堆積土で、14・15 層は掘り方埋土である。

【壁面】 南・西壁は直線的に外傾し、北・東壁では直立気味に立ち上がる。壁高は、14 ～ 21cm を測る。

【床面】 床面の北半部では 14 層上面、南半部では 15 層上面、住居跡中央付近は基本層Ⅳ層上面を床面とする。



第 36 図　SI299 竪穴住居跡

SI299 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～100㎜程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～50㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5㎜程度)多量、Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・炭化物粒少量、焼骨片微量含む。
	6	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒少量、Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	7	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量、焼骨片微量含む。
	8	5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	炭化物粒微量含む。※焼土
	9	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒・焼骨片微量含む。
	10	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)多量含む。
カマド袖	12a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
	12b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝	13a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。
	13b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
住居掘り方	14	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック(5㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	15	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI299 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	隅丸方形	41×(34)	47	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
				2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P2	楕円形	36×29	45	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)少量含む。
				2	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P3	方形	71×64	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)少量含む。
				2	10YR4/6 褐色	シルト	褐色シルト粒多量、炭化物粒微量含む。
P4	隅丸方形	17×16	6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
P5	楕円形	24×21	9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒・Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)少量含む。

床面には起伏がみられ、北から南へ向かってわずかに傾斜している。

【柱穴】 床面から 2 基（P1・2）検出した。P1 は床面中央の北側、P2 は床面中央の南側に位置し、規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸 36 ～ 41cm、深さ 45 ～ 47cm を測る。P2 の底面からは径 12cm 程の変色範囲がみられた。

【周溝】 検出した部分では、カマドが付設されている西壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈する。規模は幅 13 ～ 24cm、深さ 5 ～ 15cm を測る。

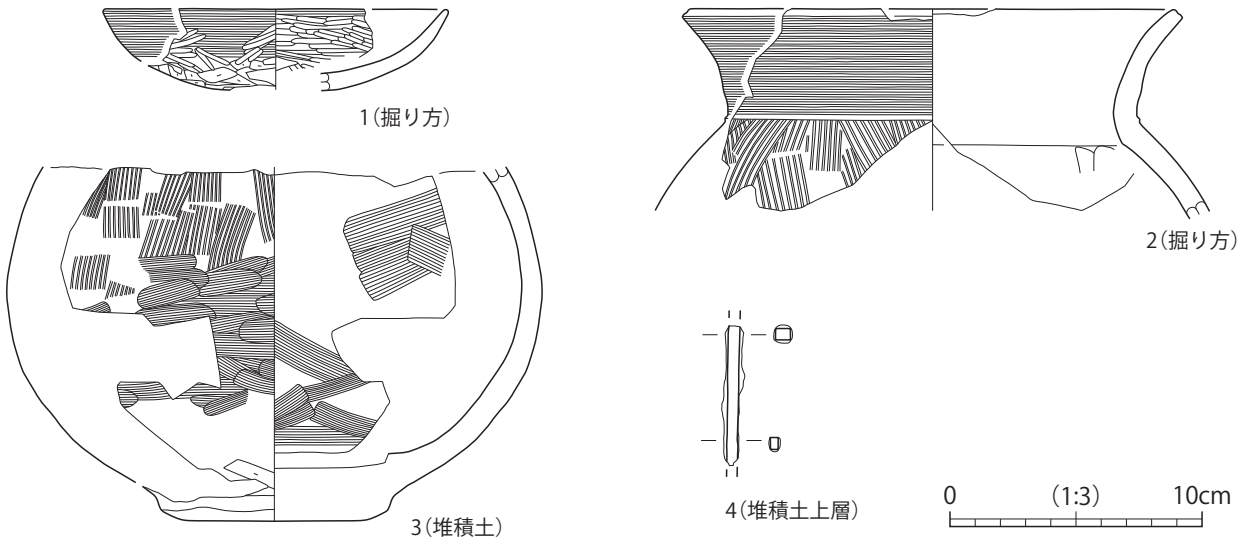
【カマド】 西壁中央部のやや北寄りに位置し、西壁に直交して付設される。袖の規模は、北袖が長さ 65cm、幅 20cm、南袖が長さ 69cm、幅 31cm を測る。袖は壁面に対し直交するように付設される。P4・5 は両袖の先端に位置し、カマド袖の芯材を据える掘り方と考えられる。規模は長軸 17 ～ 24cm、深さ 6 ～ 9cm を測る。燃焼部の規模は奥行き 70cm、幅 50 ～ 65cm、奥壁高 10cm 程である。底面は皿状に 6cm 程窪み、奥壁は直線的に外傾して立ち上がる。底面には長軸 48cm 程の焼面がみられる。残存する煙道部の規模は長さ 82cm、幅 34cm、深さ 15cm を測る。底面は西側に向かって傾斜し、西端で 3cm 程窪む。

【その他の施設】 撹乱底面から土坑 1 基（P3）を検出した。平面形状は方形を呈し、規模は長軸 71cm、短軸 64cm、深さ 15cm を測る。規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 深さ 5 ～ 9cm で、底面には起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土及び掘り方から土師器・須恵器・金属製品が少量出土している。土師器坏 1 点、甕 2 点、棒状鉄製品 1 点を掲載した（第 37 図）。1・2 は掘り方、3・4 は住居堆積土からの出土である。1 は土師器坏である。底部から体部にかけて内湾し、口縁部は直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキである。2・3 は土師器甕である。2 は球胴状と考えられ、口縁部は外反気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、内面は胴部ヘラケズリである。3 は球胴状の胴部で、最大径は胴部中位にある。調整は、外面がハケメ後ヘラナデ、胴下端ヘラケズリ、内面はヘラナデである。4 は棒状鉄製品である。

【時期】 時期を決定できる遺物はないが、掘り方から 5 期(7 世紀末葉～ 8 世紀初頭)以降と考えられる土師器坏(第 37 図－ 1）が出土していることから、本竪穴住居跡の時期は 5 期以降と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-049	SI299	掘り方	土師器	坏	(13.6)	-	(3.2)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		22
2	C-051	SI299	掘り方	土師器	甕	(19.0)	-	(8.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ		22
3	C-050	SI299	堆積土	土師器	甕	-	7.0	(14.0)	胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 胴下端:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ		22

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
4	N-009	SI299	堆積土上層	金属製品	棒状鉄製品	(5.4)	0.6	0.5	6.1		22

第 37 図　SI299 竪穴住居跡出土遺物

SI300 竪穴住居跡（第 38・39 図）

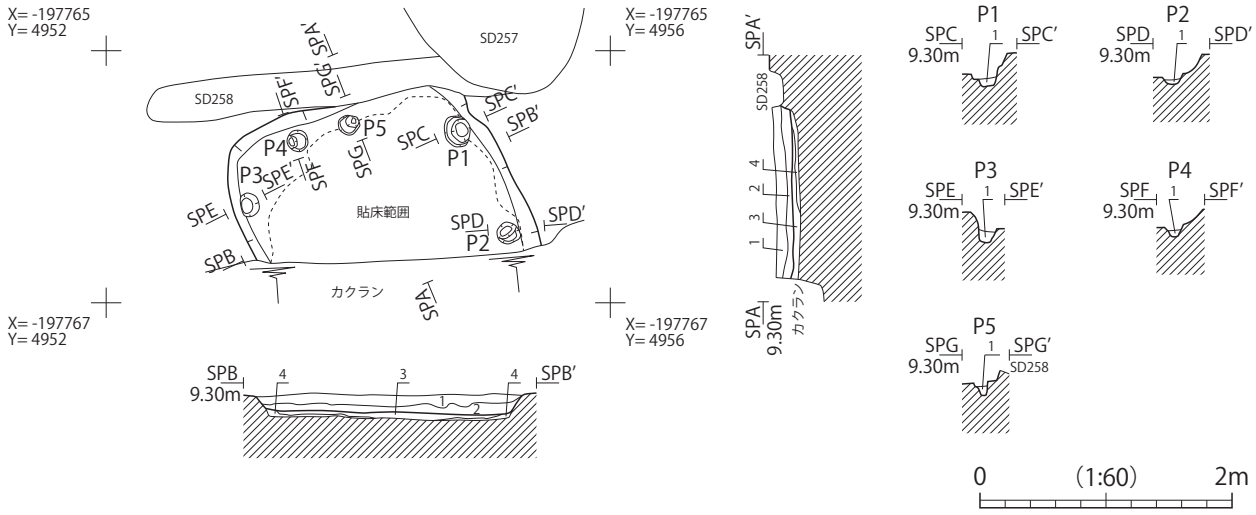
【位置・確認】 調査区中央部の 27 グリッドに位置する。重複遺構と撹乱により南側と北東隅が失われている。

【重複】 SD258 と重複し、これより古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 213cm、短軸 153cm を測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形と推察される。

【方向】 東壁を基準として N － 27°－ W である。

【堆積土】 4 層に分層した。1・2 層は住居堆積土である。3・4 層は掘り方埋土で、3 層は多量の灰白色粘土を含



第 38 図　SI300 竪穴住居跡

SI300 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20～40㎜程度)多量、黒色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。※人為堆積
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量、粘土ブロック(10㎜程度)微量含む。
貼床	3	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック(30～50㎜程度)多量、黒色シルトブロック(20～30㎜程度)少量含む。
住居掘り方	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、黒褐色シルトブロック(20㎜程度)微量含む。

SI300 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	楕円形	25×21	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P2	円形	19×17	7	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P3	楕円形	19×15	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P4	円形	17×16	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
P5	円形	17×16	10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。

む灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、貼床と考えられる。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、11 ～ 18cm を測る。

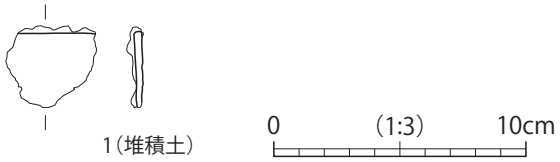
【床面】 壁際は 4 層上面、その他は 3 層上面を床面とする。検出した部分では、わずかに起伏があるが概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 5 基(P1 ～ 5)検出した。いずれも壁際に位置し、規模は長軸 17 ～ 25cm、深さ 7 ～ 13cm を測る。柱痕跡は確認できなかったが、規模や位置関係から壁柱穴と考えられる。

【掘り方】 深さ 4 ～ 6cm で、底面にはわずかに起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器・金属製品が出土している。板状鉄製品 1 点を掲載した（第 39 図)。

【時期】時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
1	N-010	SI300	堆積土	金属製品	板状鉄製品	(3.1)	(3.0)	0.3	6.6		22

第 39 図　SI300 竪穴住居跡出土遺物

SI301 竪穴遺構（第 40 図）

【位置・確認】 調査区中央部の 19・20・23・24 グリッドに位置する。削平により上面を失っており、掘り方のみ検出した。柱穴などの床面施設が確認できないことから竪穴遺構とした。

【重複】 SI302、SB34・36、Pit148・156・157 と重複し、SI302、Pit157 より新しく、SB34・36、Pit148・156 より古い。

【規模・形態】 規模は長軸 608cm、短軸 337cm を測る。平面形状は長方形を呈する。

【方向】 西壁を基準として N － 6°－ W である。

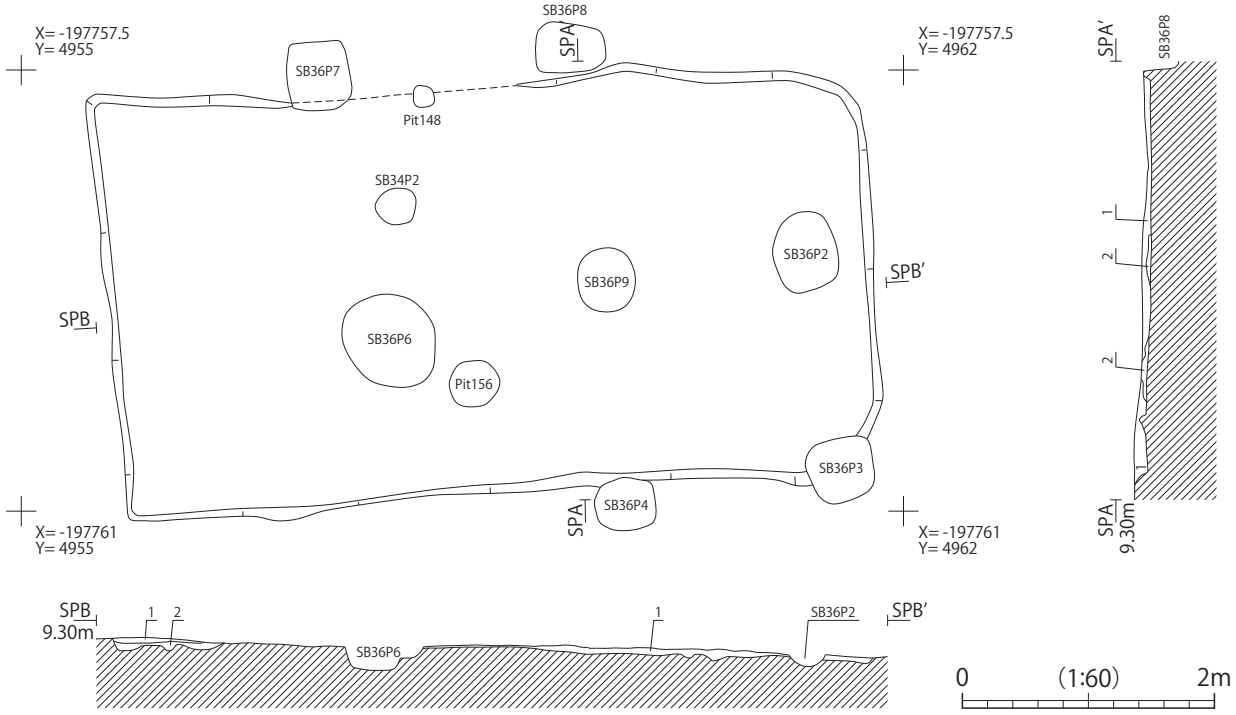
【堆積土】 2 層に分層した。いずれも掘り方埋土と考えられる。

【壁面】 掘り方の壁面を検出したが、撹乱により上部が失われているため、詳細は確認できなかった。

【掘り方】 深さ 4 ～ 6cm で、底面には起伏がみられ、中央部付近がわずかに高い。

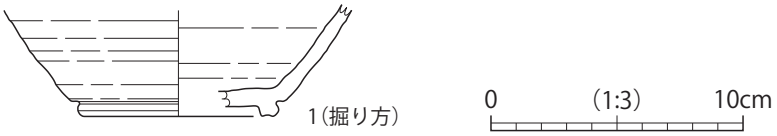
【出土遺物】 掘り方から土師器・須恵器が少量出土している。須恵器高台付坏 1 点を掲載した（第 40 図)。底部は平底で、体部は直線的に外傾する。高台は底部縁辺に貼り付けられ、高台端部は沈線状に窪む。

【時期】 時期を決定できる遺物はないが、掘り方から 6b 期（8 世紀中葉）以降と考えられる須恵器高台付坏（第 40 図－ 1）が出土していることから、本竪穴住居跡の時期は 6b 期以降と考えられる。



SI301 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
竪穴遺構掘り方	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-005	SI301	掘り方	須恵器	高台付坏	-	(7.6)	(4.5)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	高台部付け足し	22

第 40 図　SI301 竪穴遺構・出土遺物

SI302 竪穴住居跡（第 41・42 図）

【位置・確認】 調査区中央部の 19・20・23・24 グリッドに位置する。撹乱により北東・北西隅が失われている。

【重複】 SI301、SB36、SD256･259、SK277 と重複し、SD256 より新しく、SI301、SB36、SD259、SK277 より古い。

【規模・形態】 長軸 474cm、短軸 471cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として N － 89°－ E である。

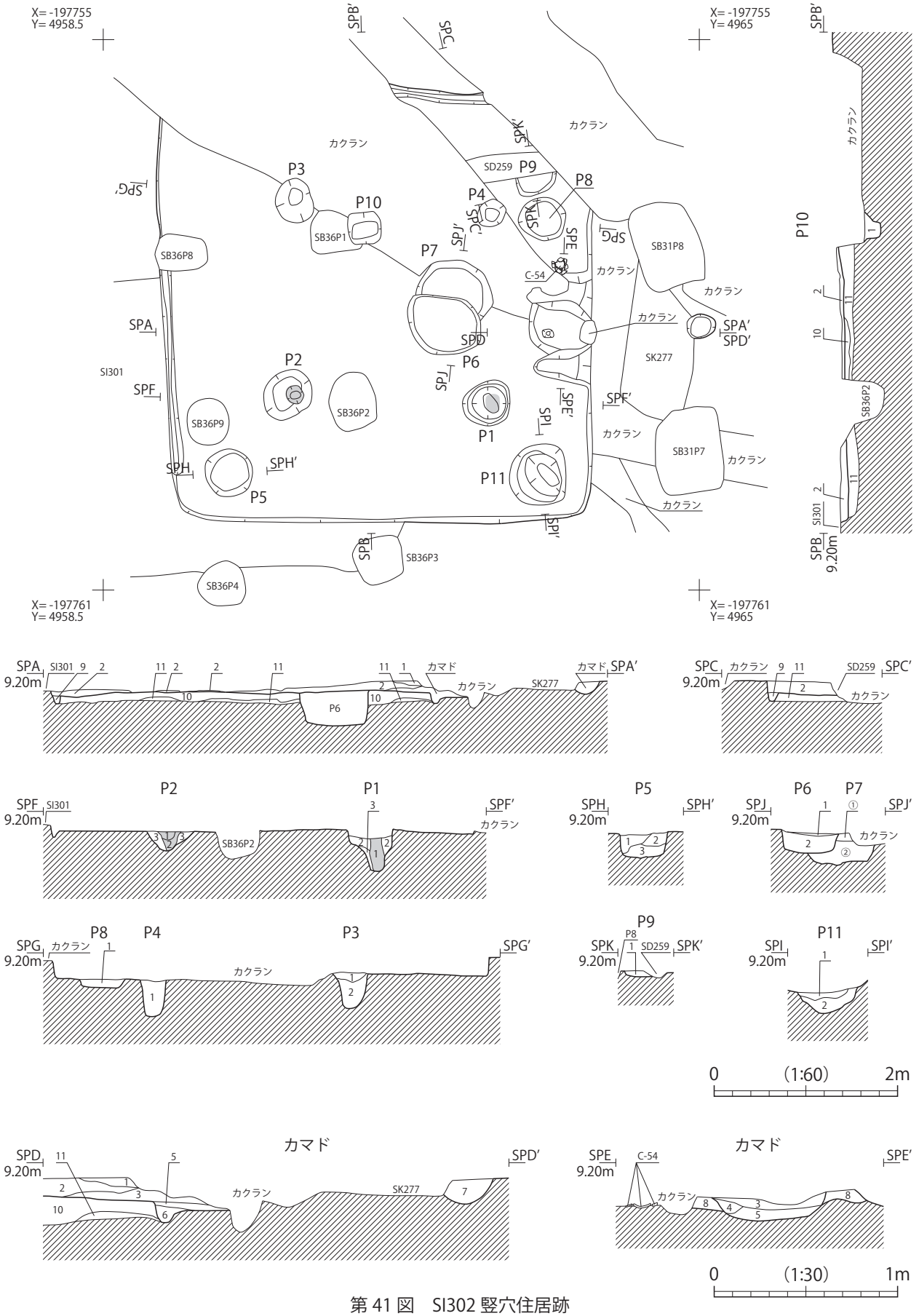
【堆積土】 11 層に分層した。1・2 層は住居堆積土である。重複遺構や撹乱により上部が失われ、検出時点では床面が露出する部分もあった。3 ～ 8 層はカマド関連の堆積土である。3・4 層はカマド天井崩落土・袖崩落土と考えられ、5 層は灰層である。6 層はカマド内の支柱ピット堆積土、7 層は煙道先端の煙出しピットの堆積土、8 層はカマド袖構築土である。9 層は周溝堆積土、10・11 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、6 ～ 8cm を測る。

【床面】 10 層及び 11 層上面を床面とする。床面には起伏がみられ、中央付近の P3 周辺がやや高まる。

【柱穴】 床面から 3 基（P1 ～ 3）、撹乱底面から 1 基（P4）、総数 4 基検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸 33 ～ 58cm、深さ 37 ～ 45cm で、P1･2 からは径 26cm 程の柱痕跡を確認した。

【周溝】 北壁と西壁の南半部で検出した。北壁の周溝はやや蛇行する。断面は「U」字状を呈する。規模は幅 10 ～ 16cm、深さ 4 ～ 8cm を測る。



第 41 図　SI302 竪穴住居跡

SI302 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)微量含む。
カマド	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～15㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
	5	10YR5/1 褐灰色	灰	
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐灰色シルト含む。
	7	10YR2/1 黒色	シルト	暗褐色シルトを斑に含む。
カマド袖	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。
周溝	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
住居掘り方	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(30㎜程度)多量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。

SI302 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	不整円形	55×47	45	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土ブロック(5㎜程度)微量含む。※柱痕跡
				2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
				3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P2	楕円形	58×50	45	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・焼土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。※柱痕跡
				3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P3	楕円形	48×40	40	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	上面に焼土ブロック(10～20㎜程度)・Ⅳ層土粒少量含む。
				2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P4	楕円形	33×28	37	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)・炭化物粒少量含む。
P5	円形	55×54	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒少量含む。
				2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
				3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P6	楕円形	88×67	25	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物(10㎜程度)少量含む。
				2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)・焼土ブロック(10㎜程度)・炭化物(10㎜程度)多量含む。
P7	円形	80×79	39	①	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・焼土ブロック(10㎜程度)少量含む。
				②	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、炭化物(10㎜程度)少量含む。
P8	円形	53×48	8	1	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色シルトとの混合土、炭化物粒多量含む。
P9	隅丸方形	44×(25)	6	1	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色シルトとの混合土、炭化物粒多量含む。
P10	方形	36×34	17	1	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P11	隅丸方形	66×62	24	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
				2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック(10～20㎜程度)含む。

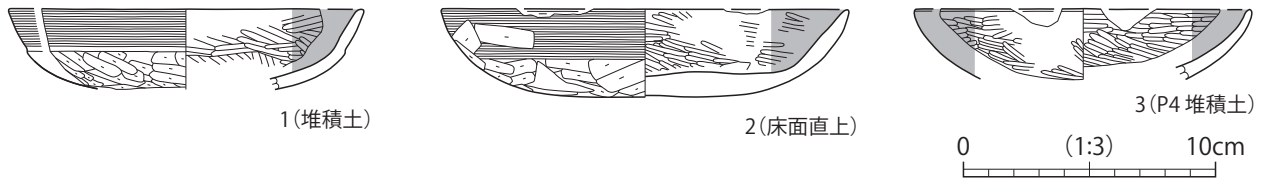
【カマド】 東壁中央部のやや南寄りに位置し、東壁に直交して付設される。北袖の北西側は撹乱により失われている。北袖が長さ 71cm、幅 40cm、南袖が長さ 62cm、幅 31cm を測る。袖は壁面に対し直交するように付設される。燃焼部の規模は奥行き 68cm、幅 62cm を測り、奥壁は撹乱により失われている。底面は 5cm 程窪み、焚き口付近に長軸 12cm、深さ 12cm の小ピットが検出された。支柱を据えた痕跡と考えられる。煙道部は大半が失われているが、長軸 30cm、深さ 5cm の煙出し部が検出された。

【その他の施設】 床面から土坑 7 基（P5 ～ 11）を検出した。P5 は南西隅に位置し、規模は長軸 55cm、深さ 27cm を測る。規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。P6・7 はカマド西側に位置し、重複して検出された。規模は P6 が長軸 88cm、深さ 25cm、P7 が長軸 80cm、深さ 39cm を測る。いずれも焼土ブロックを含み、カマドに関連する施設と考えられる。P11 は南東隅に位置し、規模は長軸 66cm、深さ 24cm を測る。規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 深さ 4 ～ 6cm で、底面にはやや起伏がみられる。

【出土遺物】 カマド及び床面施設、床面直上、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。土師器坏 3 点を掲載した（第 42 図）。1・3 は住居堆積土、2 は床面直上からの出土である。1 は底部から体部が扁平に湾曲し、口縁部が直線的に外傾する。口縁部と体部の境は、外面に段を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2 は丸底状の平底で、口縁部が直線的に外傾する。調整は、外面は口縁部ヨコナデ後一部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。3 は体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。調整は、内外面ともヘラミガキ後、黒色処理が施される。

【時期】 床面直上から出土した土師器坏（第 42 図－ 2）は本竪穴住居跡に伴うと考えられ、本竪穴住居跡の時期は 6a 期（8 世紀前葉）と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-052	SI302	堆積土	土師器	坏	(14.0)	-	(3.2)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	22
2	C-054	SI302	床面直上	土師器	坏	16.0	5.0	3.5	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗｹｽﾞﾘ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	22
3	C-053	SI302P4	堆積土	土師器	坏	(13.6)	-	(2.8)	口縁～体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面黒色処理	22

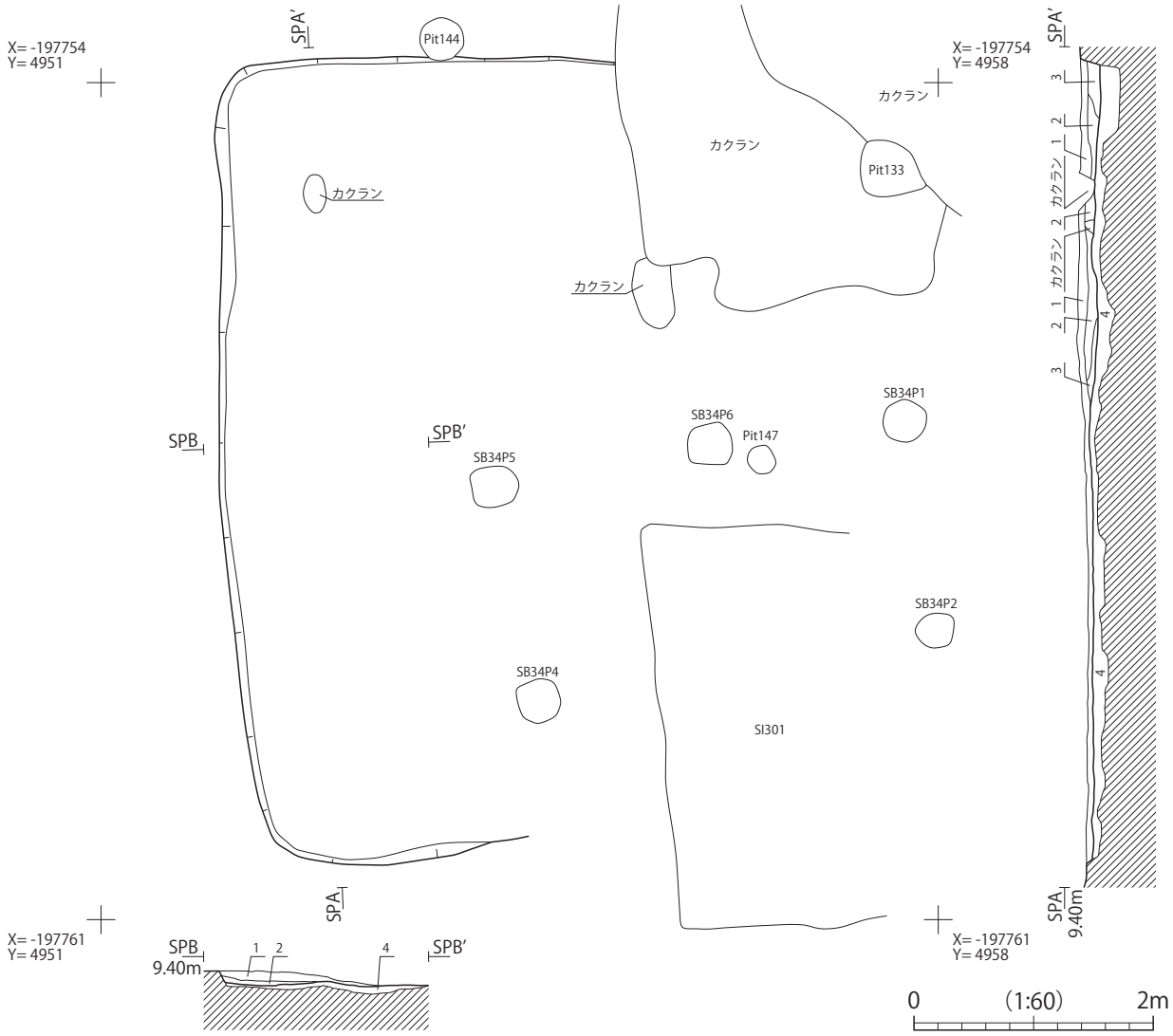
第 42 図　SI302 竪穴住居跡出土遺物

SI303 竪穴遺構（第 43・44 図）

【位置・確認】 調査区中央部西側の 15・19・23 グリッドに位置する。撹乱により東側が失われている。柱穴などの床面施設が確認できないことから竪穴遺構とした。

【重複】 SI304、SB34・41、SD65・251、P163 ～ 167 と重複し、SI304、SD251、P163 ～ 167 より新しく、SD65、SB34・41 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 689cm、短軸 350cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推察される。



第 43 図　SI303 竪穴遺構

SI303 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
竪穴遺構堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。
竪穴遺構掘り方	4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。

【方向】 西壁を基準としてＮ－4°－Ｗである。

【堆積土】 4 層に分層した。1 ～ 3 層は堆積土で、4 層は掘り方埋土である。

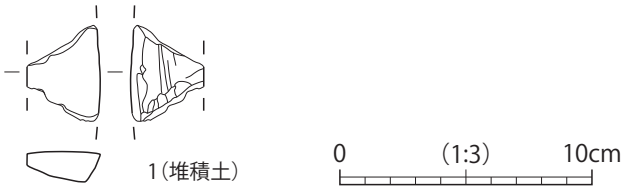
【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存部の壁高は、2 ～ 18cm を測る。

【床面】 起伏がみられ、北から南へ向かい緩やかに傾斜する。

【掘り方】 起伏が著しく北西隅がやや深く掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土から土師器・須恵器・石製品が少量出土している。砥石 1 点を掲載した（第 44 図）。

【時期】 時期を決定できる遺物はないが、6a 期（8 世紀前葉）以降と考えられる SB34 より古い。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
1	Kd-001	SI303	堆積土	石製品	砥石	(3.8)	2.9	1.2	14.3	凝灰岩	欠損品、板状、表・裏・右側面砥面	23

第 44 図　SI303 竪穴遺構出土遺物

SI304 竪穴住居跡（第 45・46 図）

【位置・確認】 調査区中央部西端の 14・15・18・19 グリッドに位置する。重複遺構と撹乱により、北東隅及び南東隅が失われている。西側は調査区外へ延びる。Ⅳ層上面で検出したが、調査区断面の観察から、Ⅲ層上面から掘り込まれていることを確認した。

【重複】 SI303、SD65・251・261 と重複し、これらより古い。

【規模・形態】 検出された規模は長軸 465cm、短軸 450cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてＮ－30°－Ｅである。

【堆積土】 16 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土である。4 ～ 13 層はカマド関連の堆積土で、9 層は焼土、10 ～ 12 層はカマド袖構築土、13 層はカマド掘り方埋土である。14a・14b 層は周溝堆積土、15・16 層は掘り方埋土である。

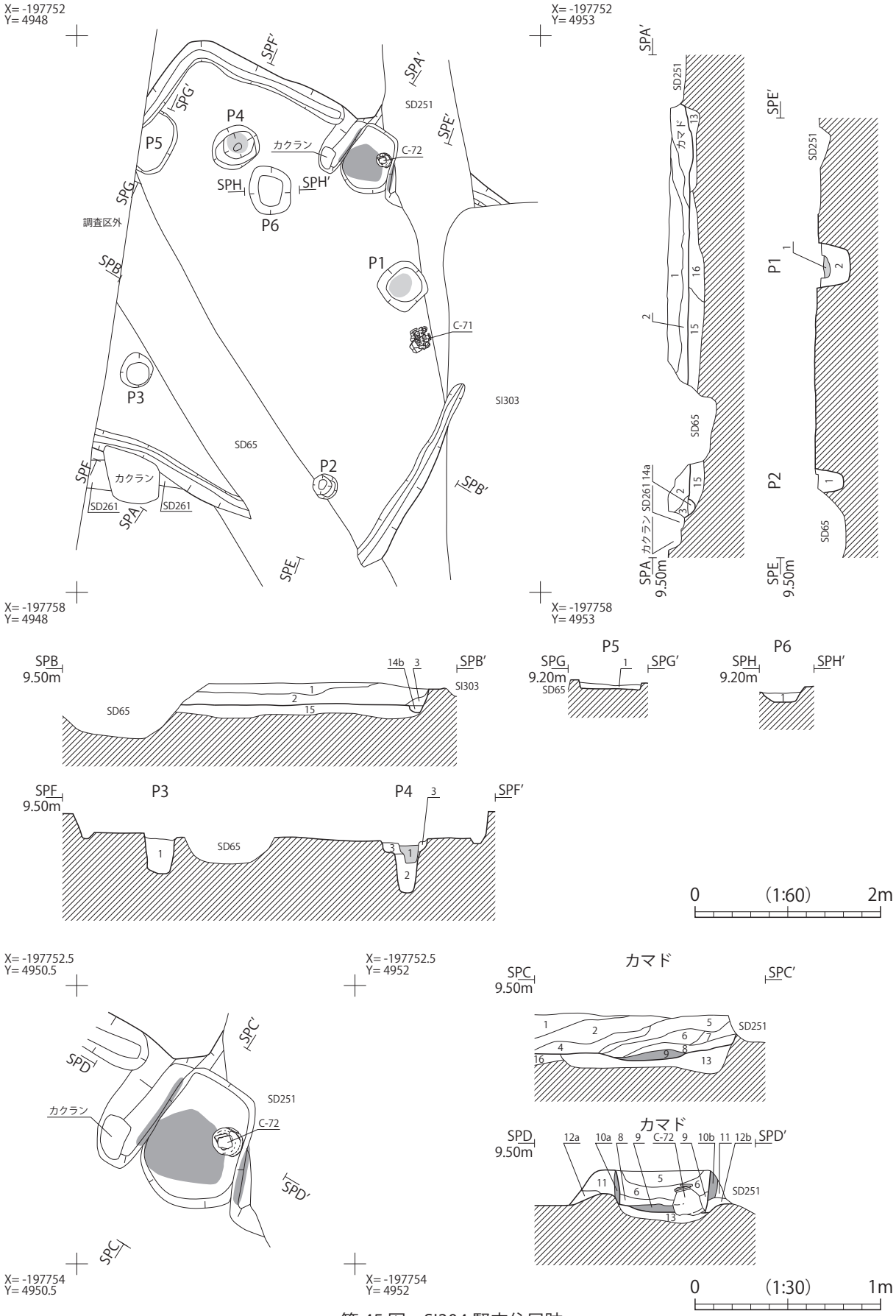
【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、17 ～ 25cm を測る。

【床面】 カマド付近は 16 層上面、その他は 15 層上面を床面とする。検出した部分では、わずかに起伏があるが概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、P1・4 からは柱痕跡を確認した。規模は長軸 28 ～ 54cm、深さ 30 ～ 58cm を測る。

【周溝】 検出した部分では、カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈する。規模は幅 11 ～ 26cm、深さ 5 ～ 9cm を測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、北壁に直交して付設される。重複遺構により東袖の一部及び煙道は失われている。袖の規模は、西袖が長さ 69cm、幅 28cm、東袖が長さ 60cm 程である。壁面に対して東袖は東傾し、西袖は直交する。



第 45 図　SI304 竪穴住居跡

SI304 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	斑状にⅣ層土ブロック含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/6 褐色	シルト	黒色シルトブロック(10㎜程度)多量含む。
カマド	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量、焼土ブロック微量含む。
	5	7.5YR4/3 褐色	シルト	焼土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物(10㎜程度)・Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、焼土微量含む。
	7	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	焼土ブロック(10㎜程度)少量、炭化物・焼骨少量含む。
	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルト少量含む。
	9	2.5YR4/6 赤褐色	シルト	※焼土
カマド袖	10a	2.5YR3/6 暗赤褐色	シルト	※被熱痕跡
	10b	2.5YR4/6 赤褐色	シルト	※被熱痕跡
	11	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	粘土ブロック(5㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
	12a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	粘土粒少量、焼土粒微量含む。
	12b	10YR3/3 暗褐色	シルト	粘土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
周溝	14a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック(20㎜程度)多量含む。
	14b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック(20㎜程度)多量含む。
住居掘り方	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルト粒多量含む。
	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)と黒色シルトブロック(20～50㎜程度)の混合土。

SI304 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	方形	48×47	37	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロック微量含む。※柱痕跡
				2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P2	円形	28×26	30	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック多量含む。
P3	楕円形	37×33	45	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P4	楕円形	54×47	58	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色シルト粒多量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
				3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック多量含む。
P5	隅丸方形	69×40	9	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土と褐色シルトの混合土。
P6	隅丸方形	52×45	15	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～30㎜程度)少量、褐色シルトブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。

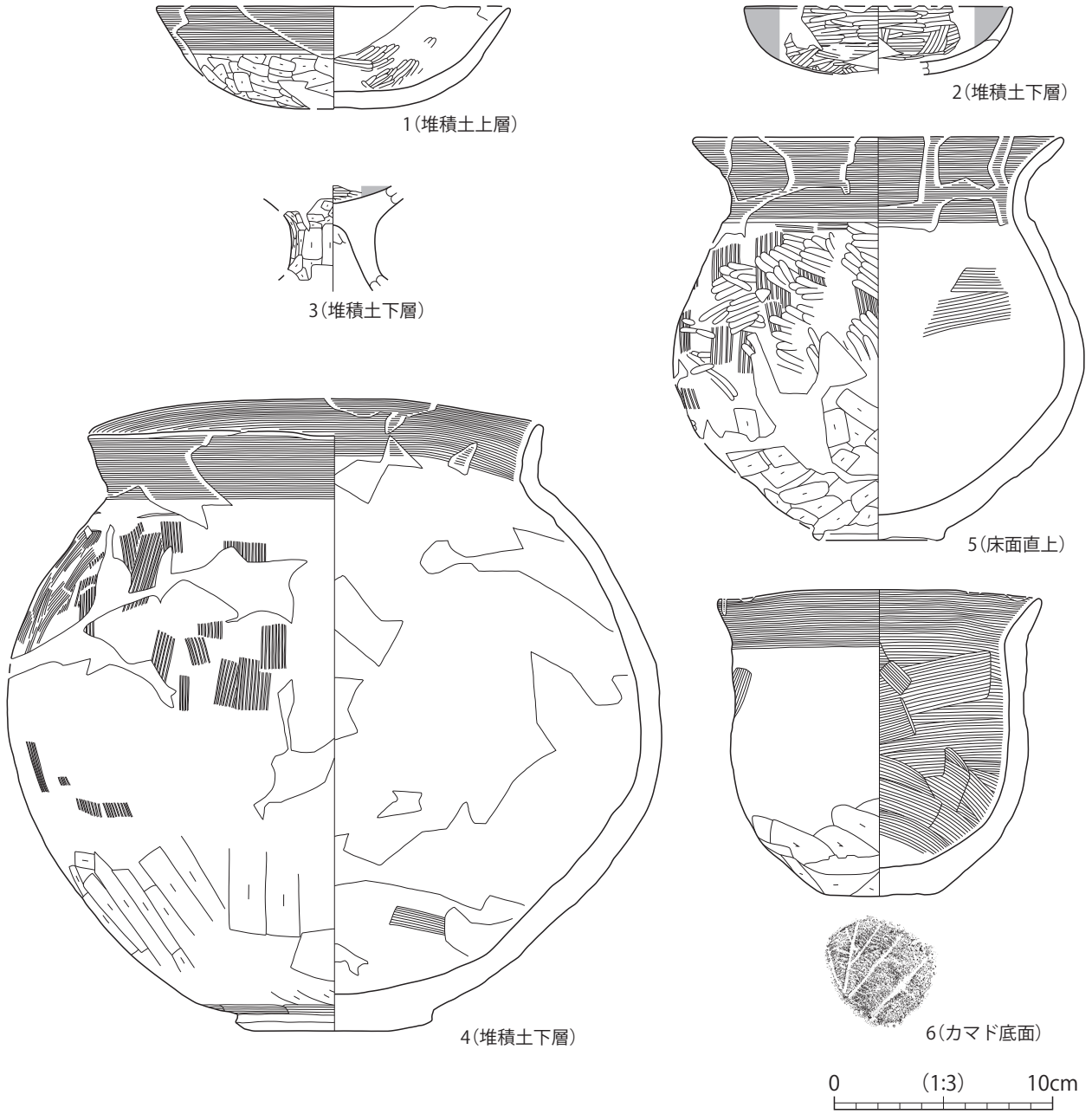
燃焼部の規模は奥行き 72cm、幅 41 ～ 65cm、奥壁高 5cm 程である。奥壁は直線的に外傾して立ち上がる。底面は皿状に窪み、長軸 40cm 程の焼土がみられる。焼土上面の東袖際から土師器甕（第 46 図－ 6）が倒立位で出土した。土師器甕は全体的に二次被熱による赤色変化がみられ、底部上面には土器片が 3 枚重ねられて出土している。出土状況から支脚に転用されたものと考えられる。煙道部は基部の一部のみ検出した。深さ 13cm である。

【その他の施設】 床面から土坑 1 基（P5）、掘り方から土坑 1 基（P6）を検出した。

【掘り方】 深さ 3 ～ 12cm で、底面には起伏がみられる。

【出土遺物】 カマド及び床面施設、床面直上、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。土師器坏 2 点、高坏 1 点、甕 3 点を掲載した（第 46 図）。1 は堆積土上層、2・3・4 は堆積土下層、5 は床面直上、6 はカマド底面からの出土である。1・2 は土師器坏である。1 は底部が平底状の丸底で、口縁部が直線的に外傾する。口縁部と体部の境は、外面に稜を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキである。2 は体部から口縁部にかけて内湾する。調整は、内外面ともヘラミガキ後、黒色処理が施される。3 は土師器高坏の脚部で、4 ～ 5 は土師器甕である。4 は最大径が胴部中位にある大型の球胴甕で、口縁部が短く直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴上半ハケメ、胴下半ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。5 は最大径が胴部中位にある中型の球胴甕で、口縁部が外反する。口縁部と体部の境は、外面に段を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴上半ハケメ後ミガキ、胴下半ヘラケズリ、内面は口縁部がヨコナデ、胴部ヘラナデである。6 は小型の甕で、全体的に二次被熱による赤色変化がみられる。最大径が口縁部と胴部中位にあり、口縁部が短く外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴上半ヘラナデ、胴下半ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。底面には木葉痕がみられる。

【時期】 床面直上及びカマドから出土した土師器甕（第 46 図－ 5・6）は本竪穴住居跡に伴うと考えられる。明確な時期は不明であるが、4 期（7 世紀中葉～後葉）以前に帰属すると考えられる。このことから、本竪穴住居跡の時期は 4 期以前と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-056	SI304	堆積土上層	土師器	坏	(16.0)	(3.8)	(4.7)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		23
2	C-057	SI304	堆積土下層	土師器	坏	(12.2)	-	(3.1)	口縁～底部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面黒色処理	23
3	C-055	SI304	堆積土下層	土師器	高坏	-	-	(4.8)	坏底～脚部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	坏部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 脚部：ﾅﾃﾞ	内面黒色処理	23
4	C-070	SI304	堆積土下層	土師器	甕	(20.8)	6.2	29.0	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾊｹﾒ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		23
5	C-071	SI304	床面直上	土師器	甕	(17.0)	5.8	18.4	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	底面剥離	23
6	C-072	SI304	ｶﾏﾄﾞ底面	土師器	甕	(14.8)	5.0	14.0	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	底面木葉痕	23

第 46 図　SI304 竪穴住居跡出土遺物

SI305 竪穴住居跡（第 47 図）

【位置・確認】 調査区北部中央の 16 グリッドに位置する。撹乱により大半が失われており、残存状況が悪い。北西隅から床面中央付近にかけての一部と、南壁際の一部を検出した。

【重複】 SI299、SB30、SK278 と重複し、SK278 より新しく、SB30 より古い。SI299 とは撹乱により新旧関係が

確認できなかった。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 290cm、短軸 240cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推察される。

【方向】 西壁を基準として N － 3°－ W である。

【堆積土】 3 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3 層は掘り方埋土である。

【壁面】 緩やかに傾斜して立ち上がる。壁高は、6 ～ 10cm を測る。

【床面】 検出された部分では 3 層上面を床面とする。南側がわずかに高くなるが、概ね平坦である。

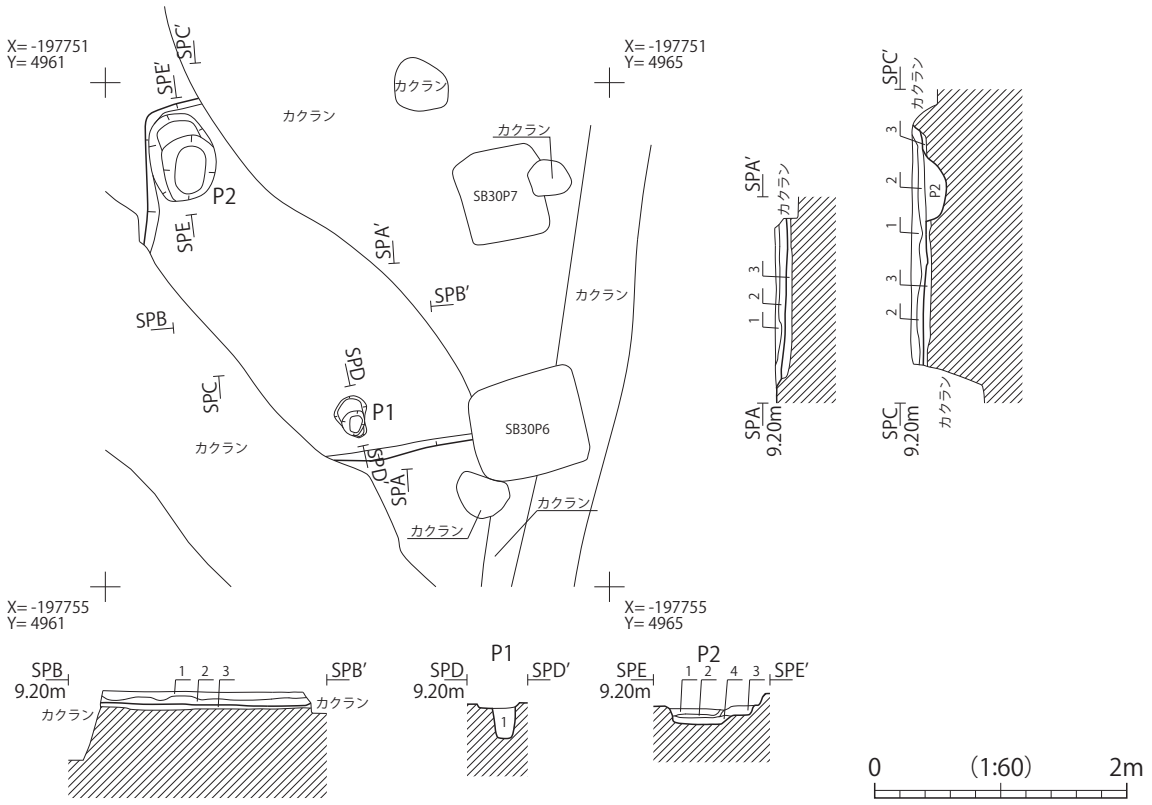
【柱穴】 床面から 1 基（P1）検出した。規模は長軸 34cm、深さ 30cm を測る。位置的に壁柱穴か補助柱穴と考えられる。

【その他の施設】 床面から土坑 1 基（P2）を検出した。規模は長軸 70cm、深さ 15cm で、底面は南側が深く掘り込まれている。堆積土は 4 層に分層され、2 層は炭化物層である。規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 深さ 2 ～ 6cm で、底面には起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器・須恵器の破片が出土したが、図化できる遺物はなかった。

【時期】 時期を決定できる遺物はないが、6a 期（8 世紀前葉）以降と考えられる SB30 より古い。



SI305 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30㎜程度）多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰白色粘土ブロック（5～10㎜程度）・黒色シルトブロック（10～30㎜程度）・焼土粒微量含む。

SI305 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	不整楕円形	34×26	30	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P2	楕円形	70×53	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。
				2	10YR1.7/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、Ⅳ層土ブロック（30㎜程度）・焼土粒少量含む。
				3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。
				4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（20㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。

第 47 図　SI305 竪穴住居跡

SI306 竪穴住居跡（第 48・49 図）

【位置・確認】 調査区南部西側の 33・36・37 グリッドに位置する。撹乱により削平を受け上部が失われている。ピット及び貯蔵穴の可能性がある土坑の配置から竪穴住居跡として調査を行った。

【重複】 Pit177・184 と重複し、Pit177 より新しく、Pit184 より古い。

【規模・形態】 規模は撹乱で上部が失われているため確認できなかった。平面形状は方形と推察される。

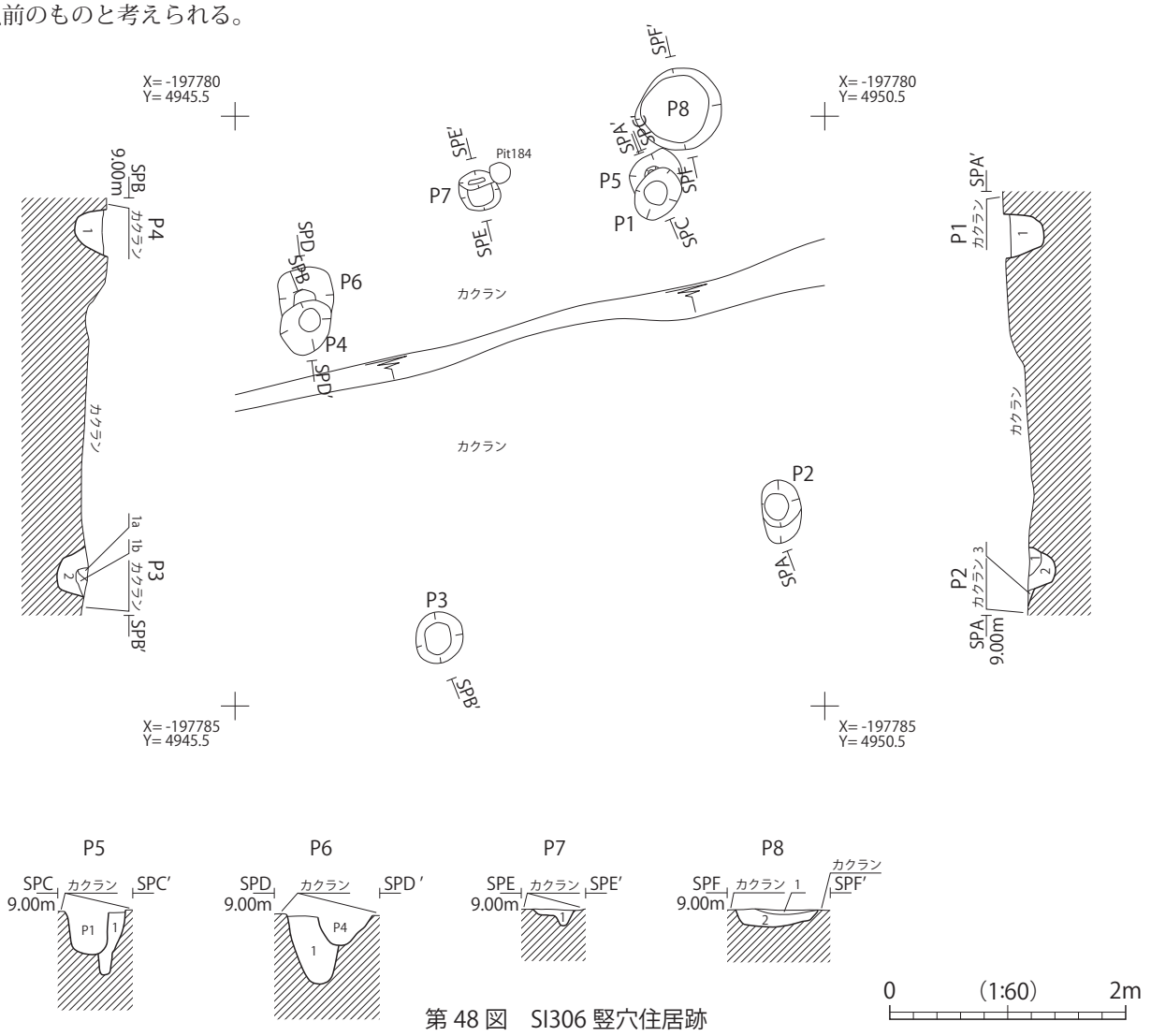
【方向】 P1 と P2 を結ぶ方向を基準として N － 22°－ W である。

【柱穴】 6 基（P1 ～ 6）検出した。P1 ～ 6 は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。このうち P1 と P5、P4 と P6 は互いに重複しており、建て替えが行われていた可能性が考えられる。P1 ～ 4 の規模は長軸 44 ～ 55cm、深さ 23 ～ 32cm、P5・6 の規模は長軸 45cm 前後、深さ 55cm 前後である。

【その他の施設】 ピット 1 基（P7）、土坑 1 基（P8）を検出した。P8 は長軸 74cm、深さ 14cm で、規模や位置関係から貯蔵穴の可能性が考えられる。

【出土遺物】 土師器坏 1 点を掲載した（第 49 図）。P4 堆積土からの出土である。底部から体部が内湾し、口縁部が直線的に外傾する。口縁部と体部の境は、外面に明瞭な段を持ち、内面に稜を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

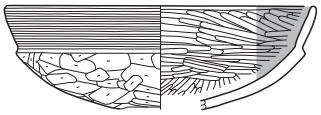
【時期】 本竪穴住居跡に伴う遺物はないが、P4 から出土した土師器坏（第 49 図－ 1）は 4 期（7 世紀中葉～後葉）以前のものと考えられる。



第 48 図　SI306 竪穴住居跡

SI306 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	楕円形	46×36	32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。
P2	長楕円形	55×33	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
				2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)多量含む。
				3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。
P3	円形	44×41	25	1a	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
				1b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト微量含む。
				2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
P4	楕円形	48×42	27	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P5	不整円形	45×(29)	54	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P6	方形	46×(39)	56	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。
P7	隅丸方形	35×33	13	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土微量含む。
P8	円形	74×71	14	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルト微量含む。
				2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルトブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。



1(P4 堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-058	SI306P4	堆積土	土師器	坏	(12.2)	-	(4.1)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	23

第 49 図　SI306 竪穴住居跡出土遺物

SI307 竪穴住居跡（第 50 図）

【位置・確認】 調査区中央部東端の 20・21・24・25 グリッドに位置する。西壁際のみ検出した。撹乱により南側床面は失われている。大半が調査区外に延びる。

【重複】 SB31、SK280、Pit127・135・235・237 と重複し、SK280、Pit127・135・235・237 より新しく、SB31 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 382cm、短軸 151cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推察される。

【方向】 西壁を基準として N － 7°－ E である。

【堆積土】 3 層に分層した。1 層は住居堆積土で、2 層は周溝堆積土である。3 層は掘り方埋土である。

【壁面】 ほぼ直立して立ち上がる。壁高は、2 ～ 7cm を測る。

【床面】 3 層上面を床面とする。概ね平坦であるが、やや起伏がみられる。

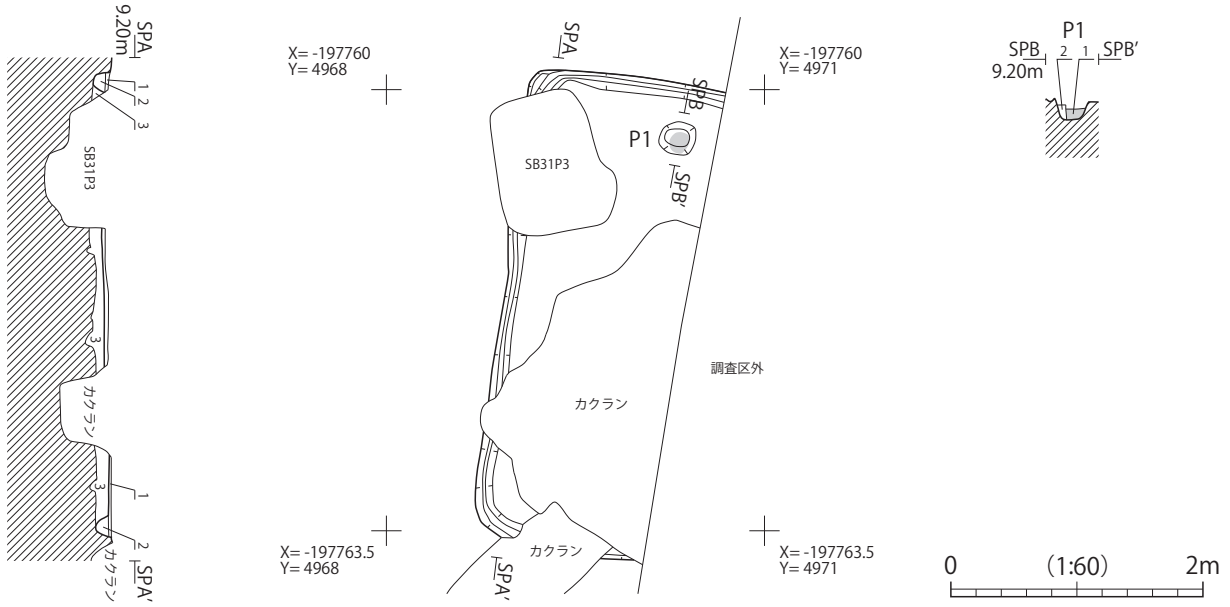
【柱穴】 床面から 1 基（P1）検出した。P1 は長軸 28cm、深さ 19cm を測り、柱痕跡径 22cm である。

【周溝】 検出した部分では壁面に沿って全周する。北西隅付近は蛇行している。断面は「U」字状を呈する。規模は幅 9 ～ 17cm、深さは 6 ～ 14cm を測る。

【掘り方】 ほぼ平坦であるが、壁に向かい緩やかに傾斜する。掘り方底面では工具痕跡を多数検出した。

【出土遺物】 堆積土及び掘り方から土師器・須恵器が少量出土している。土師器坏 2 点を掲載した（第 50 図）。1 は堆積土、2 は掘り方からの出土である。1 は口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部が内湾気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後、一部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2 は底部から体部が扁平に内湾し、口縁部と体部の境は、外面に稜を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。

【時期】 時期を決定できる遺物はないが、掘り方から 4 期（7 世紀中葉～後葉）以降と考えられる土師器坏（第 50 図－ 2）が出土しており、6a 期（8 世紀前葉）と考えられる SB31 より古いことから、本竪穴住居跡の時期は 4 ～ 6a 期と考えられる。



SI307 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
周溝	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量含む。
住居掘り方	3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(30～40㎜程度)と褐色シルトブロック(30～50㎜程度)の混合土。

SI307 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1	円形	28×26	19	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡
				2	7.5YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色シルト粒少量含む。

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-063	SI307	堆積土	土師器	坏	-	-	-	口縁:ヨコナデ→ヘラミガキ 体部:ヘラケズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	23
2	C-073	SI307	掘り方	土師器	坏	-	-	(3.3)	口縁:ヨコナデ 体～底部:ヘラケズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	23

第 50 図　SI307 竪穴住居跡・出土遺物

SI308 竪穴住居跡（第 51 ～ 54 図）

【位置・確認】 調査区中央部の 23・24・27・28 グリッドに位置する。南側は撹乱により失われる。北側約 1/2 と撹乱底面からピットを検出した。

【重複】 SD246、SK270、Pit201・206・216 と重複し、Pit201・206・216 より新しく、SD246、SK270 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 450cm、短軸 440cm 以上である。平面形状は隅丸方形と推察される。

【方向】 カマドを基準として N － 26°－ W である。

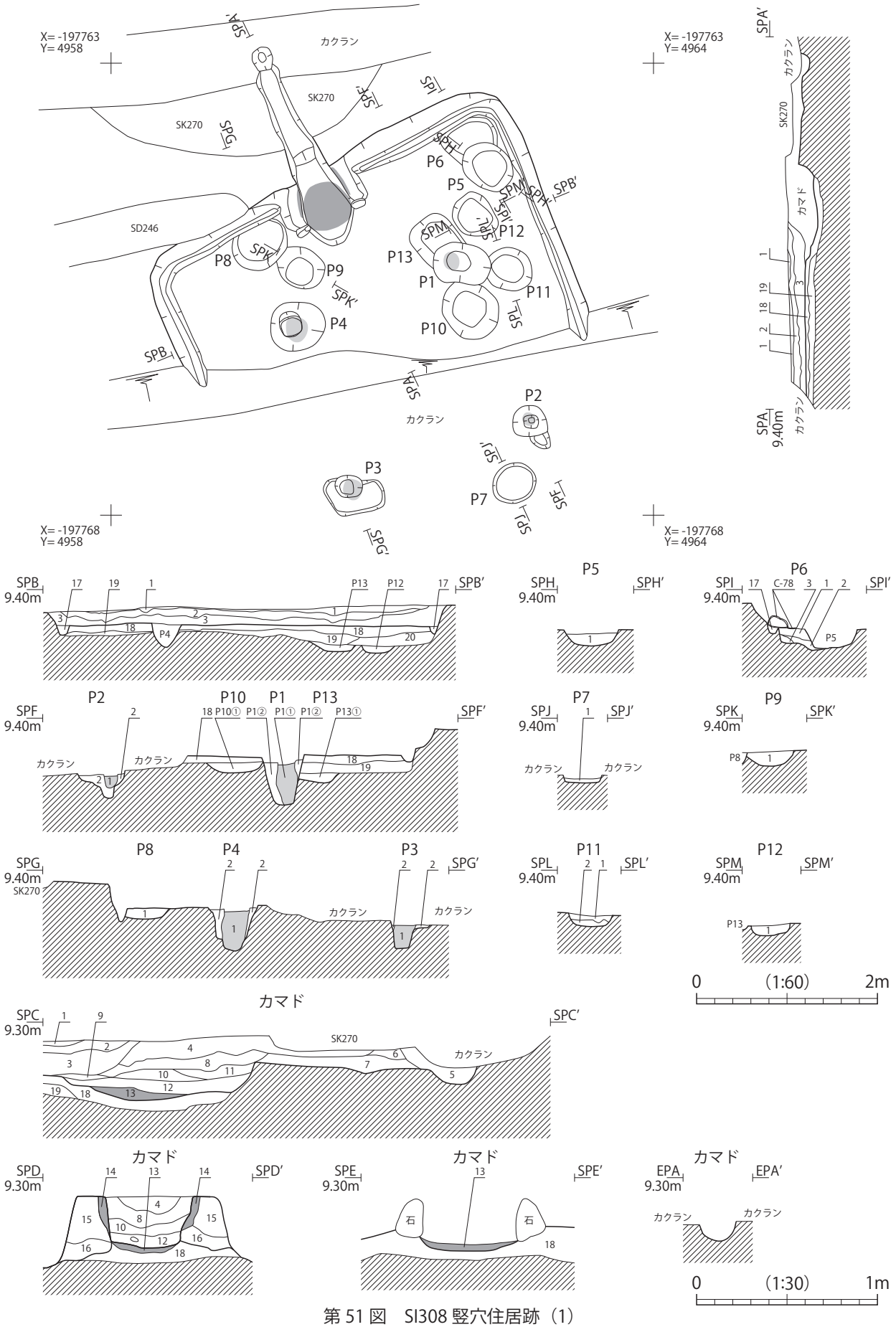
【堆積土】 20 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土である。4 ～ 16 層はカマド関連の堆積土で、13 層は焼土、14 ～ 16 層はカマド袖構築土である。17 層は周溝堆積土で、18 ～ 20 層は掘り方埋土である。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、15 ～ 28cm を測る。

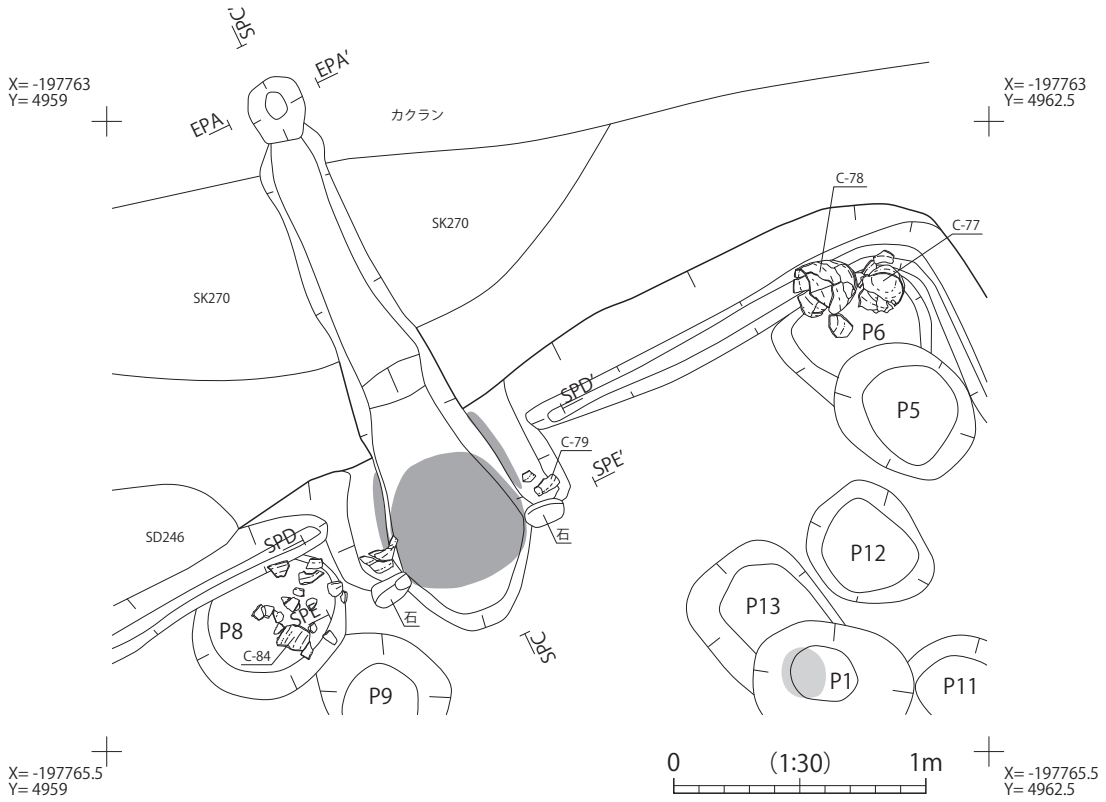
【床面】 18 層上面を床面とする。概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。規模は長軸 52 ～ 65cm、深さ 28 ～ 56cm を測り、柱痕跡は径 15 ～ 27cm である。

【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って検出された。断面は「V」字状を呈する。規模



第 51 図　SI308 竪穴住居跡（1）



SI308 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルト粒多量、Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土・炭化物粒微量含む。
カマド	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒色シルト微量含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(5㎜程度)微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック(20～30㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	7	7.5YR1.7/1 黒色	シルト	灰褐色シルトブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	8	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト少量、灰・炭化物粒微量含む。
	10	2.5Y2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)少量、Ⅳ層土粒微量含む。
	11	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。
	12	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(10～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	13	5YR3/6 暗赤褐色	シルト	褐色砂質シルトブロック(5㎜程度)含む。※焼土
カマド袖	14	2.5YR4/6 赤褐色	シルト	※被熱痕跡
	15	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロック(10㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
	16	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	褐色シルト粒多量、黒色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。
周溝	17	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
住居掘り方	18	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	灰白色粘土質シルトブロック(10～50㎜程度)多量、黒色シルトブロック(10～50㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～50㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	20	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～100㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI308 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考
P1	楕円形	65×44	56	①	7.5YR2/3 極暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。※柱痕跡
				②	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・黒色シルトブロック(10～20㎜程度)微量含む。
P2	不整形	52×38	31	1	7.5YR2/3 極暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
				2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
P3	隅丸長方形	60×45	28	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡
				2	10YR4/6 褐色	シルト	黒色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P4	円形	62×55	48	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
				2	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
P5	楕円形	59×48	20	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック・焼土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
P6	不整楕円形	57×(27)	23	1	10YR4/6 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
				2	10YR2/3 黒褐色	シルト	黒色シルトブロック、Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)含む。
				3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルト粒少量含む。
P7	円形	50×43	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～15㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
P8	円形	65×55	12	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P9	楕円形	(51)×44	16	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、焼土ブロック(10㎜程度)・炭化物含む。
P10	円形	65×60	14	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～40㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P11	円形	50×47	15	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
				2	2.5Y2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(10㎜程度)少量含む。
P12	不整楕円形	54×43	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P13	隅丸長方形	(50)×48	10	①	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。

第 52 図　SI308 竪穴住居跡（2）

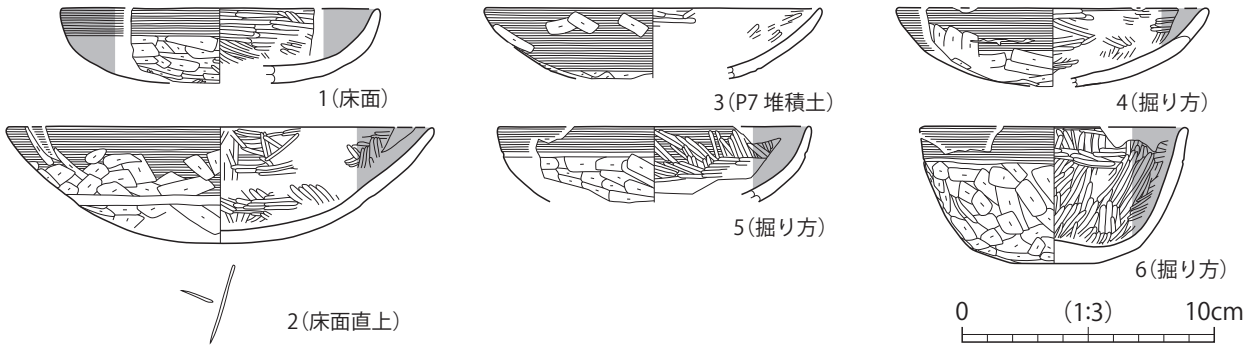
は幅 18 ～ 23cm、深さ 8 ～ 14cm を測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、北壁に直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 50cm、幅 26cm、西袖が長さ 48cm、幅 22cm を測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設される。両袖先端部から長さ 25cm 前後、幅 14cm 前後、厚さ 10cm 前後の礫が直立した状態で出土した。礫は楕円形礫を打ち割り平坦になった面を下にして据えられており、出土状況からカマド芯材と考えられる。燃焼部の規模は奥行き 110cm、幅 42 ～ 56cm、奥壁高 18cm 程である。底面は皿状に 10cm 程窪み、径 52cm 程の焼面がみられる。奥壁は壁面から 25cm 程壁外に張り出す。煙道部は基部が広く先端が狭くなり、煙出し部に向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ 124cm、幅 40 ～ 29cm、深さ 10cm 前後で、煙出し部分はピット状に掘り込まれる。

【その他の施設】 床面から土坑 4 基（P5・6・8・9）、掘り方から土坑 4 基（P10 ～ 13）、撹乱底面から土坑 1 基（P7）を検出した。P5・6 は北東隅に位置し、重複して検出された。規模は長軸 57 ～ 59cm、深さ 20 ～ 23cm を測る。いずれも堆積状況から人為的に埋め戻されていると考えられ、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。P8・9 はカマド西側の床面から重複して検出された。P8 は長軸 65cm、深さ 12cm で、堆積土中から土師器甕（第 54 図－ 8）が出土した。P9 は長軸 51cm、深さ 16cm で、堆積状況から人為的に埋め戻されていると考えられる。

【掘り方】 深さ 4 ～ 13cm である。底面には起伏がみられ、北東隅が低くなる。

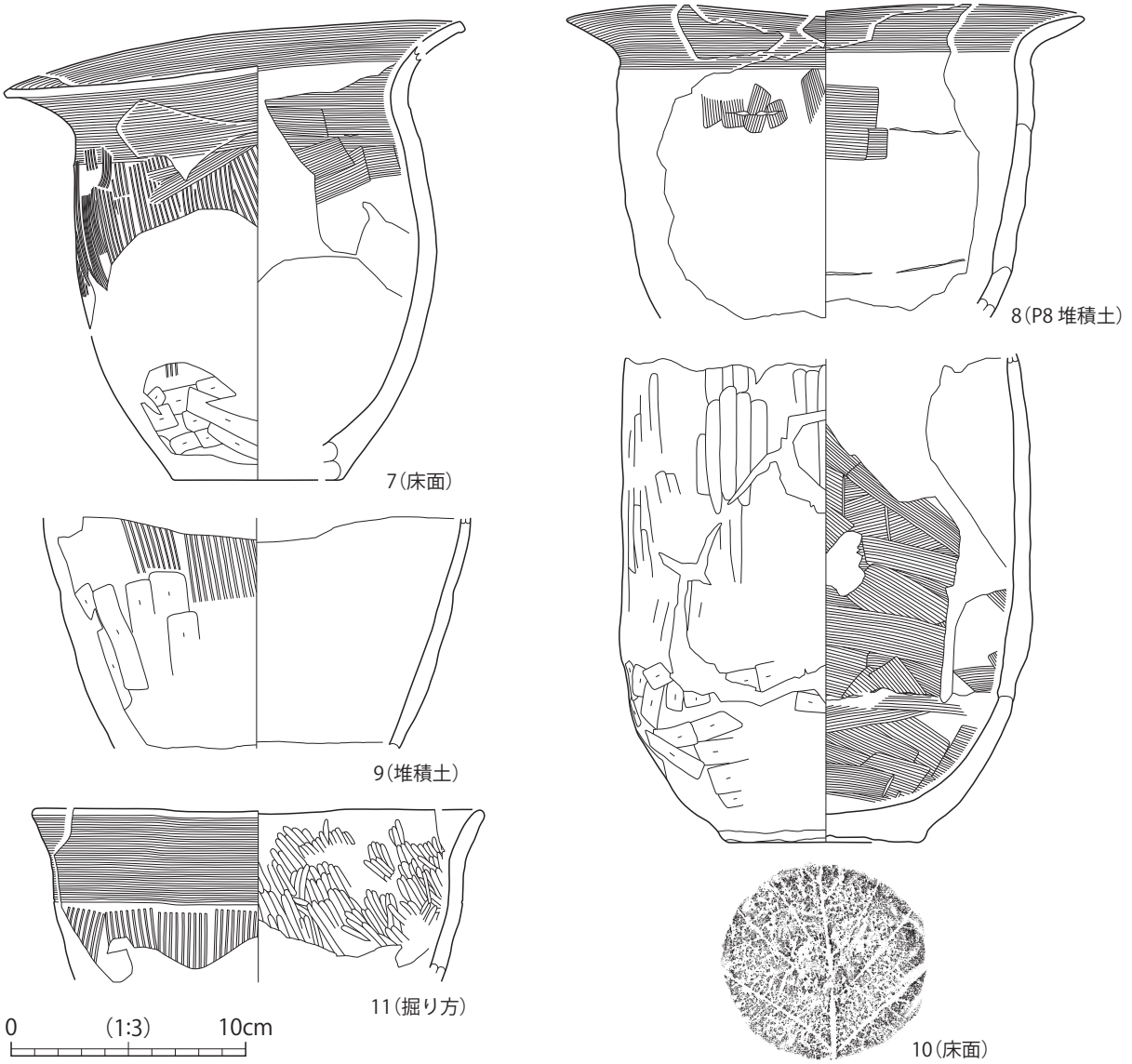
【出土遺物】 カマド及び床面施設、床面直上、堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土している。土師器坏 6 点、甕 4 点、甑 1 点を掲載した（第 53・54 図）。1・7・10 は床面、2 は床面直上、3 は P7、8 は P8、9 は堆積土、4 ～ 6・11 は掘り方からの出土である。1 ～ 6 は土師器坏で、器形・調整に多様性がある。1 は扁平な半球状である。2 ～ 4 は底部から体部が扁平に内湾し、2・3 は口縁部が内湾気味に大きく開き、4 は直線的に開く。5 は体部が内湾し、口縁部が短く外傾する。6 は椀状の坏である。平底状の丸底で、口縁部が内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境は、2・3・5・6 の外面に沈線状の段がみられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリが基本であるが、1 の底部付近にはヘラミガキがみられる。2 ～ 4 は口縁部の一部にヘラケズリが施される。内面はヘラミガキ後、黒色処理を基本とし、1 は内外面に黒色処理が施される。7 ～ 10 は土師器甕で、7・8 は口縁部と胴部の境に稜を持ち、口縁部が大きく外反する。10 は長胴甕の胴部で、底面に木葉痕がみられ、上げ底状である。11 は土師器甑で、口縁部と体部の境は、外面に沈線状の段を持つ。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-076	SI308	床面	土師器	坏	(12.4)	-	(3.0)	口縁：ヨコナデ 体～底部：ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面黒色処理	23
2	C-075	SI308	床面直上	土師器	坏	16.9	2.8	4.6	口縁：ヨコナデ →ヘラケズリ 体～底部：ヘラケズリ	ヘラミガキ	外面底部線刻 内面黒色処理	23
3	C-085	SI308P7	堆積土	土師器	坏	(13.4)	-	(2.8)	口縁～体部：ヨコナデ →ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ	ヘラミガキ		23
4	C-080	SI308	掘り方	土師器	坏	(12.4)	-	(3.1)	口縁：ヨコナデ 体～底部：ヘラケズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	23
5	C-083	SI308	掘り方	土師器	坏	(12.4)	-	(3.0)	口縁：ヨコナデ 体部：ヘラケズリ	口縁：ヨコナデ →ヘラミガキ 体部：ヘラミガキ	内面黒色処理	23
6	C-081	SI308	掘り方	土師器	坏	(10.6)	(3.4)	5.4	口縁：ヨコナデ 体～底部：ヘラケズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	23

第 53 図　SI308 竪穴住居跡出土遺物（1）

【時期】 床面直上から出土した土師器坏（第 53 図－ 2）は本竪穴住居跡に伴うと考えられ、本竪穴住居跡の時期は 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
7	C-077	SI308	床面	土師器	甕	(17.7)	7.0	17.7	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴上半:ﾊｹﾒ→一部ﾍﾗﾅﾃﾞ 胴下半:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		24
8	C-084	SI308P8	堆積土	土師器	甕	(21.8)	-	(13.3)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ　胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ　胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		24
9	C-079	SI308	堆積土	土師器	甕	-	-	(9.9)	胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ		内面摩滅	24
10	C-078	SI308	床面	土師器	甕	-	8.4	(20.8)	胴上半:ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴下半:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	底面木葉痕	24
11	C-082	SI308	掘り方	土師器	甑	(19.4)	-	(7.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ　胴部:ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		24

第 54 図　SI308 竪穴住居跡出土遺物（2）

（2）掘立柱建物跡（第 19・55 ～ 65 図）

掘立柱建物跡 9 棟を検出した。検出状況を概観すると、調査区北東部に比較的大型の掘立柱建物群が集中し、調査区北半部に小型の掘立柱建物が散在する状況である。大型の掘立柱建物群は、規模と主軸方向を同じくする SB30・31 が南北に整然と並び、主軸方向が直交する SB32 と部分的に検出された SB33 で構成される。これらは位置関係や規模、主軸方向から同時期に存在していた可能性が考えられる。また、SB30・31 は建て替えが認められ、継続的に掘立柱建物群が形成されていたと考えられる。小型の掘立柱建物には側柱建物と総柱建物があり、主軸方向は SB30・31 と同じものと直交するものがある。以下、掘立柱建物跡について記載する。

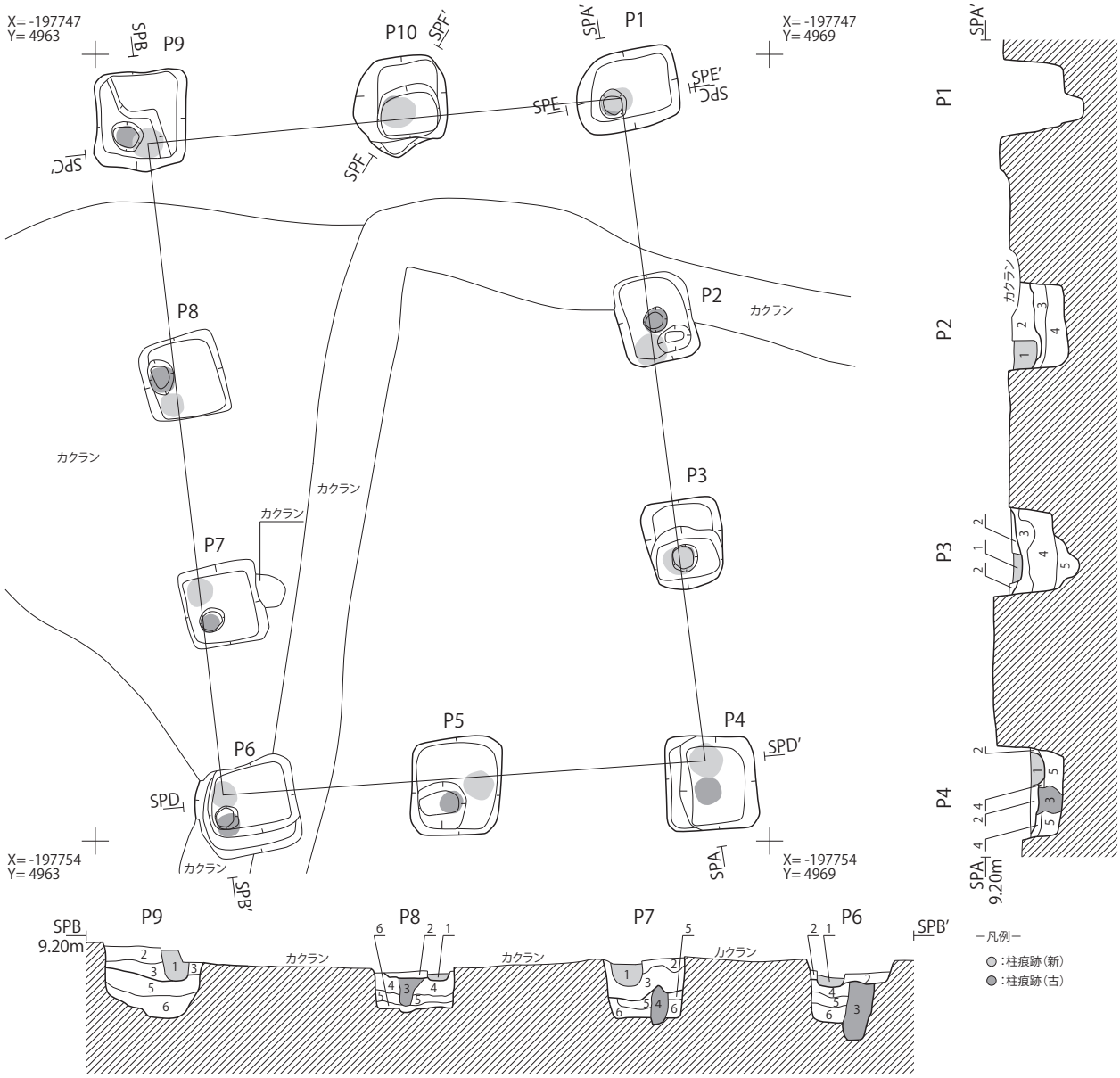
SB30 掘立柱建物跡（第 55・56 図）

調査区北部東側の 12・16 グリッドに位置し、10 基の柱穴を検出した。SI294・295・296・298・299・305、SD255、Pit159 と重複し、SI294・295・296・298・299・305、Pit159 より新しい。SD255 とは直接的な重複関係がないため新旧関係は不明である。

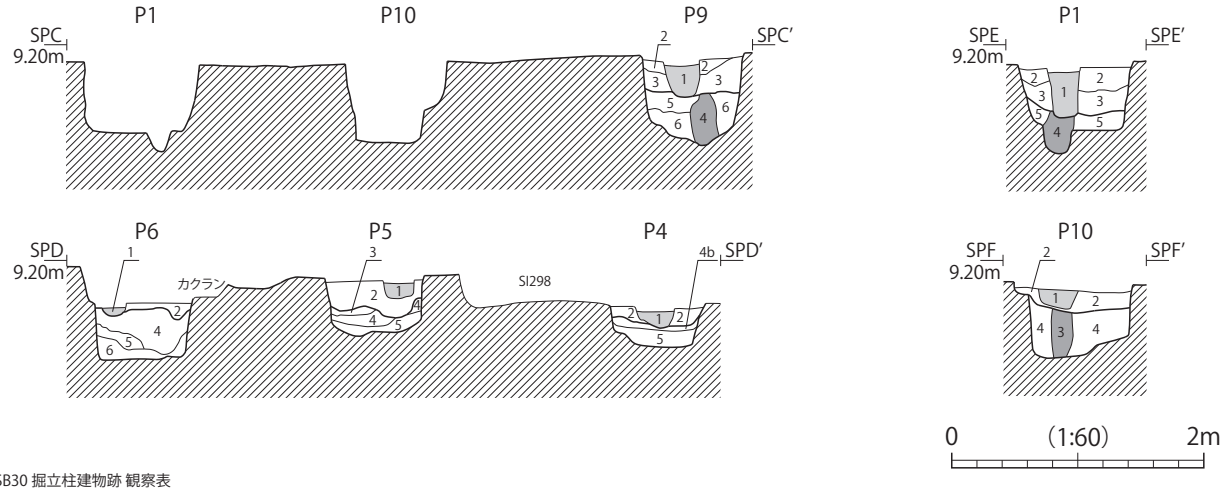
南北 3 間、東西 2 間の南北棟側柱建物跡で、西側桁行を基準とした主軸方向は N － 8°－ W である。規模は桁行総長 580cm、梁行総長 425cm、床面積は約 24.7㎡である。柱間寸法は、西側柱列が北から 230cm、170cm、180cm、北側柱列が西から 225cm、200cm を測る。柱穴の平面形状は方形ないし隅丸方形で、規模は長軸 74 ～ 93cm、短軸 66 ～ 84cm、深さ 42 ～ 79cm を測る。すべての柱穴で柱痕跡が 2 ヶ所みられ、建て替えが行われていることを確認した。これらの柱痕跡は、建て替え前が径 20 ～ 32cm、建て替え後が径 16 ～ 22cm である。

本遺構から土師器・須恵器片が少量出土したが、図化できる遺物はなかった。

時期を決定できる遺物はないが、6a 期（8 世紀前葉）と考えられる SI294 より新しいことから、6a 期以降と考えられる。



第 55 図　SB30 掘立柱建物跡（1）



SB30 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	12	隅丸方形	93×70	73	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡(新)	SI296より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡(古)	
					5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(50㎜程度)と暗褐色シルトブロック(50㎜程度)の混合土。	
P2	12	方形	79×66	71	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～40㎜程度)少量含む。※柱痕跡(新)	SI296より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)少量、焼土粒微量含む。	
					3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)多量含む。	
P3	16	方形	82×68	76	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡(新)	SI296より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)多量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
P4	16	方形	84×77	59	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。※柱痕跡(新)	SI298より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)多量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡(古)	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
P5	16	方形	87×80	51	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。※柱痕跡(新)	SI299より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、焼土粒微量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック(20㎜程度)少量含む。	
					4	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒微量含む。	
					5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック(20～30㎜程度)少量含む。	
P6	16	方形	91×79	70	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。※柱痕跡(新)	SI299・305より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～100㎜程度)少量含む。	
					3	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・焼土粒微量含む。※柱痕跡(古)	
					4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)と褐色シルトブロック(10～30㎜程度)の混合土。	
					5	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					6	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
P7	16	方形	74×68	60	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡(新)	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。	
					3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡(古)	
					5	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)少量含む。	
					6	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック(10～50㎜程度)少量含む。	
P8	12・16	方形	75×73	42	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡(新)	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	※大部分がグライ化する	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)・焼土粒少量含む。※柱痕跡(古)	
					4	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20～50㎜程度)と褐色シルトブロック(10～50㎜程度)の混合土。	
					5	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～40㎜程度)・焼土粒少量含む。	
					6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色シルト粒多量含む。	
P9	12	方形	91×80	79	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡(新)	SI294・295、Pit159より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～100㎜程度)多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(50㎜程度)少量含む。※柱痕跡(古)	
					5	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～100㎜程度)多量、焼土粒含む。	
					6	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(50㎜程度)少量含む。	
P10	12	不整方形	93×84	62	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒、炭化物粒微量含む。※柱痕跡(新)	SI294より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。※柱痕跡(古)	
					4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	

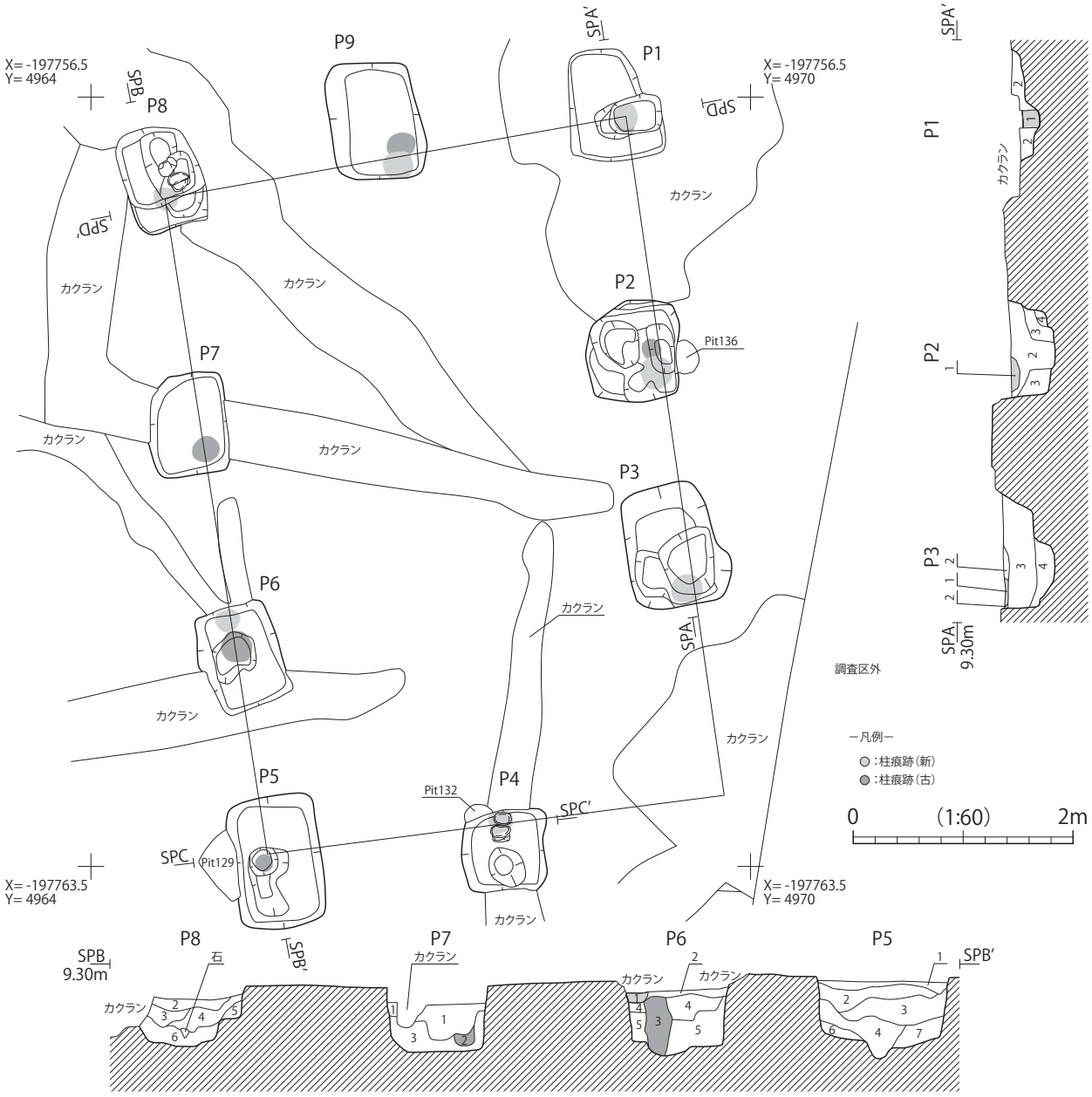
第 56 図　SB30 掘立柱建物跡（2）

SB31 掘立柱建物跡（第 57・58 図）

調査区中央部東側の 20・24 グリッドに位置し、9 基の柱穴を検出した。SI297・298・299・307、SD256、SK277・280、Pit129・132・136・205 と重複し、SI297・299・307、SD256、SK277・280、Pit205 より新しく、Pit129・132・136 より古い。SI298 と重複するが撹乱により新旧関係は確認できなかった。

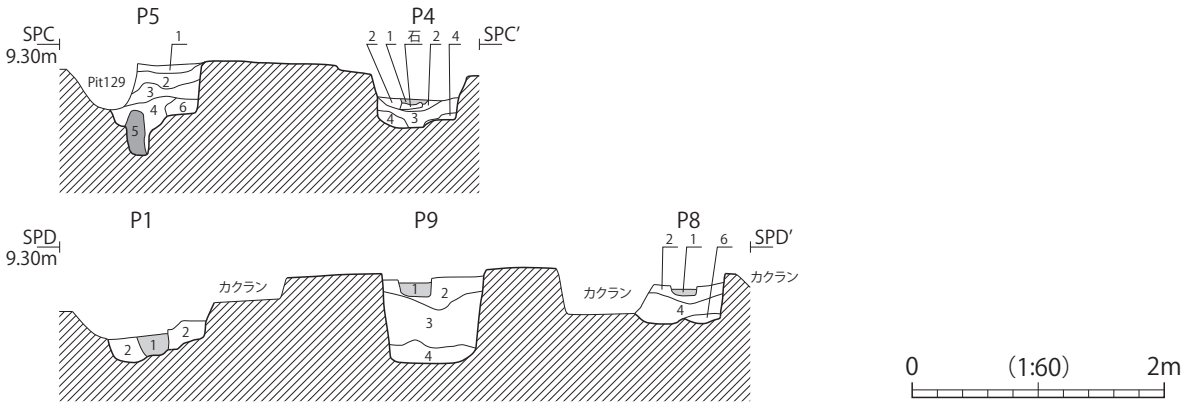
南北 3 間、東西 2 間の南北棟側柱建物跡で、西側桁行を基準とした主軸方向は N － 8°－ W である。規模は桁行総長 590cm、梁行総長 425cm、床面積は 25.1㎡である。柱間寸法は、西側柱列が北から 200cm、190cm、200cm、北側柱列が西から 215cm、210cm を測る。柱穴の平面形状は隅丸長方形ないし隅丸方形で、規模は長軸 75 ～ 121cm、短軸 70 ～ 83cm、深さ 48 ～ 75cm を測る。P1・2・6・9 で柱痕跡が 2 ヶ所みられ、建て替えが行われていることを確認した。これらの柱痕跡は、建て替え前が径 16 ～ 31cm、建て替え後が径 20 ～ 32cm である。P4・8 では、建て替え後の柱痕跡底面から礫石器が出土しており、根石として転用したものと考えられる。

本遺構から土師器・須恵器片が少量出土したが、図化できる遺物はなかった。



第 57 図　SB31 掘立柱建物跡（1）

時期を決定できる遺物はないが、5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる SI297 より新しいことから、5 期以降と考えられる。



SB31 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	20	不整方形	103×83	48	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡(新)	SI297より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。	
P2	20	隅丸方形	93×83	64	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡(新)	SI297より新しく、Pit136より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※抜き取り痕跡(古)	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～50㎜程度)と黒褐色シルトブロック(50～100㎜程度)の混合土。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルト粒多量含む。	
P3	24	隅丸長方形	111×81	54	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡(新)	SI307、SK280より新しい。
					2	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)と黒褐色シルトブロック(30～100㎜程度)の混合土。	
					4	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
P4	24	隅丸方形	75×74	53	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルト粒多量含む。※柱痕跡(新)	Pit132より古い。
					2	7.5YR4/3 褐色	シルト	黒色シルト粒少量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(20㎜程度)少量含む。	
P5	24	隅丸長方形	121×78	75	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～40㎜程度)少量、焼土粒微量含む。	Pit129より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)と褐色シルトブロック(50～100㎜程度)の混合土 焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(50～100㎜程度)と褐色シルトブロック(50～100㎜程度)の混合土 焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロックと黒色シルトブロックの混合土。	
					5	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)少量含む。※柱痕跡(古)	
					6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					7	10YR4/6 褐色	シルト	黒色シルトブロック(30㎜程度)少量含む。	
P6	24	隅丸長方形	94×76	69	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡(新)	Pit205より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡(古)	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。	
					5	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。	
P7	20	隅丸長方形	92×73	60	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	SD256、SK277より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。※柱痕跡(古)	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～50㎜程度)と褐色シルトブロック(30～100㎜程度)の混合土。	
P8	20	隅丸長方形	94×70	72	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡(新)	SK277より新しい。
					2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～50㎜程度)多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量含む。	
					5	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					6	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
P9	20	隅丸長方形	108×83	74	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・酸化鉄少量含む。※柱痕跡(新)	SI299より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～100㎜程度)と褐色シルトブロック(50～80㎜程度)の混合土。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	

第 58 図　SB31 掘立柱建物跡（2）

SB32 掘立柱建物跡（第 59 図）

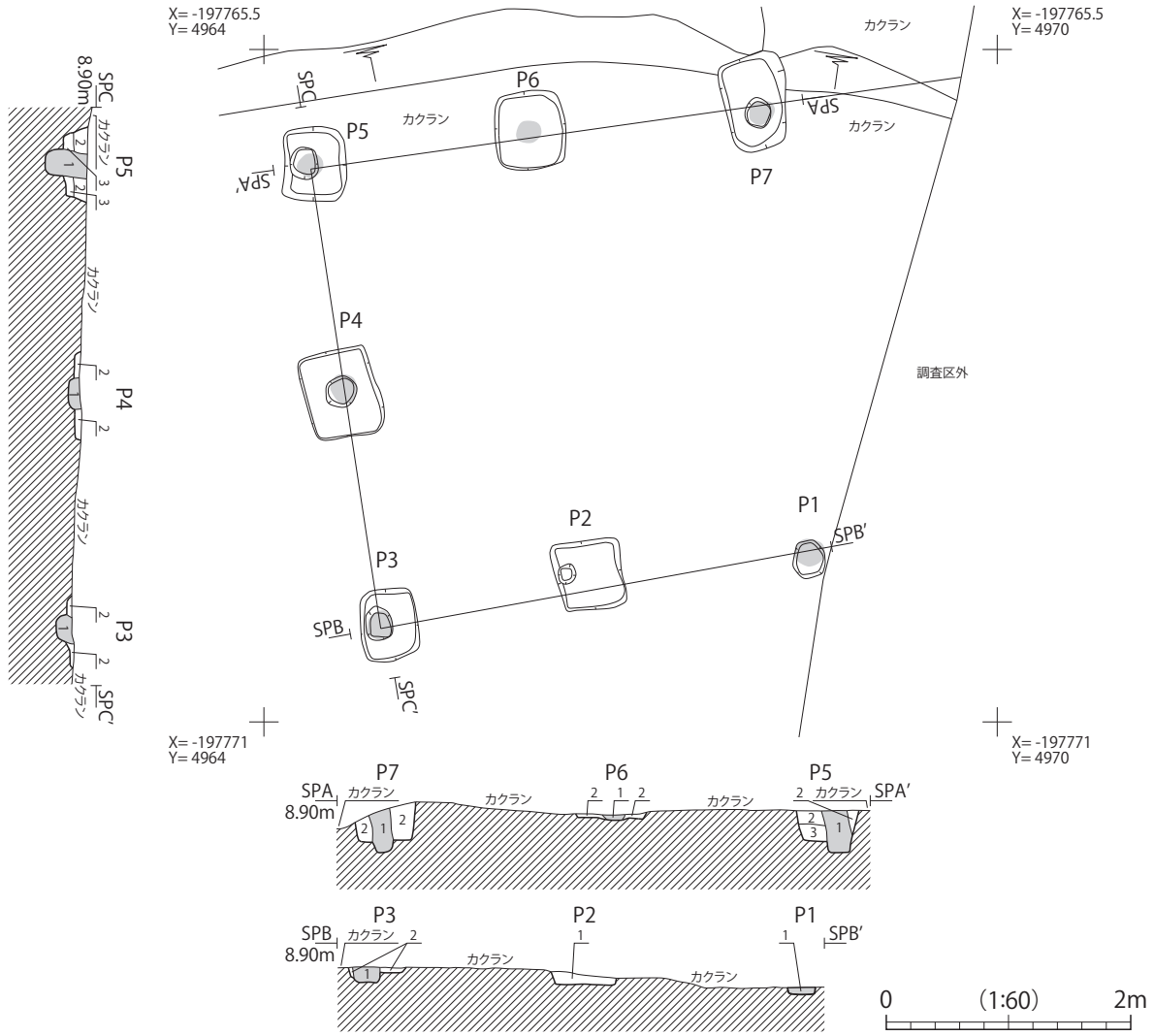
調査区中央部東側の 28・32 グリッドに位置し、7 基の柱穴を検出した。検出した範囲では重複はない。撹乱により上部が失われており、残存状況が悪い。東側は調査区外へ延びると推察される。

南北 2 間、東西 2 間以上の東西棟側柱建物跡で、北側桁行を基準とした主軸方向は N － 81°－ E で、SB30・

31 掘立柱建物跡とほぼ直交する。検出された規模は、桁行の総長 370cm、梁行総長 380cm を測る。柱間寸法は、西側柱列が北から 180cm、200cm、北側柱列が西から 180cm、190cm を測る。柱穴の平面形状は P1 が円形で、その他は方形ないし長方形である。規模は長軸 30 ～ 77cm、短軸 26 ～ 61cm、深さ 6 ～ 39cm を測る。P2 を除く柱穴で柱痕跡が確認され、いずれも柱痕跡底面が掘り方底面より窪んでいる。

本遺構から土師器片が少量出土したが、図化できる遺物はなかった。

時期を決定できる遺物や遺構との重複がなく、時期は不明である。



SB32 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	28	円形	30×26	6	1	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト粒多量含む。※柱痕跡	
P2	28・32	方形	57×54	10	1	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(30～40㎜程度)・炭化物粒微量含む。	
P3	28・32	方形	60×48	13	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	酸化鉄斑多量、黒色シルト粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
P4	28	方形	72×61	8	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(5㎜程度)少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/6 褐色	シルト	黒色シルトブロック(20㎜程度)・酸化鉄斑少量、炭化物粒微量含む。	
P5	28	方形	62×50	35	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(20～50㎜程度)多量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)少量含む。	
P6	28	方形	66×59	7	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒色シルト粒多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
P7	28	長方形	77×52	39	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30～50㎜程度)と黒色シルトブロック(30㎜程度)の混合土。	

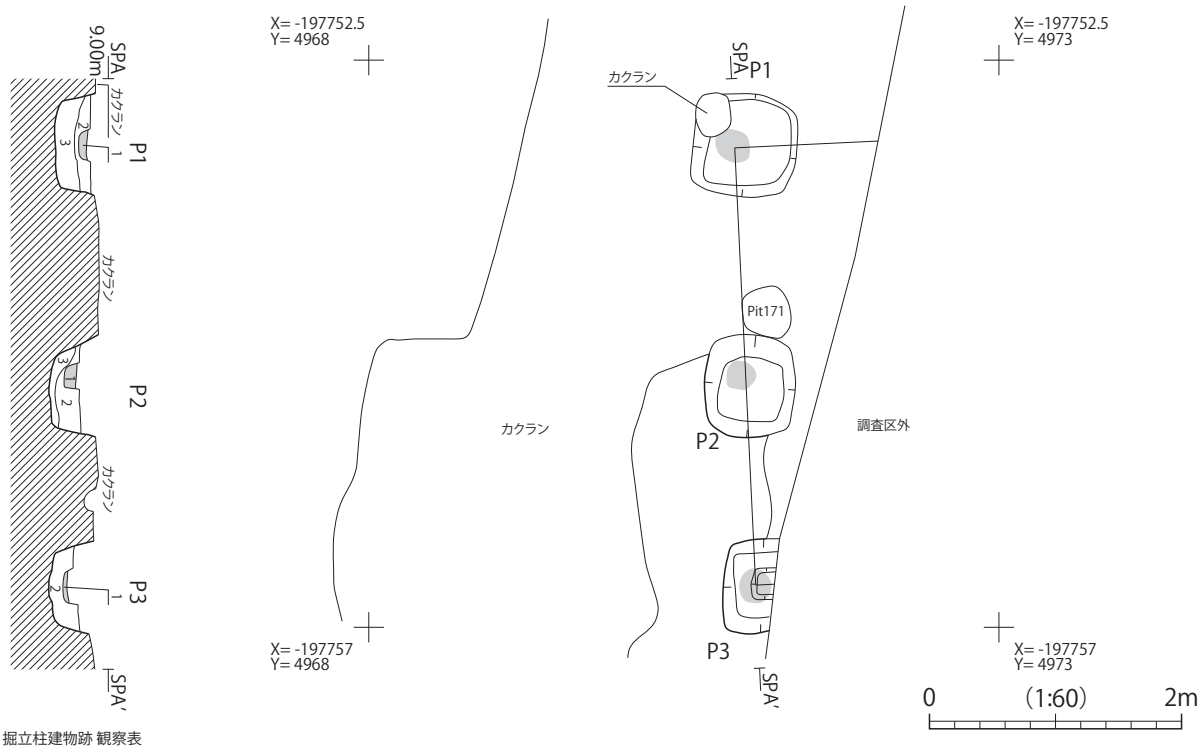
第 59 図　SB32 掘立柱建物跡

SB33 掘立柱建物跡（第 60 図）

調査区中央部東端の 17・21 グリッドに位置し、3 基の柱穴を検出した。SI297 と重複し、これより新しい。西側柱穴列のみ検出されたため詳細は不明であるが、隣接する SB30・31 と軸方向及び各柱穴の規模・形状が類似することから、南北棟建物跡の可能性が考えられる。主軸方向は N － 3°－ W で、SB30・31 とほぼ同じである。検出された規模は、総長 350cm で、柱間寸法は北から 180cm、170cm を測る。柱穴の平面形状は方形で、規模は長軸 75 ～ 84cm、短軸 40 ～ 83cm、深さ 32 ～ 38cm を測る。すべての柱穴で柱痕跡が確認され、柱痕跡底面は掘り方底面まで至っていない。

本遺構から土師器片が少量出土したが、図化できる遺物はなかった。

時期を決定できる遺物はないが、5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる SI297 より新しいことから、5 期以降と考えられる。



SB33 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	17	方形	84×83	32	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡	
					2	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)と黒色シルトブロック(5～10㎜程度)混合土。	
					3	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	黒色シルトブロック(20㎜程度)少量含む。	
P2	17･21	方形	82×73	38	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	SI297より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・焼土粒少量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。	
P3	21	方形	75×(40)	36	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡	SI297より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	

第 60 図　SB33 掘立柱建物跡

SB34 掘立柱建物跡（第 61 図）

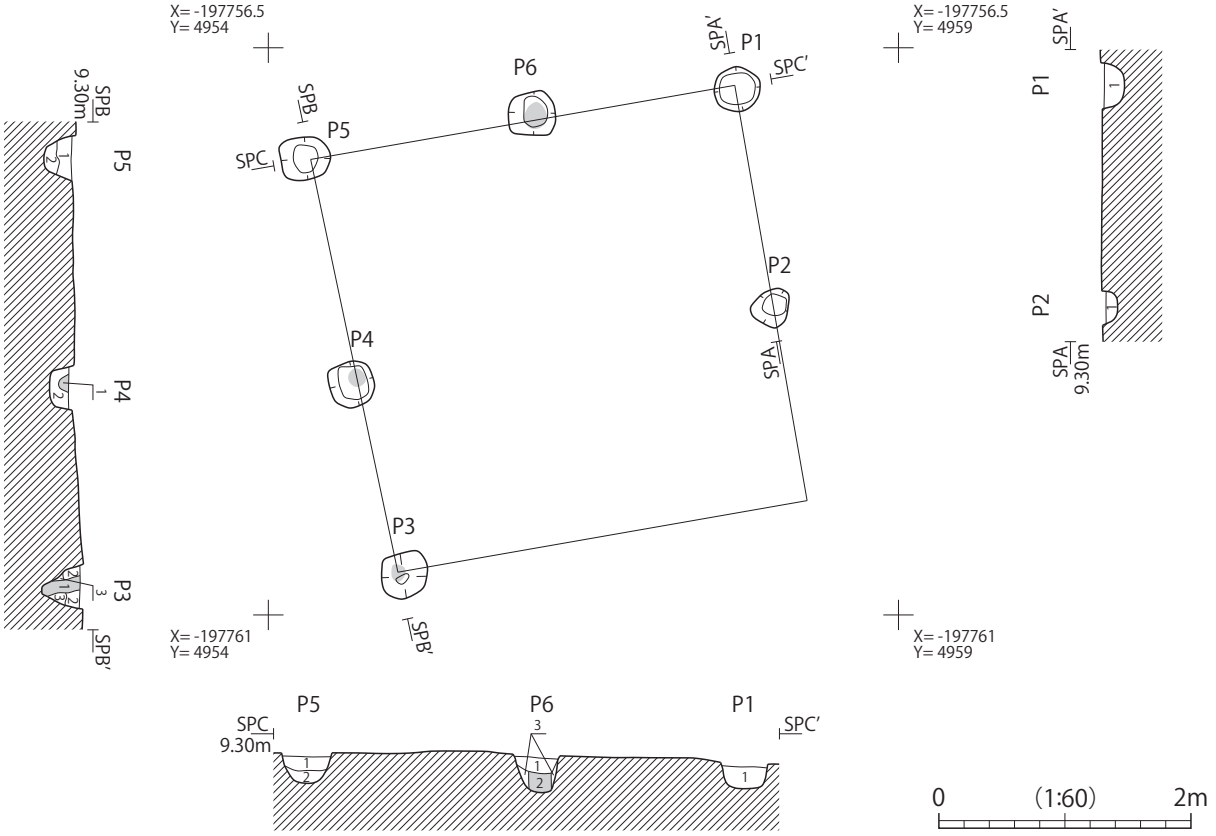
調査区中央部の 19・23 グリッドに位置し、6 基の柱穴を検出した。SI301・303、SB36 と重複し、SI301・303 より新しい。SB36 とは直接的な重複関係がないため新旧関係は不明である。

南北 2 間、東西 2 間の南北棟建物跡と推察される。西側桁行を基準とした主軸方向は N － 12°－ W である。規模は桁行総長 335cm、梁行総長 345cm を測る。柱間寸法は、西側柱列が北から 175cm、160cm、北側柱列が西から 185cm、160cm を測る。柱穴の平面形状は円形ないし隅丸方形で、規模は長軸 31 ～ 39cm、短軸 27 ～

37cm、深さ 11 ～ 32cm を測る。P3・4・6 で柱痕跡を確認した。

本遺構から土師器片が少量出土したが、図化できる遺物はなかった。

時期を決定できる遺物はないが、6a 期（8 世紀前葉）以降と考えられる SI301 より新しい。



SB34 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	19	円形	38×37	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量、焼土粒微量含む。	
P2	19	不整円形	31×27	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量、焼土粒微量含む。	SI301より新しい。
P3	23	隅丸方形	39×37	32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
P4	19	隅丸方形	37×35	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	
P5	19	隅丸方形	39×35	24	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI303より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
P6	19	隅丸方形	38×35	31	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。※柱痕跡	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	

第 61 図　SB34 掘立柱建物跡

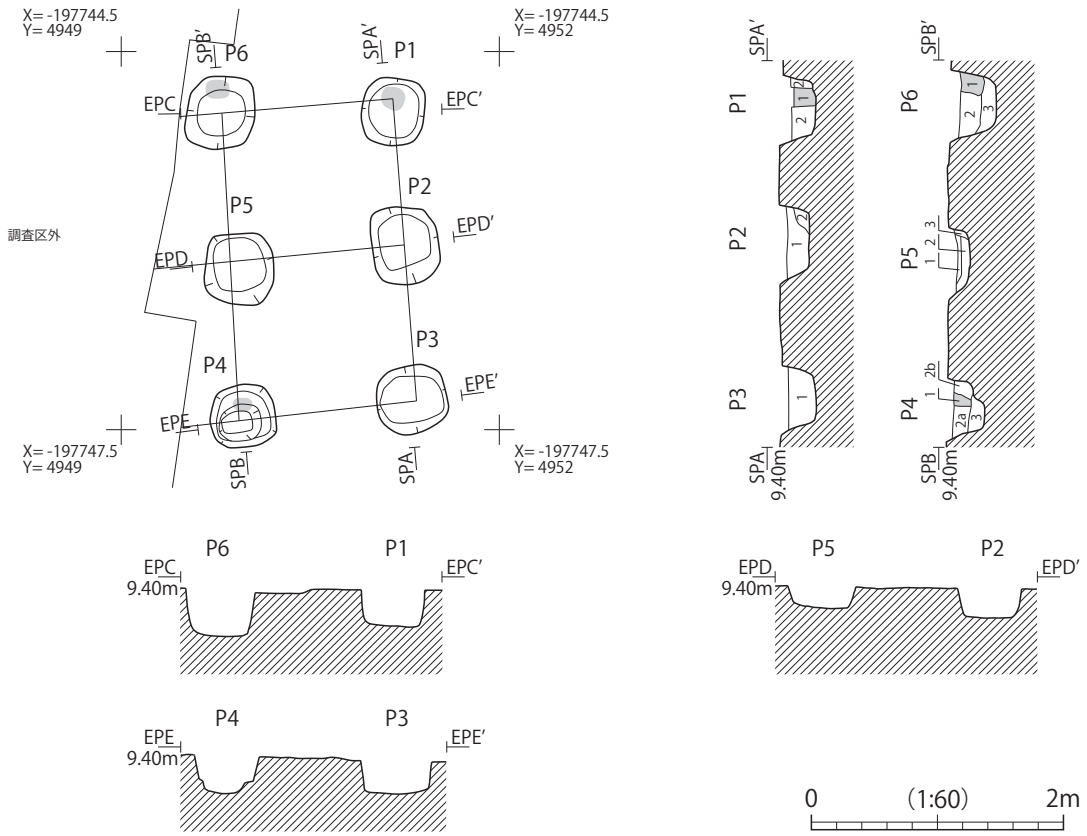
SB35 掘立柱建物跡（第 62 図）

調査区北部西端の 6・7・10・11 グリッドに位置し、6 基の柱穴を検出した。検出した範囲では重複はない。西側は調査区外へ延びると推察される。

南北 2 間、東西 2 間以上の東西棟総柱建物跡で、東側桁行を基準とした主軸方向は N － 5°－ W である。規模は、南北 240cm、東西 140cm を測る。柱間寸法は、東側柱列が 120cm、北側柱列が 140cm を測る。柱穴の平面形態は隅丸方形で、規模は長軸 52 ～ 66cm、短軸 49 ～ 55cm、深さ 17 ～ 37cm を測る。P1・4・6 で柱痕跡を確認した。

遺物は出土していない。

時期を決定できる遺物や遺構との重複がなく、時期は不明である。



SB35 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	7・11	隅丸方形	53×49	29	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物・焼土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)含む。	
P2	11	隅丸方形	66×53	24	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	
P3	11	隅丸方形	56×54	29	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量、黒褐色シルトブロック(30㎜程度)少量含む。	
P4	10・11	隅丸方形	52×50	29	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。※柱痕跡	
					2a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含む。	
P5	10・11	隅丸方形	58×55	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。	
P6	6・7 10・11	方形	59×54	37	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～40㎜程度)多量含む。	

第 62 図　SB35 掘立柱建物跡

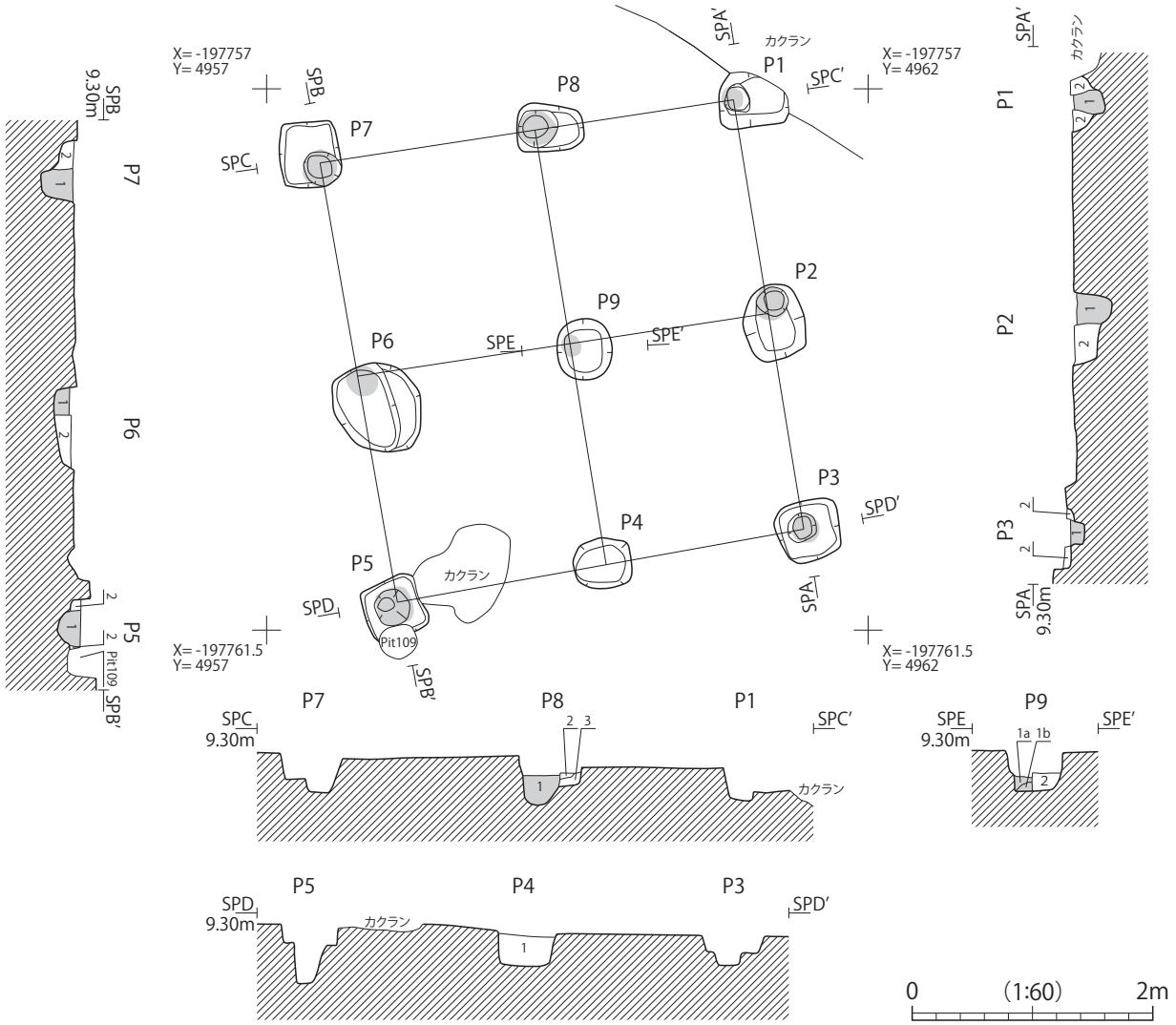
SB36 掘立柱建物跡（第 63 図）

調査区中央部の 19・20・23・24 グリッドに位置し、9 基の柱穴を検出した。SI301・302、SB34、Pit109 と重複し、SI301・302 より新しく、Pit109 より古い。SB34 とは直接的な重複関係がないため新旧関係は不明である。

南北 2 間、東西 2 間の南北棟総柱建物跡で、西側桁行を基準とした主軸方向は N － 9° － W である。規模は桁行総長 370cm、梁行総長 350cm を測る。柱間寸法は、西側柱列が 185cm、北側柱列が西から 180cm、170cm を測る。柱穴の平面形状は方形ないし楕円形で、規模は長軸 48 ～ 80cm、短軸 43 ～ 70cm、深さ 20 ～ 50cm を測る。P4 を除く柱穴で柱痕跡を確認した。

本遺構から土師器・須恵器片が少量出土したが、図化できる遺物はなかった。

時期を決定できる遺物はないが、6b 期（8 世紀中葉）以降と考えられる SI301 より新しいことから、6b 期以降と考えられる。



SB36 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	20	方形	(56)×(46)	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。※柱痕跡	SI302より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～40㎜程度)・焼土粒少量含む。	
P2	20	隅丸長方形	63×51	32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒少量含む。※柱痕跡	SI301・302より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロック(20㎜程度)・焼土粒微量含む。	
P3	24	方形	52×51	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒含み、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	SI301より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルト含む。	
P4	23・24	方形	48×43	28	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～60㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。	SI301より新しい。
P5	23	方形	49×47	50	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	Pit109より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
P6	19・23	楕円形	80×70	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	SI301より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
P7	19	方形	55×50	30	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
P8	19	隅丸長方形	55×40	42	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	SI302より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
P9	19	隅丸方形	52×46	34	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・焼土ブロック(10㎜程度)含む。※柱痕跡	SI301より新しい。
					1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	

第 63 図　SB36 掘立柱建物跡

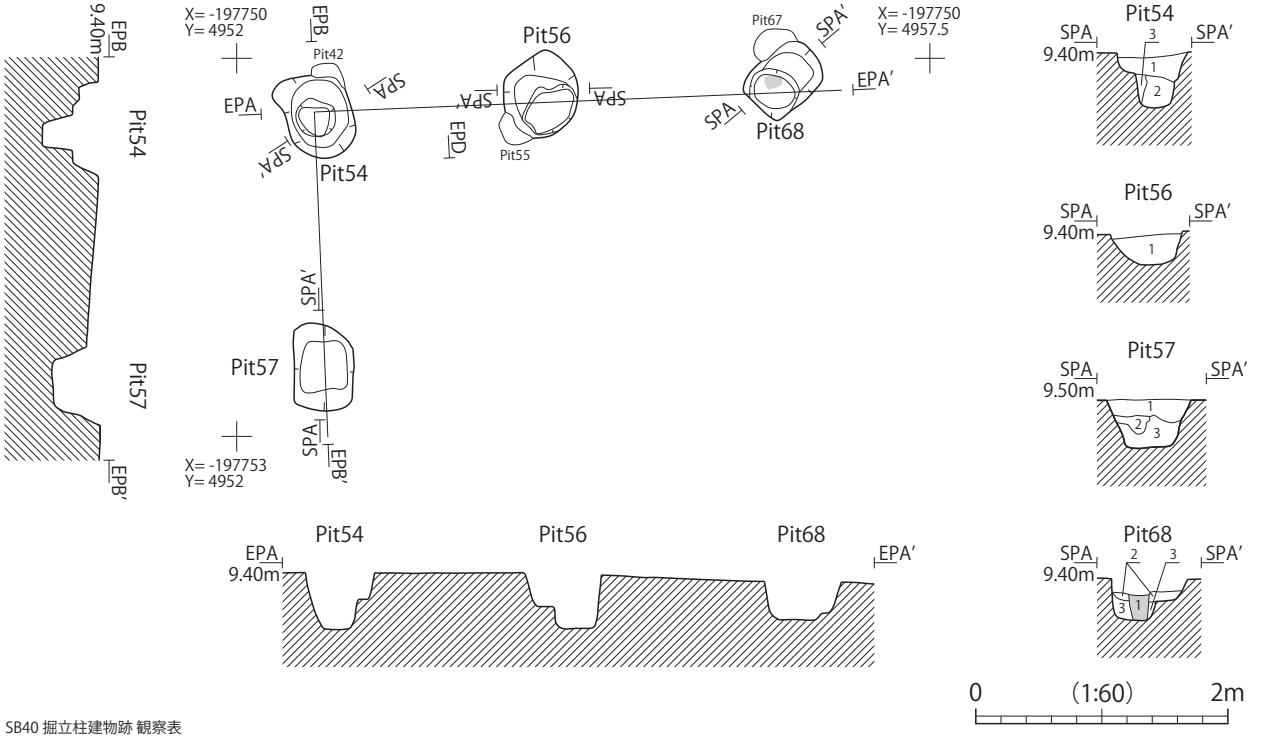
SB40 掘立柱建物跡（第 64 図）

調査区北部西側の 11・15 グリッドに位置し、4 基の柱穴を検出した。整理作業の段階で Pit54・56・57・68 が「L」字状に柱列を形成することを確認したため、掘立柱建物跡と認定した。Pit42・55・67 より古い。SB41 とは直接的な重複関係がないため新旧関係は不明である。

南北 1 間以上、東西 2 間以上の建物跡と推察される。北側柱列を基準とした主軸方向は N － 88°－ E である。規模は東西総長 365cm、南北総長 200cm で、柱間寸法は、北側柱列が西から 185cm、180cm を測る。柱穴の平面形状は隅丸長方形ないし不整円形で、規模は長軸 61 ～ 71cm、短軸 47 ～ 61cm、深さ 35 ～ 44cm を測る。P68 から径 15cm 程の柱痕跡を検出した。

本遺構から土師器片が少量出土したが、図化できる遺物はなかった。

時期を決定できる遺物や遺構との重複がなく、時期は不明である。



SB40 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit54	15	不整円形	68×52	44	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	Pit42より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・Ⅳ層土粒少量含む。	
					3	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit56	11・15	不整円形	71×61	40	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	Pit55より古い。
Pit57	15	隅丸長方形	69×47	41	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土多量、焼土粒微量含む。	
Pit68	11・15	隅丸長方形	61×47	35	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	Pit67より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック(20㎜程度)含む。	

第 64 図　SB40 掘立柱建物跡

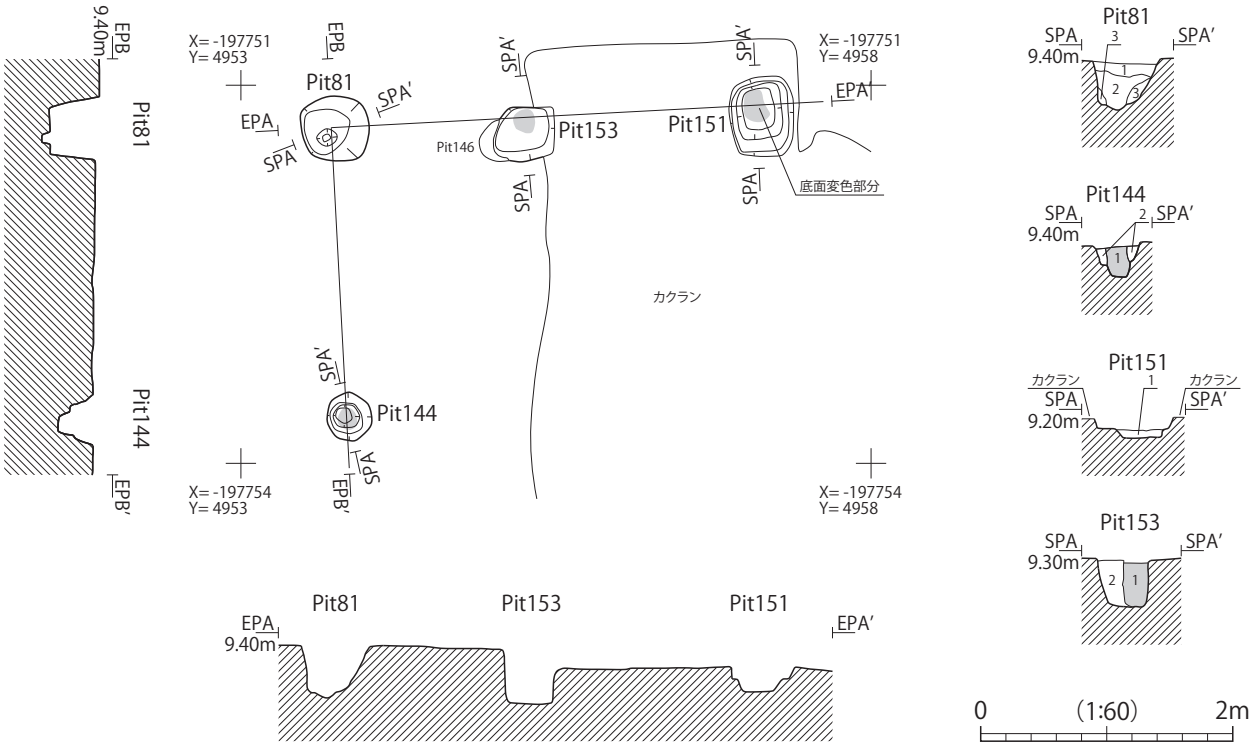
SB41 掘立柱建物跡（第 65 図）

調査区北部西側の 15 グリッドに位置し、4 基の柱穴を検出した。整理作業の段階で Pit81・144・151・153 が「L」字状に柱列を形成することを確認したため、掘立柱建物跡と認定した。Pit146 より古く、SI303 より新しい。SB40 とは直接的な重複関係がないため新旧関係は不明である。

南北 1 間以上、東西 2 間以上の東西棟建物跡と推察される。北側柱列を基準とした主軸方向は N － 87°－ E である。規模は桁行総長 330cm、梁行総長 225cm で、柱間寸法は、北側柱列が西から 150cm、180cm を測る。柱穴の平面形状は隅丸長方形ないし円形で、規模は長軸 39 ～ 64cm、短軸 35 ～ 52cm、深さ 19 ～ 46cm を測る。Pit144・153 から径 17 ～ 19cm の柱痕跡を検出した。Pit151 から径 24cm 程の底面変色範囲が確認された。

本遺構から土師器片が少量出土したが、図化できる遺物はなかった。

時期を決定できる遺物や遺構との重複がなく、時期は不明である。



SB41 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit81	15	円形	53×52	46	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量、炭化物粒少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒中量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土中量含む。	
Pit144	15	円形	39×35	29	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	SI303より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)少量、Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit151	15	隅丸長方形	64×51	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)多量、焼土粒微量含む。	
Pit153	15	方形	(48)×42	40	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土微量含む。※柱痕跡	Pit146より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。	

第 65 図　SB41 掘立柱建物跡

(3) 区画施設（第 66 ～ 90 図）

区画施設

本調査区の西側及び北西側に隣接する第 3･4 次調査区において、集落を区画すると考えられる大溝 1 条（SD66）、材木列跡 1 条（SA1）、一本柱列跡 4 列（SA2 ～ 5）がほぼ同一方向に軸を持ち並走する状況で検出された（第 66 図）。また、第 4 次調査区では大溝の一部が土橋状に掘り残された部分や SA1 の開口部分が検出され、周辺の住居跡等の配置からこの位置が通路となっていたと考えられている。

本調査区では、SD66 及び SA1・4・5 の南東側延長部分が検出されたが、旧国鉄時代の撹乱により、SA1・4・5 の上部は大半が失われている。以下、各遺構と出土遺物について記載する。

SD66 溝跡（第 66 ～ 89 図）

調査区南側の 18・22・23・26・27・30・31・34・37・40・43・44・46・47・50 グリッドに位置する。小溝状遺構群より古く、SD63・262 より新しい。北端部を除く大半が撹乱により削平を受けている。

規模は、検出長が約 46m で、北西側に隣接する第 3・4 次調査区で検出された長さを含めると 120m を超える。上端幅 382cm、下端幅 80 ～ 120cm 程で、一部 170cm と幅広い部分がある。検出面からの深さは 80 ～ 120cm で、断面形は逆台形状を呈する。N － 20 ～ 26° － W の方向に延び、第 3・4 次調査区よりやや南傾している。底面レベルは 7.78 ～ 7.94m で、やや凹凸を持ちながら全体的に南側に向かって低くなる。

堆積土は 4 層に大別分層した。1 層は暗褐色ないし黒褐色シルトの自然堆積層である。2 層は 10 世紀前半に降下したと考えられる十和田 a 火山灰（To-a）とみられる灰白色火山灰が混入する。3 層は堆積状況及びⅣ層土ブロックを多量に含むことから人為堆積層と考えられる。溝跡南半部では厚く堆積しており、主に西側から埋め戻されているものと考えられる。4 層は底面を覆う自然堆積層で、全体にグライ化している。

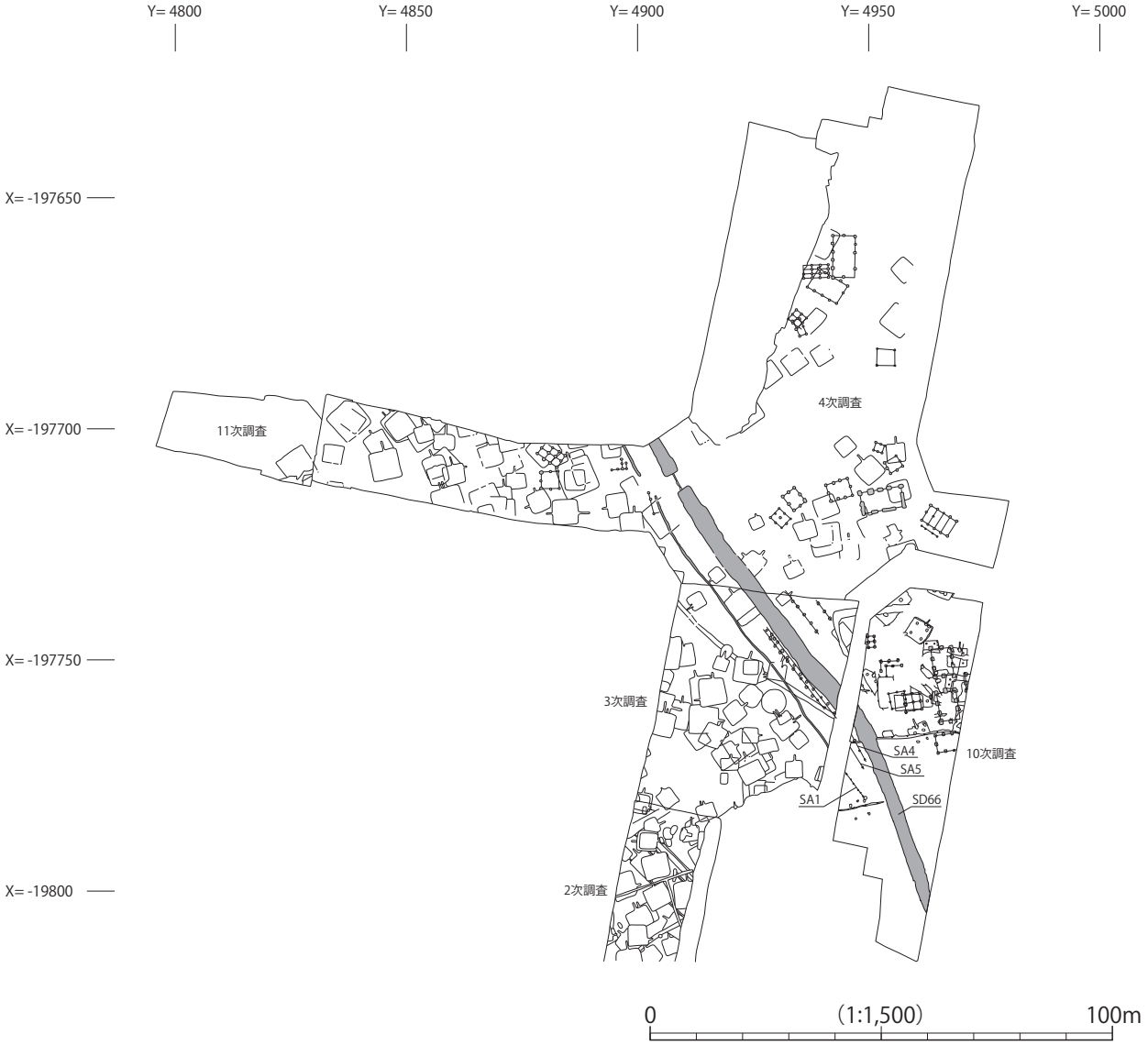
遺物は、堆積土上層（1 層）・中層（2 層）・下層（3 層下部～ 4 層上面）・底面直上出土に大別して掲載し、記載についても同様に大別毎とした。隣接する第 3 次調査の大別との対応関係は概ね以下の通りである。

・本調査区上層・中層＝第 3 次調査区上層

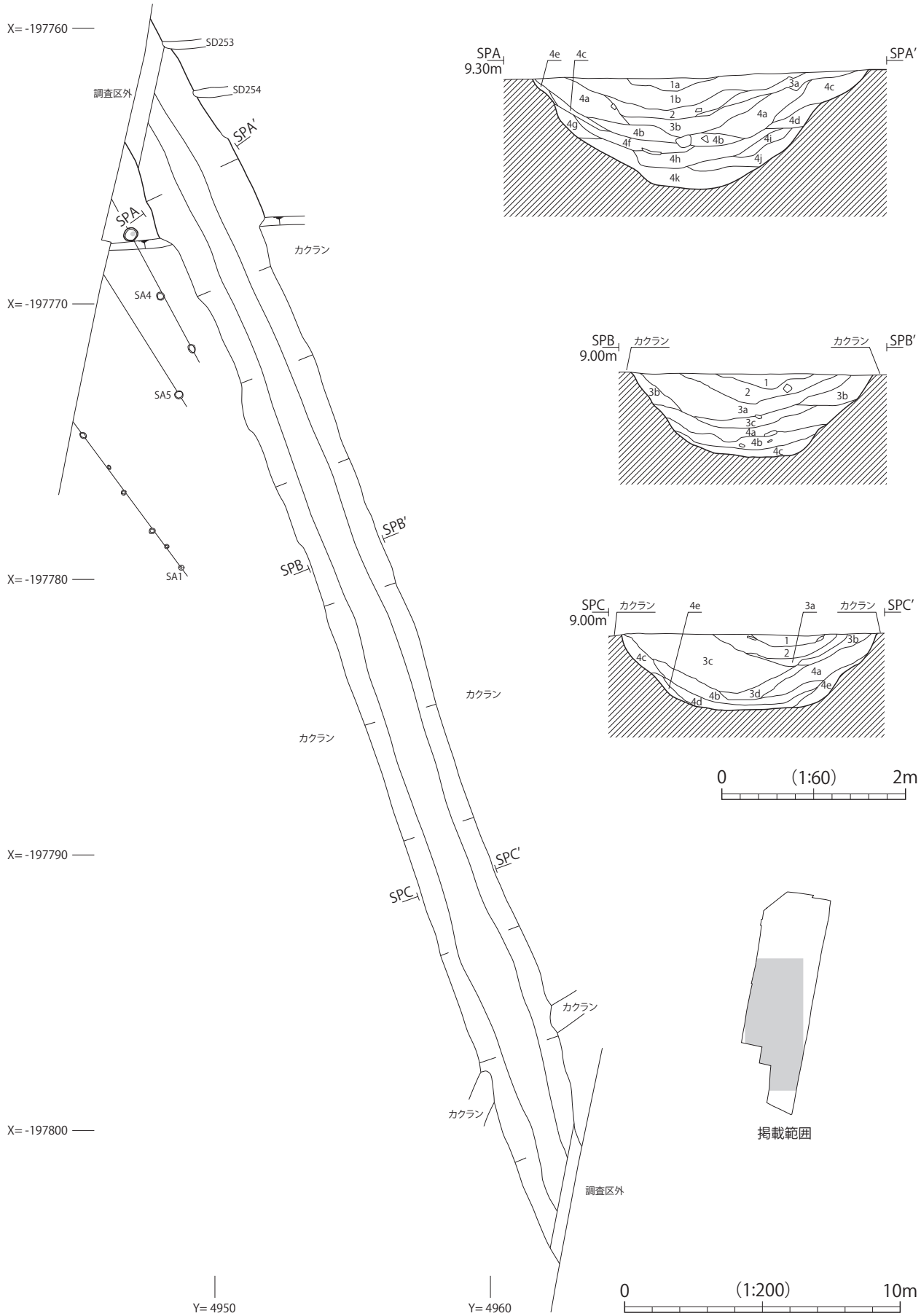
・本調査区下層＝第 3 次調査区中層

・本調査区底面直上＝第 3 次調査区下層

遺物は、土師器・須恵器・土製品・金属製品などコンテナで 23 箱程度が出土している。掲載した遺物の総量は 141 点である。なお、各層位の掲載遺物は、必ずしも器種組成、ならびに各器種における器形の特徴の割合が反映されたものではない。



第 66 図　区画施設配置図


X= -197760
X= -197770
X= -197780
X= -197790
X= -197800
Y= 4950
Y= 4960
SD253
SD254
調査区外
SPA'
SPA
カクラン
SA4
SA5
SA1
SPB'
SPB
SPC'
SPC
SPA
9.30m
SPA'
4e
4c
1a
1b
2
3b
3a
4c
4a
4g
4b
4f
4b
4a
4d
4i
4h
4j
4k
SPB
9.00m
カクラン
カクラン
SPB'
1
2
3b
3b
3a
3c
4a
4b
4c
SPC
9.00m
カクラン
4e
3a
カクラン
SPC'
1
2
3b
4c
3c
4a
4e
4b
3d
4d
0
(1:60)
2m
掲載範囲
0
(1:200)
10m

第 67 図　SD66 溝跡

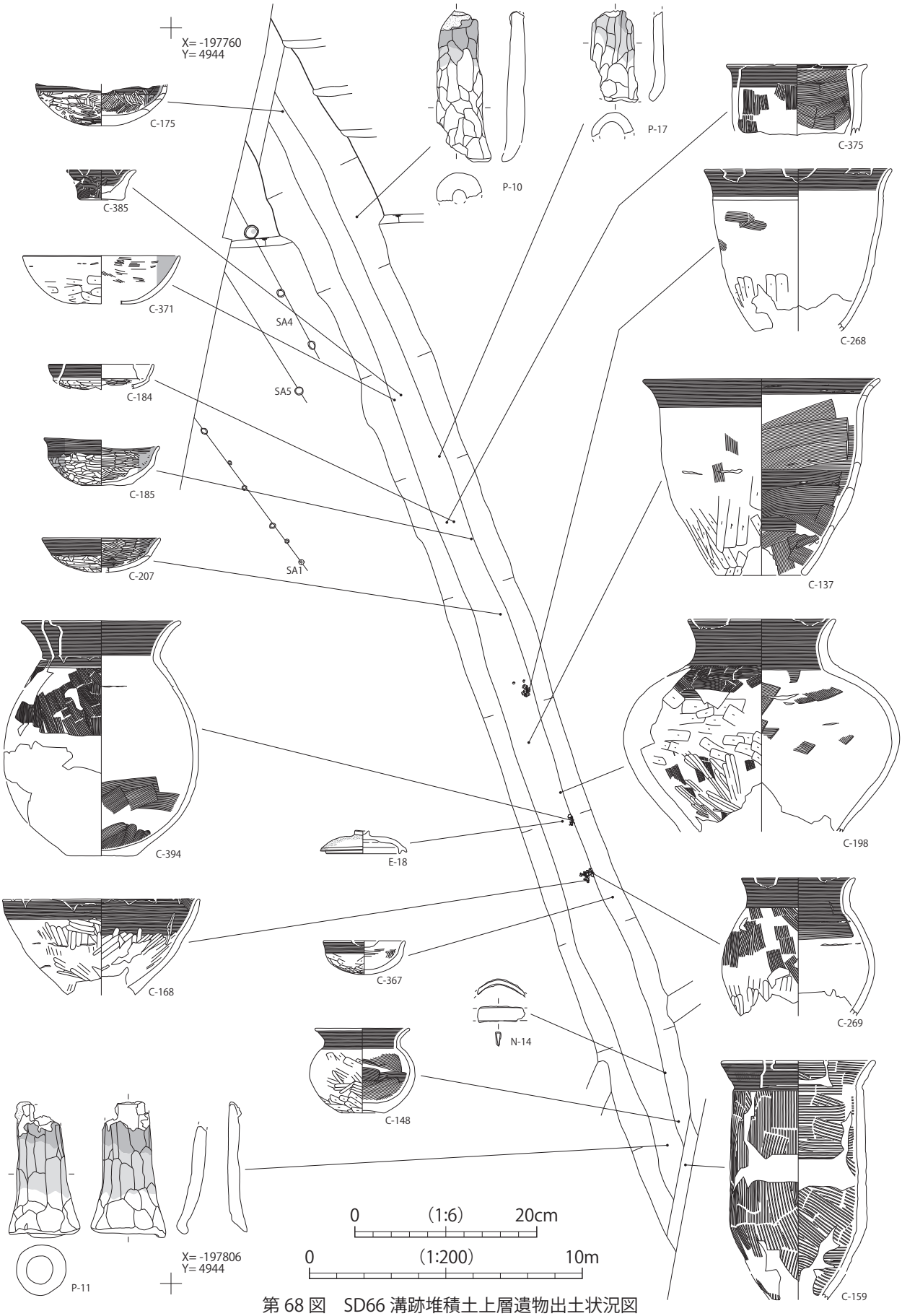
SD66 溝跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
			長さ×幅	深さ				
SD66 Aｾｸｼｮﾝ	18・22・23・26 27・30・31・34 37・40・43・44 46・47・50	N-20～26°-W	4640×382	80～120	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
					1b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・炭化物粒少量含む。部分的に黒褐色シルト含む。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰白色火山灰をブロック状に含み、炭化物少量含む。
					3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※人為堆積
					3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)と黒褐色シルトブロック(10～30㎜程度)の混合土、炭化物粒微量含む。※人為堆積
					4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。
					4b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※一部グライ化する。
					4c	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
					4d	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、Ⅳ層土粒含む。
					4e	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土多量含む。
					4f	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土含む。※一部グライ化する。
					4g	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
					4h	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)と黒褐色粘土質シルトブロック(10～20㎜程度)の混合土。※一部グライ化する。
					4i	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
					4j	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。※一部グライ化する。
					4k	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※一部グライ化する。
SD66 Bｾｸｼｮﾝ	18・22・23・26 27・30・31・34 37・40・43・44 46・47・50	N-20～26°-W	4640×382	80～120	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・焼土ブロック(10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
					2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物を帯状に含み、Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、焼土粒・灰白色火山灰少量含む。
					3a	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。※人為堆積
					3b	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。※人為堆積
					3c	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)含む。※人為堆積
					4a	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。
					4b	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。※全体にグライ化する。
					4c	7.5GY4/1 暗緑灰色	粗砂	オリーブ黒色粘土含む。※全体にグライ化する。
SD66 Cｾｸｼｮﾝ	18・22・23・26 27・30・31・34 37・40・43・44 46・47・50	N-20～26°-W	4640×382	80～120	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・炭化物(10㎜程度)・灰白色火山灰少量含む。
					3a	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック(20～40㎜程度)微量含む。※人為堆積
					3b	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。※人為堆積
					3c	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～30㎜程度)多量含む。※人為堆積
					3d	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	マンガン粒多量含む。※人為堆積
					4a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒、部分的に焼土ブロック(10㎜程度)・炭化物含む。※一部グライ化する。
					4b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒多量含む。※一部グライ化する。
					4c	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト粒多量含む。※一部グライ化する。
					4d	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・粗砂多量含む。
					4e	10YR3/4 暗褐色	粗砂	にぶい黄褐色粘土ブロック(10㎜程度)・黒褐色シルト粒含む。※一部グライ化する。

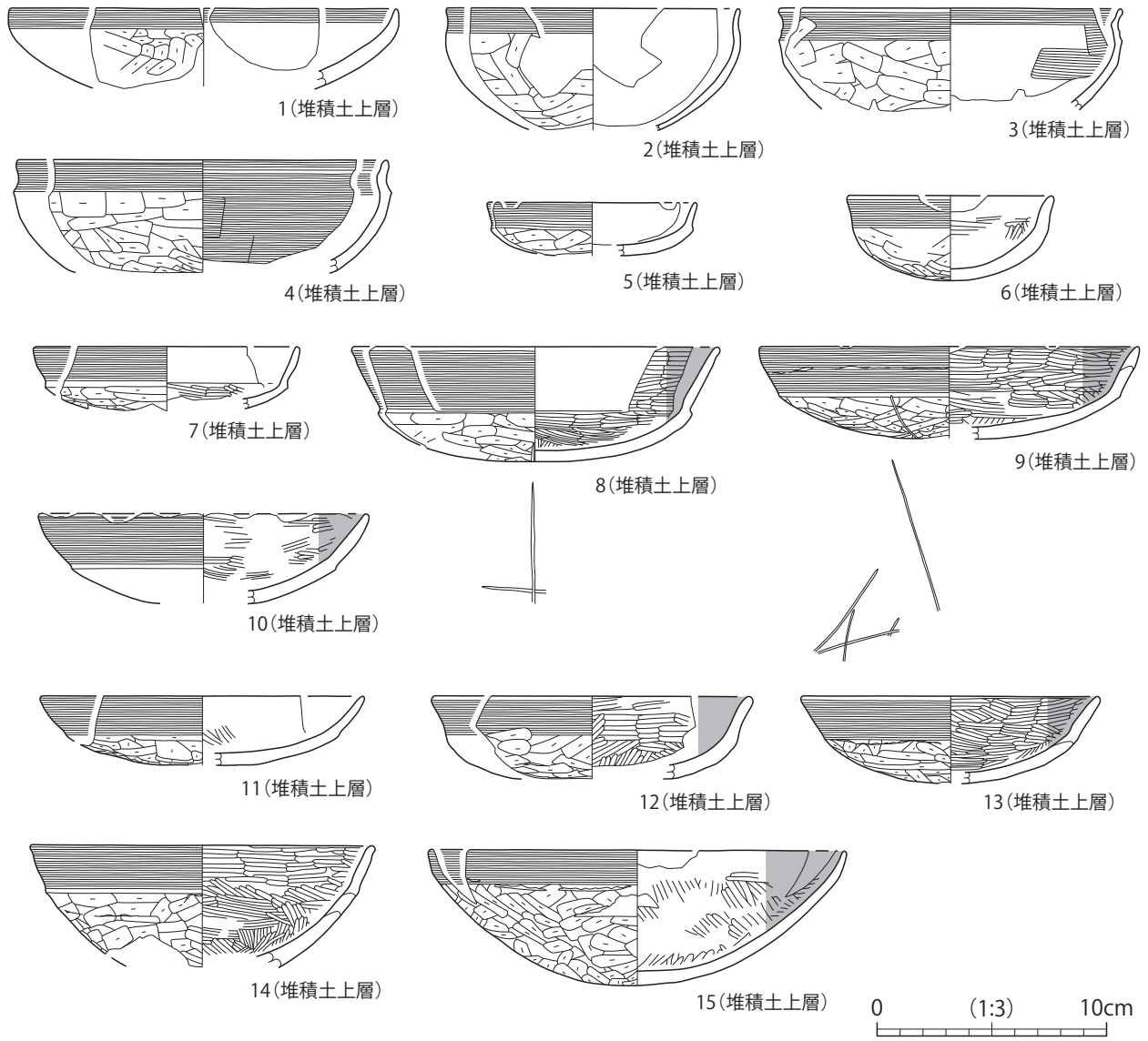
［SD66　上層出土遺物］（第 68 ～ 75 図）

土師器坏 19 点、鉢 2 点、甕 13 点、甑 4 点、高坏 1 点、ミニチュア土器 2 点、須恵器蓋 1 点、坏 1 点、鞴羽口 8 点、土壁？ 1 点、刀子？ 1 点、棒状鉄製品 1 点、砥石 1 点の計 55 点を掲載した。

1 ～ 19 は土師器坏である。1 は鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つ。体部が内湾気味に大きく開き、口縁部は短く直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデである。2 ～ 4 は北武蔵型土師器（清水型関東系土器）の特徴を持つ。いずれも体部が半球状で、口縁部の形態は、2 が直立気味に外反、3・4 が「S」字状に短く外傾する。3・4 は橙色を呈し、2・3 は器厚が薄い。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。5 ～ 14 はいわゆる有段丸底坏で、口径 9cm 前後の小型品、口径 13cm 前後の中型品、口径 16cm 前後の大型品がある。また、6・8・14 のような身の深いものと、11 のような身の浅いものがある。口縁部と体部の境は、外面に明瞭な段ないし稜を持つ 5・7 ～ 11・14 と、外面の稜が不明瞭、或いは丸みを帯びる 6・12・13 があり、7 ～ 9 は外面の段と対応する内面に稜がみられる。口縁部の形態は、直立気味に短く外傾する 5、直立気味に外反する 6、直線的に外傾する 7 ～ 9・13、内湾気味に外傾する 10・11、外反する 12 がある。調整は、いずれも外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキで、8 ～ 10・12・13 は内面に黒色処理が施される。8・9 の底面には線刻がみられる。15 は口径 18cm の大型品である。丸底の底部から体部が内湾気味に大きく開き、口縁部が直線的に短く外傾する。調整は、

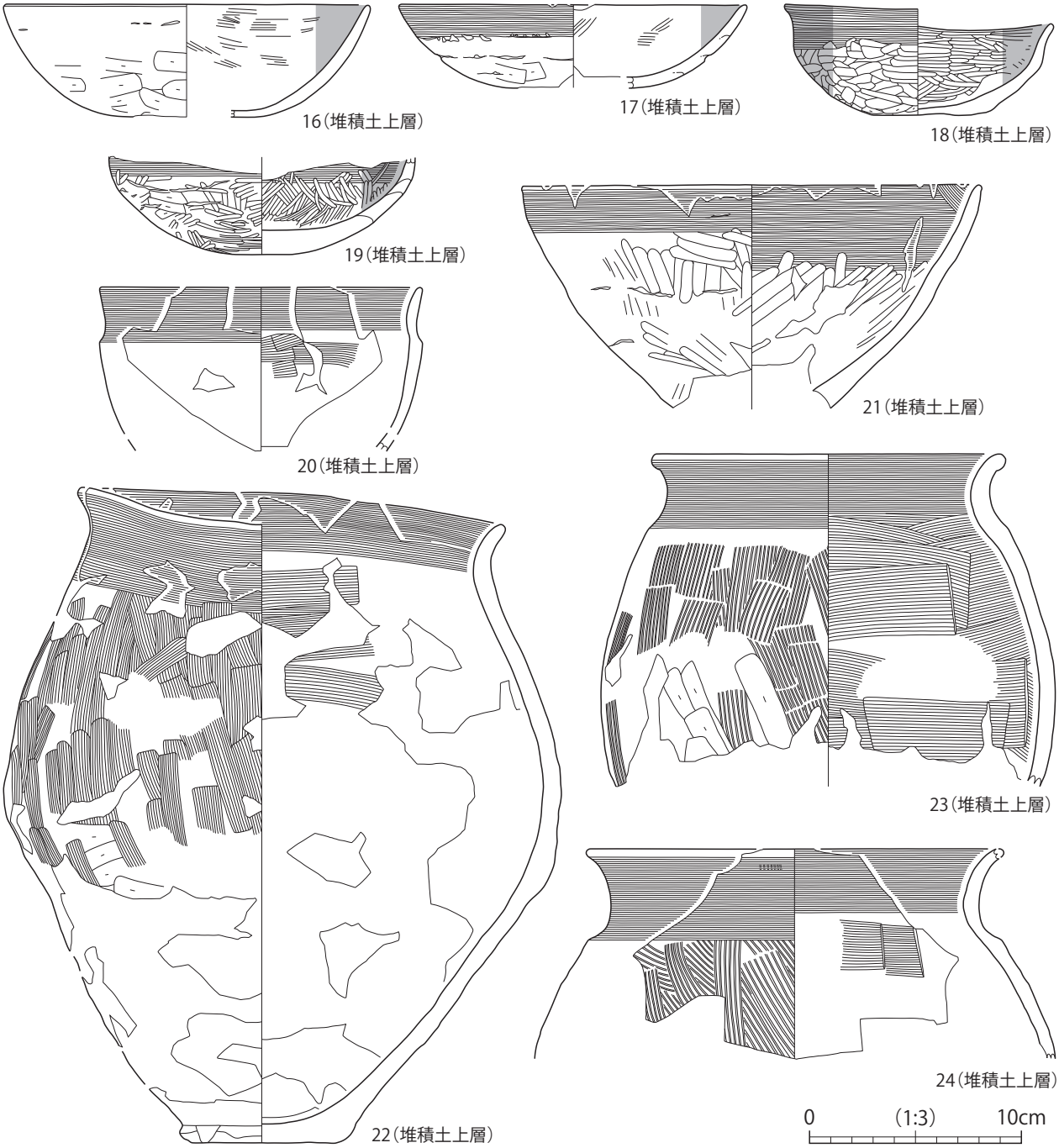


第 68 図　SD66 溝跡堆積土上層遺物出土状況図



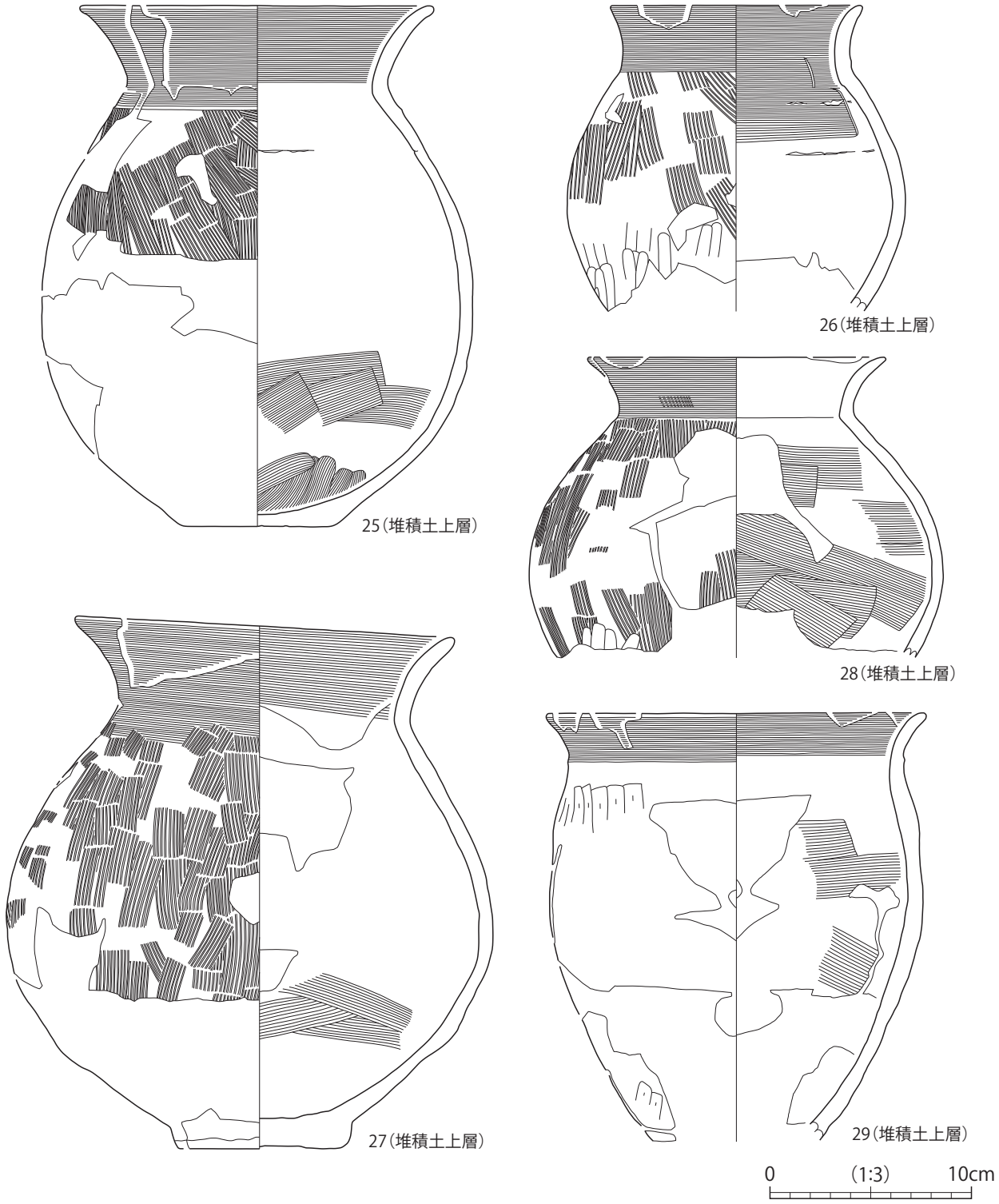
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-193	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(16.8)	-	(3.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ	内面摩滅	24
2	C-189	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(12.8)	-	(5.3)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	摩滅		24
3	C-178	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(14.8)	-	(4.5)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		24
4	C-176	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(16.2)	-	(4.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		24
5	C-177	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(9.0)	-	(2.3)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	摩滅		24
6	C-367	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(9.0)	-	3.7	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		24
7	C-184	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(11.6)	-	(2.8)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		24
8	C-357	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(16.0)	-	5.0	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面底部線刻 内面黒色処理	24
9	C-203	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(16.4)	-	(4.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面底部線刻 内面黒色処理	24
10	C-206	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(14.4)	-	(3.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:摩滅	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	24
11	C-355	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(14.0)	-	(3.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		24
12	C-210	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(14.0)	-	(3.6)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	24
13	C-207	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(12.8)	-	(3.8)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	24
14	C-215	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(14.8)	-	(5.3)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		24
15	C-164	SD66	堆積土上層	土師器	坏	18.0	-	5.9	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	24

第 69 図　SD66 溝跡堆積土上層出土遺物（1）



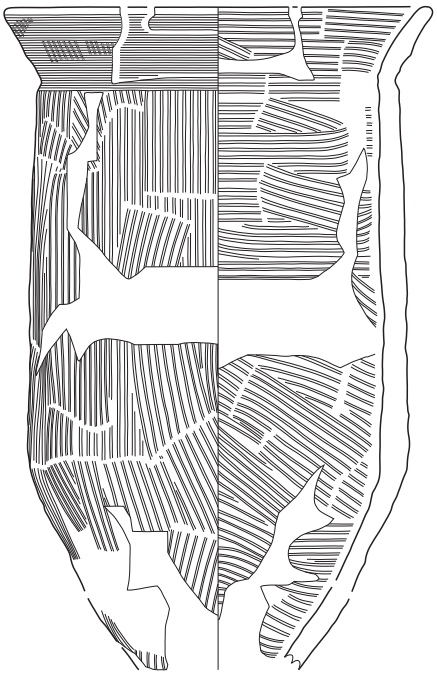
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
16	C-371	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(17.0)	-	(5.3)	体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	25
17	C-204	SD66	堆積土上層	土師器	坏	(16.2)	-	(3.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	25
18	C-185	SD66	堆積土上層	土師器	坏	12.6	4.7	5.2	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底面:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面黒色処理	25
19	C-175	SD66	堆積土上層	土師器	坏	-	-	(4.6)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	25
20	C-396	SD66	堆積土上層	土師器	鉢	(15.2)	-	(7.7)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:摩滅	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		25
21	C-168	SD66	堆積土上層	土師器	鉢	(21.6)	-	(10.5)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		25
22	C-395	SD66	堆積土上層	土師器	甕	(20.0)	6.8	30.9	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		25
23	C-199	SD66	堆積土上層	土師器	甕	16.4	-	(15.7)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		25
24	C-391	SD66	堆積土上層	土師器	甕	(19.2)	-	(9.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		26

第 70 図　SD66 溝跡堆積土上層出土遺物（2）

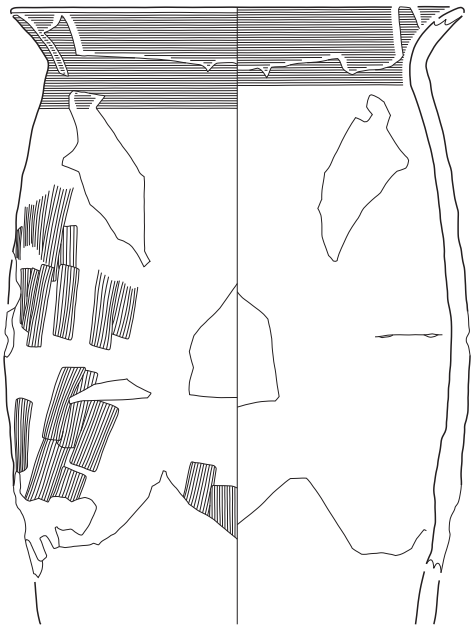


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
25	C-394	SD66	堆積土上層	土師器	甕	(17.6)	7.6	25.9	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		25
26	C-269	SD66	堆積土上層	土師器	甕	12.4	-	(15.2)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴上半:ﾊｹﾒ 胴下半:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		25
27	C-151	SD66	堆積土上層	土師器	甕	(18.8)	(8.0)	26.5	口縁～胴上端:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		26
28	C-201	SD66	堆積土上層	土師器	甕	(14.6)	-	(14.9)	口縁:ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		26
29	C-276	SD66	堆積土上層	土師器	甕	(18.6)	-	(21.2)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		26

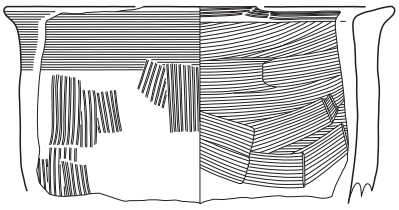
第 71 図　SD66 溝跡堆積土上層出土遺物（3）



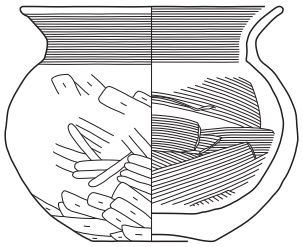
30（堆積土上層）



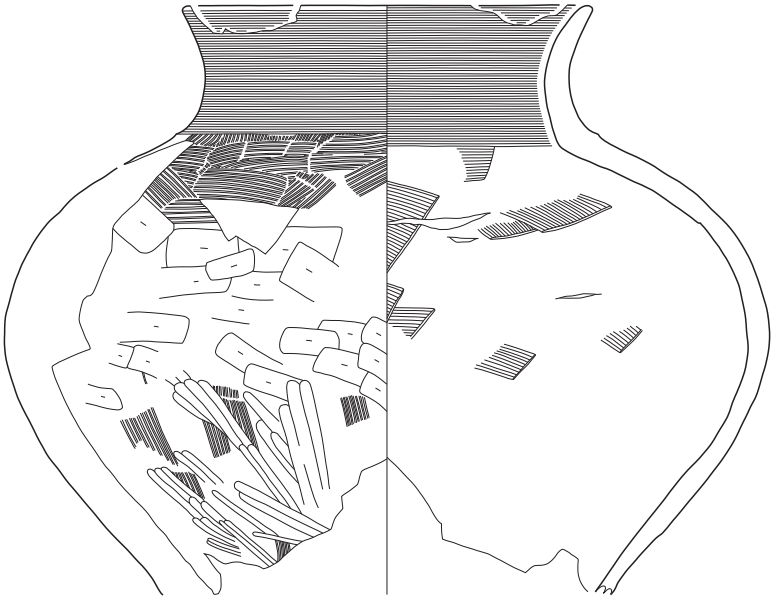
31（堆積土上層）



32（堆積土上層）



33（堆積土上層）

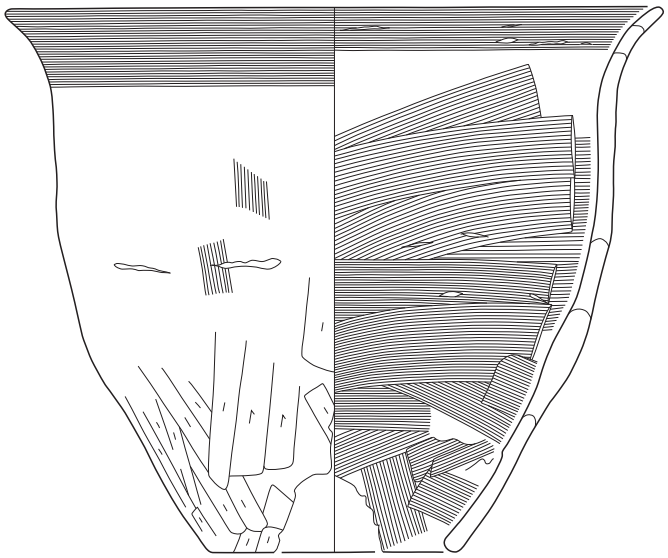


34（堆積土上層）

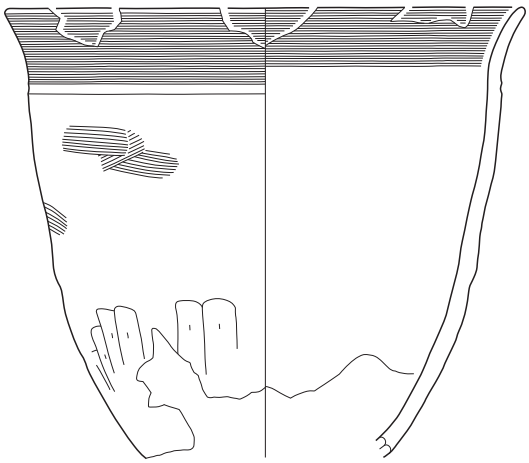
0　（1:3）　10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
30	C-159	SD66	堆積土上層	土師器	甕	17.0	-	(26.5)	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ		26
31	C-377	SD66	堆積土上層	土師器	甕	(18.0)	-	(24.5)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ		26
32	C-375	SD66	堆積土上層	土師器	甕	(15.4)	-	(7.8)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾊｹﾒ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		26
33	C-148	SD66	堆積土上層	土師器	甕	10.2	4.8	9.3	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		27
34	C-198	SD66	堆積土上層	土師器	甕	(16.0)	-	(23.4)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴上半：ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ 胴下半：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		27

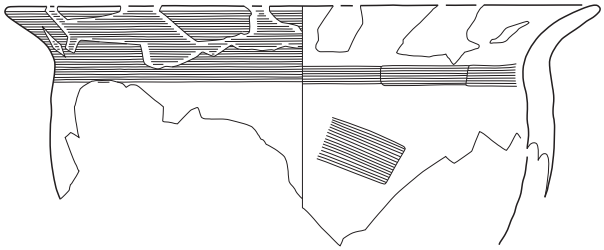
第 72 図　SD66 溝跡堆積土上層出土遺物（4）



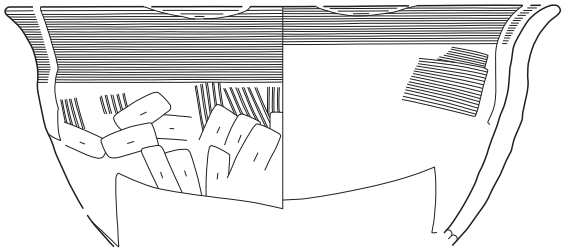
35（堆積土上層）



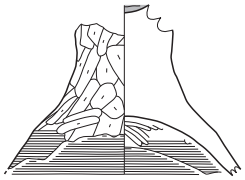
36（堆積土上層）



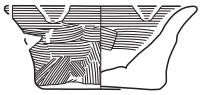
37（堆積土上層）



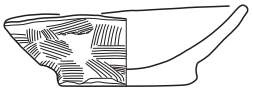
38（堆積土上層）



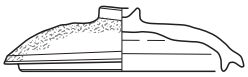
39（堆積土上層）



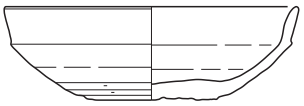
40（堆積土上層）



41（堆積土上層）



42（堆積土上層）

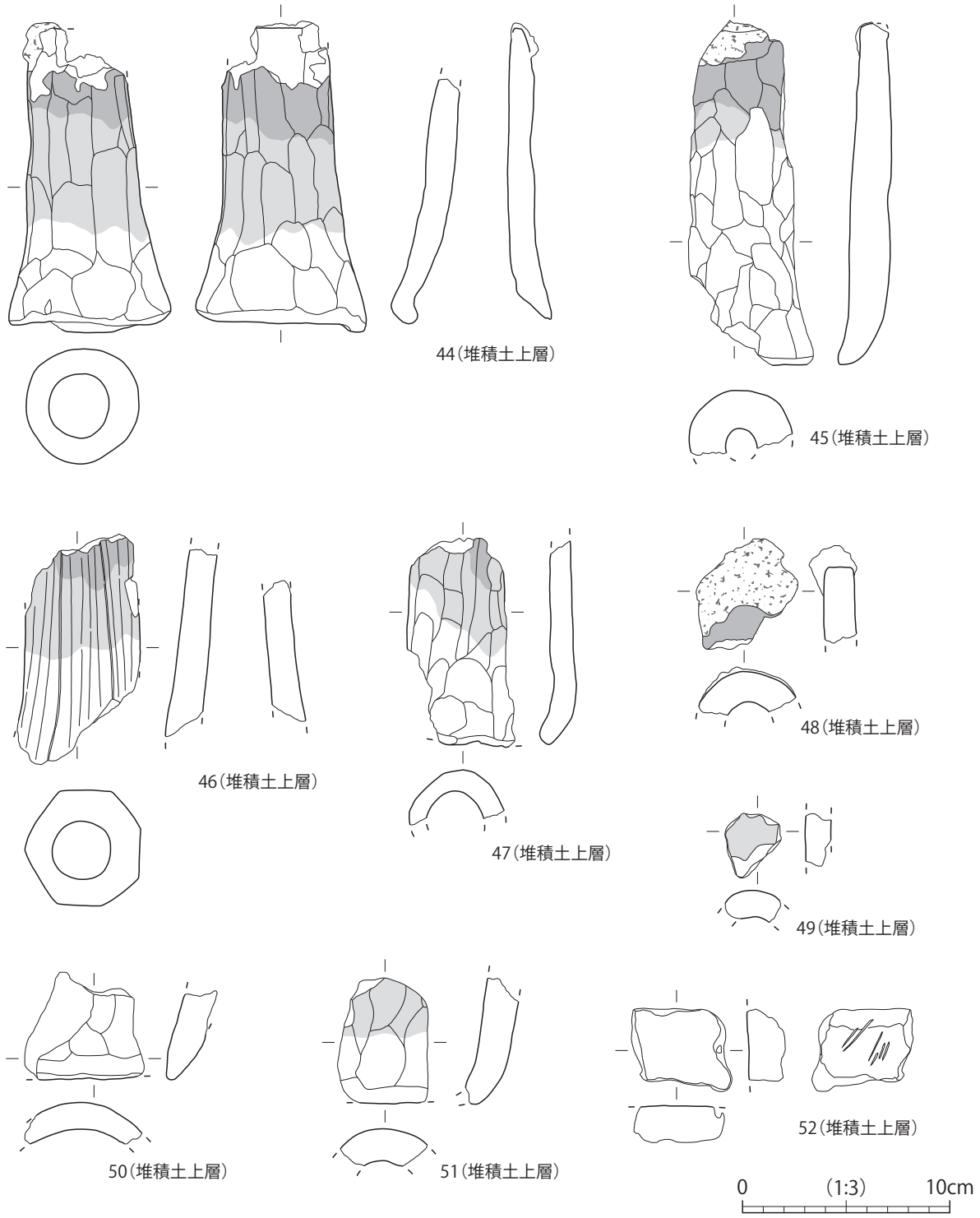


43（堆積土上層）

0　（1:3）　10cm

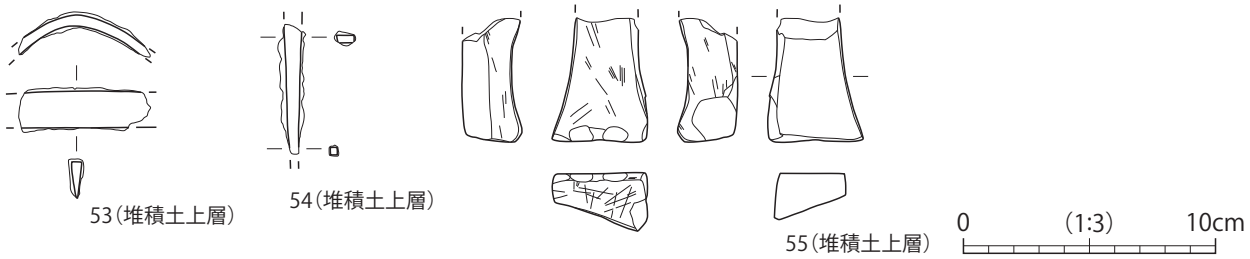
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
35	C-137	SD66	堆積土上層	土師器	甑	(25.6)	(9.6)	21.6	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		27
36	C-268	SD66	堆積土上層	土師器	甑	(20.4)	-	(17.8)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴上半:ﾅﾃﾞ 胴下半:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ		27
37	C-188	SD66	堆積土上層	土師器	甑	(23.2)	-	(9.6)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ		27
38	C-091	SD66	堆積土上層	土師器	甑	(22.0)	-	(9.5)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		27
39	C-116	SD66	堆積土上層	土師器	高坏	-	-	(6.7)	脚部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ 裾部:ﾖｺﾅﾃﾞ	坏部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ 脚部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ 裾部:ﾖｺﾅﾃﾞ	内面黒色処理	27
40	C-385	SD66	堆積土上層	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	7.2	4.6	3.3	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾅﾃﾞ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		27
41	C-222	SD66	堆積土上層	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	9.6	5.2	3.2	口縁～底部:ﾅﾃﾞ	摩滅	底面木葉痕	27
42	E-018	SD66	堆積土上層	須恵器	蓋	(9.4)	-	2.6	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	自然釉付着	27
43	E-017	SD66	堆積土上層	須恵器	坏	(11.6)	(5.6)	(3.7)	口縁～体部:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 体下端:回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	底部回転ﾍﾗ切り (右回転)	27

第 73 図　SD66 溝跡堆積土上層出土遺物（5）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
44	P-011	SD66	堆積土上層	土製品	鞴羽口	14.9	4.8～7.8	1.1～1.5	380.0	ナデ、狭端部溶解物付着、被熱による変色	28
45	P-010	SD66	堆積土上層	土製品	鞴羽口	16.5	(5.0)	1.9	215.8	ナデ、狭端部溶解物付着、被熱による変色、推定孔径1.5cm	28
46	P-013	SD66	堆積土上層	土製品	鞴羽口	(11.0)	5.6	1.6	201.6	ケズリ、被熱による変色	28
47	P-017	SD66	堆積土上層	土製品	鞴羽口	(10.1)	(4.8)	1.1	84.6	ナデ、被熱による変色	28
48	P-015	SD66	堆積土上層	土製品	鞴羽口	(5.3)	(4.9)	2.3	42.3	狭端部溶解物付着、被熱による変色	28
49	P-016	SD66	堆積土上層	土製品	鞴羽口	(3.1)	(2.7)	1.2	9.1	被熱による変色	28
50	P-012	SD66	堆積土上層	土製品	鞴羽口	(5.2)	(5.8)	1.5	45.8	ナデ	28
51	P-009	SD66	堆積土上層	土製品	鞴羽口	(6.1)	(4.4)	1.6	50.0	ナデ、被熱による変色	28
52	P-007	SD66	堆積土上層	土製品	土壁?	(4.0)	(4.5)	(1.8)	25.7	スサ混入	28

第 74 図　SD66 溝跡堆積土上層出土遺物（6）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
53	N-014	SD66	堆積土上層	金属製品	刀子？	(5.2)	1.4	0.4	7.7		28
54	N-015	SD66	堆積土上層	金属製品	棒状鉄製品	(5.2)	0.7	0.3	5.0		28

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
55	Kd-002	SD66	堆積土上層	石製品	砥石	(4.9)	3.8	2.1	41.3	砂岩	欠損品、柱状、表・裏・左・右・下面砥面	28

第 75 図　SD66 溝跡堆積土上層出土遺物（7）

外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。16・17 は丸底状の平底で、体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。17 は明瞭な輪積み痕がみられ粗雑なつくりである。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリを基本とし、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。18 は平底の底部から体部が扁平に内湾し、口縁部が外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキで、内外面に黒色処理が施される。19 は半球状の体部で、底部付近の器厚が厚い。調整は外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキで、黒色処理が施される。

20・21 は土師器鉢である。体部が直立気味に内湾し、口縁部が外反する 20 と、底部から口縁部にかけて緩やかに内湾する 21 がある。21 は甑の可能性も考えられる。

22 ～ 34 は土師器甕で、胴部が球胴状の 22 ～ 28・33・34 と長胴状の 29 ～ 32 がある。球胴状のものには、胴部の張りが弱い 22 ～ 26 と胴部の張りが強い 27・28・33・34 がある。長胴状のものには、胴部が倒卵状の 29 と長胴の 30・31 がある。口縁部と体部の境は、外面に段ないし稜を持つ 23 ～ 26・28 ～ 30・33・34 と、段ないし稜を持たない 22・27・31・32 がある。口縁部の形態は、外反するものを主体とし、短く外反する 22・23 や直立気味に外反する 26・34、直線的に外傾する 30、横方向に短く開く 32 がある。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ハケメないしヘラナデを基本とし、ヘラケズリやヘラミガキが施されるものもある。内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデを基本とし、ハケメ調整のものもみられる。

35 ～ 38 は土師器甑で、底部から緩やかに内湾し、口縁部が外反する。身の深い 35・36 と身の浅い 37・38 がある。35 は無底である。口縁部と胴部の境は、36 が段を持ち、その他は段を持たない。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴上半ヘラナデないしハケメ、胴下半ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデである。

39 は土師器高坏である。脚部は中実で裾部が内湾気味に外側に広がる。調整は、外面が脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ、裾部内面がヨコナデで、坏部内面には黒色処理が施される。

40・41 はミニチュア土器で、坏形あるいは鉢形である。いずれも平底で、41 の底面には木葉痕がみられる。

42 は須恵器坏蓋である。口径 9.4cm 程の小型品で、天井部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。つまみは中央が凹形のボタン状で、カエリは下方に垂下する。天井部の外面に自然釉がみられる。

43 は須恵器坏で、口縁部と体部の境に段を持つ。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

44 ～ 51 は鞴羽口で、狭端部側には溶解物の付着があり、被熱による変色がみられる。外面調整はナデを基本とし、46 はケズリにより横断面が七角形に仕上げられている。厚さや孔径が 45 とその他では異なり、被熱による変色範囲にも違いが認められることから、使用方法が異なる可能性が考えられる。52 はスサ入りの粘土片で、土壁片の可能性が考えられる。53 は変形した刀子と考えられ、54 は棒状鉄製品である。55 は砂岩製の砥石である。

［SD66　中層出土遺物］（第 76 ～ 81 図）

土師器坏 15 点、埦 1 点、鉢 5 点、甕 10 点、甑 2 点、高坏 1 点、蓋 1 点、ミニチュア土器 2 点、須恵器蓋 1 点、壺 1 点、支脚 1 点、鞴羽口 3 点、紡錘車 1 点、棒状鉄製品 2 点、筋砥石 1 点の計 47 点を掲載した。

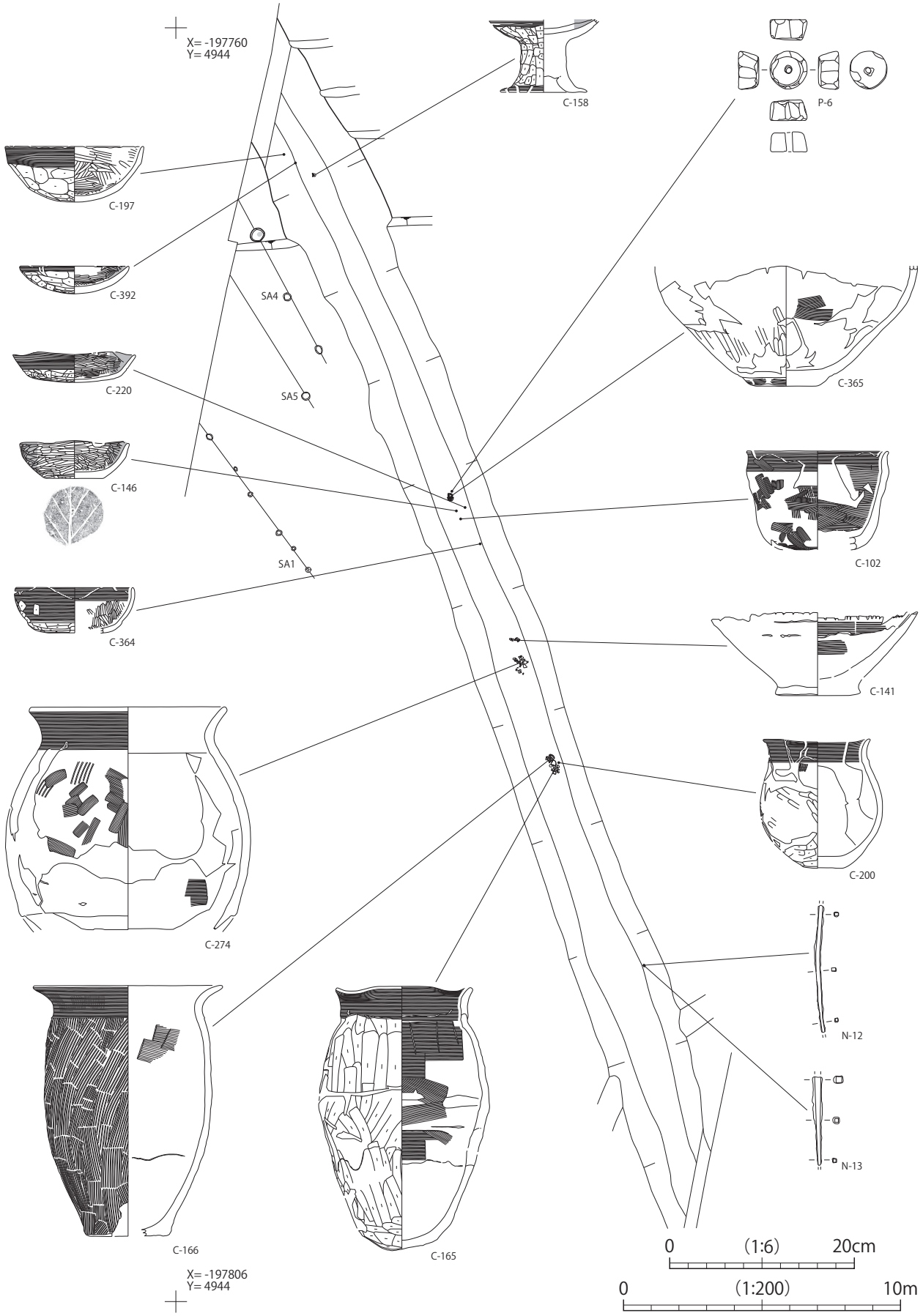
56 ～ 70 は土師器坏である。56 は鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の特徴を持つ。底部から体部が扁平に内湾し、口縁部と体部の境に段を持つ。口縁部の形態は、短く直線的に内傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキである。57 は北武蔵型土師器（清水型関東系土器）の特徴を持つ。口径 10.4cm の小型品で、体部が半球状を呈し、口縁部が「S」字状に短く外傾する。色調は、浅黄橙色～橙色で、器厚は口縁部が薄く底部が厚い。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。58 ～ 63 はいわゆる有段丸底坏で、口径 13cm 前後の中型品を主体とし、口径 14.8cm の大型品もみられる。口縁部と体部の境は、外面に段ないし稜を持つ 58 ～ 62 と、外面に稜を持たない 63 があり、59 は外面の段と対応する内面に稜がみられる。口縁部の形態は、内湾する 58、直線的に外傾し口縁端部が内湾する 59、直線的に外傾する 60・61・63、外反する 62 がある。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキを基本とし、58・62・63 には口縁部内面にヨコナデが施される。59・61・63 は内面に黒色処理が施される。64 ～ 66 は底部から口縁部にかけて内湾するもので、身の深い 64 と身の浅い 65・66 がある。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施され、66 は外面にも黒色処理が施される。67 は底部が平底で、体部から口縁部にかけて内湾する。調整は、内外面ヘラミガキ後、黒色処理が施され、底面の木葉痕にはズレがみられる。68 は丸底状の平底で、体部から口縁部にかけて直線的に大きく開く。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。69・70 は底部から体部が内湾し、口縁部が直立する。69 は口径 9cm 程の小型品で、70 は口径 15cm 程の大型品である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキで、69 は内面に黒色処理が施される。

71 は土師器埦で、底部から体部が内湾し、口縁部が緩やかに外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキである。

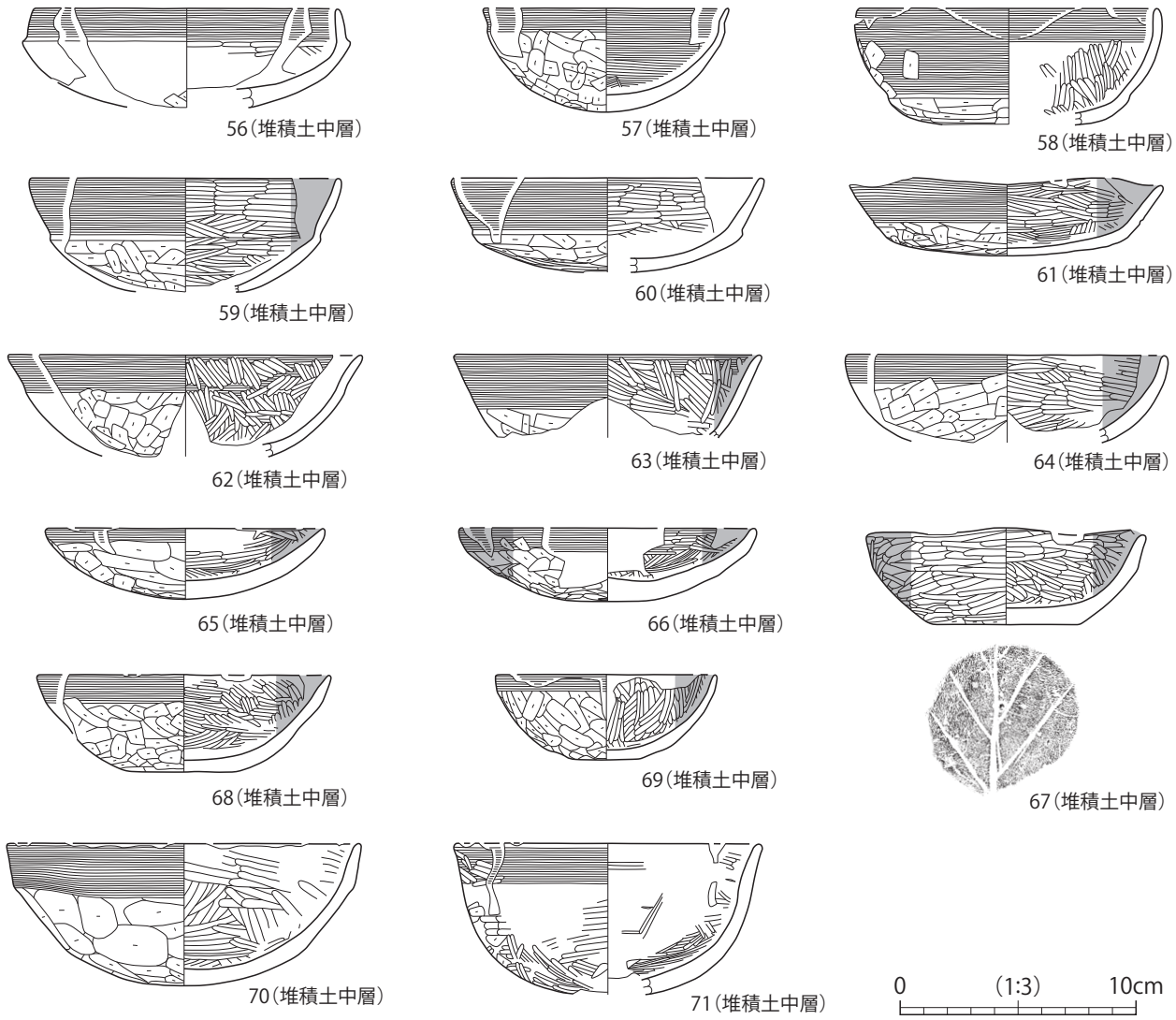
72 ～ 76 は土師器鉢で、頸部が括れる 72・73 と、括れがない 74 ～ 76 がある。頸部が括れるものは、体部が内湾し、口縁部が内湾気味に直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリを基本とし、ハケメやヘラミガキが施される。内面は 72 が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、73 が体部ヘラミガキである。頸部が括れないものは、体部が外傾し、口縁部が直立気味に外傾する 74 や外反する 76、体部から口縁部にかけて内湾する 75 がある。なお、76 は小型の甕または甑の可能性も考えられる。

77 ～ 86 は土師器甕で、胴部が球胴状の 77 ～ 79・85・86 と長胴状の 82 ～ 84 などがある。球胴状のものには、胴部の張りが弱い 77 ～ 79 と胴部の張りが強い 85 がある。調整は、外面が口縁部ヨコナデで、胴部はハケメ、ヘラナデ、ヘラケズリなど多様である。内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデを主体とする。86 は粘土紐の接合面に刻目が施されている。長胴状のものには、平底の 82・83 と丸底の 84 がある。平底の 82・83 は外面の口縁部と胴部の境に段ないし稜をもつもので、いずれも底面に木葉痕がみられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ハケメないしヘラナデを基本とし、ヘラケズリが施される。内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデを基本とする。丸底の 84 は口縁部が直立気味に外反するもので、明瞭な輪積み痕がみられる粗雑なつくりである。調整は外面が口縁部ヨコナデ、胴部がヘラケズリである。

87・88 は土師器甑で、底部から緩やかに内湾し、口縁部が外反する。87 は無底である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメを基本とし、87 は体下半にヘラケズリが施される。内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。88 の外面には、口縁部と体部の境に稜を持つ。

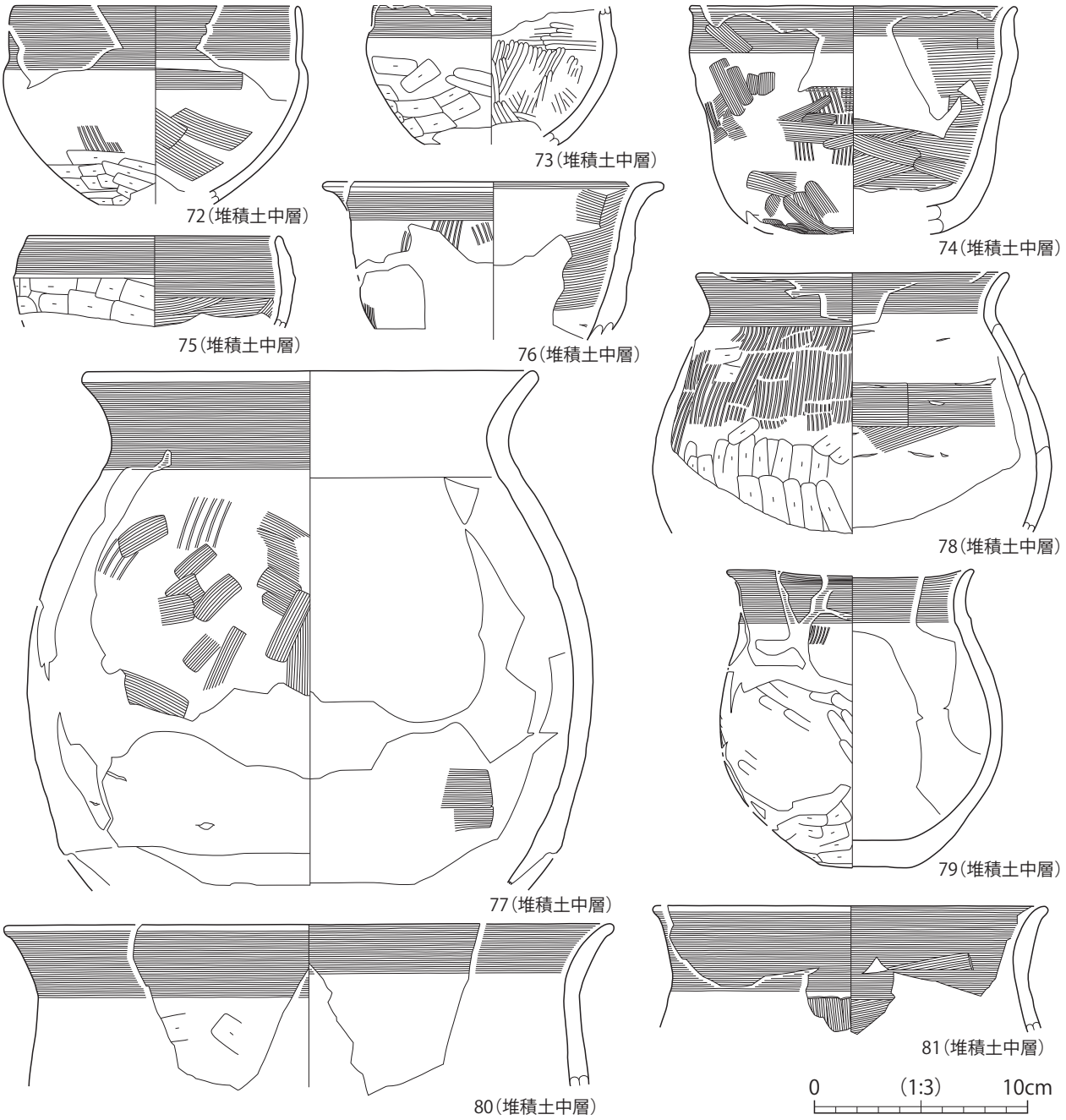


第 76 図　SD66 溝跡堆積土中層遺物出土状況図



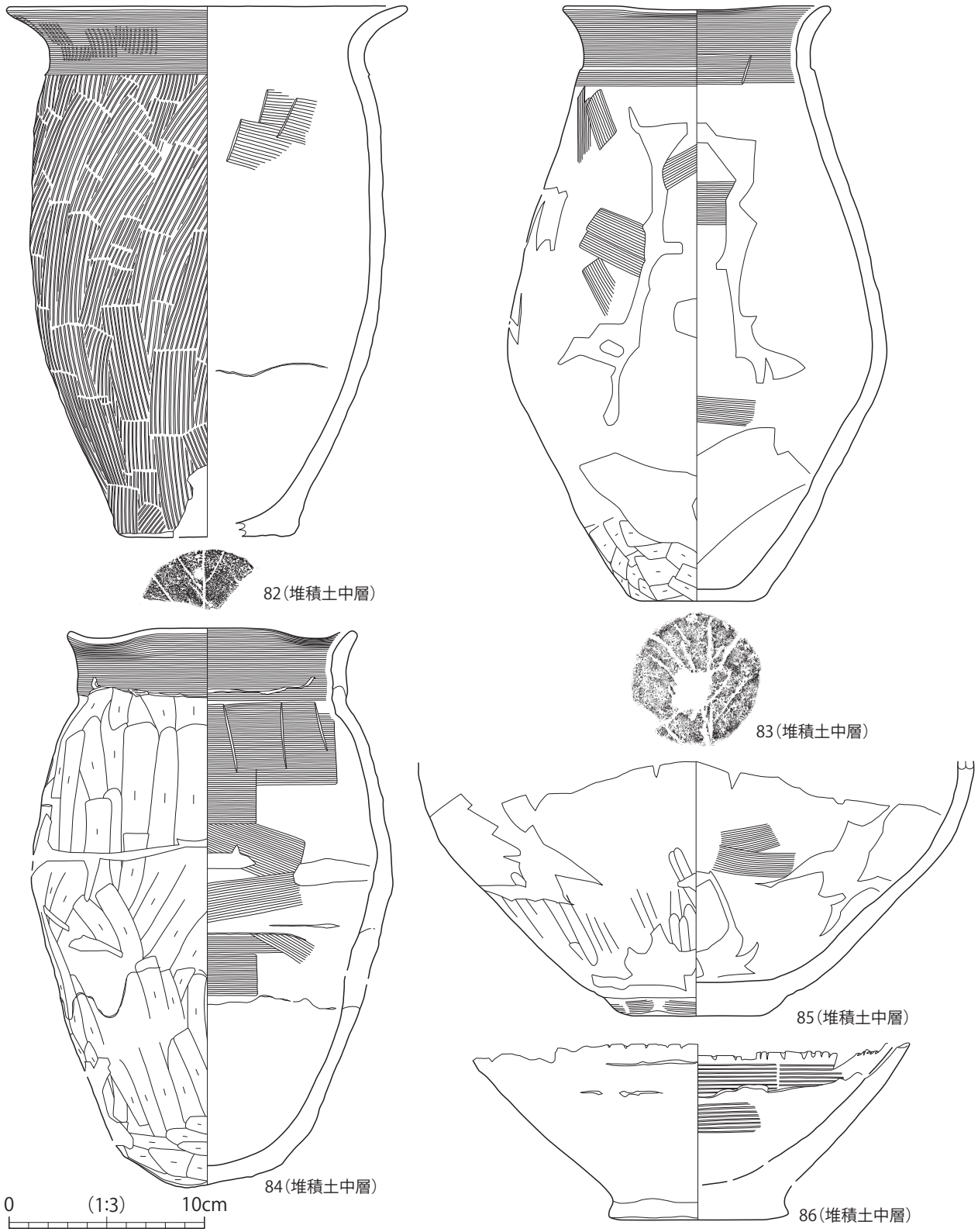
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
56	C-194	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(12.8)	-	(4.2)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		28
57	C-196	SD66	堆積土中層	土師器	坏	10.4	-	4.4	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		28
58	C-364	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(12.8)	-	(4.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗｹｽﾞﾘ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		28
59	C-212	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(13.2)	-	(4.8)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	28
60	C-181	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(13.2)	-	(4.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		28
61	C-220	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(13.2)	-	(3.3)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	28
62	C-219	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(14.8)	-	(4.3)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		28
63	C-097	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(12.8)	-	(3.5)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	28
64	C-208	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(13.4)	-	(3.7)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	28
65	C-392	SD66	堆積土中層	土師器	坏	11.8	-	3.0	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	28
66	C-101	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(12.6)	3.2	3.1	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗｹｽﾞﾘ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面黒色処理	28
67	C-146	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(11.6)	6.2	4.1	口縁～底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面黒色処理 底面木葉痕	28
68	C-389	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(12.4)	(4.4)	4.1	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	28
69	C-349	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(9.2)	(3.2)	(3.6)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	28
70	C-197	SD66	堆積土中層	土師器	坏	(14.8)	-	6.0	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		28
71	C-171	SD66	堆積土中層	土師器	埦	(12.8)	-	(6.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		28

第 77 図　SD66 溝跡堆積土中層出土遺物（1）



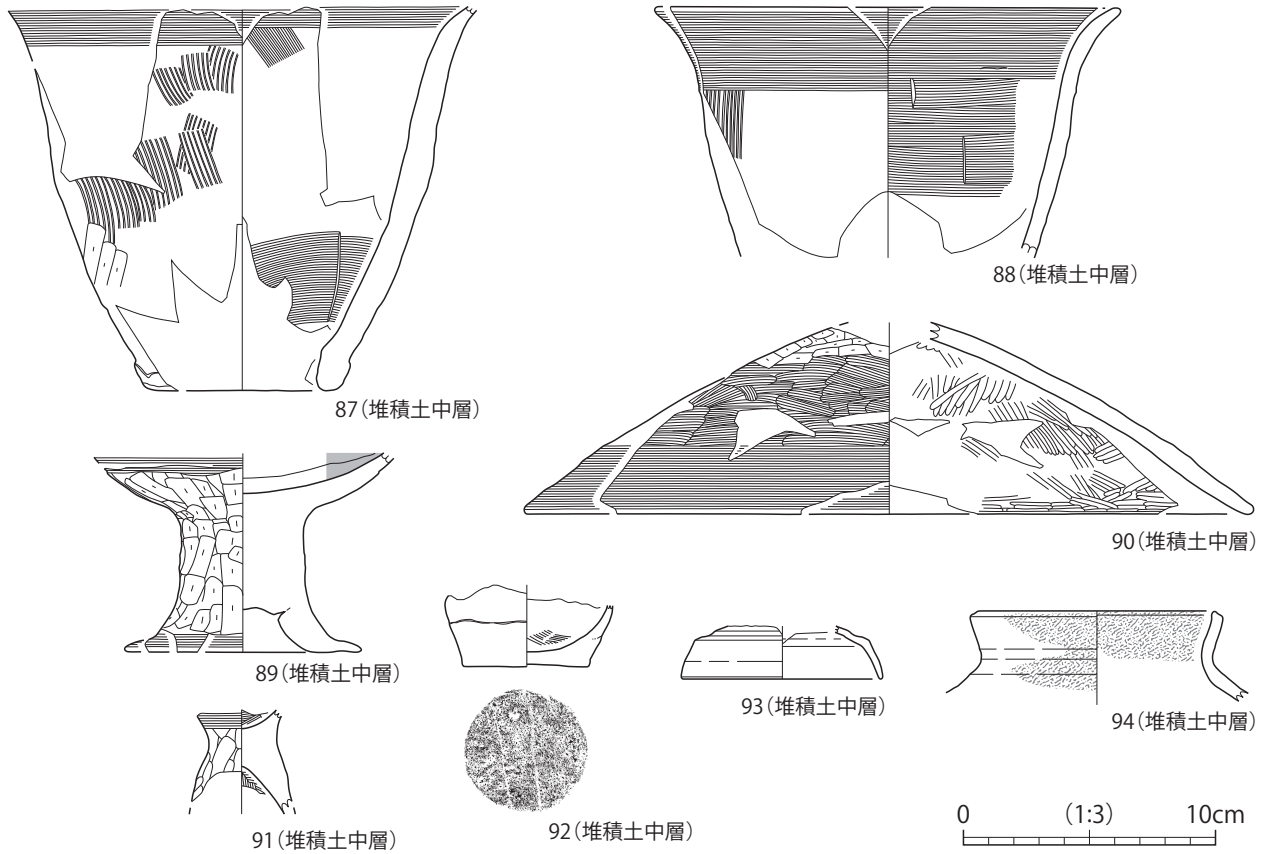
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
72	C-359	SD66	堆積土中層	土師器	鉢	(13.2)	-	(9.3)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱痕	29
73	C-350	SD66	堆積土中層	土師器	鉢	-	-	(6.5)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		29
74	C-102	SD66	堆積土中層	土師器	鉢	(15.2)	-	(10.7)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾅﾃﾞ 体部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		29
75	C-388	SD66	堆積土中層	土師器	鉢	12.0	-	(4.3)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱痕	29
76	C-347	SD66	堆積土中層	土師器	鉢	(16.0)	-	(7.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾊｹﾒ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		29
77	C-274	SD66	堆積土中層	土師器	甕	21.4	-	(24.1)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		29
78	C-131	SD66	堆積土中層	土師器	甕	(14.4)	-	(12.2)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		29
79	C-200	SD66	堆積土中層	土師器	甕	11.6	4.3	14.0	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴上半:ﾊｹﾒ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴下半:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ	内面摩滅	29
80	C-313	SD66	堆積土中層	土師器	甕	(28.2)	-	(8.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ		29
81	C-386	SD66	堆積土中層	土師器	甕	(18.2)	-	(6.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		29

第 78 図　SD66 溝跡堆積土中層出土遺物（2）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
82	C-166	SD66	堆積土中層	土師器	甕	(20.4)	(9.0)	27.2	口縁:ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	底面木葉痕	30
83	C-273	SD66	堆積土中層	土師器	甕	(13.8)	7.0	30.5	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	底面木葉痕	30
84	C-165	SD66	堆積土中層	土師器	甕	14.8	-	28.5	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ　胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ　胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		30
85	C-365	SD66	堆積土中層	土師器	甕	-	6.6	(13.0)	胴部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ　底部:ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ		29
86	C-141	SD66	堆積土中層	土師器	甕	-	(9.2)	(9.0)	摩滅	ﾊｹﾒ	接合面刻目	29

第 79 図　SD66 溝跡堆積土中層出土遺物（3）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
87	C-150	SD66	堆積土中層	土師器	甑	-	(6.2)	(15.2)	口縁:ヨコナデ 胴上半:ハケメ 胴下半:ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ 胴部:ヘラナデ		30
88	C-140	SD66	堆積土中層	土師器	甑	(18.4)	-	(9.9)	口縁:ヨコナデ 胴部:ハケメ	口縁:ヨコナデ 胴部:ヘラナデ		30
89	C-158	SD66	堆積土中層	土師器	高坏	-	9.4	(7.7)	口縁:ヨコナデ 脚部:ヘラケズリ 裾部:ヨコナデ	摩滅	坏部内面黒色処理	30
90	C-174	SD66	堆積土中層	土師器	蓋	(29.0)	-	(7.6)	口縁:ヨコナデ 体下半:ヘラナデ 体上半:ヘラケズリ	ヘラミガキ		30
91	C-289	SD66	堆積土中層	土師器	ミニチュア	-	-	(4.1)	坏部:ヨコナデ 脚部:ヘラケズリ	坏部:ヘラナデ 脚部:ヘラナデ		30
92	C-286	SD66	堆積土中層	土師器	ミニチュア	-	4.9	(3.2)	摩滅	ナデ	底面木葉痕	30
93	E-019	SD66	堆積土中層	須恵器	蓋	(7.8)	-	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ		30
94	E-022	SD66	堆積土中層	須恵器	壺	(9.4)	-	(3.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	自然釉付着	30

第 80 図　SD66 溝跡堆積土中層出土遺物（4）

89 は土師器高坏である。坏部外面の口縁部と体部の境に段を持ち、脚部は中実で裾部が「八」字状に広がる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～脚部ヘラケズリ、裾部はヨコナデである。坏部内面は黒色処理が施される。

90 は土師器蓋で、口径 29cm 程の大型品である。調整は外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデで、天井付近にヘラケズリが施される。内面はヘラミガキである。

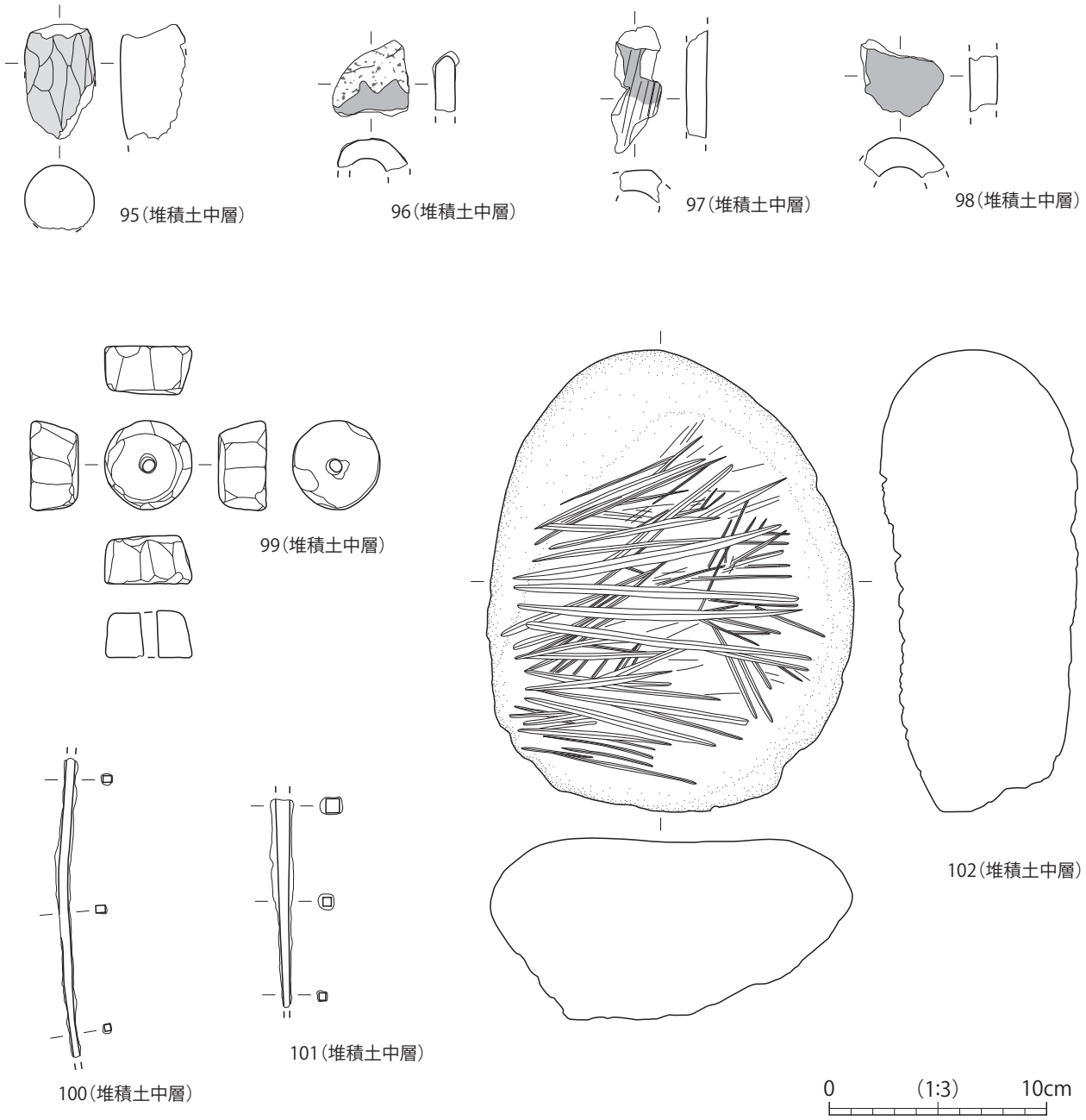
91・92 はミニチュア土器で、高坏状の 91 と鉢状の 92 がある。92 の底面には木葉痕がみられる。

93 は須恵器蓋、94 は須恵器壺である。94 の口縁部内外面には自然釉が付着する。

95 は土製支脚で、被熱による変色がみられる。外面調整はナデである。96 ～ 98 は鞴羽口で、いずれも被熱による変色がみられ、96 の狭端部には溶解物が付着する。97 はヘラケズリにより平坦面がつくられており、堆積土上層出土の 46 と同様の形状を呈するものと考えられる。99 は断面形状が台形状の土製紡錘車である。

100・101 は棒状鉄製品で、いずれも両端は欠損している。

102 は凝灰岩製の筋砥石である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
95	P-004	SD66	堆積土中層	土製品	支脚	(5.3)	3.2	(2.9)	45.0	ナデ、被熱による変色	31
96	P-019	SD66	堆積土中層	土製品	鞴羽口	(3.5)	(3.5)	0.9	15.5	狭端部溶解物付着、被熱による変色	31
97	P-014	SD66	堆積土中層	土製品	鞴羽口	(5.8)	(2.3)	0.9	12.0	ケズリ、被熱による変色	31
98	P-018	SD66	堆積土中層	土製品	鞴羽口	(3.5)	(3.8)	1.3	14.4	被熱による変色	31

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
99	P-006	SD66	堆積土中層	土製品	紡錘車	4.1	4.0	2.2	39.9	ナデ、上端径3.2cm、孔径0.5～0.6cm	31

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
100	N-012	SD66	堆積土中層	金属製品	棒状鉄製品	(13.7)	0.4	0.3	10.8		31
101	N-013	SD66	堆積土中層	金属製品	棒状鉄製品	(9.5)	0.6	0.6	11.3		31

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
102	Kd-005	SD66	堆積土中層	礫石器	筋砥石	21.3	16.9	8.3	2,530.0	凝灰岩	完形品、楕円礫、溝状の研磨痕	31

第 81 図　SD66 溝跡堆積土中層出土遺物（5）

［SD66　下層出土遺物］（第 82 ～ 86 図）

土師器坏 7 点、埦 1 点、鉢 2 点、甕 10 点、甑 3 点、高坏 1 点、須恵器坏 1 点、甕 1 点、土製紡錘車 1 点の計 27 点を掲載した。

103 ～ 109 は土師器坏である。いわゆる有段丸底坏で、口径 11cm 前後の小型品、口径 12.5cm 前後の中型品、口径 15cm 前後の大型品がある。口縁部と体部の境は、外面に明瞭な段ないし稜を持ち、103・104 は外面の稜と対応する内面に稜がみられる。口縁部の形態は、外反する 103・109 や直線的に外傾する 104 ～ 107、内湾気味に外傾する 108 がある。調整は、いずれも外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリを基本とし、内面はヘラミガキで、103・105・106・109 は内面に黒色処理が施される。

110 は土師器埦である。いわゆる有段丸底坏を縦方向に大きくした器形である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は体部ヘラナデである。

111・112 は土師器鉢である。111 は平底状の丸底で、体部から口縁部にかけ内湾し、口縁部が内傾する。調整は、外面がヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラミガキである。112 は体部が外傾し、口縁部が直立気味に外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリである。

113 ～ 122 は土師器甕である。胴部が球胴状の 113 ～ 118 と長胴状の 120・121 などがある。口縁部と体部の境は、113・117 を除き外面に段ないし稜を持つ。口縁部の形態は、外反するものを主体とし、直線的に外傾し、口縁端部が外反する 117 などがある。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部ハケメを基本とし、ヘラケズリやヘラナデ、ヘラミガキが施されるものもある。内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデを基本とし、口縁部内面にヘラミガキが施される 117 などがある。122 の底面には木葉痕がみられる。

123 ～ 125 は土師器甑である。123 は胴部が直立気味に外傾し、口縁部が緩やかに外反する。124 は胴部が内湾し、口縁部が外反する。口縁部と胴部の境は、123 が段を持ち、124 は段を持たない。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、胴部がヘラナデないしヘラケズリで、内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデないしヘラケズリである。125 は無底である。

126 は土師器高坏で、脚部は中空である。調整は、外面が脚部ヘラケズリ、内面が脚部ヘラナデ、坏部ヘラミガキ後、黒色処理が施される。

127 は須恵器坏である。口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部が直立気味に外傾する。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

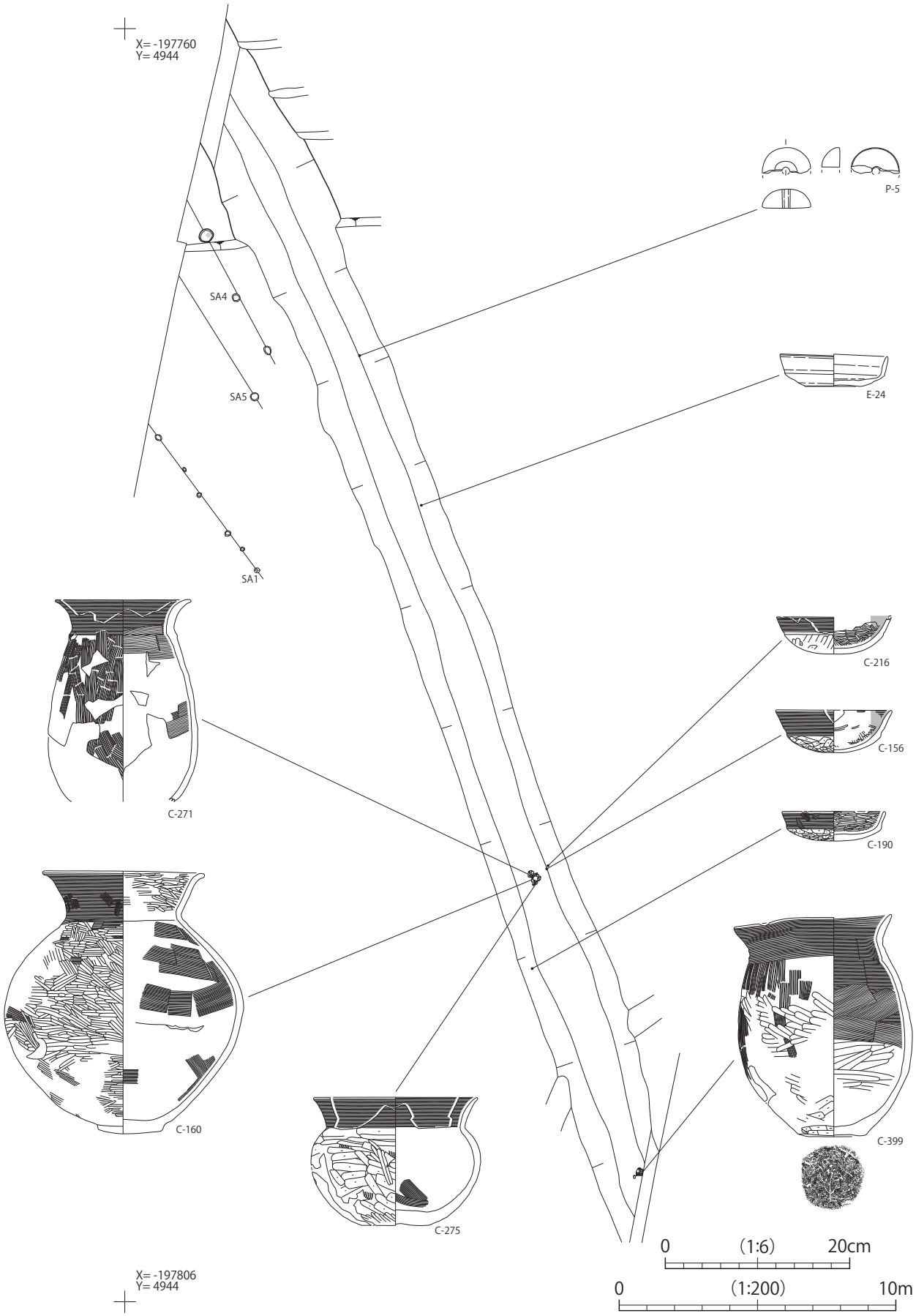
128 は須恵器甕である。頸部が鋭角に屈曲し、口縁部が直線的に外傾する。

129 は断面形状が半円状の土製紡錘車である。

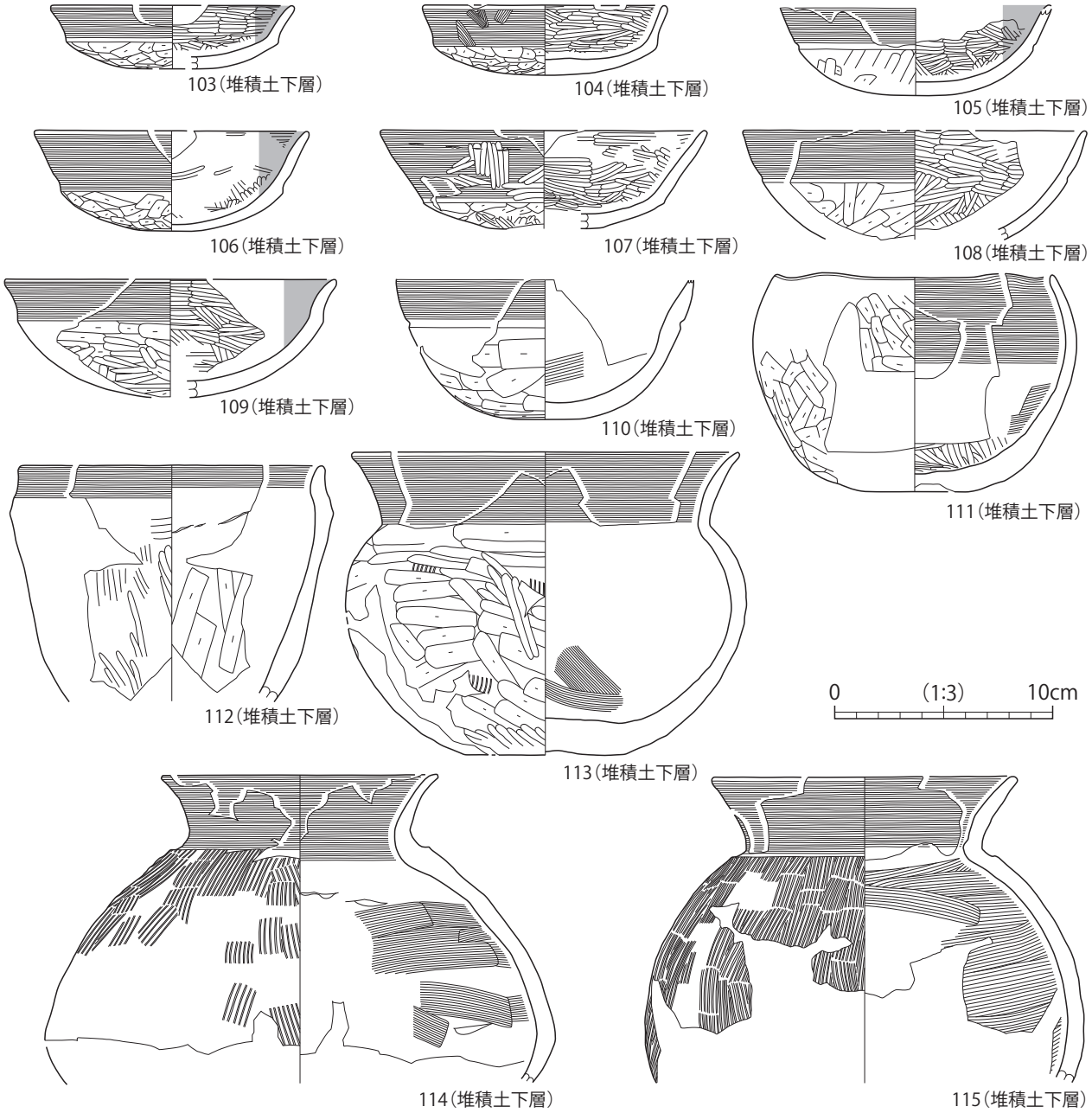
［SD66　底面直上出土遺物］（第 87 ～ 89 図）

土師器坏 4 点、甕 5 点、高坏 2 点、石錘 1 点の計 12 点を掲載した。

130 ～ 133 は土師器坏である。130 ～ 132 はいわゆる有段丸底坏で、口径 11 ～ 12cm の小型品と口径 13.2cm の中型品があり、132 は身が深く埦状を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段ないし稜を持つ 130・131 と稜が不明瞭な 132 があり、130 は外面の稜に対応する内面に稜がみられる。口縁部の形態は、外反する 130、内湾気味に外傾する 131、外傾する 132 がある。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキである。いずれも黒色処理は施されていない。133 は底面に木葉痕を持つ平底で、体部が扁平に内湾し、口縁端部が内湾する。口縁部と体部の境は、外面に明瞭な段を持つ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後一部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキで、内面に黒色処理が施され、外面にも黒色化が

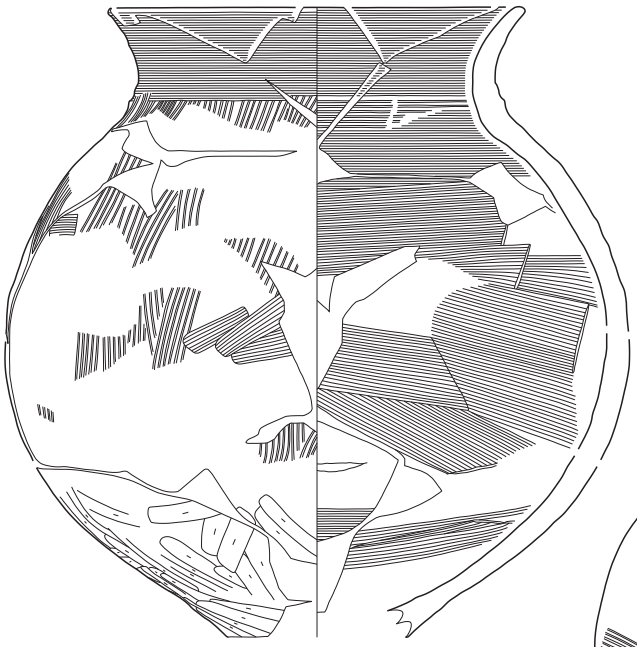


第 82 図　SD66 溝跡堆積土下層遺物出土状況図



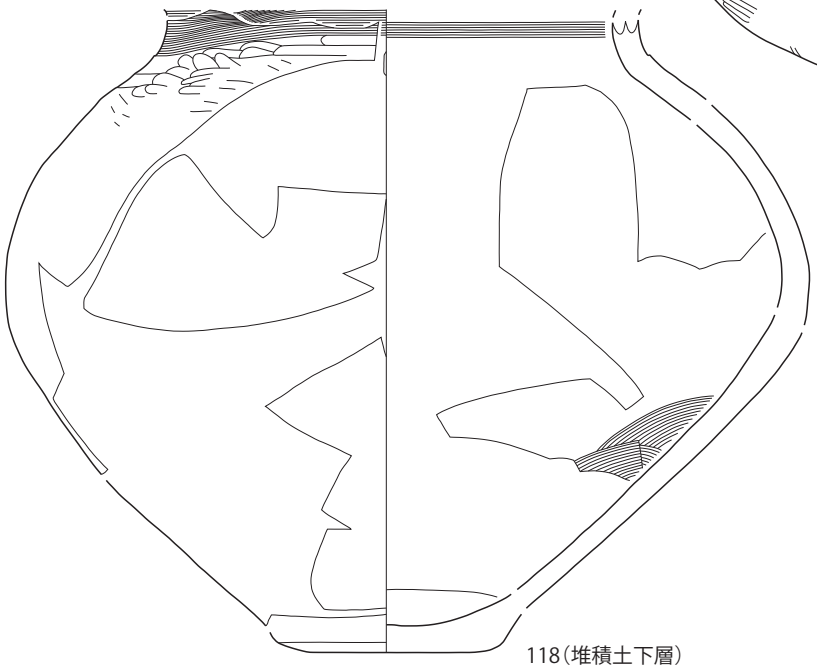
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
103	C-213	SD66	堆積土下層	土師器	坏	(11.2)	-	(2.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	31
104	C-190	SD66	堆積土下層	土師器	坏	(11.0)	-	3.2	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		31
105	C-216	SD66	堆積土下層	土師器	坏	-	-	(4.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	31
106	C-156	SD66	堆積土下層	土師器	坏	12.6	-	4.6	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	31
107	C-095	SD66	堆積土下層	土師器	坏	(14.8)	-	(4.5)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾐｶﾞｷ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		31
108	C-214	SD66	堆積土下層	土師器	坏	(15.6)	-	(5.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		31
109	C-217	SD66	堆積土下層	土師器	坏	(15.2)	-	(5.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	31
110	C-182	SD66	堆積土下層	土師器	埦	-	3.0	(6.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ		31
111	C-187	SD66	堆積土下層	土師器	鉢	(12.6)	5.0	9.9	体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		31
112	C-381	SD66	堆積土下層	土師器	鉢	(13.6)	-	(10.8)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ		31
113	C-275	SD66	堆積土下層	土師器	甕	17.6	7.4	13.9	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		31
114	C-173	SD66	堆積土下層	土師器	甕	12.4	-	(14.1)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		31
115	C-147	SD66	堆積土下層	土師器	甕	(13.8)	-	(14.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		31

第 83 図　SD66 溝跡堆積土下層出土遺物（1）



116（堆積土下層）

117（堆積土下層）

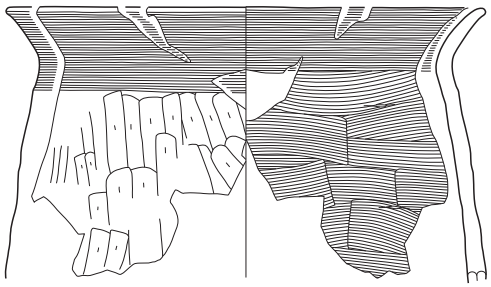


118（堆積土下層）

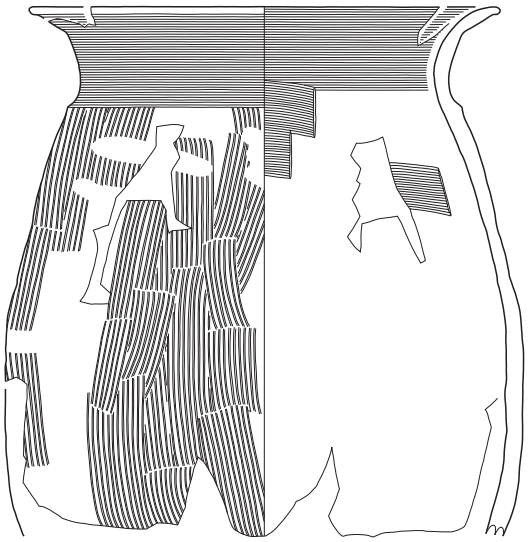
0　（1:3）　10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
116	C-161	SD66	堆積土下層	土師器	甕	（16.6）	（7.2）	（25.0）	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 胴下端：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁～胴上端：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		32
117	C-160	SD66	堆積土下層	土師器	甕	17.6	6.9	28.5	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾊｹﾒ 胴部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		32
118	C-272	SD66	堆積土下層	土師器	甕	-	9.0	（25.4）	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		32

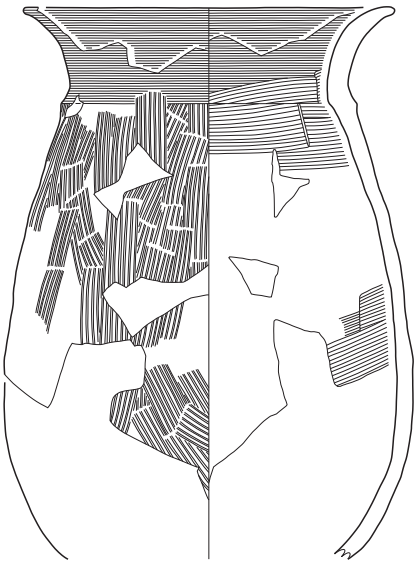
第 84 図　SD66 溝跡堆積土下層出土遺物（2）



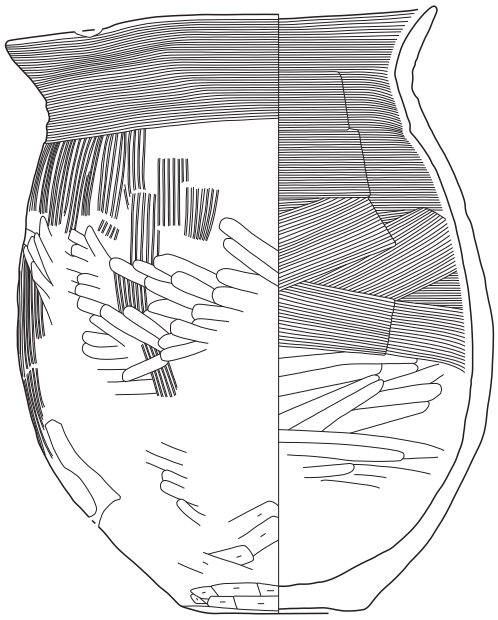
119（堆積土下層）

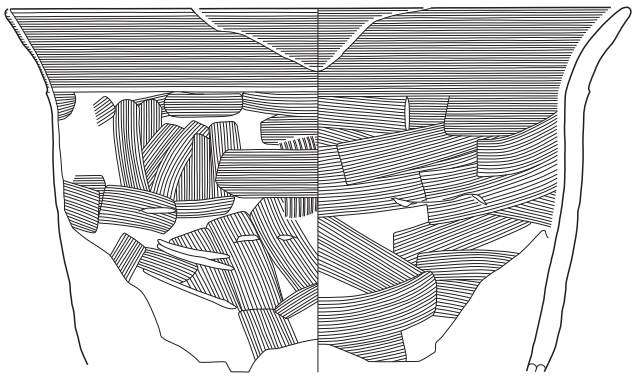


120（堆積土下層）

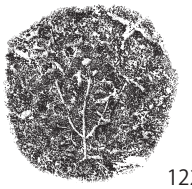


121（堆積土下層）





123（堆積土下層）

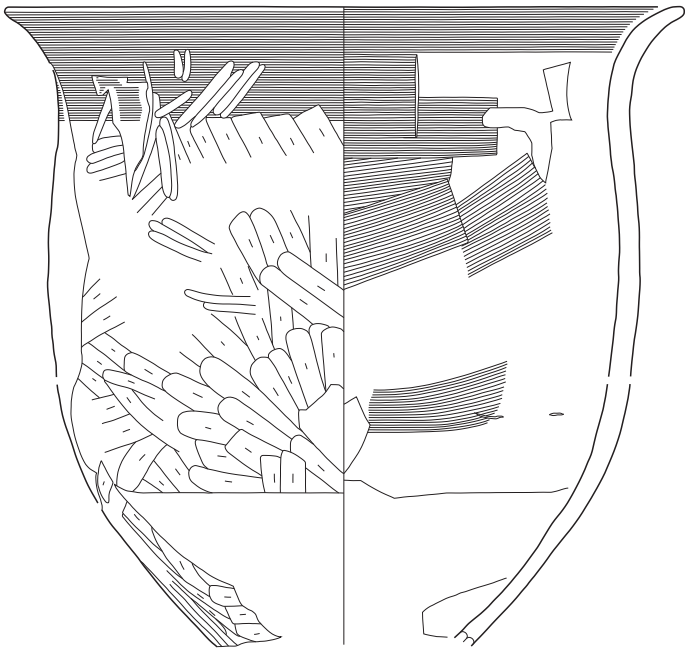


122（堆積土下層）

0　（1:3）　10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
119	C-094	SD66	堆積土下層	土師器	甕	(18.8)	-	(10.7)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		33
120	C-167	SD66	堆積土下層	土師器	甕	(18.8)	-	(21.0)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		33
121	C-271	SD66	堆積土下層	土師器	甕	(14.6)	-	(21.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		33
122	C-399	SD66	堆積土下層	土師器	甕	17.2	7.3	24.1	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴上半:ﾍﾗﾅﾃﾞ 胴下半:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	底面木葉痕	33
123	C-103	SD66	堆積土下層	土師器	甑	(24.8)	-	(14.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	外面に沈線	33

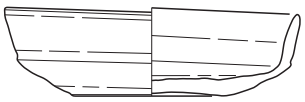
第 85 図　SD66 溝跡堆積土下層出土遺物（3）



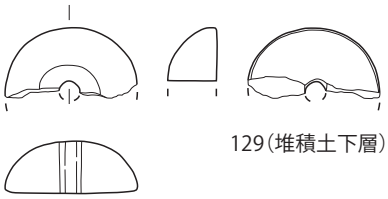
124（堆積土下層）

125（堆積土下層）

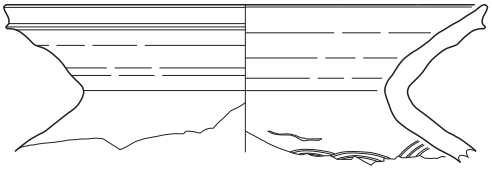
126（堆積土下層）



127（堆積土下層）



129（堆積土下層）



128（堆積土下層）

0　（1:3）　10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
124	C-149	SD66	堆積土下層	土師器	甑	(27.0)	-	(25.3)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		33
125	C-281	SD66	堆積土下層	土師器	甑	-	(8.2)	(4.8)	胴部:ﾊｹﾒ 底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ		33
126	C-170	SD66	堆積土下層	土師器	高坏	-	-	(6.2)	脚部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	坏部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ 脚部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	坏部内面黒色処理	34
127	E-024	SD66	堆積土下層	須恵器	坏	11.6	6.0	3.6	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	底部回転ヘラ切り	34
128	E-028	SD66	堆積土下層	須恵器	甕	(18.8)	-	(5.8)	口縁～頸部:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	口縁～頸部:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 胴部:当て具痕		34

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
129	P-005	SD66	堆積土下層	土製品	紡錘車	(5.3)	(2.8)	1.9	25.7	ミガキ、推定孔径0.8cm	34

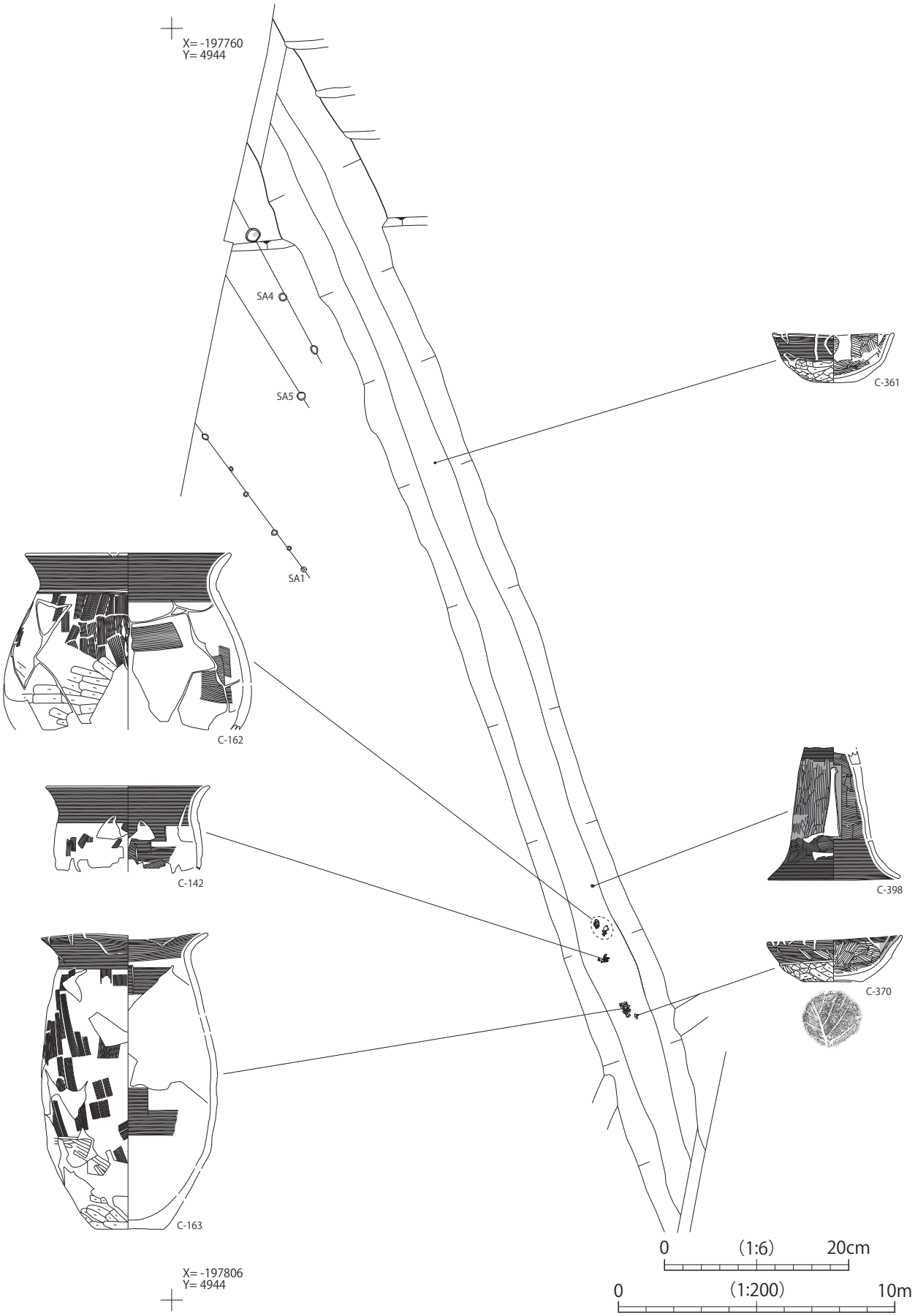
第 86 図　SD66 溝跡堆積土下層出土遺物（4）

及んでいる。

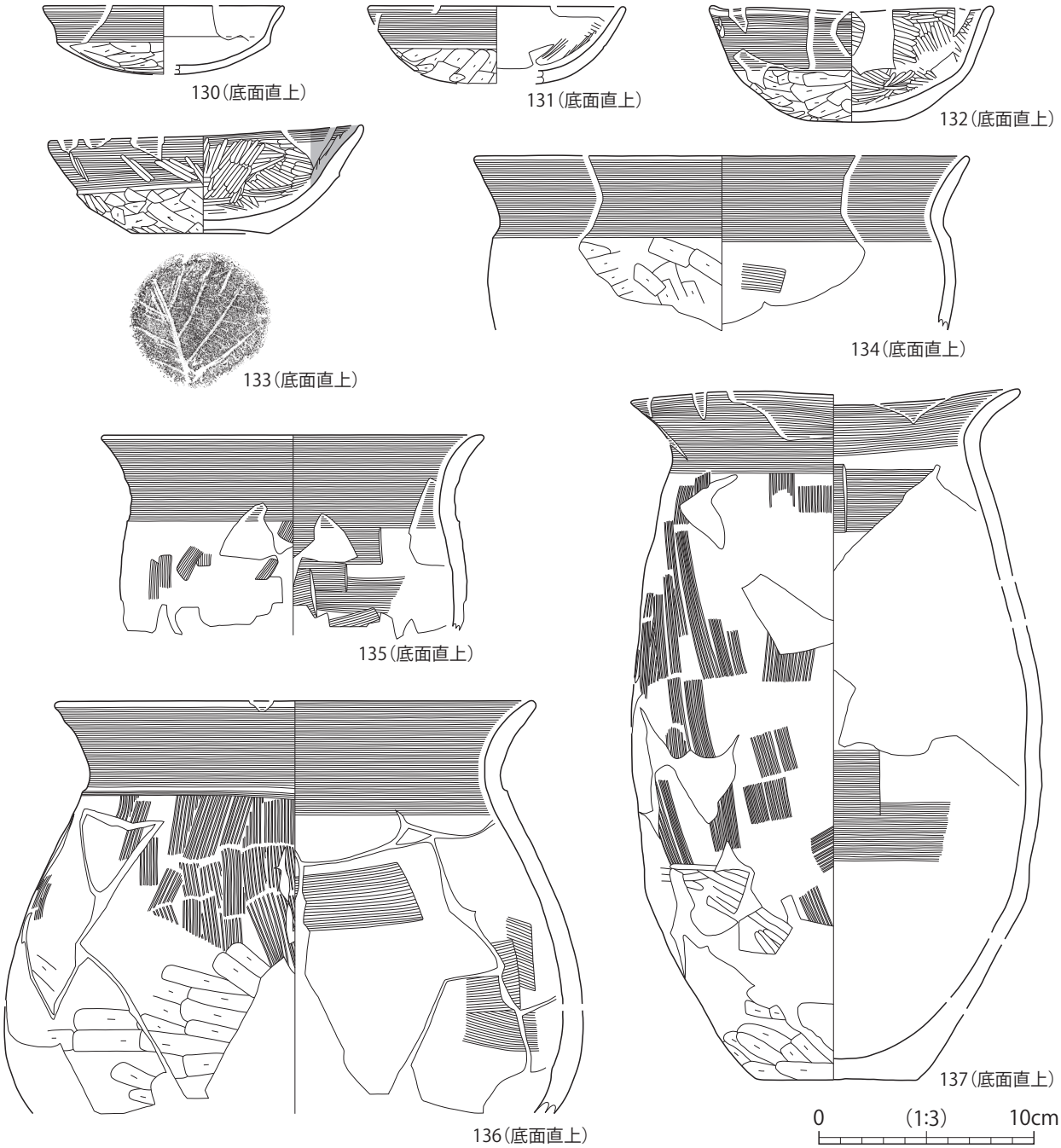
134 ～ 138 は土師器甕である。胴部が球胴状の 136・138 や長胴状の 137 などがある。口縁部と体部の境は、段ないし稜を持つ 134 ～ 136・138 と段ないし稜を持たない 137 がある。口縁部の形状は、外傾する 134、外反する 135 ～ 137、短く外反する 138 がある。

139・140 は土師器高坏である。139 は坏部の外面に段を持ち、脚部上端は中実柱状である。調整は、坏部外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、脚部はヘラケズリ後ナデ、坏部内面がヘラミガキ後、黒色処理が施される。140 は中空の脚部で、4 窓の透かしを持ち、裾部が「八」字状に開く。調整は、外面が脚上端ヨコナデ、脚部がヘラケズリ後ヘラミガキで、裾部はヨコナデ後ヘラナデがみられ、内面は脚部ヘラナデ、裾部がヨコナデである。外面は赤彩が施される。

141 は凝灰岩製の石錘である。

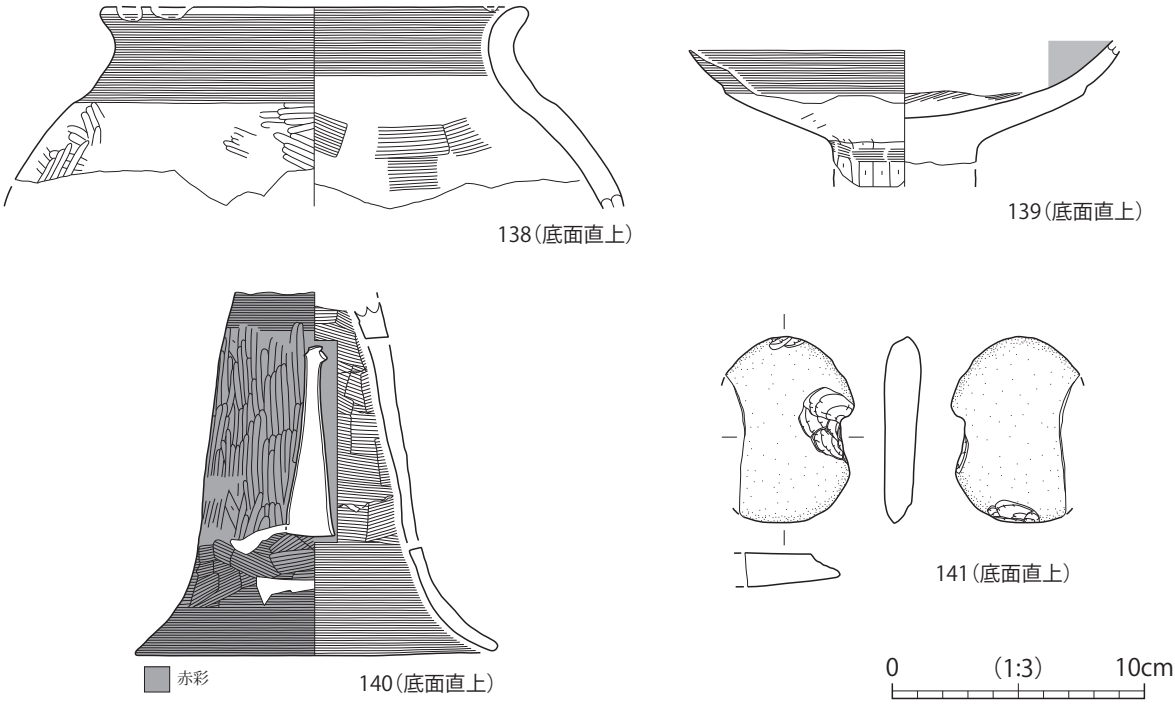


第 87 図　SD66 溝跡底面直上遺物出土状況図



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
130	C-231	SD66	底面直上	土師器	坏	（11.2）	-	（3.2）	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	摩滅		34
131	C-360	SD66	底面直上	土師器	坏	（12.0）	-	（3.5）	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		34
132	C-361	SD66	底面直上	土師器	坏	（13.2）	-	5.4	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	部分的に黒色化	34
133	C-370	SD66	底面直上	土師器	坏	14.5	6.4	5.1	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理 外面大半が黒色化 底面木葉痕	34
134	C-329	SD66	底面直上	土師器	甕	（22.8）	-	（8.1）	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		34
135	C-142	SD66	底面直上	土師器	甕	（17.8）	-	（9.3）	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		34
136	C-162	SD66	底面直上	土師器	甕	（22.4）	-	（19.2）	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴上半：ﾊｹﾒ 胴下半：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		35
137	C-163	SD66	底面直上	土師器	甕	18.2	7.6	32.2	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾊｹﾒ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴下端：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		34

第 88 図　SD66 溝跡底面直上出土遺物（1）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
138	C-383	SD66	底面直上	土師器	甕	(16.8)	-	(7.9)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		34
139	C-172	SD66	底面直上	土師器	高坏	-	-	(5.4)	口縁:ﾖｺﾅﾃﾞ 坏部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ 脚部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	坏部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	34
140	C-398	SD66	底面直上	土師器	高坏	-	14.2	(14.4)	脚上端:ﾖｺﾅﾃﾞ 脚部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 裾部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	脚部:ﾍﾗﾅﾃﾞ 裾部:ﾖｺﾅﾃﾞ	外面赤彩 四窓	34

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
141	Kd-004	SD66	底面直上	礫石器	石錘	7.4	(5.0)	1.4	44.2	凝灰岩	欠損品、楕円礫、短軸打ち欠き、長軸にも剥離あり	35

第 89 図　SD66 溝跡底面直上出土遺物（2）

SA1 材木列跡（第 90 図）

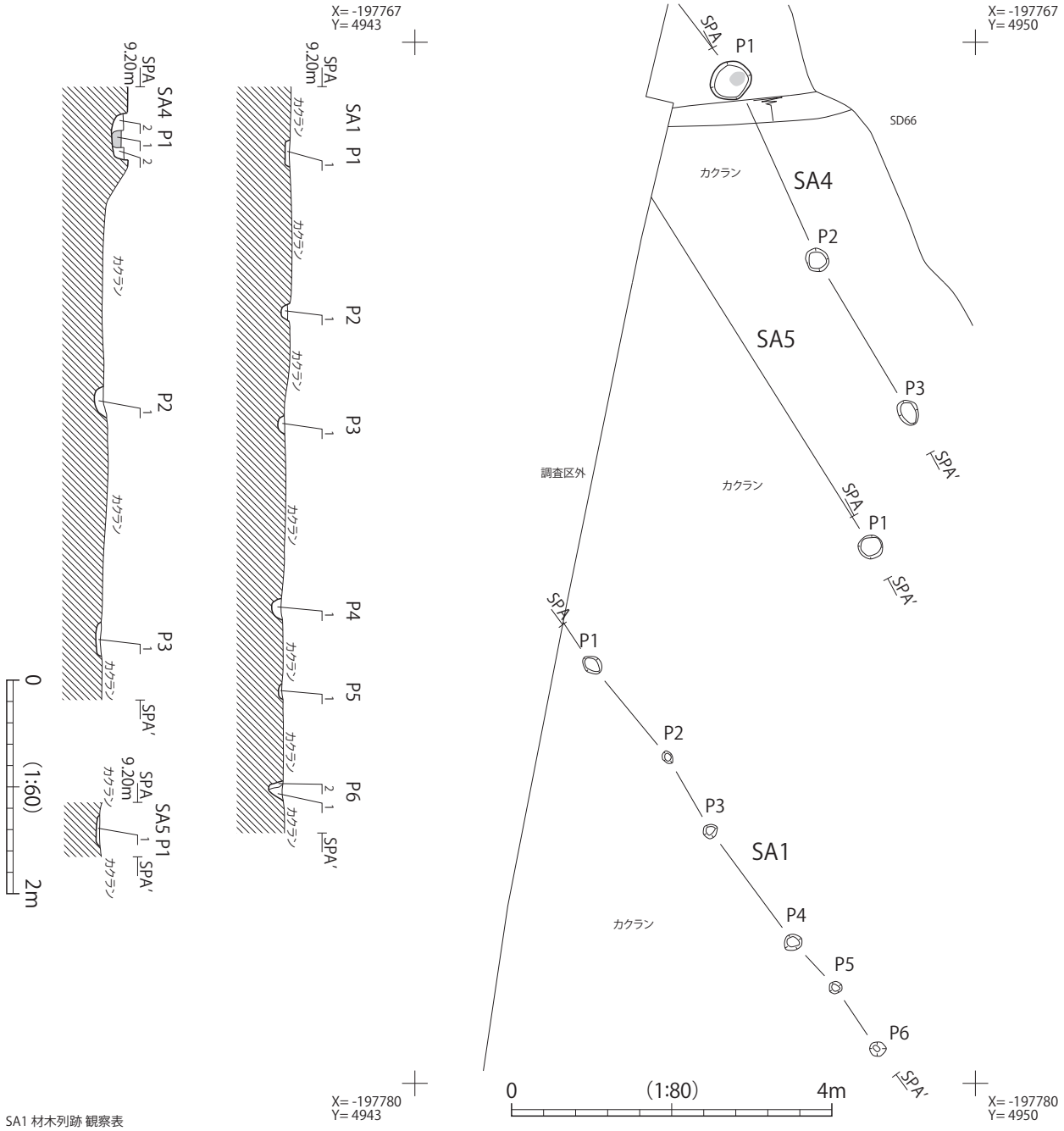
調査区南側の 30・33 グリッドに位置し、柱穴 6 基を検出した。他遺構との重複はない。第 3・4 次調査で検出された材木列の南側延長部で、本来は布掘り状の掘り方を持つが、撹乱により上半が失われている。柱穴列の検出長は約 6m を測る。方向は N － 37°－ W で、SD66 西辺上端の約 5m 西側を並走する。各柱間の距離は 76 ～ 180cm を測る。遺物は出土していない。

SA4 一本柱列跡（第 90 図）

調査区南側の 26・30 グリッドに位置し、柱穴 3 基を検出した。第 3・4 次調査で検出された材木列の南側延長部で、P1 以外は撹乱により大半が失われている。柱穴列の検出長は約 4.7m を測り、方向は N － 27°－ W である。SD66 西辺上端の約 0.6m 西側を並走する。P1 は掘り方の平面形状が円形を呈する。規模は径 52cm、深さ 15cm で、径 20cm の柱痕跡が検出された。各柱間の距離は 220 ～ 248cm を測る。遺物は出土していない。

SA5 一本柱列跡（第 90 図）

調査区南側の 30 グリッドに位置し、柱穴 1 基を検出した。第 3・4 次調査で検出された材木列の南側延長部と推察されるが、撹乱により詳細は不明である。SD66 西辺上端の約 2.4m 西側に位置する。遺物は出土していない。



SA1 材木列跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 長軸×短軸	規模 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	30	楕円形	27×21	10	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
P2	33	楕円形	17×12	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック(5㎜程度)多量含む。	
P3	33	円形	19×17	8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
P4	33	円形	24×20	10	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。	
P5	33	円形	16×16	14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
P6	33	円形	19×19	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック(5㎜程度)微量含む。	

SA4 一本柱列跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 長軸×短軸	規模 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	26	円形	52×47	15	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
P2	26	円形	30×28	13	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。	
P3	30	楕円形	33×26	5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。	

SA5 一本柱列跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 長軸×短軸	規模 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	30	円形	30×29	4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック(10㎜程度)少量含む。	

第 90 図　SA1 材木列跡・SA4・5 一本柱列跡

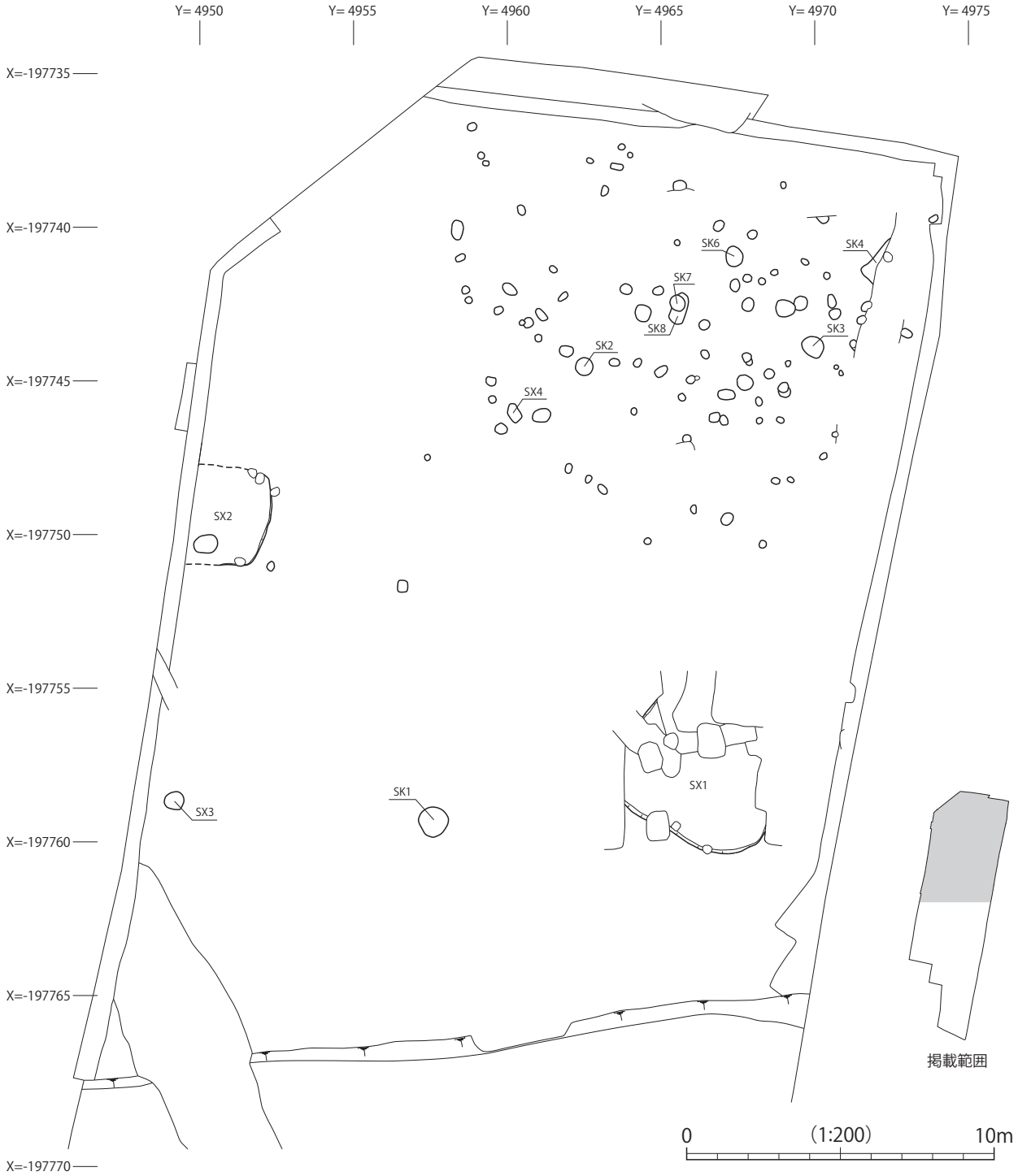
第４節　弥生時代の遺構と遺物

古代遺構検出面（基本層Ⅳ層上面）の調査終了後に、弥生時代の遺物包含層（基本層Ⅴ層）及び遺構検出面（基本層Ⅵ層上面）を対象とし調査を実施した。これまでの調査成果によると、長町駅東遺跡では弥生時代中期中葉の桝形囲式期に比定される竪穴住居跡１軒（SI1）、性格不明遺構（本調査区の竪穴遺構と類似）３基（SX1・2・3）、土器埋設遺構８基（SK5・7・8・9・31・212・213・215）、土壙墓２基（SK214・SX18）、水田跡、遺物包含層などが纏まって検出されている（第 91 図）。これは当該期の集落を検討する上で非常に重要な遺跡と考えられている。

第 91 図　長町駅東遺跡弥生時代遺構配置図

本調査区においても当該期の遺構や遺物包含層が検出され、集落の拡がりを確認することができた。検出された遺構は、竪穴遺構２基、焼土遺構２基、土坑７基、ピット 90 基である。また、遺物包含層や遺構堆積土から弥生時代中期中葉の桝形囲式に比定される弥生土器や石器などがコンテナで 20 箱程度出土している。出土遺物の中には、第３次調査区出土遺物と接合した弥生土器や剥片石器がある。

なお、本調査区では第３次調査区の基本層Ⅳ層（遺物包含層）を上下に分層し、上層を基本層Ⅳ層、下層を基本層Ⅴ層とした。本調査区においては基本層Ⅳ層にも少量の遺物は包含されるものの、主体は基本層Ⅴ層からの出土であることから、基本層Ⅴ層を遺物包含層として報告する。



第 92 図　弥生時代遺構配置図

(1) 竪穴遺構（第 93 ～ 104 図）

基本層Ⅴ層（遺物包含層）の調査中に、調査区北部東側の 20 グリッド周辺で、周囲の土壌に比べて黒い色調を呈する範囲を確認した。この範囲からは遺物が集中して出土していることから、SX1 として調査を行うこととした。また、調査区北部西端の 15 グリッド周辺でも同様の遺構が確認され、SX2 として調査を行った。いずれも掘り込みが不明瞭で、柱穴などの付属施設がみられないことから竪穴住居跡と認定することができず、竪穴遺構として報告する。

SX1 竪穴遺構（第 93 ～ 102 図）

【位置・確認】 調査区北部東側の 20・24 グリッドに位置する。撹乱及び古代の遺構により大半が失われており、残存状況が悪い。南東隅から底面中央付近と北西壁の一部を検出した。

【重複】 検出した範囲では、弥生時代の遺構との重複はない。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 540cm、短軸 350cm を測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形と推察される。

【方向】 南壁を基準として N － 58°－ W である。

【堆積土】 2 層に分層した。1 層は黒褐色砂質シルトを主体とし、Ⅵ層土ブロックと炭化物を少量含む。2 層は、にぶい黄褐色砂質シルトを主体とし、黒色シルトを含む。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、4 ～ 7cm を測る。

【底面】 基本層Ⅵ層を底面とする。緩やかな起伏を持つが、概ね平坦である。硬化面はない。

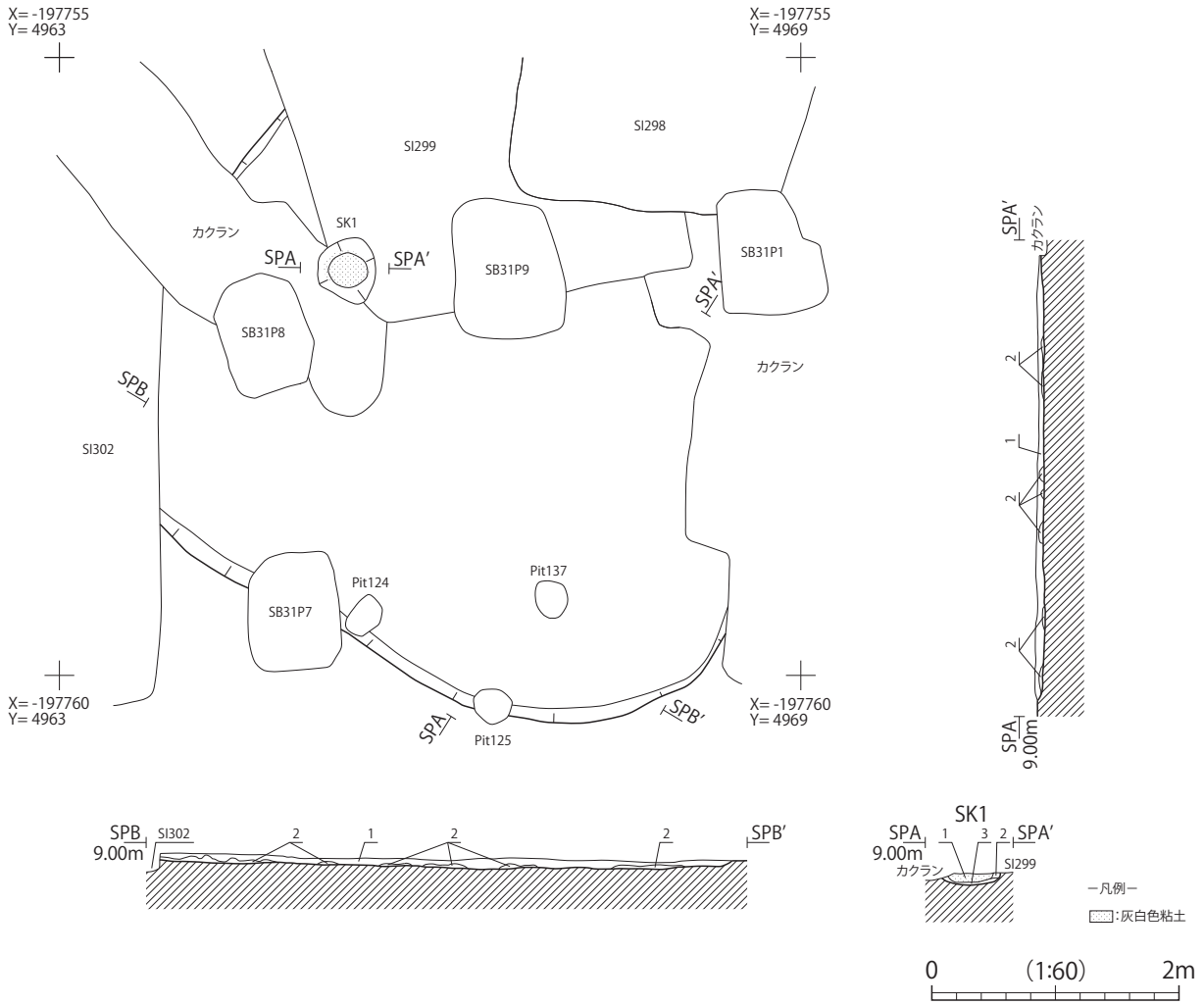
【床面施設】 底面北西側で土坑（SK1）を検出した。平面形状は円形を呈し、規模は長軸 53cm、短軸 48cm、深さ 10cm を測る。堆積土は 3 層に分層した。1 層は灰白色粘土層で、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】 堆積土から弥生土器・剥片石器・礫石器・石製品が出土している。出土遺物の中には、遺物包含層出土遺物と接合関係にある弥生土器や剥片石器が出土している。接合した剥片石器については、出土状況図のみ図示し（第 95 図）、詳細については後述する接合資料の項で記載する。

弥生土器は壺 8 点・鉢 7 点・蓋 2 点・高坏 1 点・甕 20 点、深鉢？ 1 点、剥片石器は石鏃 2 点、微細剥離痕のある剥片 2 点、二次加工のある剥片 2 点、石核 2 点、礫石器 5 点、石製品 2 点を掲載した（第 96 ～ 102 図）。

1 ～ 8 は壺である。1 と 5 はそれぞれ遺物包含層出土遺物との接合資料で、12 ～ 20m ほど離れて出土している（第 113 図）。1 は横位直線文と縦位直線文により四角文が施文され、文様内に LR 縄文が充填されている。5 は口径と底径がほぼ同じで、体部上半に最大径を持つ。体部上半はわずかに丸みを帯び、頸部は口縁部に向かって内傾し、口縁部は短く外傾する。頸部と体部の境に 3 条の横位直線文が施され、体部には LR 縄文が横位回転施文されている。一部、縄文原体末端を結束した痕跡がみられる。9 ～ 15 は鉢である。10 は遺物包含層出土遺物との接合資料で、2m ほど離れて出土している（第 113 図）。口径約 10cm の小型の鉢で、口縁部に径 2mm の穿孔がある。口縁部及び体部上半に横位直線文が施され、体部下半には LR 縄文が横位回転施文されている。底面には木葉痕がみられる。16・17 は蓋である。17 は天井部側縁が外側に向かってわずかに張り出す器形を呈する。体部外面には植物茎回転文が施文された後、横位直線文と連弧文が施文されている。天井部には織布痕がみられる。18 は高坏である。脚部下半には横位直線文と連続山形文が施文され、文様内に LR 縄文が充填されている。19 ～ 33・35 ～ 39 は甕（甕と推定される破片資料を含む）である。21・28 は遺物包含層出土遺物との接合資料で、それぞれ 7.5 ～ 15m ほど離れて出土している（第 113 図）。また、29 は第 3 次調査区出土遺物との接合資料である。器形は、口縁部に最大径を持つものと口縁部と体部上半に最大径を持つものがある。口縁部は平口縁で短く外傾または外反し、口縁部と体部の境に括れを持つものとほぼ直線的なものがある。括れを持つものには、直角に近い角度で屈曲する

ものや鋭角に屈曲するもの、鈍角に屈曲するもの、緩やかに屈曲するものなど多様な形態が認められる。口縁部には明瞭なヨコナデが施され、口唇部と体部に地文が施されている。地文には縄文と植物茎回転文があり、縄文原体には単節（LR）、附加条（LR ＋ R・LR ＋ LL）、直前段３条（LR）、直前段反撚り（LL）がある。体部上端には列点刺突文が施文されるものが殆どで、施文方向には左右の別がある。列点刺突文以外には、２条の横位沈線が施文されるものや地文のみのものがある。底面には木葉痕や網代痕がみられ、37 の底面には木葉痕のほか、ヘラ状工具による「N」字状の線刻が施されている。34 は体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるもので、深鉢と考えられる。40・41 は石鏃で、いずれも完形品である。40 は長さ 2.8cm の大型品で、身部の剥離調整が縁辺部のみに留まり、a・b 両面に素材剥片の剥離面を残している。断面形状は身部が凸レンズ状で、基部は菱形を呈する。石材は瑪瑙である。41 は長さ 2.2cm の小型品で、a・b 両面の全面に剥離調整が施されている。断面形状は身部、



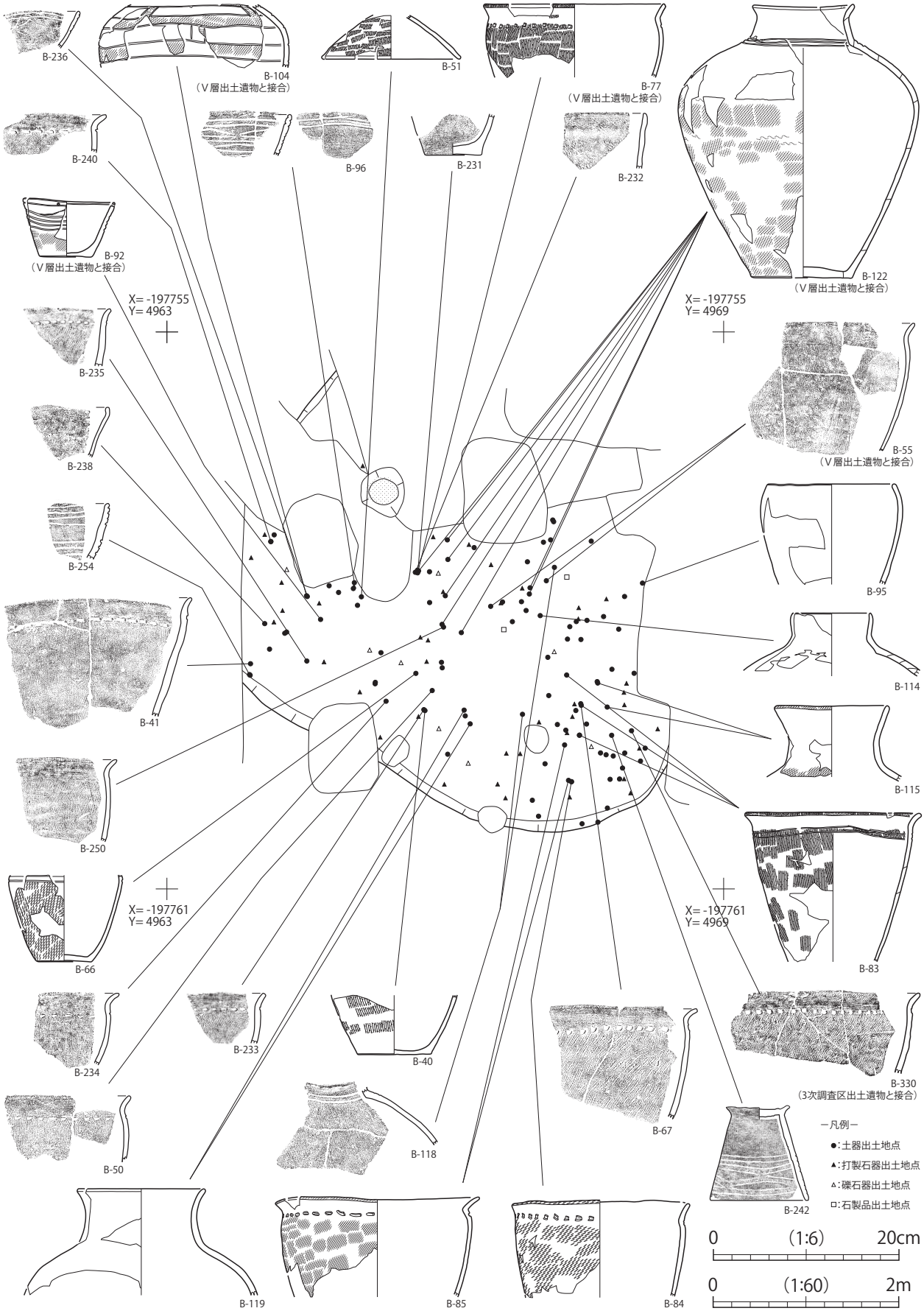
SX1 竪穴遺構 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆積土	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・炭化物粒少量、焼骨微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルト粒多量、炭化物粒少量含む。

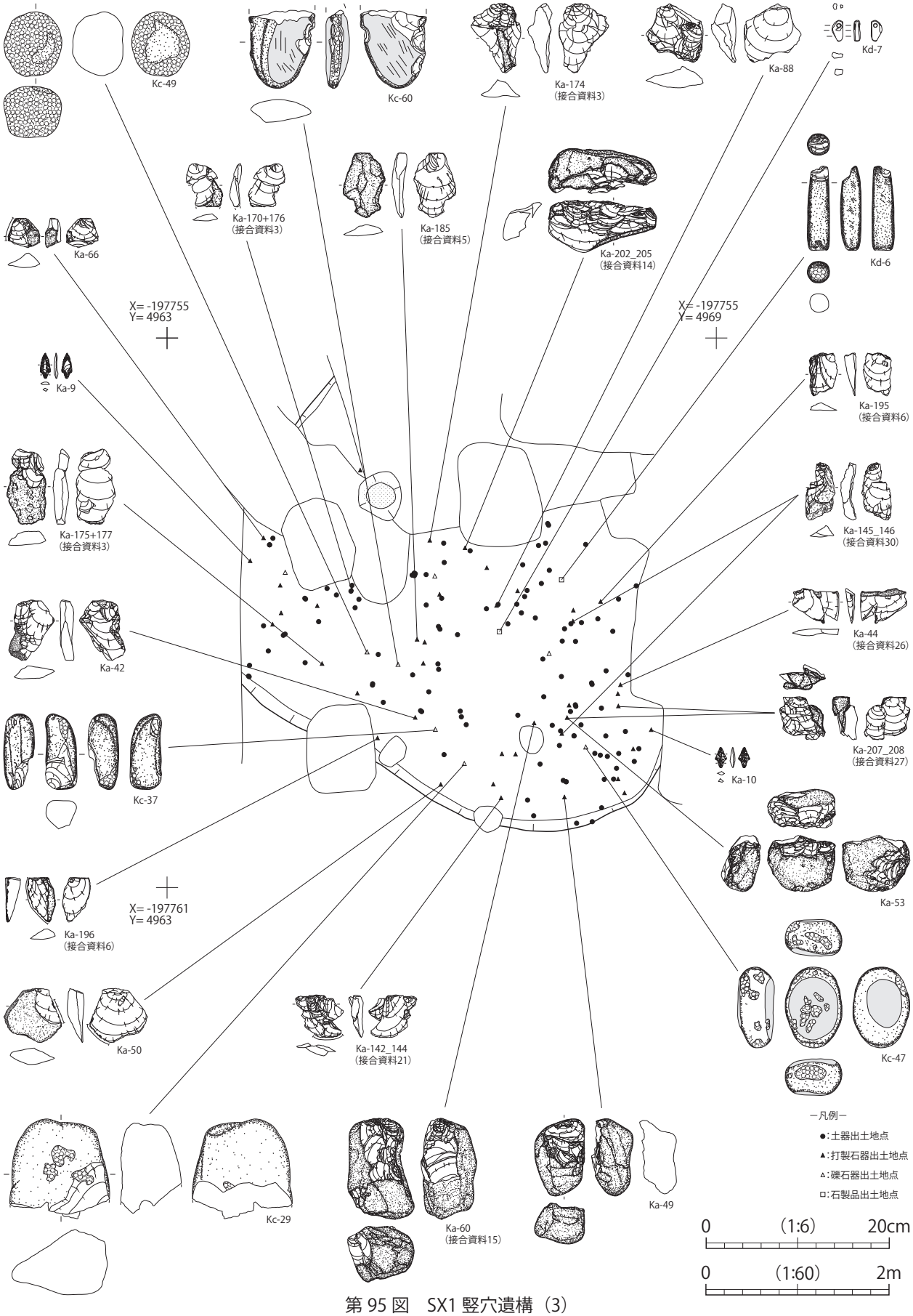
SX1-SK1 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK1	20	円形	53×48	10	1	5Y8/2 灰白色	粘土		
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト		

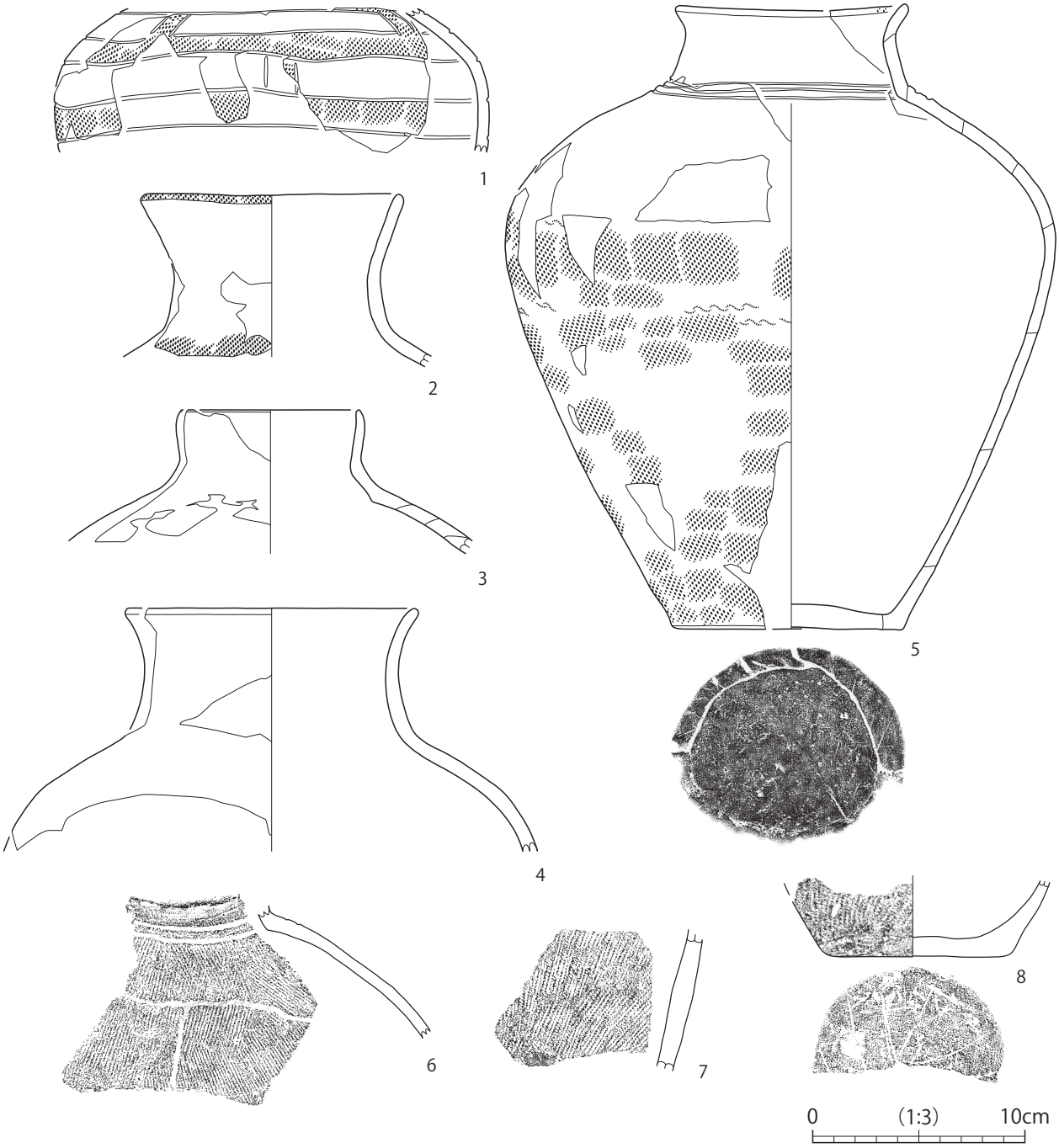
第 93 図　SX1 竪穴遺構（1）



第 94 図　SX1 竪穴遺構（2）

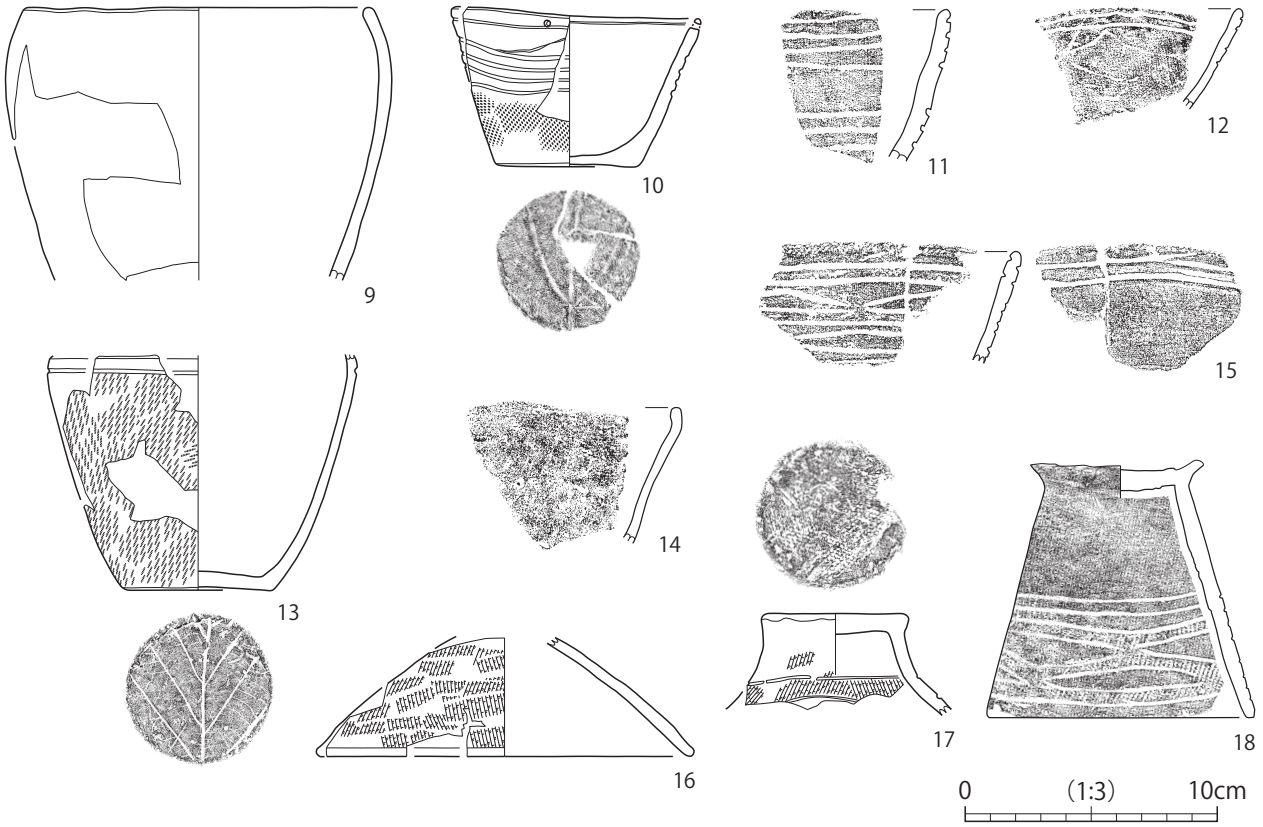


第 95 図　SX1 竪穴遺構（3）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
1	B-104	SX1	堆積土	弥生土器	壺	体上半	体上半：沈線→LR縄文→ミガキ（四角文）	ミガキ		35
2	B-115	SX1	堆積土	弥生土器	壺	口縁～体上端	口唇：LR縄文横位回転　口縁：ヨコナデ→ミガキ 体上端：LR縄文横位回転	横位ミガキ	口径（12.4）㎝	35
3	B-114	SX1	堆積土	弥生土器	壺	口縁～体上端	口縁：ヨコナデ→ミガキ 体上端：ケズリ→ミガキ	口縁：ヨコナデ→ミガキ 体上端：ﾕﾋﾞｵｻｴ、ミガキ	口径（8.4）㎝	35
4	B-119	SX1	堆積土	弥生土器	壺	口縁～体上半	口縁～体上半：ミガキ	口縁：横位ミガキ 体上半：ミガキ？	口径（13.6）㎝ 内外面やや摩滅	35
5	B-122	SX1	堆積土	弥生土器	壺	口縁～底部	口唇：LR縄文 口縁～体上半：ミガキ　体上端：沈線（横位直線文） 体下半：LR縄文（末端結束）横位回転 底面：木葉痕→ナデ	ミガキ	口径（11.0）㎝、 底径11.0㎝、 器高29.4㎝	35
6	B-118	SX1	堆積土	弥生土器	壺	体上半	体上端：ヨコナデ→植物茎回転文→沈線（横位直線文） 体上半：植物茎回転文	ナデ→ミガキ		35
7	B-252	SX1	堆積土	弥生土器	壺	体部	体部：附加条縄文（LR＋R）横位回転	ミガキ		35
8	B-229	SX1	堆積土	弥生土器	壺	体下半～底部	体下半：附加条縄文（LR＋R）横位回転 体下端：ケズリ　底面：木葉痕	ナデ→ミガキ	底径7.6㎝	35

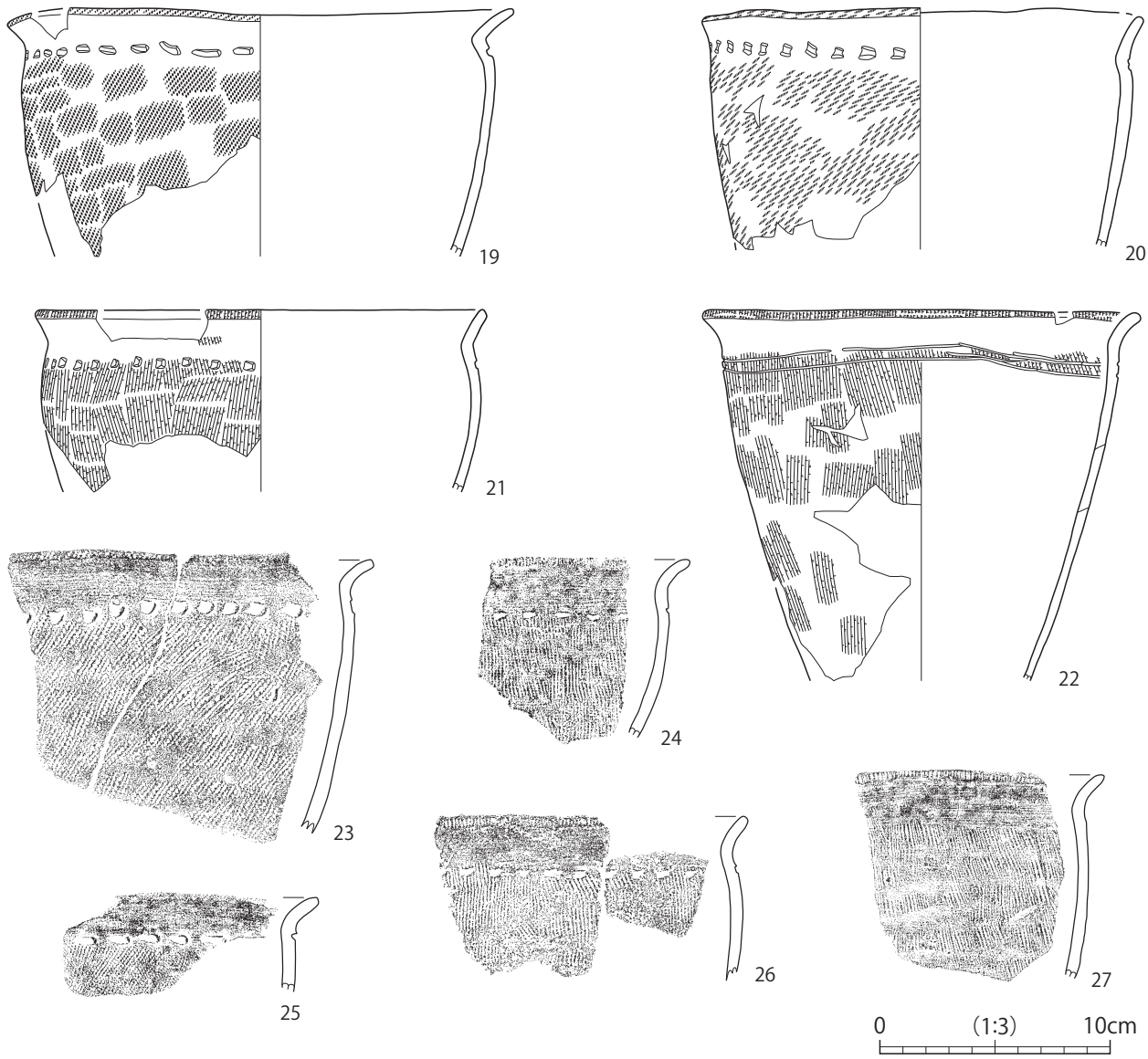
第 96 図　SX1 竪穴遺構出土遺物（1）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
9	B-095	SX1	堆積土	弥生土器	鉢	口縁～体部	口縁～体部：ミガキ	横位ミガキ	口径（13.6）㎝	36
10	B-092	SX1	堆積土	弥生土器	鉢	口縁～底部	口縁～体上半：ナデ→沈線→ミガキ（横位直線文） 体下半：LR縄文横位回転　底面：木葉痕	口縁：ヨコナデ→沈線（横位直線文） 体上半～底部：ナデ	口径（10.0）㎝、底径5.6㎝、器高6.3㎝、口縁部焼成前穿孔	36
11	B-254	SX1	堆積土	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→ミガキ（横位直線文）	口縁：横位ミガキ 体上半：縦位ミガキ		36
12	B-236	SX1	堆積土	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→ミガキ（横位直線文＋連弧文）	ナデ		36
13	B-066	SX1	堆積土	弥生土器	鉢	体上半～底部	口縁～体上半：沈線→ミガキ（横位直線文） 体部：LL縄文（直前段反撚り）斜位回転 底面：木葉痕	ミガキ	底径6.0㎝	36
14	B-238	SX1	堆積土	弥生土器	鉢	口縁～体上半	ナデ？	ミガキ？	波状口縁？ 内外面摩滅	36
15	B-096	SX1	堆積土	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→ミガキ（横位直線文＋連続山形文）	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体上半：横位ミガキ		36
16	B-051	SX1	堆積土	弥生土器	蓋	体部～口縁	体部～口縁：植物茎回転文横位回転	体部：ミガキ 口縁：横位ミガキ	口径（14.8）㎝	36
17	B-100	SX1	堆積土	弥生土器	蓋	天井～体上半	天井：織布痕→ナデ 体上半：沈線→植物茎回転文→沈線→ミガキ（横位直線文＋連弧文）	ミガキ	天井部径5.8㎝	36
18	B-242	SX1	堆積土	弥生土器	高坏	体下端～脚部	脚部：沈線→LR縄文→沈線→ミガキ（横位直線文＋連続山形文）	脚部上半：ヘラナデ 脚部下半：ヨコナデ	脚部径（10.6）㎝	36

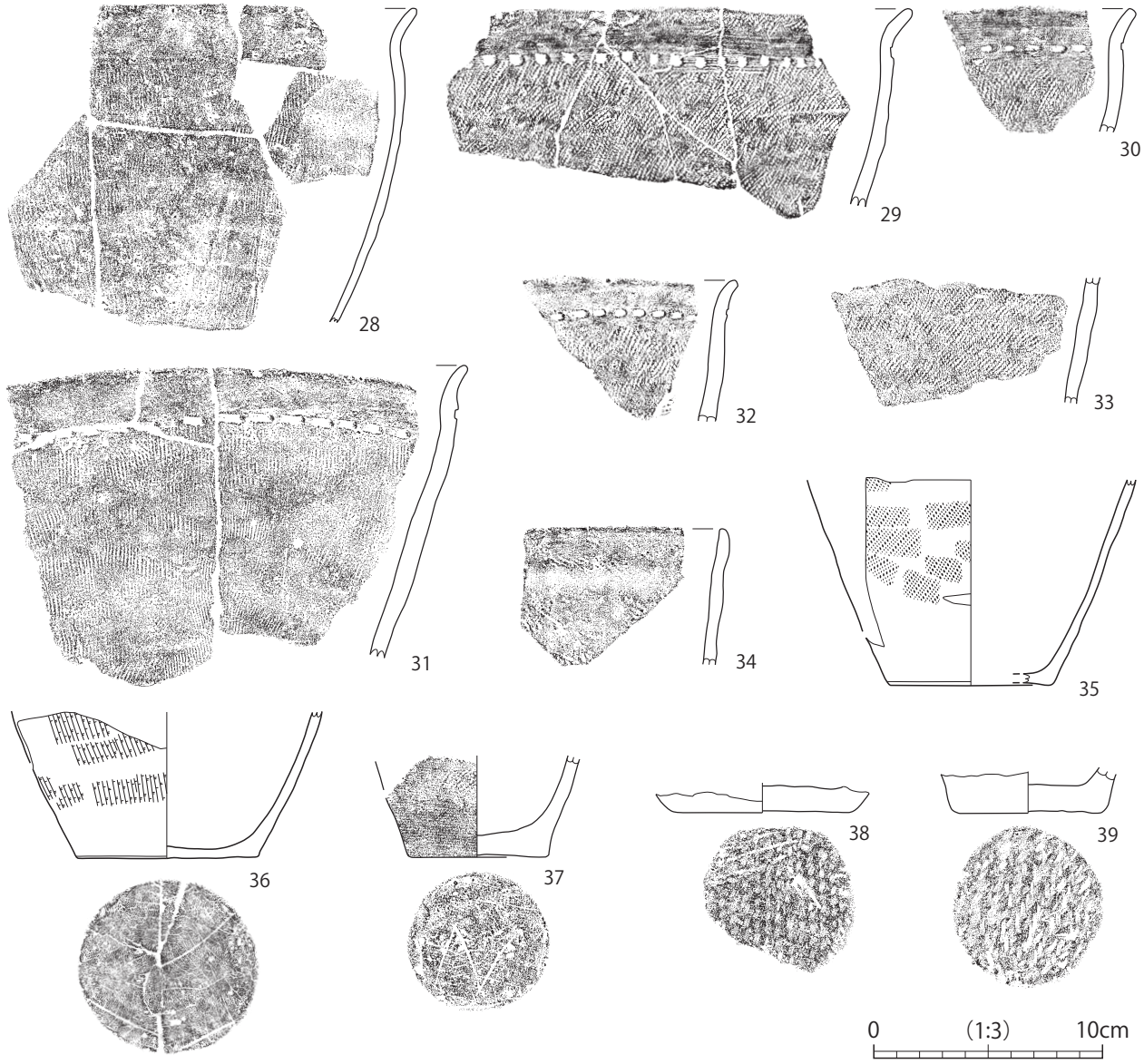
第 97 図　SX1 竪穴遺構出土遺物（2）

基部共に菱形を呈する。石材は凝灰岩である。42・43 は微細剥離痕のある剥片である。使用に伴う微細剥離痕は、42 が一縁辺にあり、43 は複数縁辺にある。これらの石材は流紋岩である。44・45 は二次加工のある剥片である。44 は a 面の左右両側縁下半部に剥離調整が施されている。45 は b 面の右側縁に剥離調整が施されている。これらの石材は流紋岩である。46・47 は石核である。いずれも剥片剥離作業の初期段階で、廃棄されたものと考えられる。これら石核の石材は流紋岩である。48 ～ 50 は敲石である。50 は球状敲石で、一部に自然面が残るが、ほぼ全面に敲打痕がみられる。51・52 は磨敲石である。53 は石棒状石製品または鑿形石斧である。上端部と下端部の径がややすぼまる円柱状を呈する。体部は研磨により整形され、下面には敲打痕がある。54 は垂飾である。D 字状を呈し、上方に径 0.4cm の孔が穿たれている。研磨により整形されている。



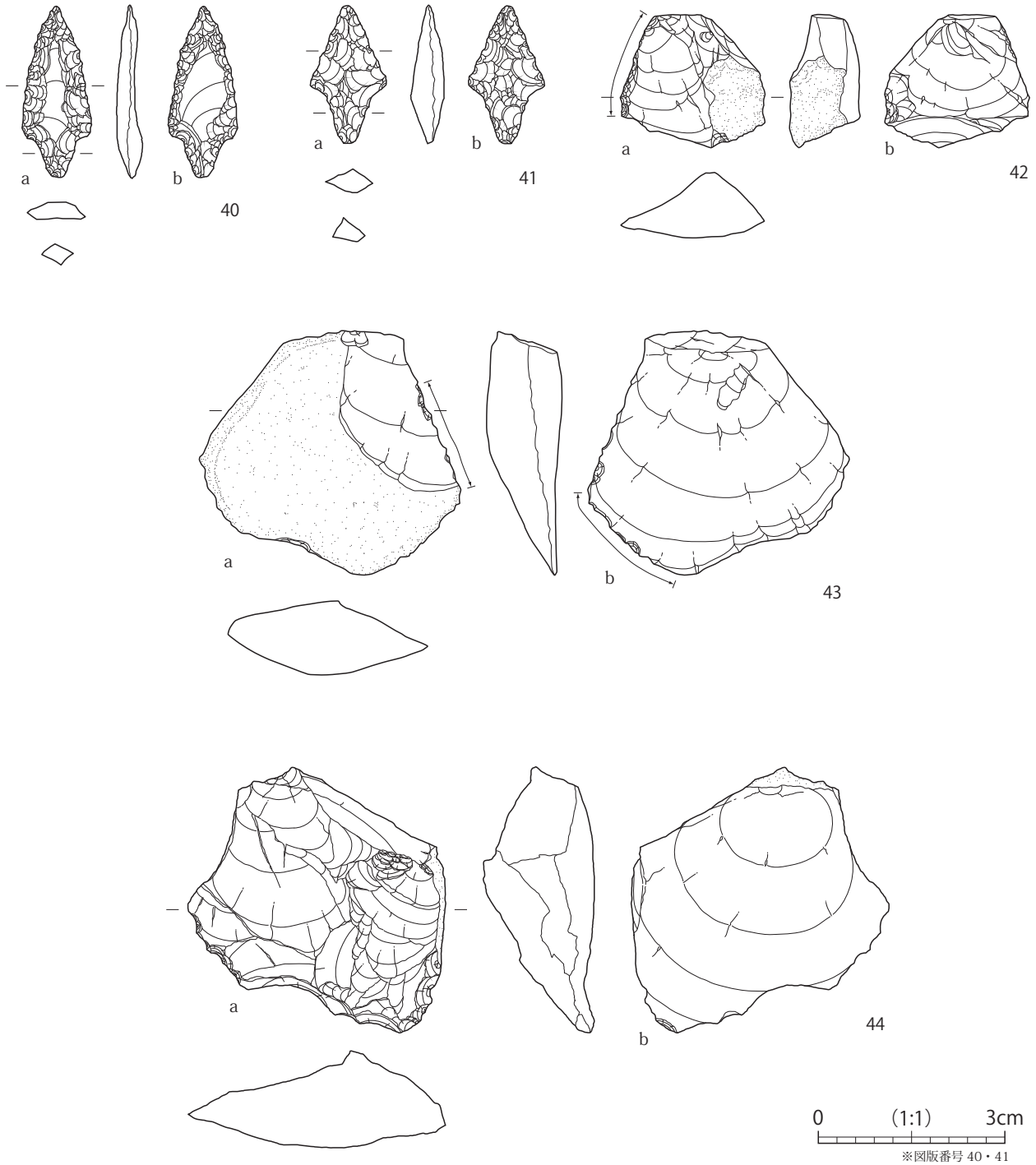
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
19	B-085	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇:LR縄文横位回転　口縁:ヨコナデ 体上端:列点刺突(左→右) 体上半:LR縄文横位回転	ミガキ	口径(22.0)㎝ 外面やや摩滅	36
20	B-084	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇:LL縄文(直前段反撚り)横位・斜位回転 口縁:ヨコナデ 体上端:列点刺突(左→右) 体上半:LL縄文(直前段反撚り)横位回転	口縁:横位ミガキ 体部:ナデ	口径19.1㎝	36
21	B-077	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇:植物茎回転文横位回転　口縁:ヨコナデ 体上端:列点刺突(左→右)　体上半:植物茎回転文	横位ミガキ	口径(19.6)㎝ 外面やや摩滅	36
22	B-083	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体部	口唇:植物茎回転文横位回転　口縁:ヨコナデ 体上端:沈線(横位直線文) 体部:植物茎回転文横位回転	横位ミガキ	口径(19.0)㎝ 内外面摩滅	36
23	B-067	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇:LR縄文(直前段3条)横位回転 口縁:ヨコナデ 体上端:列点刺突(左→右) 体上半:LR縄文(直前段3条)横位回転	横位ミガキ		36
24	B-234	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇:植物茎回転文横位回転　口縁:ヨコナデ 体上端:列点刺突(右→左) 体上半:植物茎回転文横位回転	横位ミガキ		36
25	B-240	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇:LR縄文横位回転　口縁:ヨコナデ 体上端:列点刺突(左→右) 体上半:LR縄文横位回転	横位ミガキ		36
26	B-050	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇:植物茎回転文横位回転　口縁:ヨコナデ 体上端:列点刺突(左→右) 体上半:植物茎回転文横位回転	横位ミガキ		36
27	B-250	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇:植物茎回転文横位回転　口縁:ヨコナデ 体上半:植物茎回転文横位回転	ミガキ	内面に輪積痕 内面やや摩滅	36

第 98 図　SX1 竪穴遺構出土遺物（3）



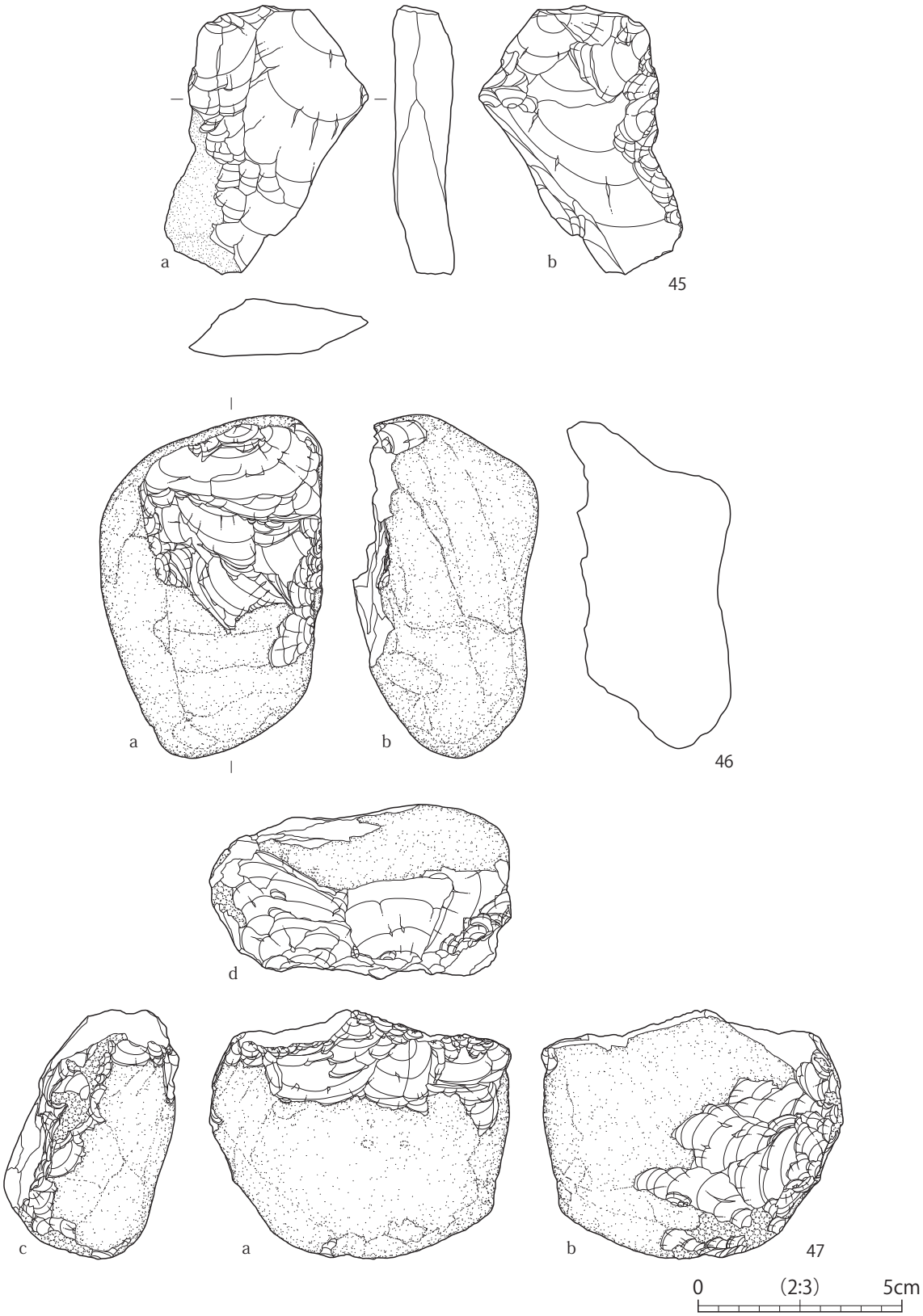
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
28	B-055	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体部	口縁：ヨコナデ 体部：植物茎回転文横位回転	不明	内外面摩滅	37
29	B-330	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：附加条縄文（LR＋LL）横位回転 口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：附加条縄文（LR＋LL）横位回転	口縁：横位ミガキ 体部：ナデ	3次調査のB-227と接合	37
30	B-233	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：LR縄文横位回転	横位ミガキ		37
31	B-041	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体部	口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：植物茎回転文横位回転	ナデ	内面摩滅	37
32	B-235	SX1	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：LR縄文横位回転	横位ミガキ	外面やや摩滅	37
33	B-253	SX1	堆積土	弥生土器	甕	体部	体部：LR縄文横位回転	横位ミガキ		37
34	B-232	SX1	堆積土	弥生土器	深鉢？	口縁～体上半	口縁：LR縄文縦位回転→ヨコナデ 体上半：LR縄文縦位回転→ナデ	横位ミガキ		37
35	B-013	SX1	堆積土	弥生土器	甕	体下半～底部	体下半：附加条縄文（LR＋R）横位回転 底面：木葉痕	ミガキ	底径（7.0）㎝	37
36	B-040	SX1	堆積土	弥生土器	甕	体下半～底部	体下半：植物茎回転文 底面：木葉痕	ミガキ	底径7.8㎝	37
37	B-231	SX1	堆積土	弥生土器	甕	体下半～底部	体下半：附加条縄文（LR＋R）横位回転 体下端：ミガキ　底面：木葉痕→周縁ナデ→沈線	ミガキ	底径6.2㎝ 底面「N」字状線刻	37
38	B-261	SX1	堆積土	弥生土器	甕or壺	体下端～底部	体下端：ミガキ 底面：網代痕	ミガキ	底径7.8㎝	37
39	B-251	SX1	堆積土	弥生土器	甕	体下端～底部	体下端：ミガキ 底面：網代痕	ナデ？	底径6.2㎝ 内面摩滅	37

第 99 図　SX1 竪穴遺構出土遺物（4）



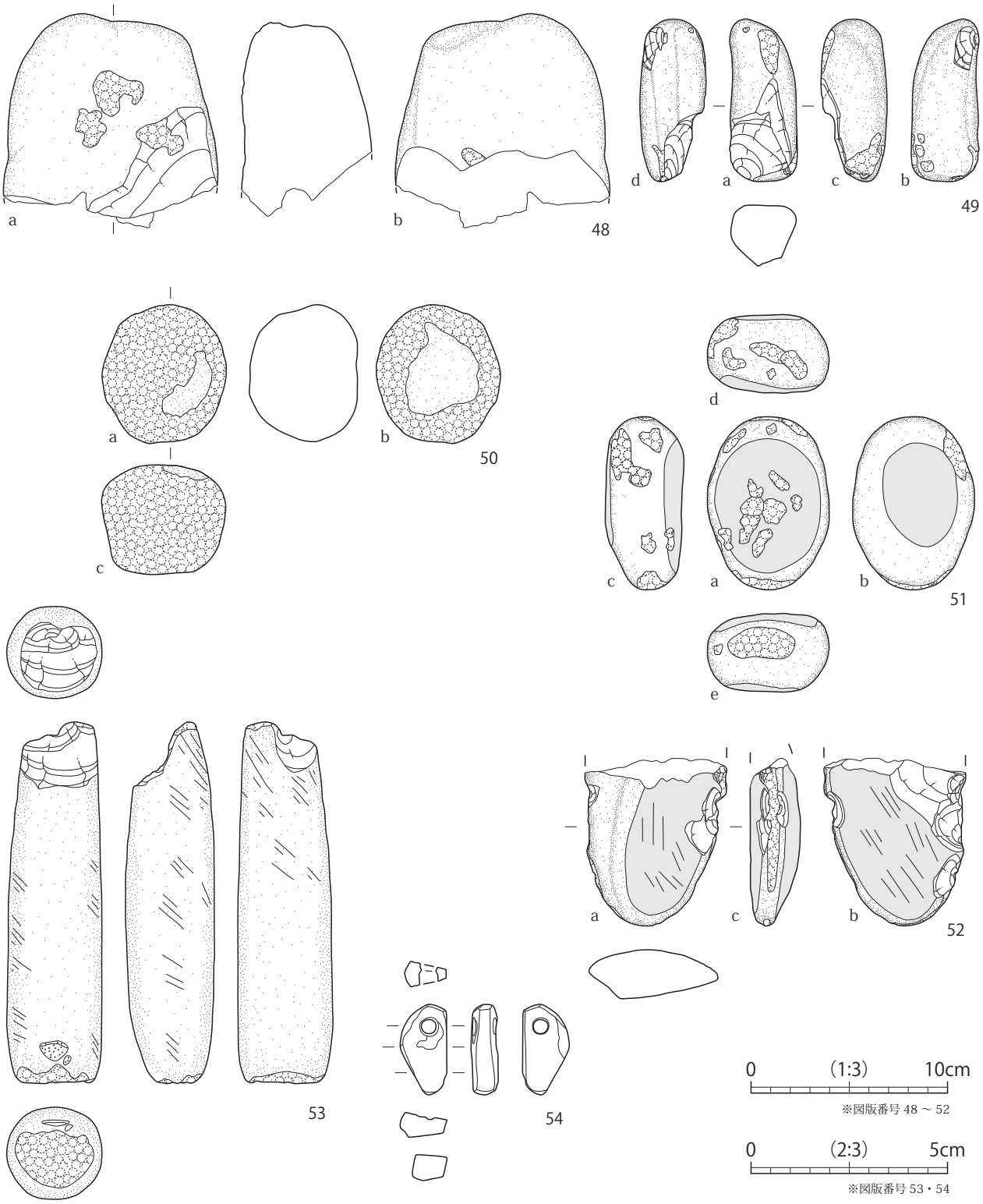
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ				
40	Ka-009	SX1	堆積土	打製石器	石鏃	2.8	1.1	0.5	1.6	瑪瑙	有茎石鏃、完形品、先端角35°、厚幅比0.4	37
41	Ka-010	SX1	堆積土	打製石器	石鏃	2.2	1.2	0.5	0.9	凝灰岩	有茎石鏃、完形品、先端角35°、厚幅比0.4	37
42	Ka-066	SX1	堆積土	打製石器	微細剥離痕のある剥片	3.2	3.5	1.7	15.2	流紋岩	一縁辺に微細剥離痕、自然面あり	37
43	Ka-050	SX1	堆積土	打製石器	微細剥離痕のある剥片	5.9	6.3	1.8	50.9	流紋岩	複数縁辺に微細剥離痕、自然面あり	37
44	Ka-088	SX1	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	6.4	6.2	2.7	74.2	流紋岩	自然面打面、a面加工、複数縁辺に二次加工、自然面あり	37

第 100 図　SX1 竪穴遺構出土遺物（5）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ				
45	Ka-042	SX1	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	6.6	5.0	1.5	41.4	流紋岩	a面＋b面加工、一縁辺に二次加工、自然面あり	37
46	Ka-049	SX1	堆積土	打製石器	石核	8.4	5.4	4.5	183.5	流紋岩	打面転移あり、自然面あり	38
47	Ka-053	SX1	堆積土	打製石器	石核	6.1	7.4	4.4	225.1	流紋岩	打面転移あり、b面＋c面に敲打痕、自然面あり	38

第 101 図　SX1 竪穴遺構出土遺物（6）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
48	Kc-029	SX1	堆積土	礫石器	敲石	(10.8)	10.9	7.0	867.5	安山岩	亜角礫、敲(平坦面4箇所)	38
49	Kc-037	SX1	堆積土	礫石器	敲石	8.2	3.4	3.3	130.2	砂岩	棒状礫、敲(側面5箇所)	38
50	Kc-049	SX1	堆積土	礫石器	球状敲石	6.4	7.1	5.6	339.0	流紋岩	円礫、敲(ほぼ全面、2箇所に自然面)	38
51	Kc-047	SX1	堆積土	礫石器	磨＋敲石	8.8	6.2	4.0	280.0	安山岩	楕円礫、磨二面(凸)、敲(平坦・側面12箇所)	38
52	Kc-060	SX1	堆積土	礫石器	磨＋敲石	(8.5)	7.2	2.6	92.2	凝灰岩	楕円礫、磨二面(平・凸)、敲(側面1箇所)、縁辺剥離	38
53	Kd-006	SX1	堆積土	石製品	石棒？	(9.2)	2.4	2.3	94.6	黒色片岩	全面研磨、下面敲打痕	38
54	Kd-007	SX1	堆積土	石製品	垂飾	2.3	1.2	0.7	1.9	緑色凝灰岩	D字形状、孔内径0.4cm、孔外径0.5cm	38

第 102 図　SX1 竪穴遺構出土遺物（7）

SX2 竪穴遺構（第 103・104 図）

【位置・確認】 調査区北部西端の 11・15 グリッドに位置する。

【重複】 検出した範囲では、弥生時代の遺構との重複はない。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 320cm、短軸 260cm を測る。平面形状は隅丸方形と推察される。

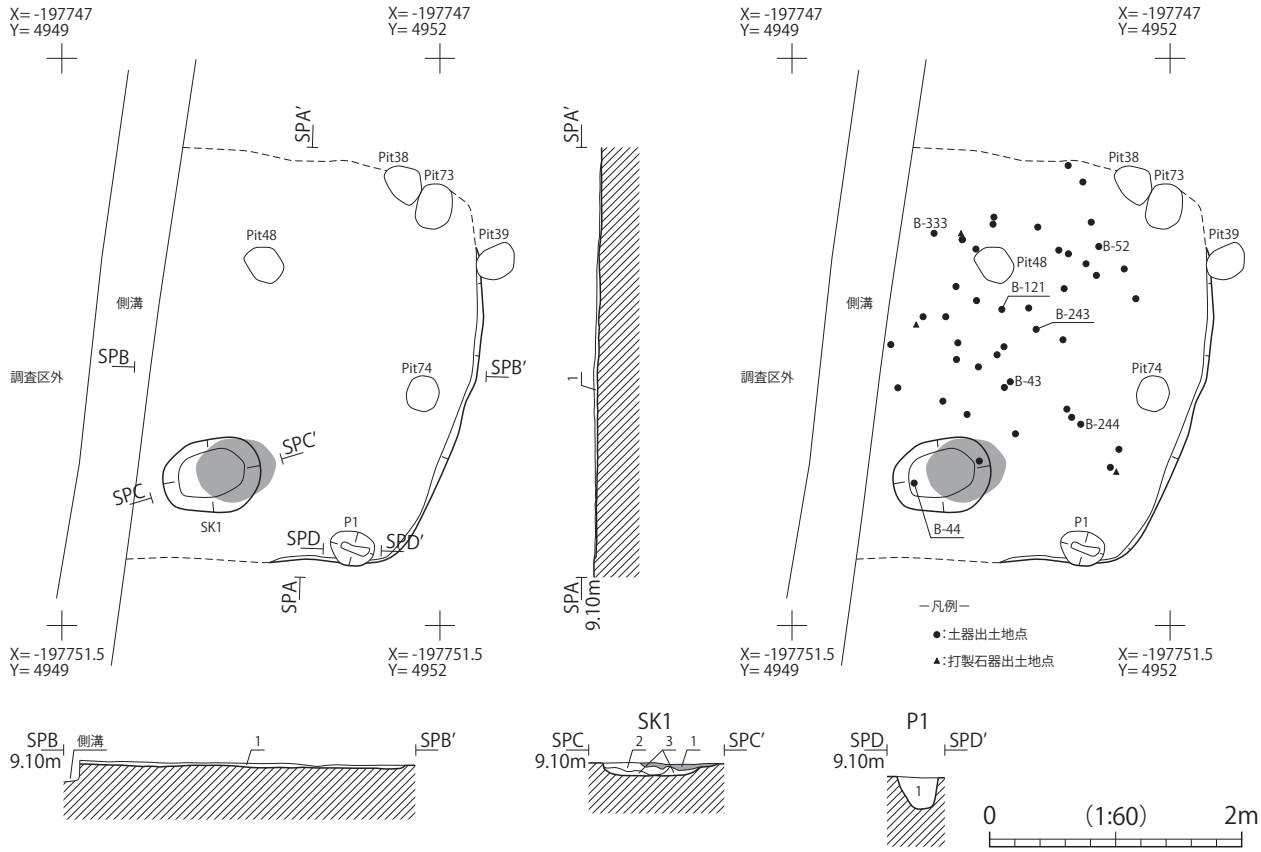
【方向】 長軸方向を基準として N － 81°－ W である。

【堆積土】 黒褐色砂質シルトの単層で、Ⅵ層土ブロックを含む。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、2 ～ 3cm を測る。

【焼土遺構】 南壁側で検出された。焼土はわずかに赤色味を帯びる程度で、被熱による硬化はない。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸 63cm、短軸 50cm、厚さ 5cm を測る。焼土下には掘り方と考えられる土坑（SK1）が検出された。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸 78cm、短軸 59cm、深さ 10cm を測る。炉跡の可能性がある。

【底面】 緩やかな起伏を持ち、北東方向に緩やかに傾斜する。硬化面はない。



SX2 竪穴遺構 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆積土	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。

SX2-SK1 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK1	15	楕円形	78×59	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック（5～40㎜程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。※焼土	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色シルト粒多量含む。	

SX2-P1 観察表

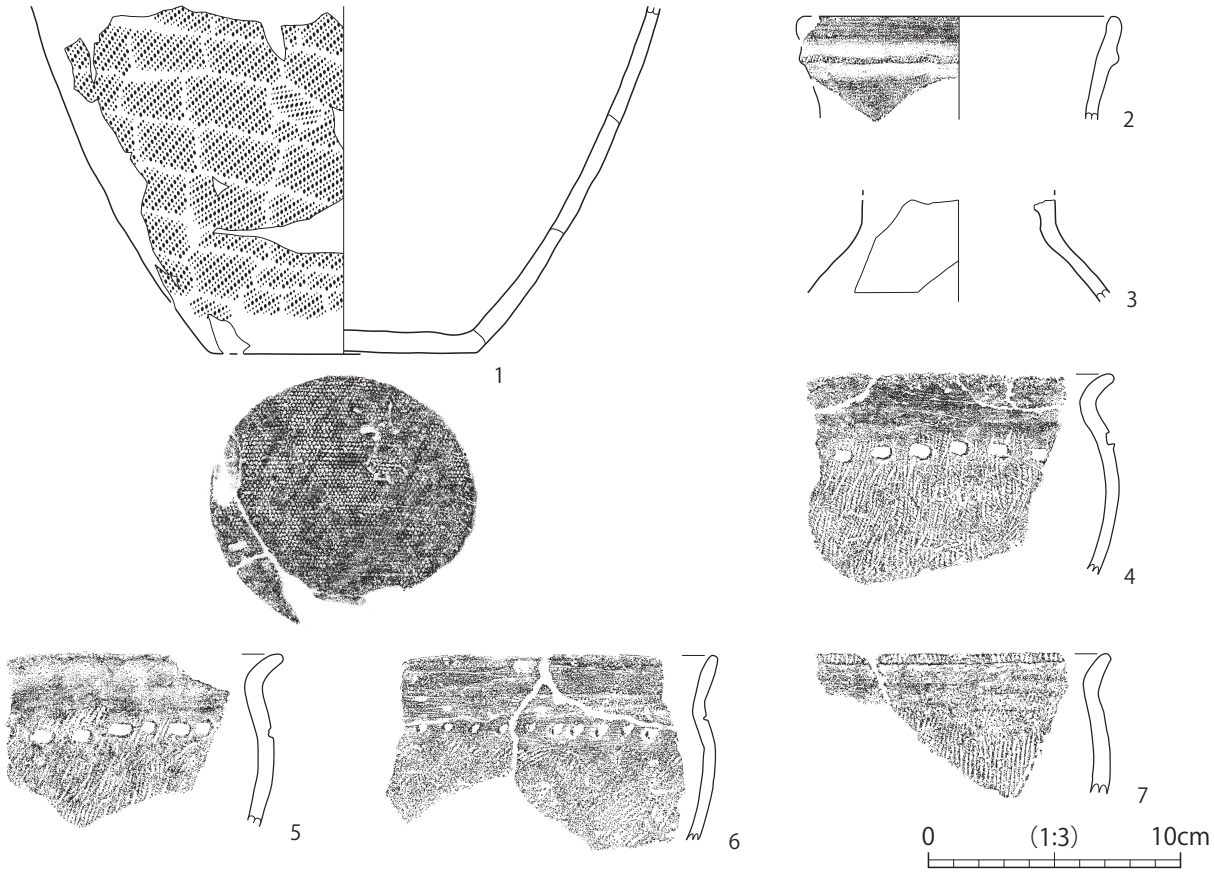
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
P1	15	楕円形	36×27	25	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック（10～30㎜程度）多量含む。	

第 103 図　SX2 竪穴遺構

【柱穴】 南東隅でピット（P1）を検出した。堆積土は、にぶい黄褐色シルトの単層である。

【出土遺物】 堆積土から弥生土器と剥片石器が出土している。弥生土器壺２点、蓋１点、甕４点を掲載した（第104図）。

１・２は壺である。１は遺物包含層出土遺物との接合資料で、9mほど離れて出土している（第113図）。体部に附加条縄文（LR ＋ 2R）が横位・斜位回転施文され、底面には織布痕がみられる。２は頸部上端に、断面が三角形を呈する隆帯が横位に貼り付けられている。隆帯頂部には植物茎回転文が施されている。３は蓋である。４～７は甕である。器形は、いずれも口縁部と体部上半に最大径を持ち、口縁部と体部の境が括れる形態である。口縁部は平口縁で短く外反または外傾し、括れは鋭角に屈曲するもの、鈍角に屈曲するもの、緩やかに屈曲するものなど多様な形態が認められる。口縁部には明瞭なヨコナデが施され、口唇部と体部には地文が施されている。地文には縄文と植物茎回転文があり、縄文原体には附加条（LR ＋ R・LR ＋ LL）と無節（L）がある。体部上端には列点刺突文が施されるものと地文のみのものがある。列点刺突文の施文方向には左右の別がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
1	B-121	SX2	堆積土	弥生土器	壺	体下半～底部	体下半：附加条縄文（LR＋2R）横位・斜位回転 底面：織布痕	ミガキ	外面やや摩滅	38
2	B-244	SX2	堆積土	弥生土器	壺	口縁～頸部	口唇：植物茎回転文横位回転 頸部：横位隆帯貼付→植物茎回転文横位回転 口縁～頸部：ミガキ	横位ミガキ	口径（12.4）㎝	38
3	B-333	SX2	堆積土	弥生土器	蓋	体上半	体上半：ミガキ	ミガキ		38
4	B-043	SX2	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：附加条縄文（LR＋R）横位回転	ミガキ	内面摩滅	38
5	B-243	SX2	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：附加条縄文（LR＋LL）横位回転	横位ミガキ	外面摩滅	38
6	B-044	SX2	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（右→左） 体上半：L縄文（無節）横位回転	口縁：ヨコナデ→ミガキ 体上半：ミガキ	外面摩滅	38
7	B-052	SX2	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：植物茎回転文横位回転　口縁：ヨコナデ 体上半：植物茎回転文横位回転	横位ミガキ		38

第104図　SX2竪穴遺構出土遺物

(2) 焼土遺構（第 105 図）

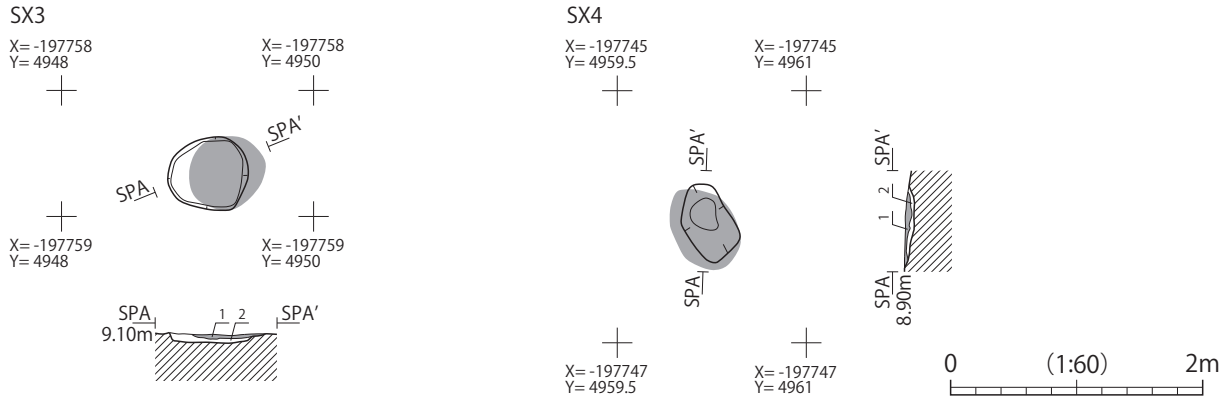
調査区北半部の基本層Ⅵ層上面から 2 基の焼土遺構を検出した。規模や焼土下に掘り込みを持つことなど SX2 底面で検出された焼土遺構との共通点が多く、炉跡の可能性がある。検出状況は、SX3 焼土遺構は単独で検出され、周辺からの出土遺物も少ない。一方、SX4 焼土遺構は 8 グリッドを中心とするピット群の中に位置し、周辺からは土器・石器などが多く出土している。以下、焼土遺構について記載する。

SX3 焼土遺構（第 105 図）

調査区中央部西側の 18 グリッドに位置する。基本層Ⅵ層上面で検出した。焼土の平面形状は円形を呈し、規模は長軸 62cm、短軸 52cm、厚さ 4cm を測る。焼土下には掘り方と考えられる土坑が検出された。平面形状は円形を呈し、規模は長軸 65cm、短軸 60cm、深さ 8cm を測る。堆積土は 2 層に分層した。1 層は暗褐色砂質シルトの焼土で、わずかに赤色味を帯びるが、被熱による硬化はない。2 層はにぶい黄褐色砂質シルトである。壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。遺物は出土していない。

SX4 焼土遺構（第 105 図）

調査区北半部 11・12 グリッドに位置する。基本層Ⅵ層上面で検出した。焼土の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸 68cm、短軸 50cm。厚さ 5cm を測る。焼土下には掘り方と考えられる土坑が検出された。平面形状は不整楕円形を呈し、規模は長軸 63cm、短軸 40cm、深さ 7cm を測る。堆積土は 2 層に分層した。1 層は褐色砂質シルトの焼土で、わずかに赤色味を帯びるが、被熱による硬化はない。2 層はにぶい黄褐色砂質シルトである。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は凹凸がみられる。遺物は出土していない。



SX3 焼土遺構 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆積土	1	7.5YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅵ層土粒少量、炭化物粒微量含む。部分的に焼土化している。※焼土
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅵ層土粒多量含む。

SX4 焼土遺構 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆積土	1	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	部分的に焼土化している。※焼土
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅵ層土粒多量含む。

第 105 図　SX3・4 焼土遺構

(3) 土坑（第 106 ～ 108 図）

調査区北半部の基本層Ⅵ層上面から 7 基の土坑を検出した。検出状況は、SK1 は単独で検出され、周辺からの出土遺物も少ない。その他は 8 グリッドを中心とするピット群の中に位置し、周辺からは土器・石器などが多く出土している。なお、SK5 は整理作業の段階で、SX1 竪穴遺構に伴う遺構と考え、遺構番号を SX1-SK1 に変更した。このため SK5 は欠番である。以下、土坑について記載する。

SK1 土坑（第 106・107・149 図）

調査区中央部の 19 グリッドに位置する。基本層Ⅵ層上面で検出した。規模は長軸 99cm、短軸 92cm、深さ 25cm を測る。平面形状は円形を呈する。堆積土は 4 層に分層した。2 層は灰白色粘土層で、堆積状況から人為堆積と考えられる。壁は外反気味に立ち上がる。底面は緩やかに起伏する。灰白色粘土層上面から弥生土器・剥片石器が出土している。弥生土器壺 4 点、小型土器 1 点、接合資料 1 点を掲載した（第 107・149 図）。1 は壺の頸部から体部上半である。体部と頸部の境に沈線を伴う隆帯が横位に貼り付けされ、体部には附加条縄文（LR ＋ 2R）が斜位回転施文されている。2・3 は壺の口頸部である。頸部上端に、断面が三角形を呈する隆帯が横位に貼り付けられ、数条の横位直線文が施されている。4 は壺の体部下半で、LR 縄文を斜位回転施文し、縦走縄文を施している。5 は鉢形と考えられる小型土器で、底面に木葉痕がみられる。

SK2 土坑（第 106・107・164 図）

調査区北部中央の 8 グリッドに位置する。基本層Ⅵ層上面で検出した。規模は長軸 58cm、短軸 57cm、深さ 7cm を測る。平面形状は円形を呈する。堆積土は 3 層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は凹凸があるが概ね平坦である。堆積土中から弥生土器・剥片石器が出土している。弥生土器甕 1 点・剥片石器 1 点、接合資料 1 点を掲載した（第 107・164 図）。1 は口縁部と体部上半に最大径を持つ甕である。口縁部には明瞭なヨコナデが施され、口唇部と体部には植物茎回転文が施文されている。体部上端には列点刺突文が施されている。2 はスクレイパーである。a 面の右側縁には表裏両面に剥離調整が施され、左側縁には微細剥離痕がある。石材は珪質頁岩である。

SK3 土坑（第 106 図）

調査区北部中央の 8・9 グリッドに位置する。基本層Ⅵ層上面で検出した。規模は長軸 73cm、短軸 64cm、深さ 15cm を測る。平面形状は不整円形を呈する。堆積土は 2 層に分層した。暗褐色シルトを主体とし、Ⅵ層土ブロックと炭化物を含む。壁は内湾しながら外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。堆積土中から弥生土器・剥片石器が出土しているが、図化できる遺物はなかった。

SK4 土坑（第 106 図）

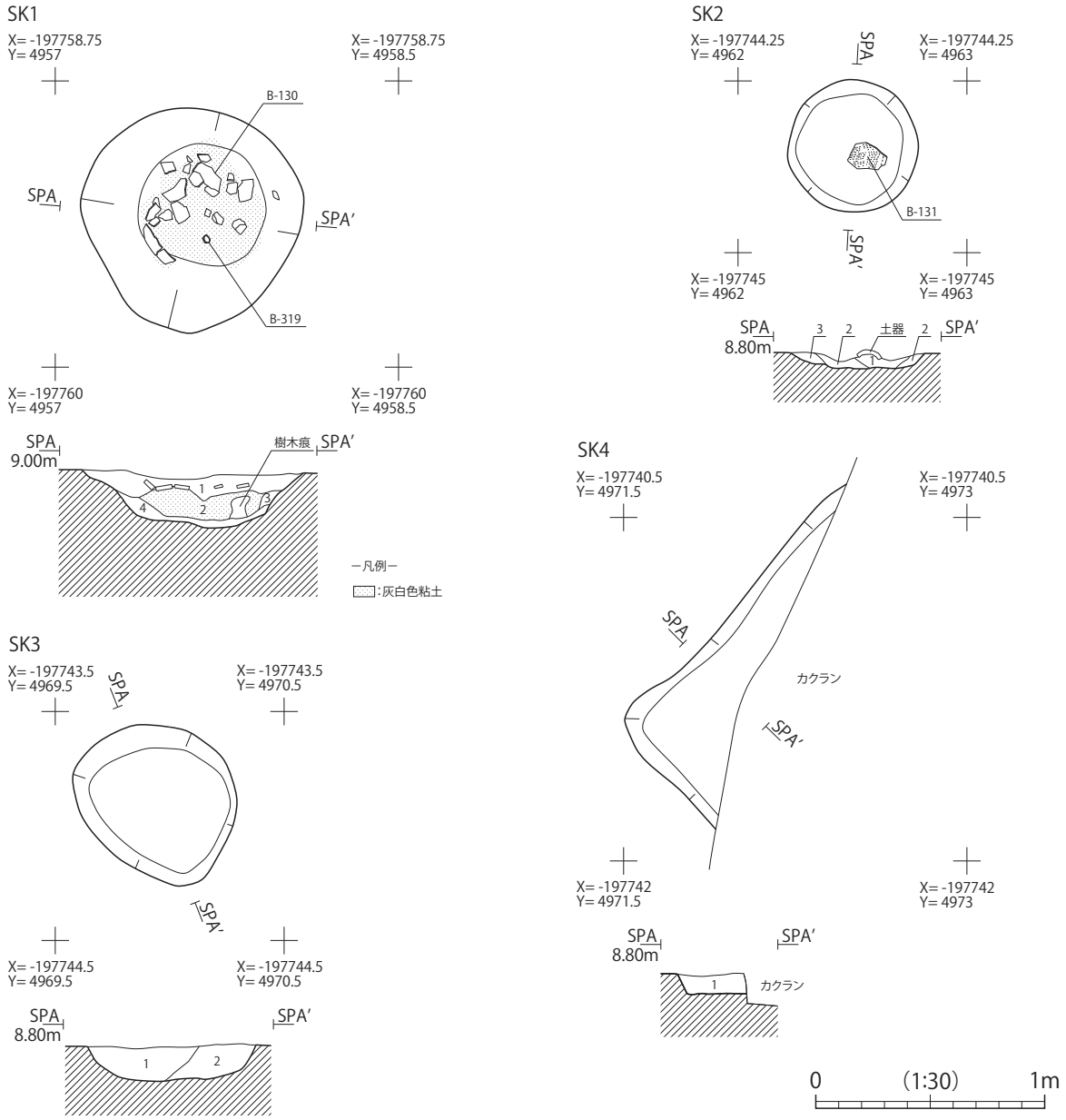
調査区北部中央の 9 グリッドに位置する。基本層Ⅵ層上面で検出した。検出した規模は、長軸 150cm、短軸 62cm、深さ 9cm を測る。平面形状は長方形と推察される。長軸方向は N － 41°－ E である。堆積土は灰黄褐色土とⅥ層土の混合土である。壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。堆積土中から弥生土器が出土しているが、図化できる遺物はなかった。

SK6 土坑（第 108 図）

調査区北部中央の 8 グリッドに位置する。基本層Ⅵ層上面で検出した。規模は長軸 66cm、短軸 56cm、深さ 22cm を測る。平面形状は円形を呈する。堆積土は 4 層に分層した。3 層は灰白色粘土層で、堆積状況から人為堆積と考えられる。壁はほぼ直立して立ち上がる。底面は中央がやや窪むが概ね平坦である。灰白色粘土層上面から弥生土器壺の体部上半が横位の状態で出土した。弥生土器壺 1 点を掲載した（第 108 図）。1 は壺の口縁部から体部上半である。体部上半はやや丸みを帯び、頸部から口縁部にかけてほぼ直立する。頸部上端に断面が三角形を呈する隆帯が横位に貼り付けられ、4 条の横位直線文が施されている。口唇部と体部には附加条縄文（LR ＋ 2R）が横位回転施文され、体部と頸部の境に 2 条の横位直線文が施される。

SK7 土坑（第 108 図）

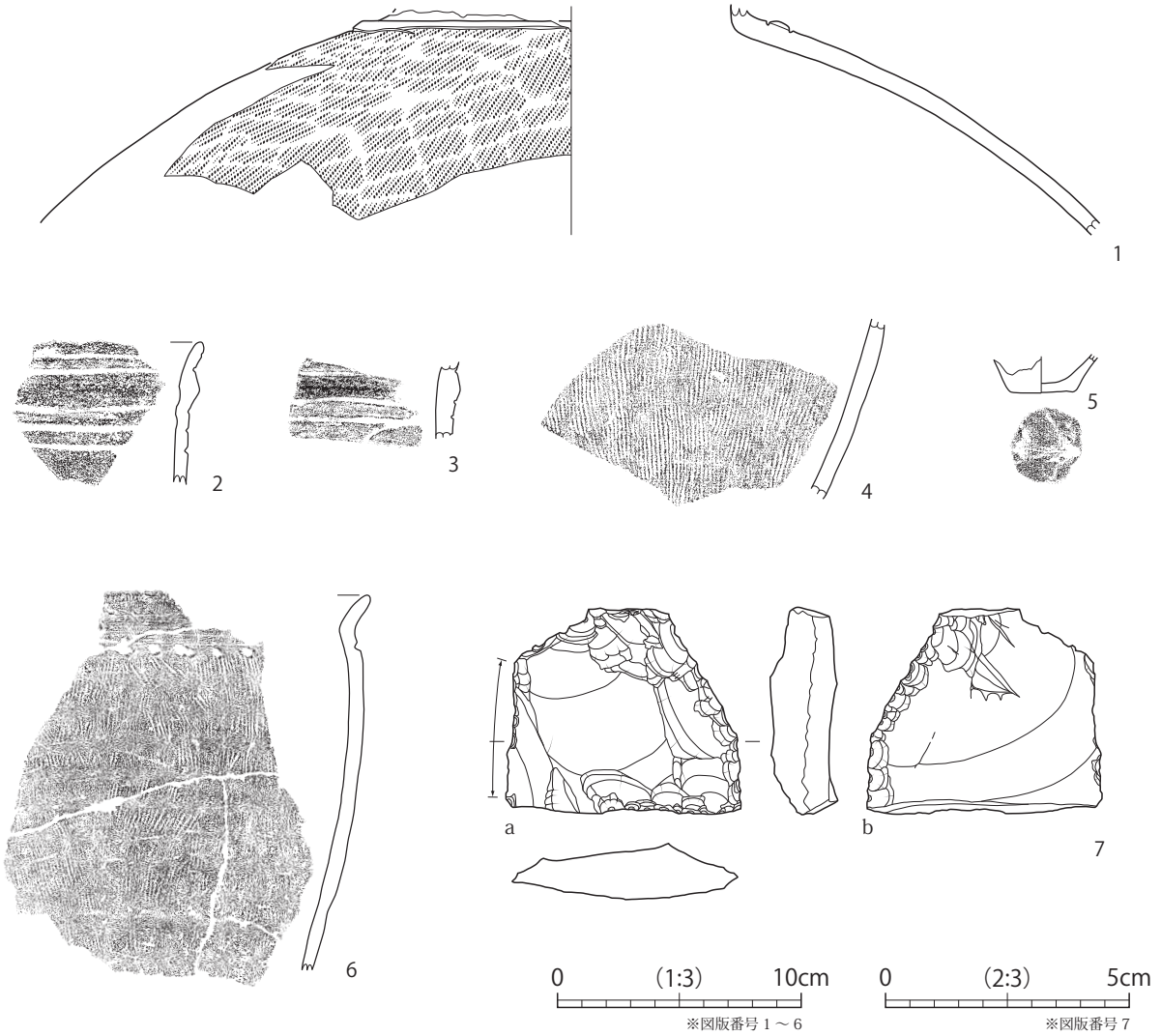
調査区北部中央の 8 グリッドに位置する。基本層Ⅵ層上面で検出した。SK8 より新しい。規模は長軸 53cm、短軸 48cm、深さ 12cm を測る。平面形状は円形を呈する。堆積土は黒褐色シルトの単層で、Ⅵ層土ブロックと炭化物を多量に含む。壁はほぼ直立して立ち上がる。底面は概ね平坦である。堆積土中から弥生土器・剥片石器が出土している。弥生土器鉢 1 点を掲載した（第 108 図）。2 は小型の鉢で、口縁部に焼成前の穿孔が穿たれている。



土坑 観察表（1）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK1	19	円形	99×92	25	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅵ層土粒微量含む。	
					2	5Y8/2 灰白色	粘土		
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト		
SK2	8	円形	58×57	7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土含む。	
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	
SK3	8･9	不整円形	73×64	15	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)･炭化物含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)･炭化物含む。	
SK4	9	長方形	(150)×(62)	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土との混合土､炭化物粒少量含む。	

第 106 図　SK1 ～ 4 土坑



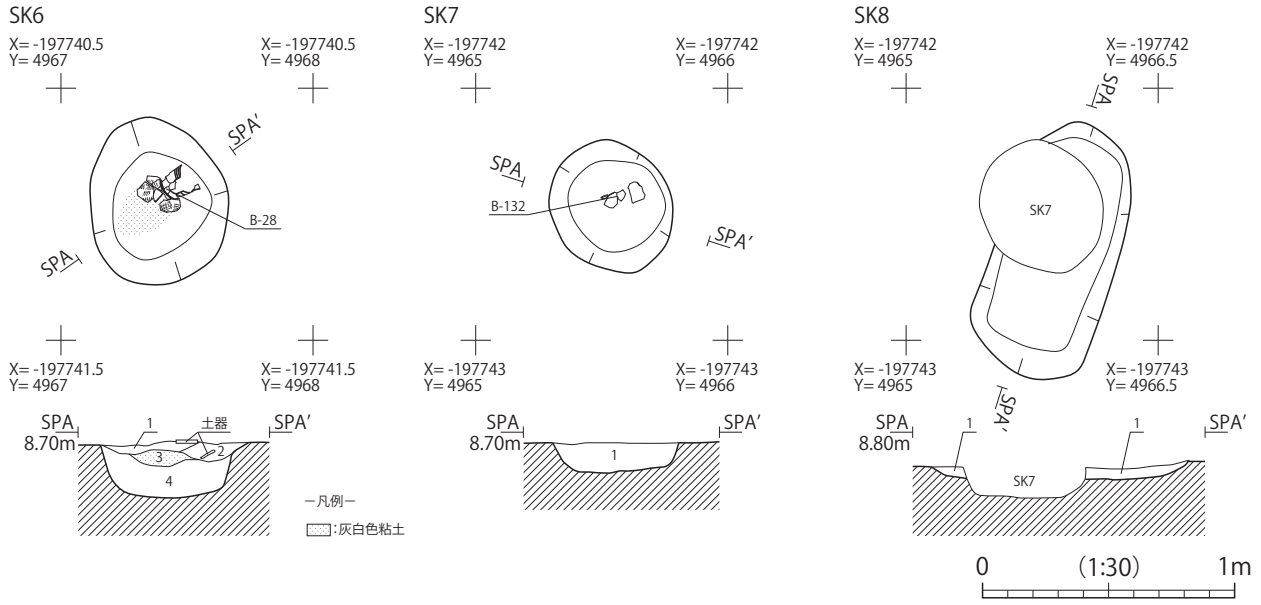
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
1	B-130	SK1	堆積土	弥生土器	壺	体上半	体上端：横位隆帯貼付→附加条縄文（LR＋2R）斜位回転→ナデ→沈線 体上半：附加条縄文（LR＋2R）	ケズリ→ミガキ		39
2	B-335	SK1	堆積土	弥生土器	壺	口縁～頸部	頸部：横位隆帯貼付→ナデ→沈線→ミガキ	不明	内外面摩滅	38
3	B-318	SK1	堆積土	弥生土器	壺	頸部	頸部：横位隆帯貼付→ナデ→沈線→ミガキ	ミガキ		39
4	B-317	SK1	堆積土	弥生土器	壺	体部	体部：LR縄文斜位回転	ミガキ		39
5	B-319	SK1	堆積土	弥生土器	小型土器	口縁～底部	口縁～体下半：ミガキ 底面：木葉痕	ナデ	底径2.5㎝	39
6	B-131	SK2	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体部	口唇：植物茎回転文横位回転　口縁：ヨコナデ 体上端：列点刺突（左→右） 体部：植物茎回転文横位回転	口縁：ミガキ 体部：ナデ		39

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（㎝）			重量（g）	石材	備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ				
7	Ka-022	SK2	堆積土	打製石器	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	4.3	4.9	1.4	22.4	珪質頁岩	a面＋b面加工、複数縁辺に二次加工、一縁辺に微細剥離痕、刃角35°	39

第 107 図　SK1・2 土坑出土遺物

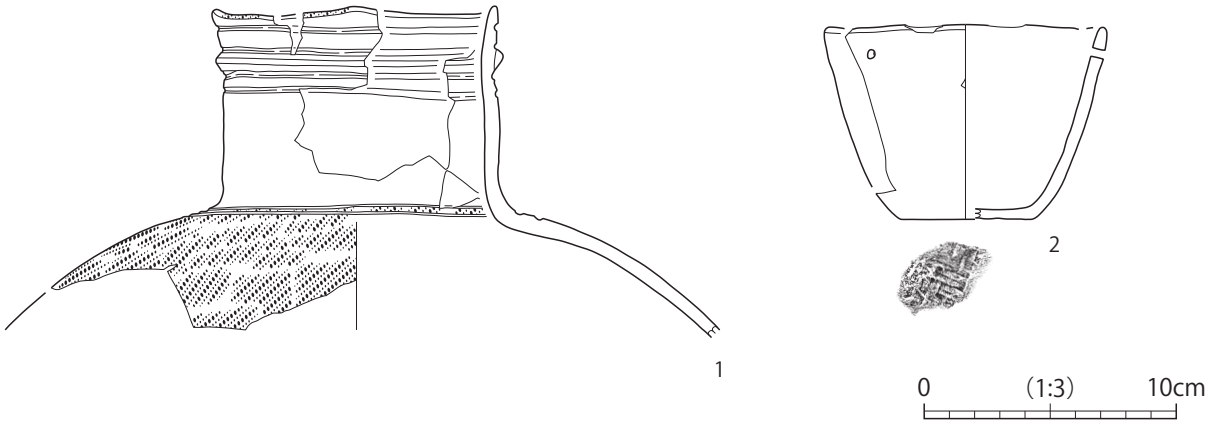
SK8 土坑（第 108 図）

調査区北部中央の 8 グリッドに位置する。基本層Ⅵ層上面で検出した。SK7 より古い。検出した規模は、長軸 104cm、短軸 49cm、深さ 6cm を測る。平面形状は楕円形を呈する。長軸方向は N － 21°－ E である。堆積土は暗褐色シルトの単層で、Ⅵ層土ブロックを多量に含む。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。遺物は出土していない。



土坑 観察表（2）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK6	8	円形	66×56	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒・炭化物粒少量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒少量含む。	
					3	5Y8/2 灰白色	粘土		
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒・白色粘土ブロック(20㎜程度)含む。	
SK7	8	円形	53×48	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物多量含む。	SK8より新しい。
SK8	8	楕円形	104×49	6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～40㎜程度)多量含む。	SK7より古い。

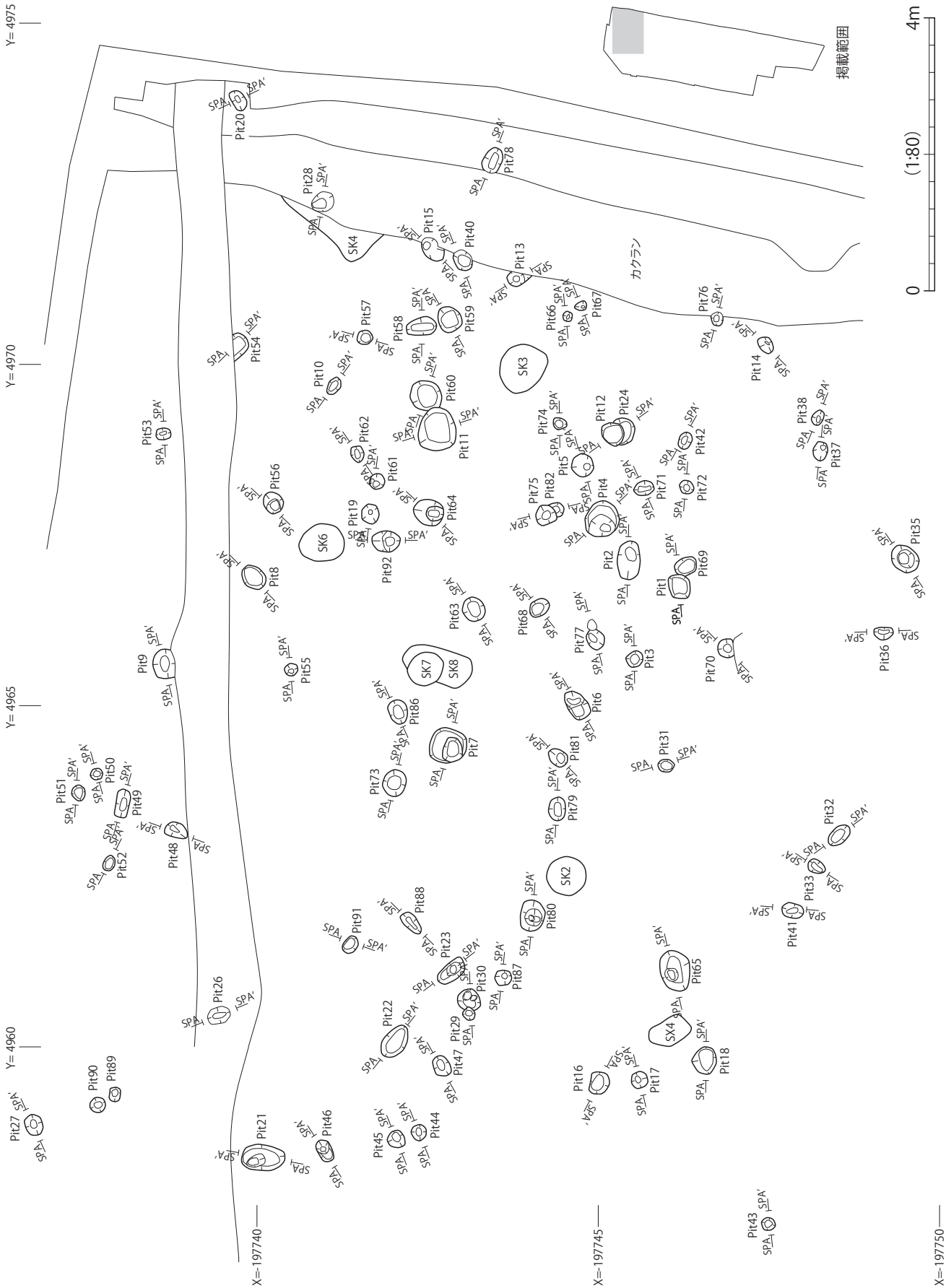


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
1	B-028	SK6	堆積土	弥生土器	壺	口縁～体上半	口唇:附加条縄文(LR＋2R)横位回転 口縁:横位隆帯貼付→ミガキ 頸部:沈線→ミガキ(横位直線文) 体上端:附加条縄文(LR＋2R)横位回転	口縁～頸部:ミガキ 体部:ナデ	口縁部突起(4単位) 内外面やや摩滅	39
2	B-132	SK7	堆積土	弥生土器	鉢	口縁～底部	口縁～体部:ミガキ 底面:網代痕	ミガキ	口径(11.0)㎝、底径(5.4)㎝、器高7.7㎝、口縁部焼成前穿孔(径約3㎜)	39

第 108 図　SK6 ～ 8 土坑・SK6・7 土坑出土遺物

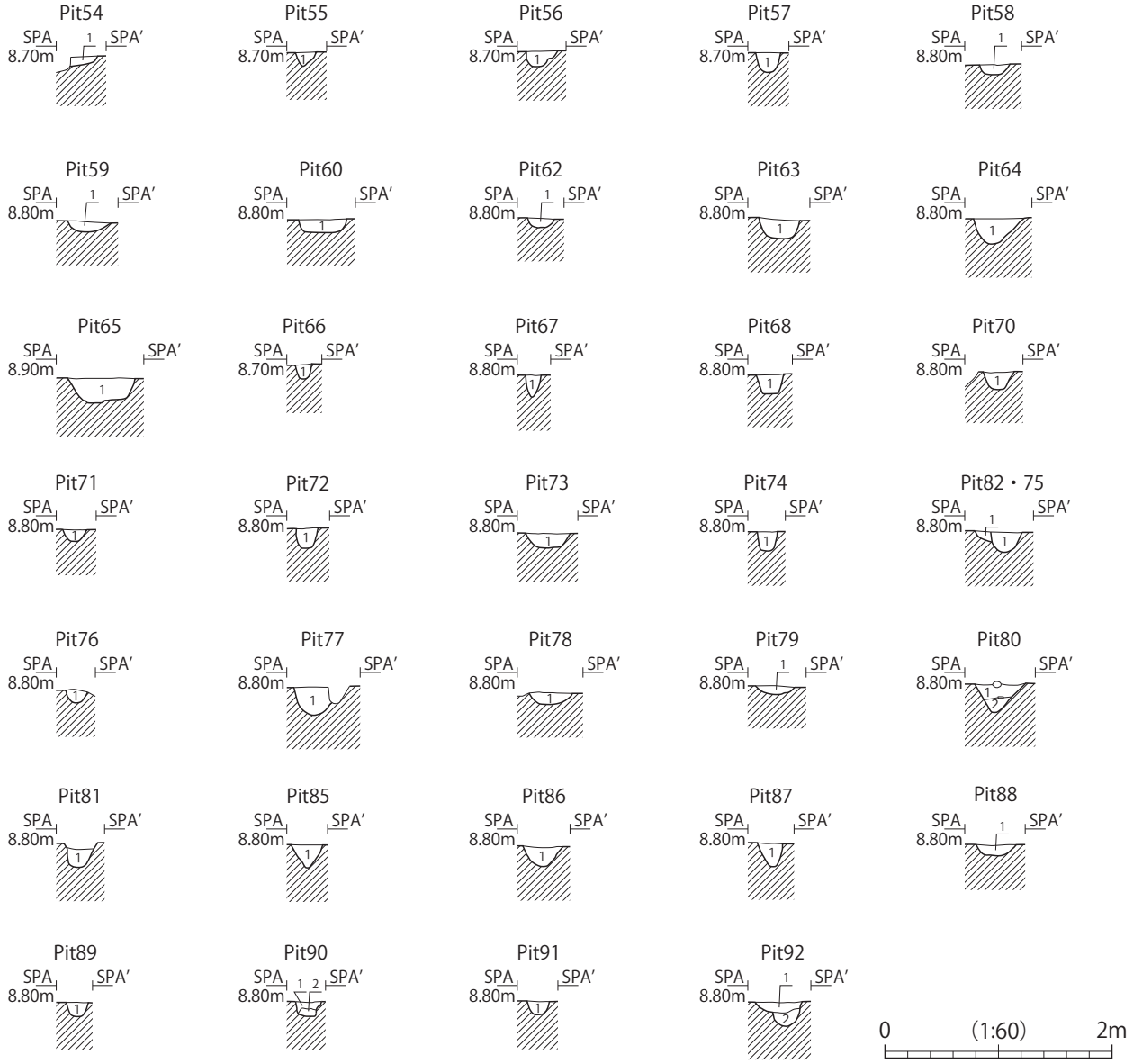
(4) ピット（第 109 ～ 112 図）

調査区北半部の基本層Ⅵ層上面から 90 基のピットを検出した。調査区北東部 8 グリッドを中心に、Pit83・84 の 2 基を除く 88 基のピットが集中している。このピット群の外周は円弧を描くように 50 ～ 300cm 程の間隔でピットが並び、内側には幅 200cm 程度の比較的ピットが少ない地域がある。さらに空白地域の内側でも円弧を描くようにピットが並び、円弧の南東側ではピットが密集している。



第 109 図　ピット配置図

第 110 図　ピット断面図（1）



ピット観察表（1）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit1	12	方形	37×31	5	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒・マンガン粒多量、Ⅵ層土ブロック（10～20㎜程度）・炭化物粒微量含む。	Pit69より新しい。
Pit2	12	楕円形	57×35	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅵ層土粒・炭化物粒多量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土多量、黒褐色シルト含む。	
Pit3	12	円形	25×22	10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック（5～10㎜程度）・炭化物粒少量含む。	
Pit4	8・12	円形	54×48	18	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅵ層土多量、炭化物粒微量含む。	
Pit5	8	円形	34×33	27	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅵ層土ブロック（5㎜程度）・炭化物粒少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土少量含む。	
Pit6	8	楕円形	45×28	27	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅵ層土多量、炭化物粒微量含む。	
Pit7	8	隅丸方形	54×52	16	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅵ層土ブロック（5～50㎜程度）・炭化物（10㎜程度）含む。	
Pit8	4・8	円形	38×30	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅵ層土多量含む。	
Pit9	4	円形	43×(32)	19	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅵ層土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅵ層土多量含む。	
Pit10	8	楕円形	27×18	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック（5㎜程度）含む。	
Pit11	8	円形	63×55	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒・Ⅵ層土粒微量含む。	Pit60より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック（5～10㎜程度）含む。	
Pit12	12	円形	35×33	9	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土含む。	Pit24より新しい。
Pit13	9	長方形	(24)×24	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒・マンガン粒含む。	
Pit14	13	楕円形	26×19	19	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック（10㎜程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit15	9	楕円形	35×(17)	21	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック（5～10㎜程度）・炭化物粒多量含む。	
Pit16	7・11	円形	33×28	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック（5～10㎜程度）多量含む。	
Pit17	11	円形	25×24	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	
Pit18	11	円形	40×36	17	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック（5㎜程度）含む。	

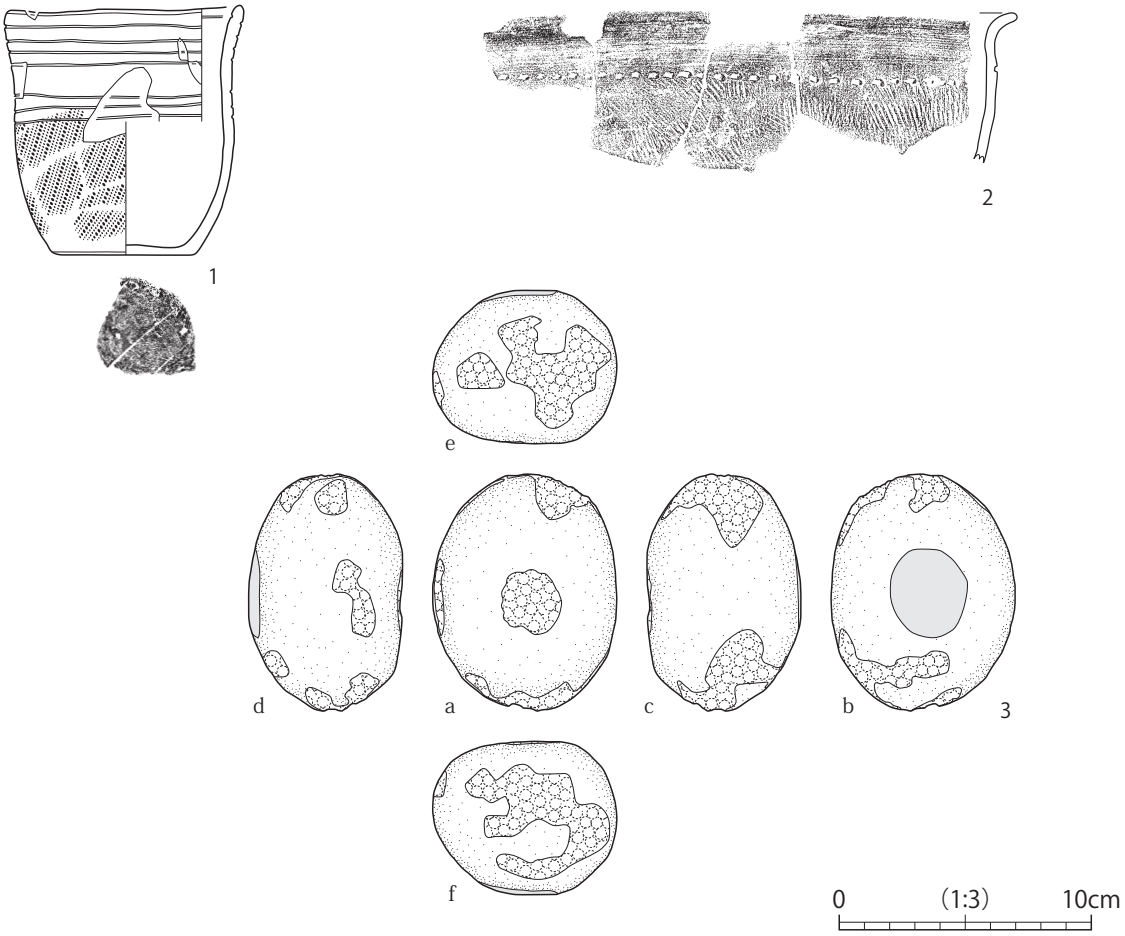
第 111 図　ピット断面図（2）

ピット 観察表（2）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit19	8	円形	29×26	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
Pit20	5	楕円形	32×19	17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	下部にⅥ層土含む。	
Pit21	3・7	長楕円形	62×37	28	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物少量、Ⅵ層土ブロック(10～30㎜程度)微量含む。	
Pit22	7・8	楕円形	53×32	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒微量含む。	
Pit23	8	長楕円形	46×25	26	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)、炭化物微量含む。	
Pit24	12	円形	40×32	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒微量含む。	Pit12より古い。
Pit25	—	—	—	—	—	—	—	欠番	
Pit26	4	楕円形	34×24	26	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。	
Pit27	3	円形	31×25	22	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒微量含む。	
Pit28	9	円形	35×28	24	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit29	8	円形	19×19	7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	Pit30より新しい。
Pit30	8	円形	34×31	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～40㎜程度)多量含む。	Pit29より古い。
Pit31	12	円形	25×18	14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土含む。	
Pit32	12	楕円形	38×23	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量含む。	
Pit33	12	楕円形	27×19	8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
Pit34	16	円形	23×21	10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量含む。	
Pit35	12	円形	44×35	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量含む。	
Pit36	12	楕円形	28×18	17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒少量含む。	
Pit37	12	楕円形	28×22	18	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
Pit38	12	楕円形	22×16	13	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
Pit39	16	円形	25×24	13	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量含む。	
Pit40	9	円形	32×26	18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
Pit41	12	楕円形	32×21	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土多量含む。	
Pit42	12	楕円形	25×19	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒少量含む。	
Pit43	11	円形	21×19	5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)含む。	
Pit44	7	円形	24×22	18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土含む。	
Pit45	7	円形	27×25	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)含む。	
Pit46	7	隅丸長方形	34×20	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量含む。	
Pit47	7	楕円形	32×23	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒含む。	
Pit48	4	楕円形	34×22	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)含む。	
Pit49	4	長方形	42×19	18	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	
Pit50	4	円形	18×16	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit51	4	円形	23×20	6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量含む。	
Pit52	4	楕円形	23×17	5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量含む。	
Pit53	4	円形	22×17	8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	
Pit54	5	隅丸長方形	(26)×31	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
Pit55	8	円形	20×18	12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	
Pit56	8	円形	32×27	13	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
Pit57	9	円形	22×22	17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。	
Pit58	9	長楕円形	44×26	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～30㎜程度)含む。	
Pit59	9	円形	38×33	8	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土含む。	
Pit60	8	円形	46×43	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。	Pit11より古い。
Pit61	8	円形	23×22	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅵ層土粒多量含む。	
Pit62	8	楕円形	24×19	8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。	
Pit63	8	円形	36×33	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。	
Pit64	8	円形	45×37	26	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。	
Pit65	12	楕円形	62×44	27	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土多量含む。	
Pit66	9	円形	14×13	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒・炭化物粒少量含む。	
Pit67	9	楕円形	18×13	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒・炭化物粒少量含む。	
Pit68	8	楕円形	31×24	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒少量含む。	
Pit69	12	円形	33×25	9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土多量含む。	P1itより古い。
Pit70	12	円形	28×(23)	15	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。	
Pit71	12	楕円形	30×21	10	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒微量含む。	
Pit72	12	円形	22×19	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒少量含む。	
Pit73	8	円形	39×33	13	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
Pit74	8	円形	20×17	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	
Pit75	8	円形	29×29	20	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒微量含む。	Pit82より新しい。
Pit76	13	円形	20×18	12	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒多量、炭化物粒少量含む。	
Pit77	8・12	楕円形	33×25	25	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、Ⅵ層土粒少量含む。	
Pit78	9	楕円形	37×26	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。	
Pit79	8	楕円形	35×25	8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	
Pit80	8	楕円形	46×36	25	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅵ層土ブロック(20㎜程度)含む。	
Pit81	8	楕円形	30×23	21	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒・炭化物粒含む。	
Pit82	8	円形	21×(14)	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	Pit75より古い。
Pit83	15	楕円形	32×24	22	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
Pit84	15	方形	38×33	11	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
Pit85	—	—	—	—	—	—	—	SX2-P1に変更。	
Pit86	8	楕円形	35×27	17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。	
Pit87	8	円形	25×22	20	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
Pit88	8	長楕円形	38×19	9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
Pit89	3	隅丸長方形	21×16	12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
Pit90	3	円形	23×23	13	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅵ層土粒含む。	
Pit91	8	楕円形	27×19	12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
Pit92	8	楕円形	42×31	22	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅵ層土粒・炭化物粒含む。	

ピットの重複関係は、Pit1 と 69、Pit11 と 60、Pit12 と 24、Pit29 と 30、Pit75 と 82 の 5 例のみで、集中してピットが検出されている割には、重複関係が少ない状況である。平面形状は円形・楕円形・隅丸方形など多様で、柱痕跡は確認できていない。また、出土遺物が少ないため、ピットの性格や帰属時期は明確にすることができなかった。各ピットの詳細は、観察表を参照していただきたい。

出土遺物として Pit11・63 から出土した弥生土器と Pit80 から出土した礫石器を掲載した（第 112 図）。1 は小型の深鉢である。体部に LR 縄文（直前段 3 条）が斜位回転施文された後、口縁部に 4 条と体部上半に 3 条の横位直線文が施されている。また、口縁部内面にも 1 条の横位直線文が施されている。2 は口縁部に最大径を持つ甕である。口縁部には明瞭なヨコナデが施され、体部には植物茎回転文が施文されている。体部上端には列点刺突文が施されている。3 は円礫を用いた礫石器で、a 面中央に凹痕・b 面中央に磨痕がみられるほか、各面に敲打痕がある。石材は安山岩である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
1	B-140	Pit11	堆積土	弥生土器	深鉢	口縁～底部	口縁～体上半：ナデ→沈線→ミガキ（横位直線文） 体下半：LR縄文（直前段3条）斜位回転 底面：木葉痕	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体部：ミガキ	口径9.5㎝ 底径（5.6）㎝ 器高9.9㎝	39
2	B-018	Pit63	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ 体上端：列点刺突（左→右） 体上半：植物茎回転文	横位ミガキ		39

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（㎝）			重量（g）	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
3	Kc-012	Pit80	1層	礫石器	磨＋凹＋敲石	9.4	7.3	6.1	565.2	安山岩	完形品、円礫、磨一面（凸）、凹一面（浅）、敲（側面5箇所）	39

第 112 図　ピット出土遺物

(5) Ⅴ層出土遺物（第 113 ～ 124 図）

弥生時代の遺物包含層である基本層Ⅴ層からは、弥生土器・剥片石器・礫石器・石製品などコンテナで 18 箱程度が出土している。以下、基本層Ⅴ層から出土した遺物について記載するが、剥片石器の接合資料については、弥生時代の遺構や古代の遺構から出土したものも含めて相当数存在することから纏めて後述することとし、ここでは弥生土器、接合資料以外の石器、石製品について記載する。

a. 弥生土器

基本層Ⅴ層から出土した弥生土器は、いずれも弥生時代中期中葉の桝形囲式に比定される。器種は、壺・鉢・高坏・蓋・小型土器・深鉢・甕が認められ、壺 20 点、鉢 26 点、高坏 4 点、蓋 10 点、深鉢 6 点、甕 37 点、小型土器 1 点を掲載した（各器種に推定されるものも含む）。

第 113 図は弥生土器の出土地点分布図である。これによると、遺物包含層内で接合したものには、出土地点周辺の近距離間で接合したもののほか、東西に 15m ほど離れて出土した甕（B-80）や南北に 14m ほど離れて出土した壺（B-105）など遠距離間で接合したものがある。このほか、遺構出土遺物との接合関係では、SX1 出土の壺（B-104・122）や甕（B-55・77）、鉢（B-92）、SX2 出土の甕（B-121）がそれぞれ遺物包含層出土の土器片と接合している。このうち、壺（B-122）は SX1 周辺から 20m ほど離れた調査区北端で出土した土器片と接合関係にあり、本調査区において最も出土地点が離れている接合資料である。このほか、本調査区西側に隣接する第 3 次調査区で出土した土器片と接合した壺（B-329）がある。

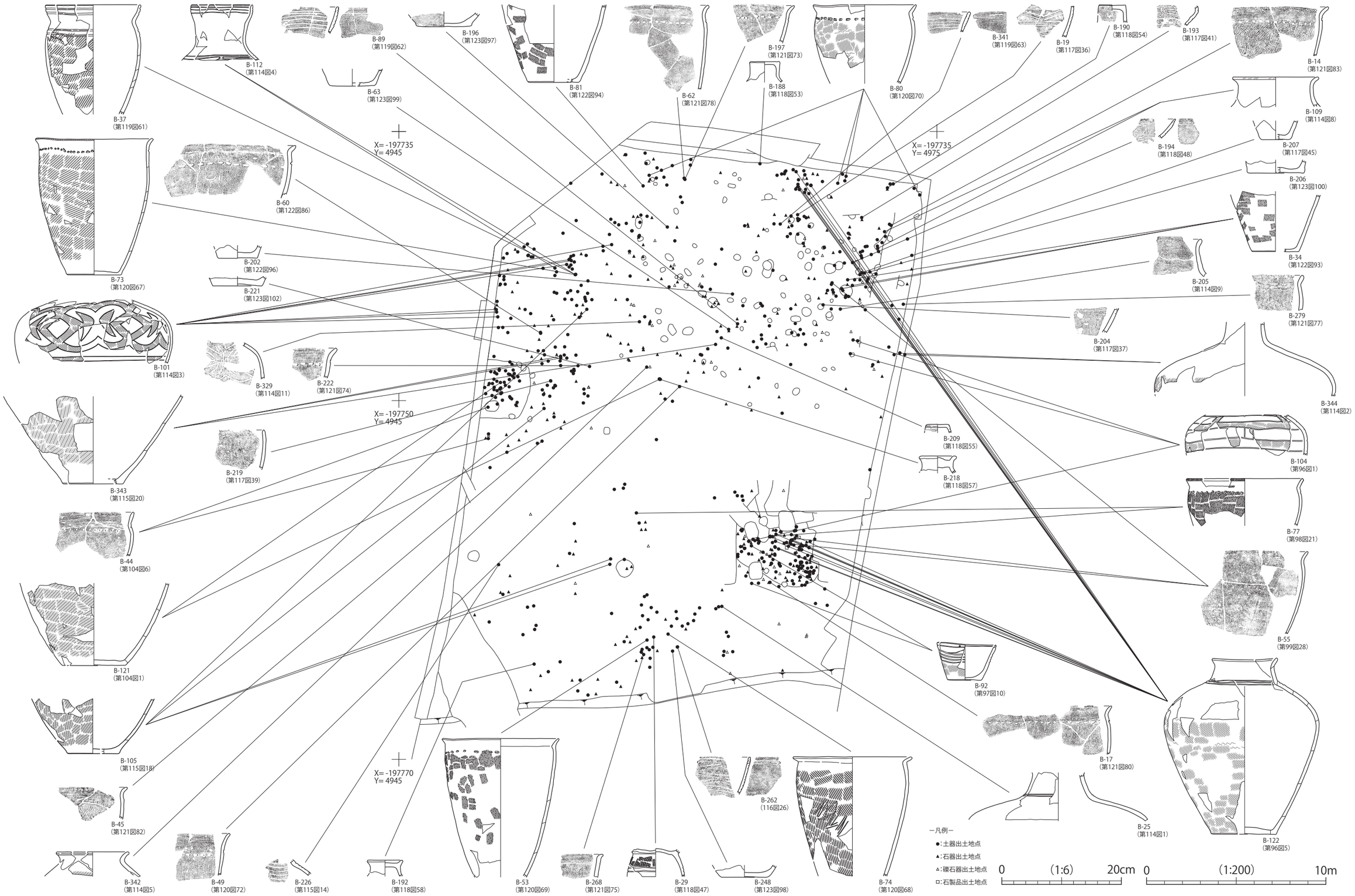
装飾文様が施される精製土器と施文されない粗製土器の両者が認められるが、高坏・小型土器・深鉢は装飾文様が施文される精製土器、甕は粗製土器だけである。装飾文様は、鉢・高坏・蓋・小型土器・深鉢では横位直線文と連弧文や山形文の組み合わせにより文様が構成され、壺では横位直線文と錨形文や四角文の組み合わせがある。文様内には地文が施文されるものと無文のものがある。このうち、地文が施文されるものについては、地文を施した後に沈線を施文し、沈線区画内をミガキにより磨消したもの（磨消縄文）は少なく、沈線施文後に沈線区画内に地文を充填したもの（充填縄文）が大部分を占めている。

地文には縄文と植物茎回転文がある。縄文原体には単節（LR）を主体とし、附加条（LR ＋ R・LR ＋ 2R・LR ＋ LL）、無節（L・R）、直前段 3 条（LR）、0 段多条（LR）がある。このほか、原体末端部の結束による綾繰文を伴うものがある。なお、1 個体で 2 種類以上の縄文原体が施文されているものは認められなかった。

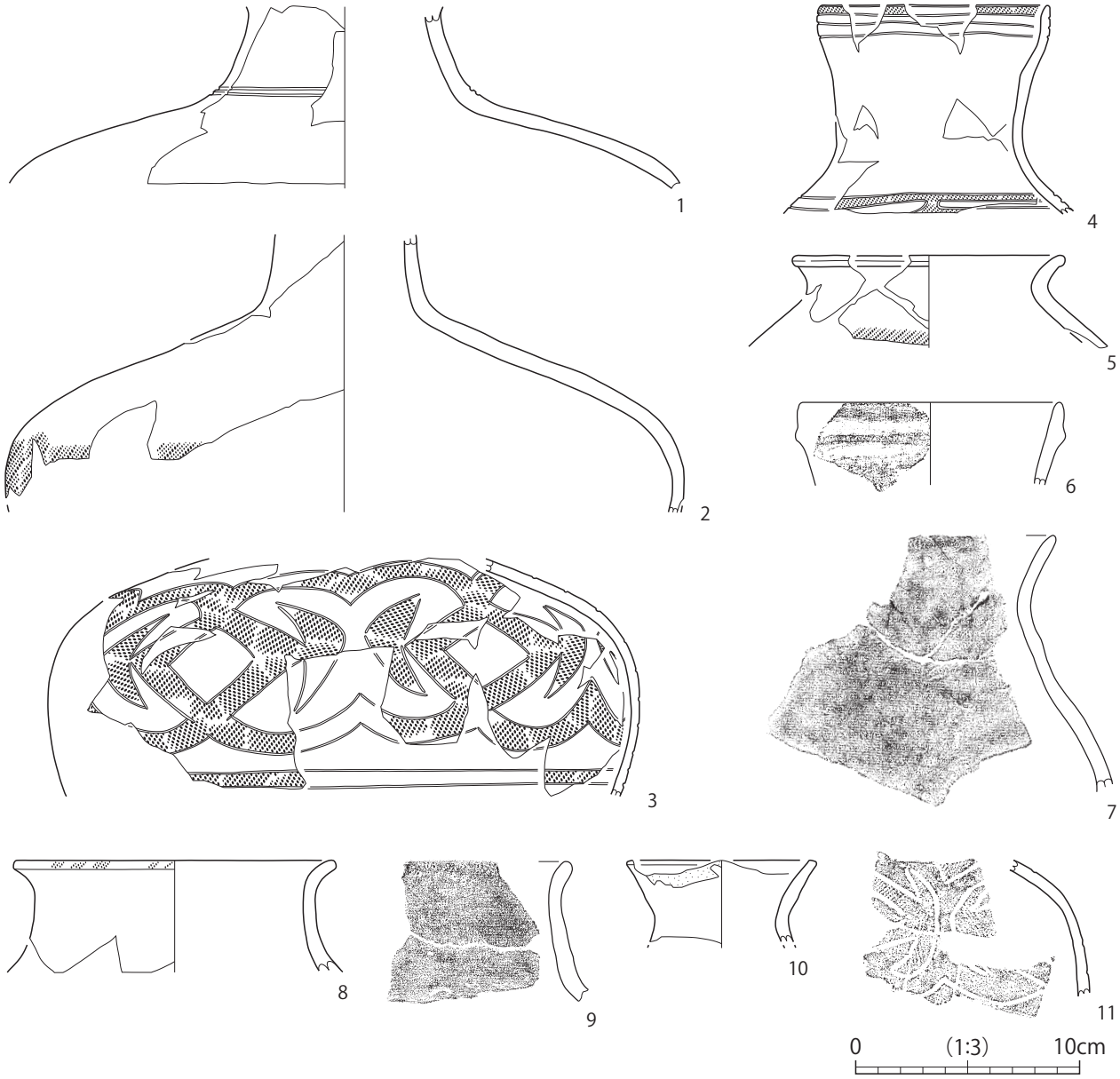
壺（第 114・115 図）

壺（壺と推定される資料を含む）は、全体の器形を復元できる個体が少ないものの、大型品（1 ～ 3）と小型品（10・12）がある。器形は、肩が張り体部上半に最大径を持つと推定されるもの（1 ～ 3・11）と、肩がなだらかで体部中位に最大径を持つと推定されるもの（4・5・7・12）があり、頸部が外傾気味に直立し、口縁部が内湾するもの（4）、頸部が強く屈曲し、口縁部が短く外反するもの（5）、頸部が屈曲し、口縁部が外傾するもの（7・10）、頸部が内傾気味に直立し、口縁部が短く外反するもの（8・9）などがある。

装飾文様の施される精製土器と装飾文様が施されない粗製土器があり、装飾文様の施文部位は口縁部から頸部上端と体部上半にある。装飾文様は横位直線文・四角文・錨形文・渦文？があり、文様が施されない頸部はミガキ調整が施され、頸部上端に断面が三角形を呈する隆帯が横位に貼り付けられているもの（6）がある。文様を構成する沈線の交点には隙間がみられる（3・11・13）ものがあり、文様内には地文が充填されているもの（3・4・11・13・14・16）と無文のもの（15）がある。地文には縄文と植物茎回転文があり、縄文原体には単節（LR）、附加条（LR ＋ 2R）、直前段 3 条（LR）がある。底面には織布痕（17）や木葉痕（18・20）、網代痕（19）がみられる。

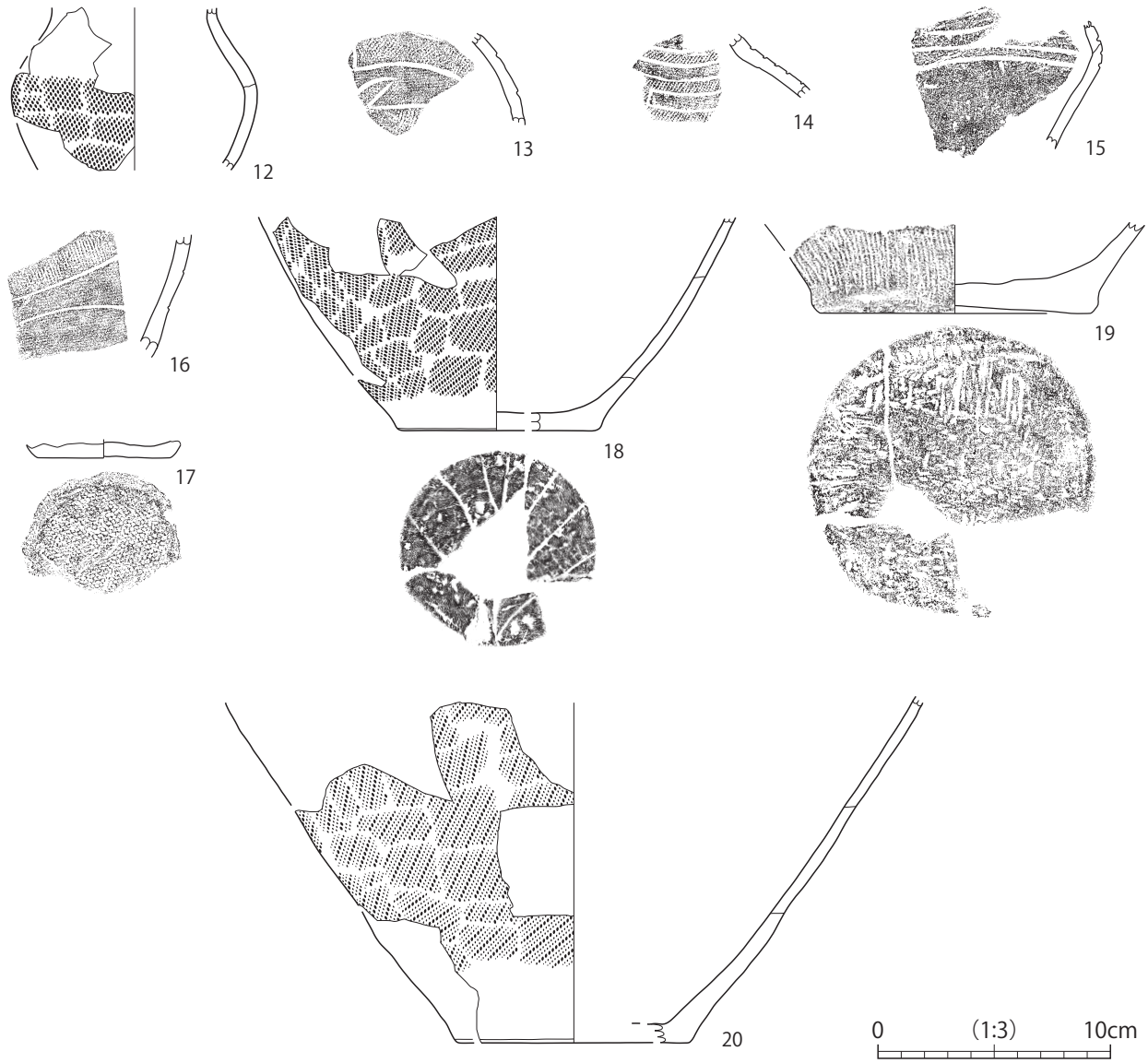


第 113 図　Ⅴ層弥生土器出土状況図



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
1	B-025	24ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	壺	頸部～体上半	頸部：ミガキ　体上端：沈線→ミガキ（横位直線文） 体上半：ミガキ	頸部：ミガキ 体上端：ナデ	内外面やや摩滅	39
2	B-344	13ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	壺	頸部～体部	頸部～体上半：ミガキ 体部：LR縄文（直前段3条）横位回転	頸部：ミガキ 体部：ナデ		39
3	B-101	7・11・16ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	壺	体上半	体上半：沈線→LR縄文→沈線→ミガキ （横位直線文＋錨形文）	ケズリ→ナデ	外面地文部及び沈線内に赤彩痕跡	39
4	B-112	7・8・12ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	壺	口縁～体上端	口縁：沈線→LR縄文→ミガキ　頸部：ミガキ 体上端：沈線→LR縄文→ミガキ（四角文）	横位ミガキ	口径10.4㎝	40
5	B-342	11ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	壺	口縁～体上端	口縁：ヨコナデ→ミガキ 体上端：附加条縄文（LR＋2R）横位回転	ミガキ	口径（12.2）㎝	40
6	B-171	15ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Va層	弥生土器	壺	口縁～頸部	口縁～頸部：横位隆帯貼付→植物茎回転文横位回転→ミガキ	ミガキ	口径（11.6）㎝	40
7	B-160	4ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Va層	弥生土器	壺	口縁～体上半	口縁～体上半：ミガキ	横位ミガキ		40
8	B-109	9ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	壺	口縁～頸部	口縁～頸部：ミガキ	横位ミガキ	口径（14.2）㎝	40
9	B-205	8ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	壺	口縁～頸部	口縁～頸部：ミガキ	ミガキ	内外面摩滅	40
10	B-026	4ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	壺	口縁～頸部	口縁～頸部：ミガキ	ナデ	口径（8.4）㎝ 外面摩滅	40
11	B-329	11ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	壺	体部	体部：沈線→LR縄文→沈線→ミガキ（錨形文）	ナデ	内外面摩滅 3区B-441と接合	40

第114図　Ⅴ層出土遺物（1）



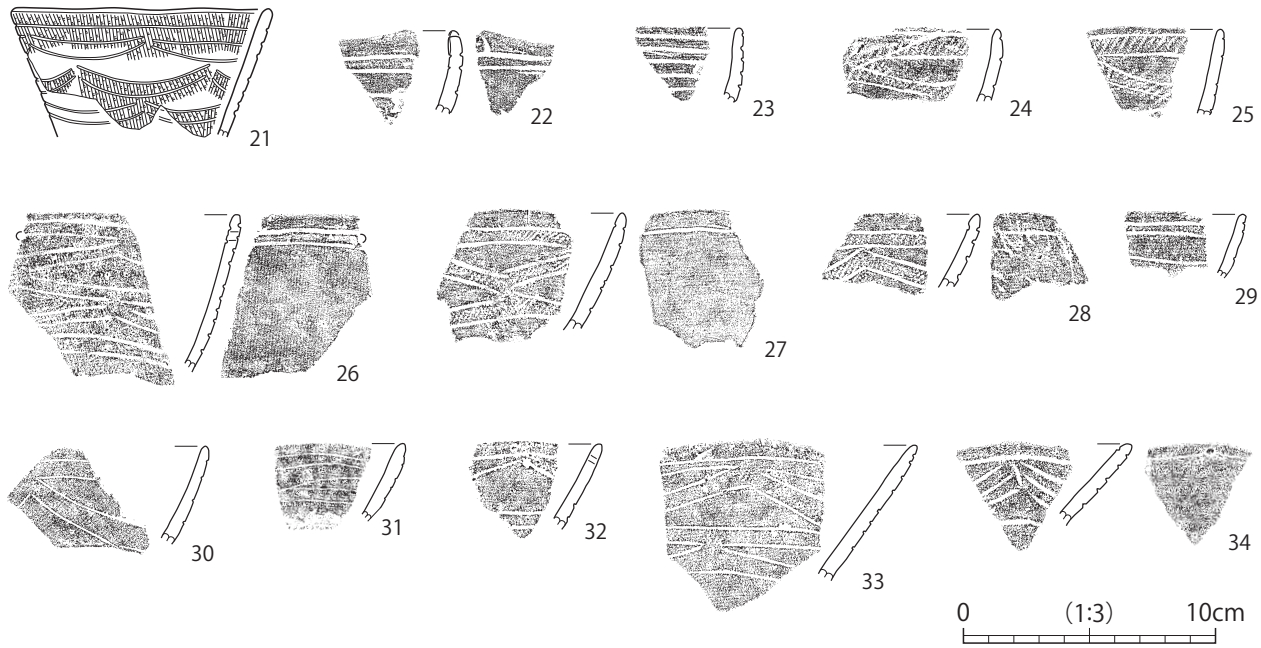
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
12	B-027	7ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Ⅴc層	弥生土器	壺	頸部～体部	頸部：ミガキ 体部：LR縄文横位回転	ナデ		40
13	B-257	16ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Ⅴb層	弥生土器	壺	体部	体部：沈線→LR縄文→沈線→ミガキ（錨形文）	ナデ		40
14	B-226	19ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Ⅴb層	弥生土器	壺	体上端	体上端：沈線→LR縄文→沈線→ミガキ （横位直線文＋四角文）	ナデ	内面体部上端に輪積痕	40
15	B-009	11ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Ⅴa層	弥生土器	壺	体部	体上半：沈線（横位直線文）　体下半：ミガキ	ナデ	内面やや摩滅	40
16	B-166	11ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Ⅴa層	弥生土器	壺	体部	体部：沈線→植物茎回転文→沈線→ミガキ（渦文？）	ミガキ		40
17	B-187	7ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Ⅴb層	弥生土器	壺？	底部	体下端：LR縄文横位回転　底面：織布痕	ナデ	底径5.8㎝	40
18	B-105	7・11・15・19ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Ⅴb層	弥生土器	壺	体下半～底部	体下半：附加条縄文（LR＋2R）横位回転 底面：木葉痕	ミガキ	底径8.6㎝	40
19	B-136	8ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Ⅴb層	弥生土器	壺	体下端～底部	体下端：附加条縄文（LR＋2R）斜位回転 底面：網代痕	不明	内面摩滅	40
20	B-343	11・12ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Ⅴb層	弥生土器	壺	体下半～底部	体下半：附加条縄文（LR＋2R）横位回転 底面：木葉痕	ナデ	底径（10.2）㎝ 体下半外面輪積痕	40

第 115 図　Ⅴ層出土遺物（2）

鉢（第 116・117 図）

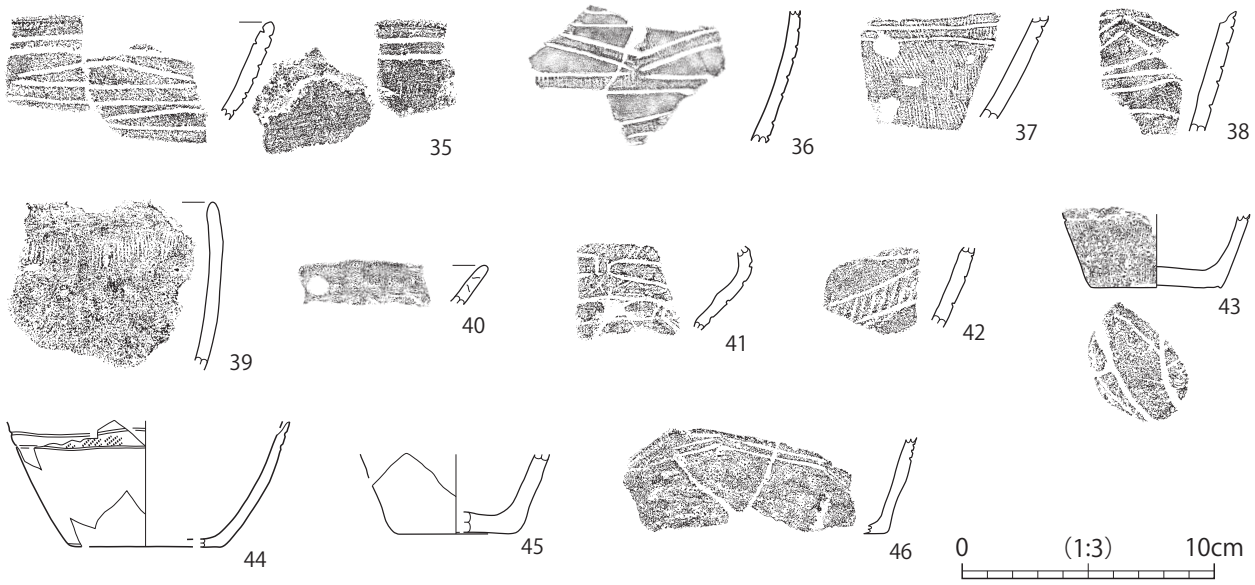
鉢（鉢と推定される資料を含む）は、全体の器形を復元できる個体がない。器形は、体部から口縁部にかけて直線的に外傾するもの（21・32 ～ 34・40）と内湾気味に外傾するもの（22 ～ 31・35）があり、後者には口縁部が強く内湾し、山形突起を持つもの（22）がある。このほか、口縁部と体部の境に括れを持ち、口縁部が外傾すると推定されるもの（41）がある。焼成前に口縁部が外側から穿孔されているもの（26・32）がある。

装飾文様の施される精製土器と装飾文様が施されない粗製土器があり、装飾文様の施文部位は口縁部から体部上半にある。装飾文様は横位直線文と連弧文もしくは山形文の組み合わせが施文されるほか、口縁部内面に横位直線文が施されるもの（22・26 ～ 28・34・35）や垂線が施されるもの（22）がある。文様内には地文が充填されるものと無文のものがある。地文には縄文と植物茎回転文があり、縄文原体には単節（LR）、0 段多条（LR）がある。全体的に文様を構成する沈線の交点には隙間がみられるほか、ミガキ調整による磨消の処理が粗雑なため、文様外にはみ出した地文が残っているもの（21・24・25・42）がある。このほか、沈線幅が 1mm 以下の細沈線により文様が構成されているもの（30・31）がある。底面には木葉痕がみられるもの（43）がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
21	B-087	13ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：ナデ→沈線→植物茎回転文→沈線→ミガキ（横位直線文＋連弧文）	ミガキ	口径（10.4）㎝	40
22	B-278	12ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→ミガキ（横位直線文）	口縁：沈線（横位直線文＋突起部垂線） 口縁～体上半：ミガキ	口縁部突起	40
23	B-276	12ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口唇：植物茎回転文横位回転 口縁～体上半：沈線→ミガキ（横位直線文）	ミガキ		40
24	B-212	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→LR縄文（0段多条）→ミガキ（横位直線文＋連弧文）	横位ミガキ	B-168・211と同一個体？	40
25	B-211	16ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→LR縄文（0段多条）→ミガキ（横位直線文＋連弧文）	ナデ→ミガキ	B-168・212と同一個体？ 体部内面に輪積痕	40
26	B-262	24ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁：沈線 体上半：沈線・植物茎回転文横位回転（横位直線文＋連続山形文）	口縁：沈線→ミガキ	口縁部焼成前穿孔 孔径：（2.5）㎜ 外面摩滅	40
27	B-163	13ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Va層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→LR縄文→沈線→ミガキ（横位直線文＋連続山形文）	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体上半：横位ミガキ		41
28	B-215	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁：沈線→ミガキ 体上半：沈線→LR縄→沈線→ミガキ（横位直線文＋連続山形文）	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体上半：ミガキ		40
29	B-216	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	口縁～体上端	口縁：ナデ→沈線 体上半：沈線→ミガキ（横位直線文）	ミガキ		40
30	B-164	8ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Va層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：ナデ→沈線→ミガキ（横位直線文＋連弧文）	ミガキ	内面やや摩滅	40
31	B-179	11ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：ナデ→沈線→ミガキ（横位直線文＋斜位直線文）	ミガキ		40
32	B-184	21ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁：ナデ→沈線 体上半：ナデ→沈線→植物茎回転文→沈線→ミガキ（横位直線文＋連続山形文）	ミガキ	口縁部焼成前穿孔 孔径：2.5㎜	40
33	B-274	9ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	鉢or蓋	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→LR縄文？→沈線→ミガキ（横位直線文＋連続山形文）	ミガキ？	内外面摩滅	40
34	B-183	21ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢or蓋	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線（横位直線文＋垂線＋連弧文）	口縁：沈線（横位直線文）	内外面摩滅	40

第 116 図　Ⅴ層出土遺物（3）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
35	B-020	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	鉢	口縁～体上半	口縁：沈線→ミガキ（横位直線文＋連続山形文）	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体上半：ミガキ	外面やや摩滅	40
36	B-019	4ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	鉢	体上半	体上半：沈線→植物茎回転文→沈線→ミガキ（横位直線文＋連続山形文）	ミガキ		40
37	B-204	8ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	体部	体部：植物茎回転文横位回転→沈線（横位直線文）	ミガキ		40
38	B-217	24ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	体部	体部：植物茎回転文→沈線→ミガキ（横位直線文＋連弧文）	ミガキ		41
39	B-219	11ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢or深鉢	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ 体上端：植物茎回転文横位回転 体上半：ナデ	ナデ→ミガキ		41
40	B-165	11ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Va層	弥生土器	鉢or蓋	口縁	ナデ	ミガキ	口縁焼成後穿孔（外→内） 孔径：7～3㎜	40
41	B-193	5ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	体部	体部：ナデ→沈線→LR縄文→沈線→ミガキ（四角文）	ナデ		41
42	B-168	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Va層	弥生土器	鉢	体部	体部：沈線→LR縄文（0段多条）→ミガキ（横位直線文＋連弧文）	ミガキ	B-211・212と同一個体？	41
43	B-058	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	体下半～底部	体下半：沈線→植物茎回転文横位回転（連弧文） 底面：木葉痕	ミガキ		41
44	B-094	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	体下半～底部	体下半：沈線→LR縄文→沈線→ミガキ（横位直線文） 底面：織布痕	ミガキ	底径（6.0）㎝	41
45	B-207	9ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	体下端～底部	体下端：ミガキ 底面：織布痕→ナデ	ナデ	底径（4.8）㎝	41
46	B-097	16ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	鉢	体下半～底部	体下半：沈線（横位直線文＋連弧文）	不明	内外面摩滅	41

第 117 図　Ⅴ層出土遺物（4）

高坏（第 118 図）

高坏は、全体の器形を復元できる個体がない。器形は、坏部は内湾気味に大きく開くもので、すべて平口縁である。脚部は中空で、脚部上半が内湾気味である。

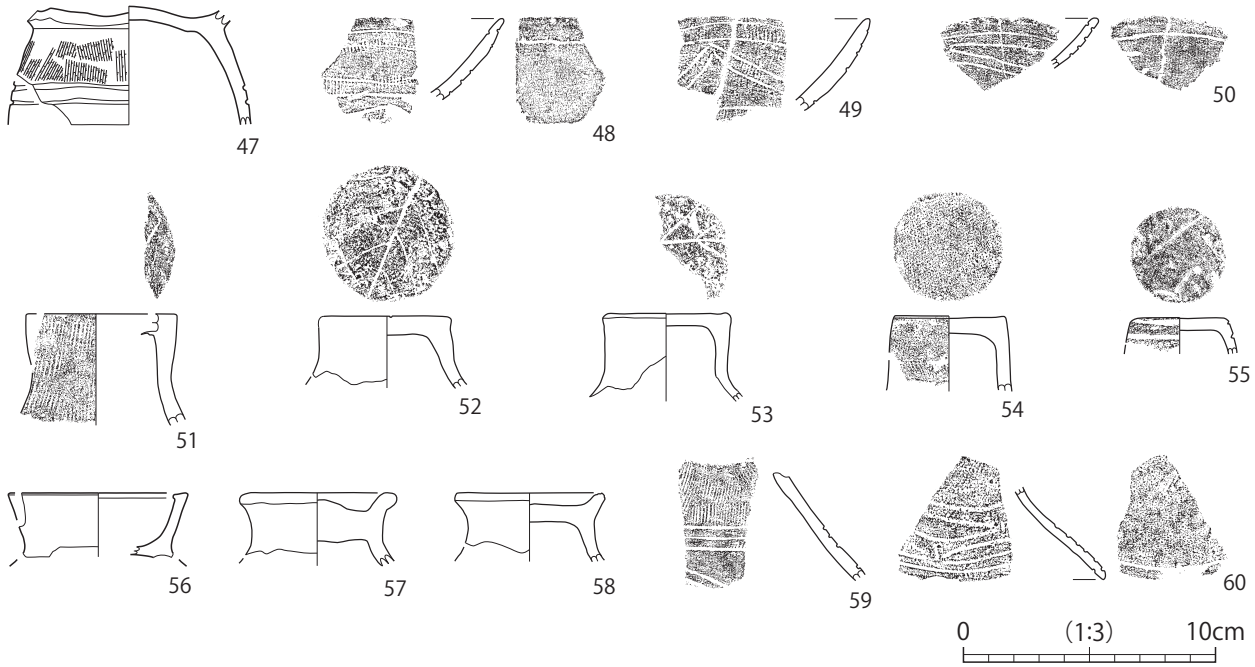
すべて装飾文様の施される精製土器で、装飾文様の施文部位は口縁部から体部上半と脚部下半にある。装飾文様は横位直線文と連弧文もしくは山形文の組み合わせが施文されるもの（48 ～ 50）のほか、口縁部内面に横位直線文が施されるもの（48・50）がある。文様内は磨消縄文のもの（47）と地文が充填されるもの（48・49）、無文のもの（50）があり、地文はいずれも植物茎回転文である。文様を構成する沈線の交点には隙間がみられ、ミガキ調整による磨消の処理が粗雑なため、文様外にはみ出した地文が残っているもの（48・49）がある。沈線幅が 1mm 程度の細い沈線により文様が構成されているもの（48 ～ 50）がある。

蓋（第 118 図）

蓋は、全体の器形を復元できる個体がない。器形は、天井部につまみ部が付くものと付かないものがある。つま

み部が付くものには、側縁に高いつまみが付くもの（56）と低いつまみが付くもの（57・58）がある。つまみ部が付かないものには、天井部側縁が外側に向かってわずかに張り出すもの（52）と上方に向かってわずかに盛り上がるもの（53・54）がある。体部は直線的に開くもの（59）と体部上半が外反し、体部下半から口縁部にかけて直線的に開くもの（60）がある。

装飾文様の施文部位は体部下半から口縁部と体部上端にある。装飾文様は横位直線文と連弧文もしくは山形文の組み合わせが施文され、口縁部内面に横位直線文が施されるもの（60）がある。文様内は磨消縄文のもの（59）と地文が充填されるもの（60）があり、地文には縄文と植物茎回転文があり、縄文原体は単節（LR）である。天井部には木葉痕（51 ～ 53・55）や織布痕（53）がみられる。

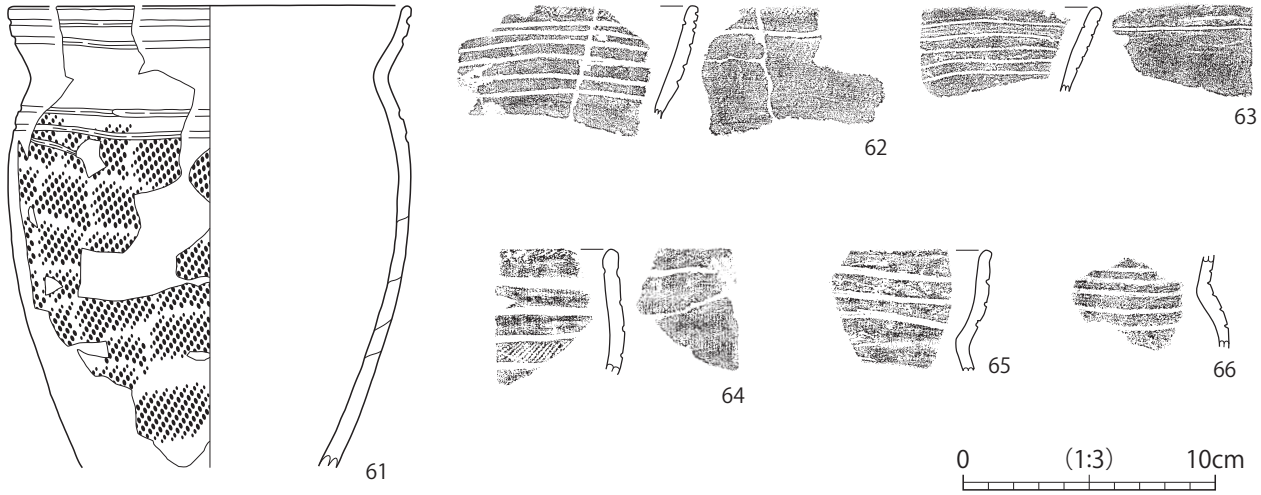


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
47	B-029	23ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	高坏	体下端～脚上半	脚部上半：植物茎回転文→沈線→ミガキ （横位直線文・磨消縄文）	体下端：ミガキ 脚上半：ナデ・ミガキ		41
48	B-194	9ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	高坏	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ→沈線 体上半：植物茎回転文横位回転→沈線→ミガキ （横位直線文＋連続山形文？）	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体上半：ミガキ		41
49	B-256	16ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	高坏	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→植物茎回転文→沈線→ミガキ （横位直線文＋連弧文）	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体上半：ミガキ		41
50	B-270	8ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	高坏	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→ミガキ （横位直線文＋連続山形文）	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体上半：ミガキ	外面やや摩滅	41
51	B-277	12ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	蓋	天井～体上端	天井：木葉痕→ミガキ 体上端：植物茎回転文横位回転	ミガキ	天井部（7.0）㎝	41
52	B-282	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	蓋	天井～体上端	天井：木葉痕 体上端：ミガキ	ナデ	天井部径5.0㎝	41
53	B-188	4ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	蓋	天井～体上端	天井：木葉痕 体上端：ナデ	ナデ	天井部径（4.6）㎝	41
54	B-190	5ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	蓋	天井～体上端	天井：織布痕 体上端：植物茎回転文横位回転	ミガキ	天井部径4.4㎝ 外面やや摩滅	41
55	B-209	12ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	蓋	天井～体上端	天井：木葉痕 体上端：LR縄文→沈線→ナデ（横位直線文）	ナデ	天井径3.6㎝ 内面摩滅	41
56	B-099	24・28ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	蓋	つまみ～天井	ミガキ	ミガキ	つまみ部径（7.2）㎝	41
57	B-218	11ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	蓋	つまみ～体上端	つまみ～体上端：ナデ	ナデ	つまみ部径6.2㎝	41
58	B-192	23ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	蓋	つまみ～体上端	つまみ～体上端：ナデ	ナデ	つまみ部径5.8㎝	41
59	B-275	9ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	蓋	体部	体部：植物茎回転文横位回転→沈線→ミガキ （横位直線文＋連続山形文？・磨消縄文）	ミガキ		41
60	B-178	5ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	蓋	体部～口縁	体部～口縁：沈線・LR縄文？ （横位直線文＋垂線＋連弧文）	口縁：沈線（横位直線文） ミガキ？	内外面摩滅	41

第 118 図　Ⅴ層出土遺物（5）

深鉢（第 119 図）

深鉢（深鉢と推定される資料を含む）は、全体の器形を復元できる個体が 1 点（61）ある。器形は、口縁部と体部の境が括れるもので、口縁部が内湾気味に外傾するもの（61・62・65）と直線的に外傾するもの（63）、内湾気味に直立するもの（64）がある。いずれも装飾文様の施される精製土器で、装飾文様の施文部位は口縁部と体部上半にある。装飾文様は数条の横位直線文が施文されるほか、口縁部内面に横位直線文が施されるもの（62～64）がある。文様内や括れ部分がミガキ調整のみで無文のものと地文が充填されるもの（64）がある。文様を構成する沈線には、沈線幅が 2.5mm 以上の太い沈線のもの（61・64）や 1mm 以下の細い沈線のもの（63）がある。地文はすべて縄文で、縄文原体は単節（LR）である。



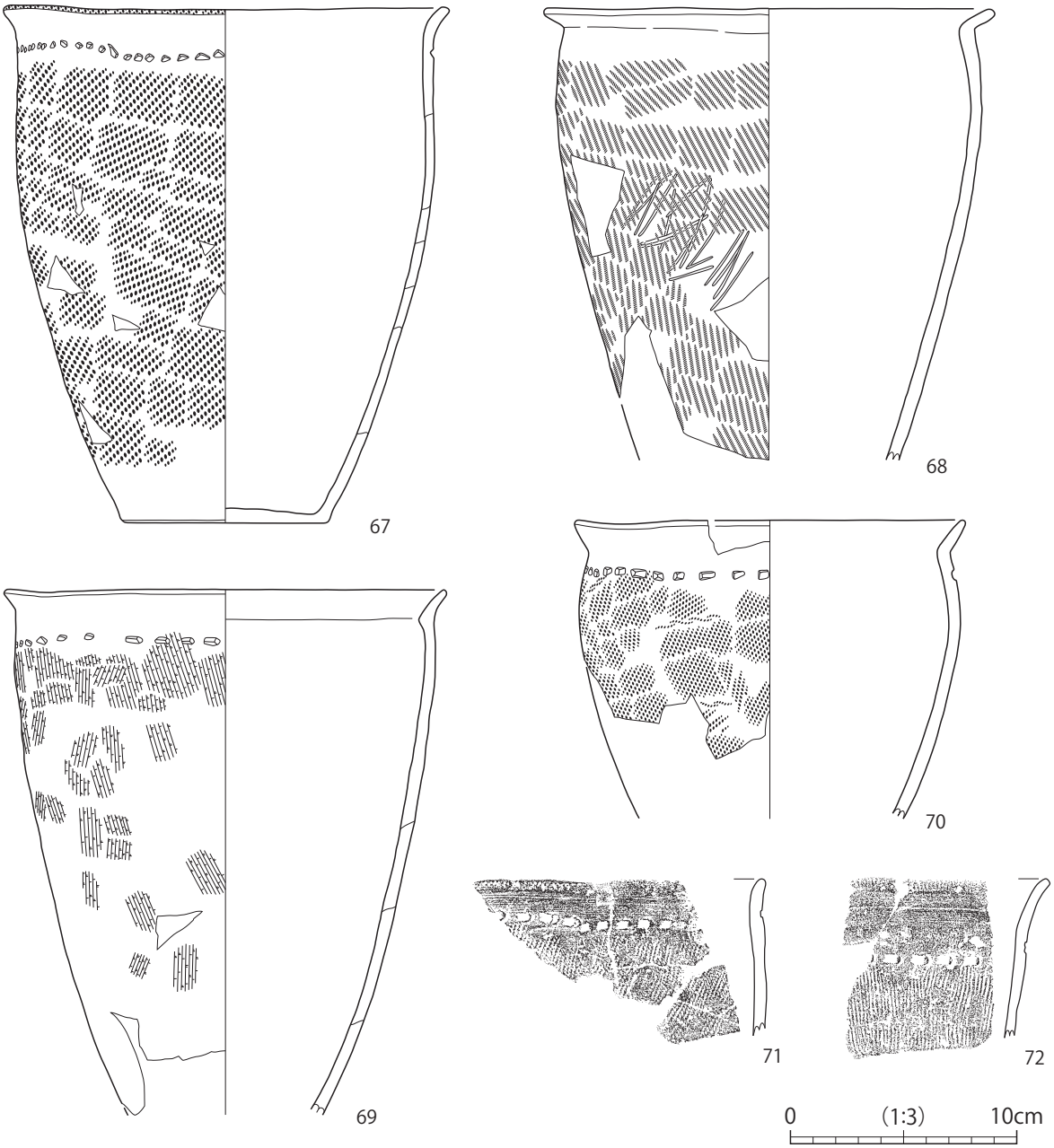
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
61	B-037	7ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	深鉢	口縁～体部	口縁：沈線→ミガキ 体上端：沈線→LR縄文（横位直線文） 体部：LR縄文横位回転	ミガキ	口径（16.0）cm 体部外面炭化物付着	41
62	B-089	12ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	深鉢	口縁～体上半	口唇：LR縄文横位回転 口縁～体上半：沈線→ミガキ（横位直線文）	口縁：ヨコナデ→沈線（横位直線文） 口縁～体上半：ミガキ	口縁部突起? 口縁部焼成前穿孔	41
63	B-341	8ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	深鉢or鉢	口縁～体上半	口縁～体上半：沈線→ミガキ（横位直線文）	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体上半：ミガキ		41
64	B-173	23ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	深鉢	口縁～体上半	口唇：LR縄文横位回転 口縁：沈線→ミガキ 体上半：沈線→LR縄文→沈線→ミガキ（横位直線文）	口縁：沈線（横位直線文） 口縁～体上半：横位ミガキ	外面炭化物付着	41
65	B-246	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	深鉢	口縁～体上端	口縁：沈線（横位直線文） 体上端：ミガキ	ナデ→ミガキ	内面やや摩滅	41
66	B-247	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	深鉢	口縁～体上端	口縁～体上端：沈線→ミガキ（横位直線文）	ミガキ		41

第 119 図　Ⅴ層出土遺物（6）

甕（第 120 ～ 123 図）

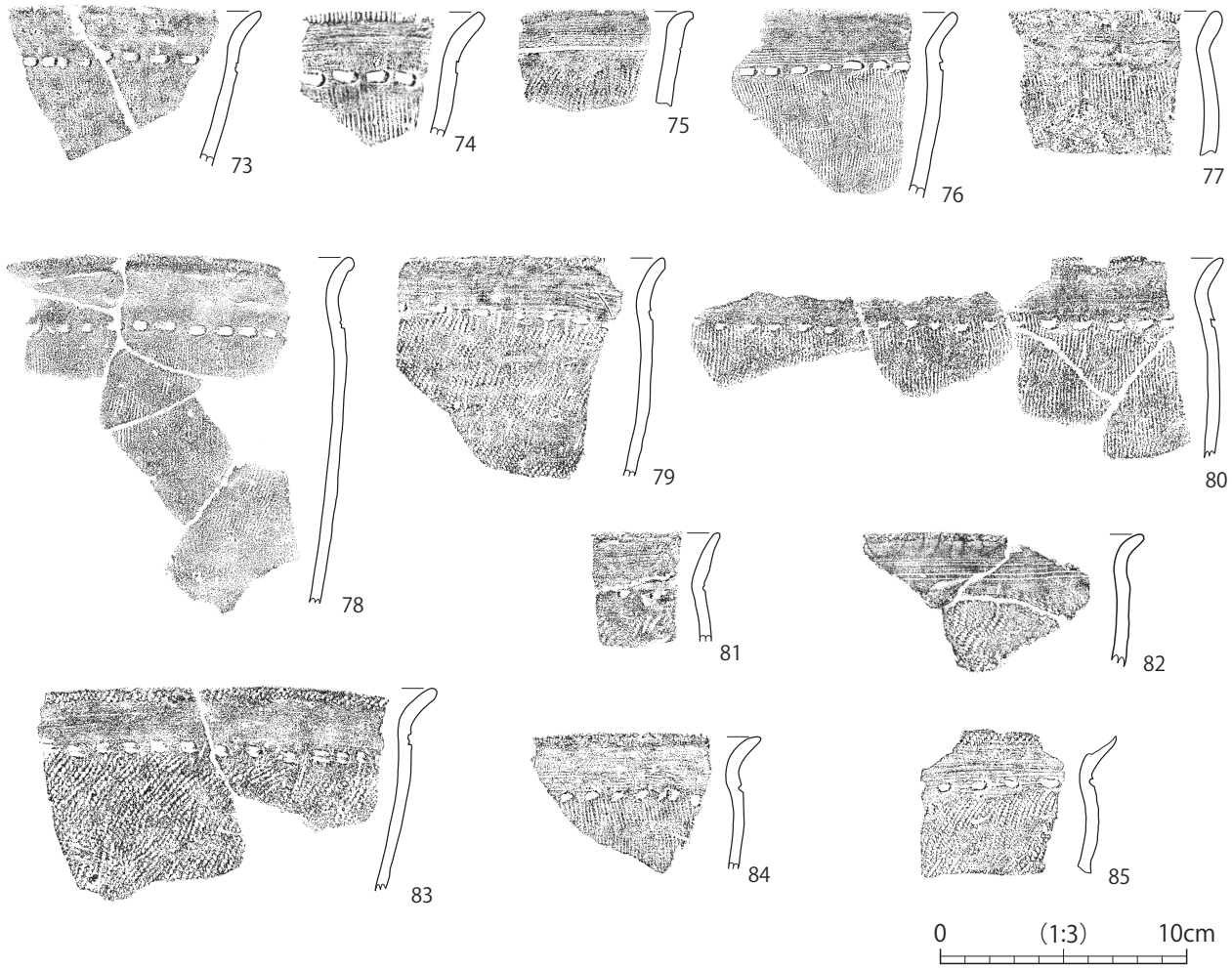
甕（甕と推定される資料を含む）は、全体の器形を復元できる個体では、器高 20cm 前後と推定される。器形は、口縁部に最大径を持つものと体部上半に最大径を持つもの、口縁部と体部上半に最大径を持つものがある。口縁部と体部の境が括れる形態が大部分で、体部から口縁部にかけて直立するもの（71）もある。口縁部は平口縁で短く外反または外傾し、括れは鋭角に屈曲するもの、鈍角に屈曲するもの、緩やかに屈曲するものなど多様な形態が認められる。口縁部には明瞭なヨコナデが施され、口唇部と体部には地文が施されている。地文には縄文と植物茎回転文があり、縄文原体には単節（LR）と附加条（LR ＋ R）、直前段 3 条（LR）無節（L）があり、原体末端部の結束による綾繰文を伴うもの（70）もみられる。体部上端には列点刺突文が施されるものと沈線が施されるもの（75）、地文のみのもの（68・77・82・89）がある。列点刺突文の施文方向には左右の別があり、刺突のほか押し引き状のものがある。刺突の施文工具は棒状工具が多用されるが、半截竹管を用いているもの（83）や円形竹

管を用いているもの（91）がある。底面には木葉痕（93 ～ 98）や網代痕（99 ～ 101）、織布痕（102・103）がみられる。このほか、地文を施文する前にヘラ状工具による線刻が施されているもの（68）がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
67	B-073	7ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～底部	口唇:LR縄文横位回転　口縁:ヨコナデ 体上端:列点刺突(右→左) 体上半:LR縄文横位回転	ミガキ	口径19.7㎝、底径9.2㎝、器高22.9㎝、底面摩滅	41
68	B-074	24ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体下半	口縁:ヨコナデ 体部:R縄文(無節)横位・斜位回転、ヘラ描き痕？	横位ミガキ	口径(20.0)㎝	41
69	B-053	23ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体下半	口縁:ミガキ　体上端:列点刺突(左→右) 体上半:植物茎回転文	口縁:ミガキ 体上半:ナデ 体下半:ミガキ	口径(19.6)㎝ 体部外面炭化物付着	42
70	B-080	3・4・5ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁:ヨコナデ　体上端:列点刺突(右→左) 体上半:LR縄文(末端結束)横位回転	横位ミガキ	口径(17.2)㎝	42
71	B-016	4ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇:LR縄文横位回転　口縁:ヨコナデ 体上端:列点刺突(左→右) 体上半:LR縄文横位回転	ミガキ		42
72	B-049	12ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁:ヨコナデ　体上端:列点刺突(左→右) 体上半:植物茎回転文横位回転	ミガキ	内面やや摩滅	42

第 120 図　Ⅴ層出土遺物（7）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
73	B-197	4ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：植物茎回転文横位回転	ミガキ？	内外面摩滅	42
74	B-222	11ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：植物茎回転文横位回転　口縁：ヨコナデ 体上端：列点刺突（左→右） 体上半：植物茎回転文横位回転	横位ミガキ		42
75	B-268	23ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ 体上端：沈線　体上半：LR縄文横位回転	横位ミガキ		42
76	B-162	13ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Va層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：植物茎回転文横位回転　口縁：ヨコナデ 体上端：列点刺突（左→右） 体上半：植物茎回転文横位回転	口縁～体上端：ミガキ 体上半：ナデ	口唇やや摩滅	42
77	B-279	9ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：植物茎回転文横位回転　口縁：ヨコナデ 体上半：植物茎回転文横位回転	口縁～体上端：横位ミガキ 体上半：ナデ		42
78	B-062	4ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体部	口唇：植物茎回転文横位回転　口縁：ヨコナデ 体上端：列点刺突（左→右） 体部：植物茎回転文横位回転	ミガキ		42
79	B-259	21ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：LR縄文（直前段3条）横位回転 口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：LR縄文（直前段3条）横位回転	横位ミガキ		42
80	B-017	24ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：植物茎回転文横位回転	ミガキ		42
81	B-167	13ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Va層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコナデ 体上端：ヨコナデ→列点刺突（右→左） 体上半：L縄文（無節）横位回転	ミガキ		42
82	B-045	15ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：LR縄文　口縁：ヨコナデ 体上半：LR縄文	横位ミガキ		42
83	B-014	9ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：LR縄文（直前段3条）横位回転 口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：LR縄文（直前段3条）横位回転	横位ミガキ		42
84	B-281	20ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vc層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：植物茎回転文横位回転　口縁：ヨコナデ 体上端：列点刺突（左→右） 体上半：植物茎回転文横位回転	横位ミガキ		42
85	B-260	21ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Vb層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：LR縄文（直前段3条）横位回転 口縁：ヨコナデ　体上端：列点刺突（左→右） 体上半：LR縄文（直前段3条）	ミガキ		42

第 121 図　Ⅴ層出土遺物（8）